2019年度

シラバス

全学共通授業科目

秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

「全学総合講座」「全学共通講義科目部門」「全学共通実践科目部門」
「スポーツ・レクリエーション部門」「外国語科目群」 のカテゴリー別になっています。
該当するカテゴリーの目次ページで探してください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部
独： ドイツ語学科
英： 英語学科
仏： フランス語学科
交： 交流文化学科

養 ： 国際教養学部
養（＊1）： 国際教養学部、スペイン語履修者
養（＊2）： 国際教養学部、中国語履修者
養（＊3）： 国際教養学部、韓国語履修者

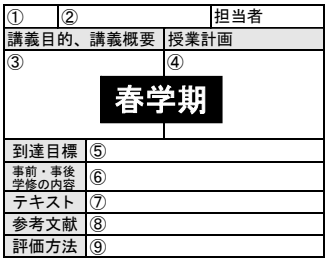
経： 経済学部
済： 経済学科
営： 経営学科
環： 国際環境経済学科

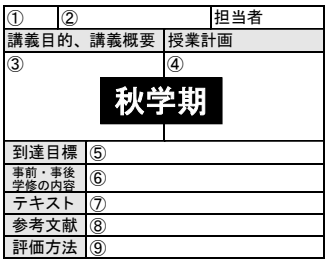
法： 法学部
律： 法律学科
国： 国際関係法学科
総： 総合政策学科
免： 2013年度以降入学の教職課程登録者

19以降入学 ： 2019年度以降入学者（全学部）
14以降入学 ： 2014年度以降入学者（全学部）
13以降入学 ： 2013年度以降入学者（全学部）
13以降入学養： 2013年度以降入学者（国際教養学部）
13以降入学経： 2013年度以降入学者（経済学部）

2. シラバスページの見方（右図参照）

①入学年度（年度指定の場合、記載あり）
②入学年度に対応した科目名
③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
④学期の授業計画
各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。
⑤到達目標
⑥事前・事後学修の内容
⑦授業で使用するテキスト
⑧参考文献
⑨評価方法





※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。
開講学期に注意してください。

全学共通授業科目 目次（2011年度から2019年度入学者用）

全学総合講座

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	山﨑　尚	木2	1	－	1
全学総合講座(獨協学)		浅山　佳郎	月3	1	－	2
全学総合講座(環境学1)(環境基礎学－自然を見つめる)		中村　健治	火4	1	－	3
	全学総合講座(環境学2)(環境応用学－環境と社会)	中村　健治	火4	1	－	4
全学総合講座(教えるという仕事)		川村　肇	木3	1	－	5
全学総合講座(経営者が語る現代企業論1)		上坂　卓郎	火2	1	－	6
	全学総合講座(経営者が語る現代企業論2)	上坂　卓郎	火2	1	－	7
全学総合講座(働くための基礎知識－知って得する労働問題)		市原　博	水2	1	－	8
全学総合講座(NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える)		高松　和幸	金4	1	－	9
	全学総合講座(地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る)	高松　和幸	金4	1	－	10
全学総合講座(芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて)		青山　愛香	木3	1	－	11
全学総合講座(社会を生き抜くセルフブランディングⅠ)		有吉　秀樹	木2	1	－	12
	全学総合講座(社会を生き抜くセルフブランディングⅡ)	有吉　秀樹	木2	1	－	13
全学総合講座(大学における教養教育)		野澤　聡	月4	1	－	14
全学総合講座(幅広く教養を考える－体育・スポーツから)		松原　裕	木4	1	－	15
	全学総合講座(自由時間の達人)	和田　智	金4	1	－	16
	全学総合講座(食文化と人間生活「気候と風土と食文化」)	和田　智	火4	1	－	17
	全学総合講座(メディア社会とロック)	岡村　圭子	火3	1	－	18
	全学総合講座(情報社会とルール)	多賀谷　一照	水3	1	－	19
	全学総合講座(社会の中の科学)	野澤　聡	木4	1	－	20
	全学総合講座(メディアと私たち)	川村　肇	火4	1	－	21
	全学総合講座(企業の社会的責任と企業活動)	高橋　均	金4	1	－	22
	全学総合講座(グローバル化と世界の労働)	大重　光太郎	木3	1	－	23

全学共通講義科目部門

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想1(フランス・ドイツ哲学入門1)	ことばと思想1(フランス・ドイツ哲学入門2)	犬塚　悠	水4	1	－	24
ことばと思想1(社会思想史1)(東洋古代から近世まで)	ことばと思想1(社会思想史2)(東洋近世から現代まで)	犬塚　悠	月2	1	養	25
ことばと思想1(言語学a)		安間　一雄	火3	1	養・13～18入学	26
ことばと思想1(言語学概論)					養・12以前入学・19以降入学者	26
	ことばと思想1(言語学b)	安間　一雄	水2	1	養	27
	ことばと思想1(英語学a)	安間　一雄	火3	1	養・19以降入学者	28
ことばと思想1(英語学b)		安間　一雄	水2	1	養	29
ことばと思想1(日本語教育概説)		石塚　京子	月2	1	養	30
ことばと思想1(応用言語学)		臼井　芳子	水1	2	養・19以降入学者	31
	ことばと思想1(第二言語習得)	臼井　芳子	水1	2	養	31
ことばと思想1(日本語文法形態論)	ことばと思想1(日本語文法統語論)	浅山　佳郎	火1	1	養	32
ことばと思想1(社会心理学a)	ことばと思想1(社会心理学b)	樋口　匡貴	金2	2	養	33
ことばと思想1(社会心理学a)	ことばと思想1(社会心理学b)	樋口　匡貴	金3	2	養	33
ことばと思想1(環境と生命の倫理1)	ことばと思想1(環境と生命の倫理2)	犬塚　悠	水2	1	養	34
ことばと思想1(倫理学概説Ⅰ)	ことばと思想1(倫理学概説Ⅱ)	林　永強	木2	1	養	35
ことばと思想1(哲学概説Ⅰ)	ことばと思想1(哲学概説Ⅱ)	河口　伸	火5	2	－	36
ことばと思想1(宗教学概説Ⅰ)	ことばと思想1(宗教学概説Ⅱ)	河口　伸	木5	2	－	37
ことばと思想1(ことばと思考)		髙橋　輝暁	水4	1	－	38
歴史と文化1(ラテンアメリカ研究入門)		佐藤　勘治	月4	1	養	39
歴史と文化1(恐怖の日本文学)		佐藤　毅	木1	1	13以降入学養	40
	歴史と文化1(日本文学現代)	佐藤　毅	木1	1	養	40
歴史と文化1(日本文学古典)		福沢　健	月3	1	養	41
	歴史と文化1(平安時代の文学を読む)	福沢　健	月3	1	13以降入学養	41
歴史と文化1(日本文化論)		城崎　陽子	火4	1	養・08以降入学法	42
歴史と文化1(歴史学1)(中世の仏教と社会)	歴史と文化1(歴史学2)(中世の「悪党」と民衆)	新井　孝重	水2	1	13以降入学経	43
歴史と文化1(歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	歴史と文化1(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	熊谷　哲也	木3	1	－	44

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
歴史と文化1(歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	歴史と文化1(歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤　唯行	木3	1	－	45
歴史と文化1(歴史学1)(ヨーロッパ史1)	歴史と文化1(歴史学2)(ヨーロッパ史2)	黒田　多美子	木4	1	－	46
歴史と文化1(英語圏の文学)		関戸　冬彦	木3	1	養・19以降入学者	47
	歴史と文化1(英語圏の文学Ⅱ)	関戸　冬彦	木3	1	養・19以降入学者	48
	歴史と文化1(異文化間コミュニケーションb)	山本　英政	月2	1	英・養・19以降入学者	49
歴史と文化1(移民・交易に見る文化変容)	歴史と文化1(グローバル化と情報・通信の文化史)	水口　章	月4	1	－	50
歴史と文化1(文化史入門)		古川　堅治	木2	1	養・19以降入学者	51
歴史と文化1(文化人類学a)	歴史と文化1(文化人類学b)	松岡　格	金2	1	養	52
	歴史と文化1(日本研究概論Ⅱ)	生田　守	木4	1	13以降入学養	53
	歴史と文化1(日本事情とコミュニケーション教育)	野原　ゆかり	火3	1	養	54
歴史と文化1(教育の歴史1)	歴史と文化1(教育の歴史2)	川村　肇	火3	2	養・19以降入学者	55
歴史と文化1(中国史a)	歴史と文化1(中国史b)	張　士陽	木4	2	養・19以降入学者	56
歴史と文化1(歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史と文化1(歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	丸浜　昭	水2	2	養	57
歴史と文化1(英語圏の文化)		山本　英政	木2	2	英・養・19以降入学者	58
	歴史と文化1(英語圏事情)	山本　英政	水2	2	英・養・19以降入学者	58
歴史と文化1(韓国文化各論c)		小宮　秀陵	火3	2	養・19以降入学者	59
	歴史と文化1(日韓交流史)	小宮　秀陵	火3	2	養	59
歴史と文化1(大衆文化論)		木本　玲一	月4	2	養	60
歴史と文化1(民俗学)		林　英一	木1	1	養	61
	歴史と文化1(地域文化)	林　英一	木1	2	養・法	61
歴史と文化1(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)		井垣　昌	木3	2	養	62
歴史と文化1(アラブ文化・芸術a)	歴史と文化1(アラブ文化・芸術b)	W. イブラヒム	月2	2	養	63
歴史と文化1(歴史学1)(文明史研究a)	歴史と文化1(歴史学2)(文明史研究b)	髙橋　裕子	月2	1	養・19以降入学者	64
歴史と文化1(東西の文化を結ぶもの)	歴史と文化1(東西文化と近代化)	熊谷　哲也	木4	2	－	65
	歴史と文化1(カリブ海域研究)	工藤　多香子	火2	2	養	66
歴史と文化1(日本文学論・中世Ⅰ)		城崎　陽子	火3	1	13以降入学養	67
歴史と文化1(日本文学論・中世Ⅱ)		飯島　一彦	水1	1	13以降入学養	68
歴史と文化1(スペイン・ラテンアメリカの文学)		中井　博康	月3	1	－	66
歴史と文化1(韓国史)		佐藤　厚	金2	2	養・19以降入学者	69
歴史と文化1(在外日本人研究)		山本　英政	月2	2	13以降入学養	70
歴史と文化1(日本における死生学)	歴史と文化1(日本における世間学)	林　英一	火1	1	－	71
歴史と文化1(韓国の芸術と文化a)	歴史と文化1(韓国の芸術と文化b)	田代　裕一朗	月3	2	養・13以降入学者	72
現代社会1(グローバリゼーションを巡って)	現代社会1(日本の表象と世界)	柴崎　信三	木2	1	経	73
現代社会1(経済学1)(はじめての経済学)	現代社会1(経済学2)(はじめての経済学)	黒木　亮	月1	1	経	74
現代社会1(日本国憲法)		L. ペドリサ	火1	1	法	75
現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	加藤　一彦	火2	1	法	76
現代社会1(民法1)	現代社会1(民法2)	小川　佳子	月2	1	法	77
現代社会1(国際法1)(国際社会と私たち)	現代社会1(国際法2)(国際紛争を考える)	一之瀬　高博	月3	1	－	78
現代社会1(社会学a)	現代社会1(社会学b)	岡村　圭子	土1	1	養・19以降入学者	79
現代社会1(地理学1)(自然環境と文化)	現代社会1(地理学2)(自然環境と文化)	秋本　弘章	木2	1	－	80
	現代社会1(ジェンダーとメディア表象)	西山　千恵子	水4	1	－	81
現代社会1(歴史の中のメディア)	現代社会1(メディアと現代社会)	柴崎　信三	水2	1	－	82
現代社会1(社会科学概論1)	現代社会1(社会科学概論2)	嶋津　格	月4	1	法	83
現代社会1(中東の社会空間)	現代社会1(中東政治と市民社会)	水口　章	月5	1	－	84
現代社会1(地域メディア論)		岡村　圭子	火3	2	養・13以降入学経	85
	現代社会1(NGO論)	清水　俊弘	水2	1	養	85
現代社会1(教育法1)	現代社会1(教育法2)	市川　須美子	木2	2	法	86
現代社会1(ブラジル研究)		E. ウラノ	火2	2	養・19以降入学者	87
	現代社会1(韓国社会各論b)	奥田　聡	水4	2	養	88
現代社会1(現代の企業経営)		岡部　康弘	水1	1	経	89
	現代社会1(基礎から学ぶマネジメント)	高松　和幸	水1	1	経	89
	現代社会1(非正規雇用を考える)	市原　博	水1	1	－	90
現代社会1(東南アジアの開発と社会)		江藤　双恵	火1	2	13以降入学養・19以降入学者	90
現代社会1(韓国政治論)		呉　吉煥	金3	2	養・19以降入学者	88
現代社会1(シネマで学ぶ法律学)	現代社会1(続・シネマで学ぶ法律学)	新井　剛	木3	1	－	91
現代社会1(家族と法)		齋藤　哲	木2	1	－	92

※免許課程登録者（2019年度以降入学者）のみ履修可

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会1(ビジネス法務)		高橋　均	金2	1	－	93
現代社会1(市民と刑事司法)		徳永　光	水1	1	－	94
現代社会1(ドイツ地域論)	現代社会1(ヨーロッパ地域論)	伊豆田　俊輔	金5	1	独	95
現代社会1(History of International Relations I)	現代社会1(History of International Relations II)	伊藤　兵馬	月3	1	－	96
現代社会1(暮らしの中の民法入門)		新井　剛	金1	1	13以降養・19以降入学者	97
	現代社会1(大学生のための法律入門)	新井　剛	金1	1	養	98
	現代社会1(不動産取引と法)	新井　剛	木4	2	養	94
現代社会1(社会保障論a)	現代社会1(社会保障論b)	尾玉　剛士	火3	1	－	99
現代社会1(社会生活と犯罪)		関根　徹	木1	1	－	98
現代社会1(地誌学1)(世界の自然環境と文化)	現代社会1(地誌学2)(世界の自然環境と文化)	大竹　伸郎	月4	1	養・経	100
現代社会1(政治学の基礎概念)	現代社会1(国際政治学の基礎)	大串　敦	火3	1	－	101
現代社会1(地誌学概説Ⅰ)	現代社会1(地誌学概説Ⅱ)	秋本　弘章	水1	1	※	102
現代社会1(地理学概説Ⅰ)	現代社会1(地理学概説Ⅱ)	秋本　弘章	火1	1	※	103
自然・環境・人間1(私の自由時間設計)		和田　智	金4	1	13以降入学養	104
自然・環境・人間1(地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間1(地球環境問題と環境保全)	鈴木　滋	火2	1	－	105
自然・環境・人間1(科学史a)	自然・環境・人間1(科学史b)	野澤　聡	月2	1	養	106
自然・環境・人間1(数学a)	自然・環境・人間1(数学b)	東　孝博	月2	1	養	107
自然・環境・人間1(宇宙論a)	自然・環境・人間1(宇宙論b)	東　孝博	火1	1	養	108
自然・環境・人間1(天文学a)	自然・環境・人間1(天文学b)	内田　俊郎	木4	1	養	109
自然・環境・人間1(物理学Ⅰ)	自然・環境・人間1(物理学Ⅱ)	東　孝博	月4	1	13以降入学養	110
自然・環境・人間1(歴史における科学技術1：西洋近代科学技術の起源)	自然・環境・人間1(歴史における科学技術2：日本の近代化と科学技術)	内田　正夫	木3	1	－	111
自然・環境・人間1(科学技術基礎論Ⅰ)		野澤　聡	水1	1	13以降入学養	112
	自然・環境・人間1(科学技術と社会b)	野澤　聡	木1	1	13以降入学養	112
	自然・環境・人間1(文化としての科学b)	野澤　聡	木3	1	－	113

全学共通実践科目部門

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想2(LGBTと現代思想a)	ことばと思想2(LGBTと現代思想b)	清水　雄大	木3	1	－	114
ことばと思想2(論文を書く)	ことばと思想2(口頭発表を行う)	福沢　健	月4	1	－	115
ことばと思想2(書き言葉の問題)	ことばと思想2(話し言葉の問題)	佐藤　毅	木2	1	－	116
ことばと思想2(生活文化の発見)	ことばと思想2(生活文化の記述)	林　英一	木2	1	－	117
ことばと思想2(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想2(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津　正樹	土2	1	－	118
ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳の仕事)	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳の仕事)	矢田　陽子	火2	1	－	119
ことばと思想2(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2(プレゼンテーション実習)	清水　絹代	水2	1	－	120
ことばと思想2(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2(プレゼンテーション実習)	清水　絹代	水3	1	－	120
ことばと思想2(碑文を読む)		飯島　一彦	金4	2	養	121
	ことばと思想2(写本を読む)	城﨑　陽子	水3	2	養	121
ことばと思想2(ロマンス語研究入門1)	ことばと思想2(ロマンス語研究入門2)	島津　寛	木4	2	－	122
ことばと思想2(日本文学作品研究a)		城﨑　陽子	水3	2	養	123
	ことばと思想2(日本文学作品研究e)	城﨑　陽子	火3	2	13以降入学養	123
ことばと思想2(日本文学作品研究c)		城﨑　陽子	水4	2	養	124
	ことばと思想2(韓国の言語文化)	金　秀晶	水3	2	養	124
ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅰa)	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅰb)	古川　堅治	木3	1	－	125
ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅱa)	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅱb)	古川　堅治	水3	2	－	126
ことばと思想2(ラテン語Ⅰa)	ことばと思想2(ラテン語Ⅰb)	小倉　博行	金1	1	－	127
ことばと思想2(ラテン語Ⅱa)	ことばと思想2(ラテン語Ⅱb)	小倉　博行	金2	2	－	128
	ことばと思想2(心理検査法と自己理解)	田口　雅徳	木4	2	養・19以降入学者	129

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想2(日本語教育研究法)		瀬尾　悠希子	水2	2	養	130
	ことばと思想2(日本語学の諸問題)	浅山　佳郎	木1	2	養	130
ことばと思想2(日本語教育教材論)		倉田　芳弥	月4	2	養	131
	ことばと思想2(日本語教育のための社会言語学)	野原　ゆかり	水2	2	養	131
ことばと思想2(日本語教育専門講読)		谷内　美智子	木1	2	養	132
	ことばと思想2(年少者日本語教育)	宇津木　奈美子	火2	2	養	132
ことばと思想2(日本語音声学)		磯村　一弘	水5	2	養	133
ことばと思想2(日本語教授法Ⅰa)		野原　ゆかり	火2	3	養	134
	ことばと思想2(日本語教授法Ⅰb)	瀬尾　悠希子	木2	3	養	134
ことばと思想2(日本語教授法Ⅱ)		野原　ゆかり	水3	4	養	135
ことばと思想2(日本語教育実習)	ことばと思想2(日本語教育実習)	各担当教員	その他	4	養	136
歴史と文化2(フランス映画と「他者」)	歴史と文化2(フランス映画と「他者」)	森井　良	木2	1	－	137
歴史と文化2(イタリアの音楽史)	歴史と文化2(イタリアの声楽曲)	園田　みどり	水3	1	－	138
歴史と文化2(詩と音楽7)	歴史と文化2(詩と音楽4)	園田　みどり	木2	1	－	139
歴史と文化2(楽典(音楽通論)―楽譜を読み・書くために)	歴史と文化2(楽典(音楽通論)―楽譜を読み・書くために)	松橋　麻利	月3	1	－	140
	歴史と文化2(日韓比較文化論a)	青木　義幸	火4	2	養	141
歴史と文化2(日韓比較文化論b)		小島　優生	木3	2	養	141
歴史と文化2(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)		倉田　量介	火3	2	養	142
歴史と文化2(Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 1)	歴史と文化2(Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 2)	A. ゾーリンジャー	月4	2	－	143
歴史と文化2(Overview of Japanese History and Culture, Part Ⅰ)	歴史と文化2(Overview of Japanese History and Culture, PartⅡ)	P. ネルム	水3	2	－	144
歴史と文化2(Japanese Popular Culture)		J. D. コーリス	月3	2	－	145
	歴史と文化2(日本文化研究b)	城﨑　陽子	水4	2	13以降入学養	145
	歴史と文化2(日本文化研究d)	飯島　一彦	水1	2	13以降入学養	146
	歴史と文化2(日本文化研究a)	飯島　一彦	金4	2	養・法	147
	歴史と文化2(韓国の宗教)	佐藤　厚	金2	2	養	148
歴史と文化2(近代世界システム論)	歴史と文化2(食の歴史と文化)	野澤　丈二	金2	1	－	149
歴史と文化2(ドイツ語圏の歴史・文化史散策a)	歴史と文化2(ドイツ語圏の歴史・文化史散策b)	工藤　達也	火3	1	－	150
	歴史と文化2(人間の教養――社会の文化)	髙橋　輝曉	水4	1	－	151
現代社会2(現代西洋経済史入門)	現代社会2(EU経済論入門)	廣田　愛理	水2	1	－	152
現代社会2(新聞を読む1)	現代社会2(新聞を読む2)	半田　滋	木2	1	－	153
現代社会2(経理入門1)	現代社会2(経理入門2)	原　郁代	木4	1	経	154
現代社会2(英文会計入門1)	現代社会2(英文会計入門2)	原　郁代	木5	1	－	155
現代社会2(コンピュータ入門a)	現代社会2(コンピュータ入門b)	久東　義典	火3	1	外・養・経	156
現代社会2(コンピュータ入門a)	現代社会2(コンピュータ入門b)	杉村　和枝	金3	1	外・養・経	156
現代社会2(コンピュータ入門a)	現代社会2(コンピュータ入門b)	黄　海湘	金3	1	外・養・経	156
現代社会2(コンピュータ入門a)	現代社会2(コンピュータ入門b)	黄　海湘	金5	1	外・養・経	156
現代社会2(ホームページ作成)	現代社会2(ホームページ作成)	久東　義典	火5	1	養	157
現代社会2(ホームページ作成)	現代社会2(ホームページ作成)	森島　直人	水2	1	養	158
現代社会2(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会2(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	柿沼　義孝	水2	1	独	159
現代社会2(教育の現場：教師と語るa)		川村　肇	木1	1	－	160
	現代社会2(教育の現場：教師と語るb)	川村　肇	水1	1	養	160
現代社会2(インターンシップ)		森永　卓郎	木2	2	－	161
現代社会2(韓国研究情報収集法)		田代　裕一朗	月4	2	養	162
現代社会2(韓国社会論Ⅰ)		羅　一等	月2	2	養・19以降入学者	163
	現代社会2(韓国社会論)	小宮　秀陵	水3	2	養・19以降入学者	163
現代社会2(市民社会と法)		花本　広志	木3	1	－	164
	現代社会2(家族と法・実践編)	齋藤　哲	木2	1	－	165
	現代社会2(市民と刑事司法・応用)	徳永　光	水1	1	－	166
	現代社会2(自己表現の技法)	花本　広志	月3	1	－	164
	現代社会2(社会生活と犯罪・実践編)	関根　徹	木1	1	－	167
現代社会2(Future Skills Program)		浅山　佳郎	月5	1	1年2学期以降の学生	168
現代社会2(Future Skills Program)		野澤　聡	木5	1	1年2学期以降の学生	168

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
自然・環境・人間2(コンピュータと言語)		呉　浩東	月2	1	外・養	169
	自然・環境・人間2(統計と調査法)	安間　一雄	木1	2	養	170
	自然・環境・人間2(情報検索と加工)	呉　浩東	金2	2	養	171
	自然・環境・人間2(コンピュータ構造論)	呉　浩東	月2	2	養	169
自然・環境・人間2(データ構造とアルゴリズム論)		黄　海湘	水3	2	13以降入学養	172
自然・環境・人間2(自然言語処理b)		呉　浩東	木1	2	養	171
自然・環境・人間2(人工知能入門a)	自然・環境・人間2(人工知能入門b)	黄　海湘	金1	2	養	173
	自然・環境・人間2(文化について調べて書くb)	松岡　格	月3	2	13以降入学養	174
自然・環境・人間2(スポーツコーチ学a)		依田　珠江	木3	2	養	174
	自然・環境・人間2(スポーツコーチ学b)	松原　裕	水3	2	養	175
自然・環境・人間2(リーダーシップ論)		和田　智	金2	2	養	176
自然・環境・人間2(体育経営スポーツマネージメント)		川北　準人	月3	2	養	177
	自然・環境・人間2(からだの仕組み)	依田　珠江	木3	2	13以降入学養	178
自然・環境・人間2(生理学Ⅰ)	自然・環境・人間2(生理学Ⅱ)	依田　珠江	水1	1	13以降入学養	179
自然・環境・人間2(サイエンスライティングa)	自然・環境・人間2(サイエンスライティングb)	東　孝博	木4	2	13以降入学養	180
	自然・環境・人間2(人間活動の自然環境への影響のデータからの理解)	中村　健治	水1	1	－	181
自然・環境・人間2(社会のなかの化学物質a)	自然・環境・人間2(社会のなかの化学物質b)	内田　正夫	木4	2	養	182

スポーツ・レクリエーション部門

科目名(副題)	開講学期	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション(インラインホッケーa)	春	松原　裕	水3	1		183
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa・b)	春・秋	和田　智	火1	1		184
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa・b)	春・秋	和田　智	土1	1		184
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa)	春	和田　智	土2	1		184
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa・b)	春・秋	重藤　誠市郎	火1	1		185
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa・b)	春・秋	重藤　誠市郎	火2	1		185
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa・b)	春・秋	松原　裕	金3	1		186
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa・b)	春・秋	松原　裕	土2	1		186
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa・b)	春・秋	田中　茂宏	木1	1		187
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa・b)	春・秋	小笠原　慶太	金1	1		188
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa・b)	春・秋	小笠原　慶太	金2	1		188
スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニングa・b)	春・秋	松原　裕	水1	1		189
スポーツ・レクリエーション(サッカーa・b)	春・秋	原仲　碧	金3	1		190
スポーツ・レクリエーション(サッカーa・b)	春・秋	大森　一伸	火3	1		191
スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門a・b)	春・秋	依田　珠江	水2	1		192
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa・b)	春・秋	萩野　元祐	木1	1		193
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa・b)	春・秋	萩野　元祐	木2	1		193
スポーツ・レクリエーション(卓球a・b)	春・秋	山口　知恵	月1	1		194
スポーツ・レクリエーション(卓球a・b)	春・秋	神宮司　親治	金3	1		195
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa・b)	春・秋	内堀　祐子	水1	1		196
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa・b)	春・秋	内堀　祐子	水2	1		196
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門a・b)	春・秋	大串　哲朗	木2	1		197
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門a・b)	春・秋	大串　哲朗	木3	1		197
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門a・b)	春・秋	大森　一伸	火1	1		198
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門a・b)	春・秋	大森　一伸	火2	1		198
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa・b)	春・秋	依田　珠江	木1	1		199
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa)	春	依田　珠江	木2	1		199
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa・b)	春・秋	川北　準人	月1	1		200
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa・b)	春・秋	川北　準人	月2	1		200
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールb)	秋	川北　準人	月3	1		200
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa・b)	春・秋	田中　茂宏	木3	1		201
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa・b)	春・秋	藤野　和樹	水1	1		202
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa・b)	春・秋	藤野　和樹	水2	1		202
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa・b)	春・秋	佐藤　典子	金3	1		203
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa・b)	春・秋	重藤　誠市郎	火3	1		204
スポーツ・レクリエーション(フットサルa・b)	春・秋	原仲　碧	金2	1		205
スポーツ・レクリエーション(フットサルb)	秋	松原　裕	木2	1		206
スポーツ・レクリエーション(フットサルa・b)	春・秋	神宮司　親治	金1	1		207
スポーツ・レクリエーション(フリスビーa・b)	春・秋	村山　光義	月2	1		208
スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	秋	和田　智	火2	1		209
スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックスa・b)	春・秋	齋藤　初恵	金1	1		210
スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックスa・b)	春・秋	齋藤　初恵	金2	1		210
スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツa・b)	春・秋	村山　光義	月3	1		211
スポーツ・レクリエーション(マットピラティスa・b)	春・秋	板垣　悦子	金3	1		212
スポーツ・レクリエーション(マットピラティスa・b)	春・秋	板垣　悦子	金4	1		212
スポーツ・レクリエーション(ハンドボールa・b)	春・秋	佐藤　典子	金2	1		213
スポーツ・レクリエーション(3ボールスポーツa・b)	春・秋	依田　珠江	金1	1		214
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	火3	1		215
スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)	春	和田　智	夏季集中	1		215
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	火2	1		216
スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)	春	和田　智	夏季集中	1		216
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	水2	1		217
スポーツ・レクリエーション(ウィンドサーフィン)	春	和田　智	夏季集中	1		217
スポーツ・レクリエーション(アイススポーツトレーニング)	秋	和田　智	土2	1		218
スポーツ・レクリエーション(アイススポーツ)	秋	和田　智	冬季集中	1		218
スポーツ・レクリエーション(コーディネーショントレーニング)	秋	松原　裕	木3	1		219
スポーツ・レクリエーション(スキー＆スノーボード)	秋	松原　裕	冬季集中	1		219

外国語科目群

英語部門（English）

外国語学部英語学科・交流文化学科、国際教養学部の学生は、英語部門「English」を履修することはできません。

■クラス指定科目（再履修クラス含む）

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
独・仏・経・法のみ	English（リーディングI a,b）	/(Academic Reading Strategies I a,b)	各担当教員		-	220
指定された者のみ	English（リーディングI a,b）	/(Academic Reading Strategies I a,b)	中村　麗奈	月 1 月 2	-	221
環・国・総のみ	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	各担当教員		-	222
経のみ	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	各担当教員		-	223
Pathways1利用クラス	English（リスニング I a,b）	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	224
Pathways2利用クラス	English（リスニング I a,b）	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	225
指定された者のみ	English（リスニング I a,b）	/(Academic Listening Strategies I a,b)	J. ブローガン	金 1 金 2	-	226
独・仏・経(13年度以降入学者)・法のみ	English（リーディング II a,b）	/(Academic Reading Strategies II a,b)	各担当教員		-	227
指定された者のみ	English（リーディング II a,b）	/(Academic Reading Strategies II a,b)	高橋　良子	金 1 金 2	-	228
環・国・総のみ	English（ライティング II a,b）	/(Academic Writing II a,b: Essay)	各担当教員		-	229
独・仏・経(13年度以降入学者)・法のみ	English（リスニング II a,b）	/(Academic Listening Strategies II a,b)	各担当教員		-	230
指定された者のみ	English（リスニング II a,b）	/(Academic Listening Strategies II a,b)	J. ラシーン	金 1 金 2	-	231
経のみ	English（リーディング III a,b）	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	各担当教員		-	232
環のみ	English（テーマ研究a,b）	/(Selected Topics in Social Sciences a,b)	各担当教員		-	233

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English（留学生I a,b）	/(Basic English Skills for International Students I a,b)	本年度不開講			
外国人学生・帰国学生	English（留学生II a,b）	/(Basic English Skills for International Students II a,b)	本年度不開講			

■選択科目

科目の種類	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	飯島　優雅	火 4	環・国・総	234
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	遠藤　朋之	木 2	環・国・総	235
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	T. マティカイネン	火 4	環・国・総	236
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	高畑　哲男	金 3	環・国・総	237
Speaking	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	W. ヘイ	月 3	経	238
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	エイティム　ソイハン	木 3	経	239
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	A. キャルコート	金 3	経	240
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. フォー	水 2	経	241
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	A. ピアソン	火 1	経	242
	English（スピーキングII a,b）	/(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	松岡　昇	月 4	-	243
	English（スピーキングII a,b）	/(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	J. ハサウェイ	火 3	-	244
Reading	English（リーディング III a,b）	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	中西　貴行	火 4	済・営(13年度以降入学者)	245
e-learning	English(e-ラーニング)	/(Computer Assisted English Learning (CAEL))	本年度不開講		1年生	

Content-based	English(コンテントⅱ)	/(English Explorations)	J. ラシーン	木 2春	−	246
	English(コンテントⅲ)	/(English Explorations)	飯島 優雅	火 3秋	−	247
Test-taking	English(資格I)	/(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	河原 伸一	金 4	−	248
	English(資格II)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	松岡 昇	月 3	−	249
	English(資格III)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	飯島 優雅	火 3春	−	250
	English(資格IV)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	J. ラシーン	木 2秋	−	251
Pronunciation	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	辻田 麻里	木 4	−	252
	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	三谷 裕美	金 4	−	252
Basic Grammar	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	垣下 圭子	火 4	−	253
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	豊田 宣是	木 1	−	254
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	菊池 武	金 4	−	255

外国語科目群

外国語部門（英語以外）

対象・コース等	科目名（副題）	担当教員	曜	時	履修不可	ページ
（基礎コース）	ドイツ語（Ⅰa,b 基礎）	各担当教員			独	256
（総合コース）	ドイツ語（Ⅰa,b 基礎）	各担当教員			独	257
（総合コース）	ドイツ語（Ⅰa,b 会話）	各担当教員			独	258
（基礎コース）	ドイツ語（Ⅱa,b 基礎）	辻本　勝好	金	2	独	259
（総合コース）	ドイツ語（Ⅱa,b 基礎）	各担当教員			独	260
（総合コース）	ドイツ語（Ⅱa,b 会話）	各担当教員			独	261
	ドイツ語（Ⅲa,b 会話）	D. オルランド	木	1	独	262
（基礎コース）	フランス語（Ⅰa,b 基礎）	各担当教員			仏	263
（総合コース）	フランス語（Ⅰa,b 総合J）	各担当教員			仏	264
（総合コース）	フランス語（Ⅰa,b 総合F）	各担当教員			仏	265
	フランス語（Ⅰa,b 表現）	M. デルヴロワ	金	1	仏	266
（基礎コース）	フランス語（Ⅱa,b 基礎）	L. フォンテーヌ	月	3	仏	267
（総合コース）	フランス語（Ⅱa,b 総合J）	各担当教員			仏	268
（総合コース）	フランス語（Ⅱa,b 総合F）	各担当教員			仏	269
（基礎コース）	スペイン語（Ⅰa,b 文法）	各担当教員			養(*1)	270
（総合コース）	スペイン語（Ⅰa,b 文法）	各担当教員			養(*1)	271
（総合コース）	スペイン語（Ⅰa,b 会話）	各担当教員			養(*1)	272
（基礎コース）	スペイン語（Ⅱa,b 文法）	水口　良樹	月	3	養(*1)	273
（総合コース）	スペイン語（Ⅱa,b 文法）	各担当教員			養(*1)	274
（総合コース）	スペイン語（Ⅱa,b 会話）	各担当教員			養(*1)	275
	スペイン語（Ⅲa,b 講読）	金澤　直也	木	4	養(*1)	276
	スペイン語（Ⅲa,b 会話）	C. ガリード	火	3	養(*1)	277
（基礎コース）	中国語（Ⅰa,b 会話）	各担当教員			養(*2)	278
（総合コース）	中国語（Ⅰa,b 会話）	各担当教員			養(*2)	279
（総合コース）	中国語（Ⅰa,b 講読・文法）	各担当教員			養(*2)	280
（基礎コース）	中国語（Ⅱa,b 会話）	張　継英	火	3	養(*2)	281
（総合コース）	中国語（Ⅱa,b 会話）	各担当教員			養(*2)	282
（総合コース）	中国語（Ⅱa,b 講読・文法）	各担当教員			養(*2)	283
	中国語（Ⅲa,b 会話）	馮　曰珍	水	3	養(*2)	284
	中国語（Ⅲa,b 講読・文法）	平野　佐和	火	2	養(*2)	285
（基礎コース）	韓国語（Ⅰa,b 基礎）	各担当教員			養(*3)	286
（総合コース）	韓国語（Ⅰa,b 総合1）	各担当教員			養(*3)	287
（総合コース）	韓国語（Ⅰa,b 総合2）	各担当教員			養(*3)	288
（基礎コース）	韓国語（Ⅱa,b 講読・会話）	沈　民珪	金	4	養(*3)	289
（総合コース）	韓国語（Ⅱa,b 総合1）	金　秀晶	金	2	養(*3)	290
（総合コース）	韓国語（Ⅱa,b 総合2）	青木　義幸	月	2	養(*3)	291
	韓国語（Ⅲa,b 総合3）	柳　蓮淑	月	3	養(*3)	292
	外国語（イタリア語Ⅰa,b 基礎）	園田 みどり	水	4	－	293
	外国語（イタリア語Ⅰa,b 基礎）	園田 みどり	木	3	－	293
	外国語（イタリア語Ⅰa,b 基礎）	島津　寛	土	1	－	294
	外国語（イタリア語Ⅱa,b 基礎）	島津　寛	土	2	－	295
	外国語（ポルトガル語Ⅰa,b 総合）	牧野　真也	金	1	－	296
	外国語（ポルトガル語Ⅰa,b 会話）	牧野　真也	金	2	－	297
	外国語（ロシア語Ⅰa,b 総合）	齊藤　毅	水	2	－	298
	外国語（ロシア語Ⅰa,b 会話）	小西　昌隆	月	4	－	299
	外国語（ロシア語Ⅱa,b 総合）	齊藤　毅	水	3	－	300
	外国語（ロシア語Ⅱa,b 会話）	小西　昌隆	月	3	－	301
	外国語（タイ語Ⅰa,b 会話）	江藤　双恵	火	3	－	302
	外国語（タイ語Ⅱa,b 文字の読み書き）	江藤　双恵	火	2	－	303
	外国語（アラビア語Ⅰa,b 会話と文化）	W. イブラヒム	月	3	－	304
	外国語（アラビア語Ⅱa,b 読み書きと文法の基礎）	W. イブラヒム	月	4	－	305
	外国語（現代ヘブライ語Ⅰa,b 基礎）	阿部　望	金	2	－	306
	外国語（トルコ語Ⅰa,b 総合）	M. チャクル	木	3	－	307
	外国語（トルコ語Ⅰa,b 会話）	M. チャクル	木	4	－	308
	外国語（トルコ語Ⅱa,b 応用）	M. チャクル	木	2	－	309

（春）（秋）	全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	担当者	山﨑　尚

講義目的

本講義の目的は、皆さんに進むべき将来について想いをめぐらせてもらうとともに、それを実現するうえで大学生活で取り組むべき課題を見つけてもらうことにあります。

大学生活4年間は比較的自由である一方、何となく過ごしているとあっという間に過ぎます。しかし、大学生活はゴールではなく人生の通過点です。大学生活の先にはまた新たな別の道が続いています。いかなる進路を選ぶにしても、その先では働くこと（仕事を見つけること）が求められます。仕事はお金を稼ぐ手段である一方、ご自身の人生観を実現する手段でもあります。本講義を通じてご自身の将来の仕事や人生観に思いをめぐらせてください。また、天野貞祐先生がおっしゃるとおり、人間形成は一生の事業ではありますが、自由でさまざまな知識や考え方に触れられる大学においてこそできる人間形成があります。より充実した大学生活が送れるように、皆さんにとってそれが何かを考えてください。

講義概要

本講義では、毎回お招きする学外の講師の先生に、本講義の目的に沿ったさまざまなお話をしていただきます。各講義の最後には学生からの質疑応答を受け付けるとともに、簡単なレポートを書いてもらいます。

右の授業計画にあるように、内容的にはバラエティーに富んでいて、貴重なお話がたくさん聞けると思います。各受講生によって、非常に興味を持つものもあれば、さほど惹かれないものもあると思います。いずれの場合でも、何となく話を聞くのではなく、なぜ自分が興味を持ったのか、あるいはさほど惹かれなかったのかをよく考えて、ご自身の人生観に向き合ってください。そして、その人生観に沿った将来について考え、それを実現するうえで学生生活に得るべきものを考えてください。

なお、この講義については、履修登録にあたり下級生（1年生から順番に）が優先されますので、その旨ご承知おきください。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

講義により見つけることができたご自身の将来像を具体化するとともに、大学生活 4 年間で取り組むべき課題を実行に移してください。

受講生への要望

学外から講師の先生をお招きしますので、獨協大学の学生としてマナーを守って受講してください。

評価方法

授業への参加度 50%、各講義のレポート 50%

テキスト

必要な資料は各講義で配布します。

参考文献

必要な資料は各講義で配布します。

授業計画

（春学期）

1. オリエンテーション～さまざまな進路を考える～
2. 自分を表現する
3. 1 年生の今、すべきこと
4. 貴方は何しに獨協大学へ～高校生活と何が変わるのかそして未来は～
5. 公務員の仕事
6. 男女共同参画を推進する
7. 社会保険労務士の仕事～国家資格を考える～
8. 社会が求める人材とは～グローバルに活躍できる社会人になるために～
9. いのちの大切さ
10. 笑顔のチカラ～頭のいい人より感じのいい人～
11. 自分史発掘
12. サービスについて考えてみよう
13. 心を伝える言葉の大切さ～話し方のススメ～
14. 内定者の体験談とまとめ

（秋学期）

春学期の授業計画と内容はほぼ同じですが、順序が変わる場合があります。

｛注意｝

1. 講師の先生のご都合によっては回が前後する可能性があります。
2. 一部講義のテーマが変更になる可能性があります。

以上の点につきご理解ください。

（春）	全学総合講座(獨協学)	担当者	浅山　佳郎

講義目的

「獨協」という名詞は，「ドイツ（獨逸）学協会」の略称である。そしてその名詞をタイトルとするこの「獨協学」の授業は，学生諸君がそこで学ぶ獨協大学に冠せられたこの名詞が持つ多様な概念をトピックとしてとりあげ，日本，ドイツ，国際，外国語，近代，教育，学問，大学という相当抽象的な問題を，自分と大学について思考するための方途としてみようという目的の授業である。

なお，「獨協学」という耳慣れない名称は，担当者の私見では，決して獨協学園全体が「学」と呼称できるような何かを統一的に持っているわけではないので，あくまで「獨協」をトピックとするための「言い回し」に過ぎないと考える。

いずれにしろ，「外国語に秀でた国際的な大学」という印象を持たれうる本学で学ぶことを，ドイツ学と日本と獨協という切り口で考えてみるための講座である。

講義概要

全 14 回の授業のうち，9 回については，本学のさまざまな学部で教鞭を執っている，あるいは本学とさまざまに関係する教員や専門家に出講してもらい，それぞれの課題について，単独の講義形式または担当者との対談形式で授業を行う。この講義または対談はおおよそ 60 分から 80 分をめやすとし，その後質疑応答を行う。

各回の授業の最後には，講師から提示される課題について，簡単な授業内レポート（リアクションペーパー）を書くことが求められる。

3 回ごとに，小さなまとめの授業が設定されているが，ここではその前の回までに提出された授業内レポートから，興味深いものを選び出し，それを書いた履修者とともに議論によって，内容の深化をはかる。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

授業内容をまとめるとともに，他の履修者からの質問を考えることで復習すること。また，自分で書いた授業内レポートについて，議論を深化させておくこと。

受講生への要望

問題を発見し，考えるという姿勢を求めたい。

評価方法

毎回の授業中の小レポート	30%
授業参加への積極性	30%
期末レポート	40%

テキスト

特に指定しない。

参考文献

特に指定しないが，各回の講師によって授業中に指示がある。

授業計画

第 1 回　4 月 8 日
「獨協学」というトピックの意味
第 2 回　4 月 15 日
ヨーロッパ史におけるドイツ
講師；伊豆田俊輔　ドイツ語学科講師
第 3 回　4 月 22 日
ドイツの文化と思想
講師；山本淳　ドイツ語学科教授
第 4 回　5 月 13 日
ドイツの教育と大学
講師；赤木美香　言語文化学科講師
第 5 回　5 月 20 日
ドイツというプレゼンスのまとめ
講師；浅山佳郎（担当者）
第 6 回　5 月 27 日
近代日本のドイツ学の受容
講師；矢羽々崇　ドイツ語学科教授
第 7 回　6 月 3 日
草創期の獨逸学協会学校
講師；堅田智子　上智大学文学部講師
第 8 回　6 月 10 日
20 世紀のドイツと獨協
講師；福永文夫　総合政策学科教授
第 9 回　6 月 17 日
日本とドイツのまとめ
講師；浅山佳郎（担当者）
第 10 回　6 月 24 日
天野貞祐とドイツ哲学
講師；林永強　言語文化学科教授
第 11 回　7 月 1 日
獨協という「銘柄」
講師；未定
第 12 回　7 月 8 日
外から見た高等教育機関としての獨協
講師；高橋輝曉　立教大学名誉教授
第 13 回　7 月 15 日
獨協学園とドイツ学についてのまとめ
講師；浅山佳郎（担当者）
第 14 回　7 月 22 日
再度「獨協学」というトピックの意味

（春）	全学総合講座（環境学 1）（環境基礎学-自然を見つめる）	担当者	中村　健治

講義目的

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、自然環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境の成り立ち」および「自然と人間社会のかかわり」について講義する。

本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほかが担当する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前学習として講義の概要について具体的テーマを考える。事後学習として、講義内容の復習と身近な環境についての自分の意識の変化を認識するようにする。

受講生への要望

環境は、学際的に扱うべきテーマである。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。

評価方法

定期試験（70%）と授業参加度（30%）を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する。

テキスト

講師の配布資料および浜本光紹監修、獨協大学環境共生研究所編、『環境学への誘い』（創成社、2016）

参考文献

特になし。

授業計画

1. 環境とは何か
2. 人類と環境
3. 海洋の生態系
4. 地域と気候変化
5. 地球温暖化
6. 寒冷地の気候と変化
7. 気候と雨
8. 熱帯海洋と気候変化
9. 水循環と植生
10. アジアモンスーン
11. 環境認識の歴史
12. 農業と環境
13. 地球環境の観測
14. まとめ

（秋）	全学総合講座（環境学 2）（環境応用学-環境と社会）	担当者	中村　健治

講義目的

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、自然環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

秋学期は「人間社会の環境問題への対応」を中心に講義する。

本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほかが担当する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前学習として講義の概要について具体的テーマを考える。事後学習として、講義内容の復習と身近な環境についての自分の意識の変化を認識するようにする。

受講生への要望

環境は、学際的に扱うべきテーマである。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。

評価方法

定期試験(70%)と授業参加度(30%)を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する。

テキスト

浜本光紹監修、獨協大学環境共生研究所編、『環境学への誘い』（創成社、2016 年）および講師の配布資料

参考文献

特になし。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 人口と食料
3. 環境経済・経済政策
4. 環境と教育
5. エネルギー管理システム
6. 地球観測衛星計画と社会
7. 持続可能性
8. 水災害とリスク管理
9. 環境と科学技術
10. 歴史を生かしたまちづくり
11. 日本の環境現代史
12. スマートシティ
13. 環境と法
14. まとめ

（春）	全学総合講座（教えるという仕事）	担当者	川村　肇

講義目的

教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。

また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。

講義概要

教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。

お招きするのは、埼玉県内外の小中学校および高校の現役の先生方、さいたま教育研究所の先生、総勢12名の先生方を予定しています。

それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。

みなさんが教育や社会の問題を考える素材を提供する科目にしたいと考えています。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

テキストを読んで自分の考えをまとめておいてください。

受講生への要望

教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎します。

評価方法

最終レポート（100%）により評価します。

テキスト

高橋陽一編『新しい生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版部）。その他、配布プリント類によります。

参考文献

適宜紹介します。

授業計画

1　ガイダンス
テレビ東京制作「星空の中学生とともに」

2　松崎運之助（元夜間中学教諭）
「学ぶとは何か　夜間中学校を中心に」

3　白鳥勲（さいたま教育文化研究所）
「貧困社会の教育（1）子どもを支える」

4　窪岡文男（テレビ・ディレクター）
「貧困社会の教育（2）奨学金を考える」

5　岩田彦太郎（中学校教諭）
「教師の仕事　教師の労働実態」

6　宮下与兵衛（首都大学東京特任教授）
「生徒の学校参加と主権者教育」

7　嶋村純子（中学校教諭）
「中学校の生活指導」

8　関口武（小学校教諭）
「小学校の生活指導　一年間の実践構想」

9　岩田歩（中学校教諭）
「中学校の教科指導（1）英語を教える」

10　小堀俊夫（元中学校教諭）
「中学校の教科指導（2）社会科を教える」

11　森達（宮城県元中学校教諭）
「大震災と教育　復興の現状と学校の課題」

12　奈須恵子（立教大学教授）
「多文化教育と学校」

13　中村悌一（さいたま教育文化研究所）
「中学校の生活指導　いじめと不登校」

14　間中崇史（特別支援学校教諭）
「支援を必要とする子どもたちとともに」

（春）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 1）	担当者	上坂　卓郎

講義目的

この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業が取り上げられる。

講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。

なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い学生にもわかるような平易な内容となっているが、時に専門用語も頻繁に使用される。

春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。

概ね 1 年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。

毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。

講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前学修としては業界地図や会社四季報などをみること。事後学修としては、配布された資料を基にノートを整理することと専門知識など理解できなかったことを調べる。

受講生への要望

遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。スマホの使用も認めません。授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う 4 年生は注意すること。

評価方法

定期試験のみで行う（100%）。当然のことだが欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。最初の一回、二回目で配布する注意事項を良く読むこと。

テキスト

講義の中でハンドアウトを配布する。

参考文献

特になし。

授業計画

第 1 回 保険業界の現状と課題

第 2 回 家庭用品メーカー　花王の成長戦略

第 3 回 味の素の志と国連の SDGs

第 4 回 住宅産業とリノベーション事業

第 5 回 地方銀行ビジネスの現状と課題

第 6 回 スタートアップ国家イスラエル

第 7 回 医薬品事業の難しさ・面白さ

第 8 回 日本のツーリズム産業

第 9 回 基礎産業資源アルミニウムの地金開発

第10回 出版業界の最近の動向

第11回 広告業界は時代を映す鏡

第12回 リクルートの成長の仕組み

第13回 コンビニ業界の現状と課題

第14回　IT ビジネスの新潮流

※開講日程、内容は若干変更の可能性がある。

（秋）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 2）	担当者	上坂　卓郎

講義目的

この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業が取り上げられる。

講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。

なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い学生にもわかるような平易な内容となっているが、時に専門用語も頻繁に使用される。

春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。

概ね 1 年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。

毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。

講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前学修としては業界地図や会社四季報などをみること。事後学修としては、配布された資料を基にノートを整理することと専門知識など理解できなかったことを調べる。

受講生への要望

遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。スマホの使用も認めません。授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う 4 年生は注意すること。

評価方法

定期試験のみで行う（100%）。当然のことだが欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。最初の一回、二回目の授業で配布する注意事項をよく読むこと。

テキスト

講義の中でハンドアウトを配布する。

参考文献

特になし。

授業計画

第 1 回 次世代自動車と自動車産業

第 2 回 サービス業の国際展開

第 3 回 化成品産業における新展開

第 4 回 IT ビジネス最前線

第 5 回 生命科学と再生医療ビジネス

第 6 回 日本における多国籍人材の活用

第 7 回 百貨店の未来

第 8 回 電気通信システムの変遷と今後の展開

第 9 回 製造業のサプライチェーン

第10回 電力業の現状と未来

第11回 外資系医薬品企業における理念と戦略

第12回 環境ビジネス

第13回 都市銀行と金融関連ビジネス

第14回 IT 社会とリスクマネジメント

※開講日程、内容は若干変更の可能性がある。

（春）	全学総合講座 （働くための基礎知識-知って得する労働問題）	担当者	市原　博

講義目的

アベノミクスによる景気回復が声高に言われる中でも、雇用をめぐる状況は深刻なままである。雇用が増加したと言っても、増えたのはおもに非正規の人びとだし、最近は「ブラック企業」問題が注目を集めていることに象徴されるように、正社員の厳しい労働の在りかたへの不安から正社員への移行を希望しない非正規社員さえ出現してきていると言われる。

こうした時代に生きて行く学生諸君には、雇用問題への正しい知識が必要不可欠である。本講義では、「働く」ことをめぐる様々な問題に多様な切り口から接近し、これからの産業社会で生きて行く若者に必要な知識を身につけてもらうとともに、雇用をめぐる問題が我々の生活にどのように係っているのかを考える。

講義概要

講義は毎回ゲストスピーカーを招き、行うことにする。労働組合の関係者、弁護士、労働・社会保障研究者など、社会の各方面でご活躍の多様な第一級の講師の方々から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

労働問題に関する新聞記事を読んだり、テレビニュースを見て、現在何が問題になっているかを自分なりに把握しておくこと。

受講生への要望

各方面でご活躍の高名な先生方にお話いただくので私語は厳に慎み、講師の方に失礼のないようにすること。

評価方法

原則としてレポート（100%）により評価する。

テキスト

なし

参考文献

各回の講義において紹介する。

授業計画

以下のようなテーマを予定している。授業の順番は講師の先生の都合で決まるので、下記の順番は日程を示すものではないことに注意すること。具体的な日程は最初の授業時に提示する。

1. ガイダンス
2. 労働法の基礎知識「労働法とは」
3. 労働法の基礎知識「ハラスメントと労働法」
4. ILOとサプライチェーン・マネジメント
5. 労使関係論—労働側からみて
6. アルバイト・就活をめぐるトラブルから身を守る
7. 社会保障制度—高齢化社会を迎えて
8. 労使交渉と政策制度の取り組みー現場の経験から
9. 少子化対策を考える—共働き社会の課題
10. 労働組合の一年
11. 労働安全衛生—メンタルヘルスを含む
12. 『全契約社員の正社員化』はなぜ実現したのか
    —広島電鉄労働組合の事例
13. ブラック企業の見分け方
14. 公務員の世界

（春）	全学総合講座 （NPO 論 人を変える・地域を変える・世界を変える）	担当者	高松　和幸

講義目的

講義では、NPO などを通じての企業の社会貢献や NPO 活動に関する、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。

解題：「疲弊した地域を取り巻く環境は厳しくなるばかりで、その地域のために、今こそ、企業・行政・市民が共働して、課題解決をしなければならない」

そこで企業独自の視点やNPO独自の展開などを、公共的な空間（場）に根ざしたものとして行政も含めて市民社会の一員として、地域に責任を持つ時代に入った。

講義概要

ドラッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとしてＮＰＯに注目して、その運営におけるミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といったマネジメントの必要性を主張した。

その背景には、もはや寄付に頼るだけでは活動できない先進国のＮＰＯが直面する危機があった。ＮＰＯが生き残るためには、企業や地域に働きかけ、これまで以上に課題解決に情熱を傾ける必要がある。

こうした課題を、様々な活動を通しての接点としてみることで、これら諸問題に関して、本講義では正面から取り上げて展開する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前：社会貢献に関する一般知識
事後：NPO などで活躍できる人材

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- 遅刻は認めない。

評価方法

出席 60%、レポート 30%、質疑応答 10%

テキスト

その都度、指示する。

参考文献

その都度、指示する。

授業計画

1．ガイダンス
高松和幸

ソーシャルスタートアップを通じて地域をつくる地方創生プロジェクトの現場最前線
一般社団法人 INSPIRE 代表理事/総合プロデューサー谷中修吾

2．美しい姿勢や歩き方、オーラの作り方
トータルビューティーアドバイザー　亜耶バネッサ

3．ふじみの国際交流センターの活動
ふじみの国際交流センター　石井ナナエ

4．アーティストと社会貢献～国境なき楽団
国境なき楽団代表理事　庄野真代

5．地域資源を活用！地域ｲﾉﾍﾞｰﾀｰを生み出すまちづくり
NPO 法人 atamista 代表理事　市来広一郎

6．NPO 活動　出会いとつながり
NPO 法人　とよあしはら事務局長　山本裕隆

7．埼玉県の林業と木材産業
加治木材代表　加治正芳

8．ノーベル賞受賞者との出会いが、私の人生を変えた。
もったいない kids 植林プロジェクト 代表理事
日本輪ゴム de サッカー協会　伊藤恵里子

9．異彩を放つ小さな町からのﾒｯｾｰｼﾞ　オペラ彩の 30 年
NPO 法人オペラ彩理事長　和田タカ子

10. 環境 NPO とソーシャルビジネス
一般社団法人 コクリエーションデザイン 代表理事
平田裕之

11. 国際協力の新しいカタチ　ユニカセ青少年育成事業
NPO 法人ユニカセ・ジャパン理事長　中村八千代

12. 災害をいかに自分ごとにするか
＝ 共感を力にソーシャルビジネス×減災の試み ＝
一般社団法人減災ラボ代表理事　鈴木　光

13. 医療・福祉の現場から見える地域社会の変化と今後
病い・老化・少子化と向き合う中で出会ったこと
一般社団法人東京都老人保健施設協会　事務局長
ハートランド・ぐらんぱぐらんま　副施設長/事務長
根本伊左夫

14. 世田谷区における NPO の活動
世田谷区議会議員　ひうち優子

上記の授業計画は講師の都合などにより変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松　和幸

講義目的

この講義は、地域活性化をキーワードに、地域の活性化とまちづくりなどを制度や人的、社会諸資源から取上げる。地域活性化システム論では、地域やまちの置かれている状況やそのまちが持っている潜在力とは何かについて考え、様々な取組事例を紹介する。また講義では、比較的簡単な説明と同時に、各市町村の創意工夫にあふれた取組みが、どのように地域特性となるかも垣間見ることになる。それをシステム論という意味で共通土壌に載せ、それぞれの地域が相対化されることで、その枠組みを利用しての地域活性化の一般化が期待されている。

本講義では、こうした取組みについて講師を招いて開催する。わが国の地域活性化の方向が学ぶ唯一の授業である。

講義概要

この科目は内閣府等の協力を得て実現したものである。また具体的な施策や事例などを、例示しながら講義する。

個別テーマは授業計画（最初の授業時に配布する）のとおりであるが、わが国の地域活性化の最先端の問題を中心に、テーマ設定を行っている。

この結果、地域の中で起きている様々な事例を通して、地域の実情が理解できると共に、地域の課題についての新たな認識と共に、自分が住んでいる地域や将来住むかもしれない地域の可能性に関して、示唆に富んだ内容が展開される。

この講義を通じて、地域で求められる人材に関する具体的な問題意識を得ることができであろう。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前：地域での出来事の一般知識
事後：地域活性によって求められる人材

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- 遅刻は認めない。

評価方法

出席 60%、レポート 30%、質疑応答 10%

テキスト

その都度、指示する。

参考文献

その都度、指示する。

授業計画

1．ガイダンス　　高松和幸

地方創生スタートアップの奥義
～イノベーターたちの超絶まちづくり～
一般社団法人 INSPIRE 代表理事/総合プロデューサー
谷中修吾

2．人に与える印象力
トータルビューティアドバイザー　亜耶バネッサ

3．人口減少時代の国土のビジョン
地域活性学会副会長　舘　逸志

4．紙製飲料容器「ｶｰﾄｶﾝ」が、地球温暖化防止に貢献
森を育む紙製飲料容器普及協議会事務局長
世木田大介

5．自分自身を活性化する Aoo を発見しよう！
㈱ヌールエ代表取締役　筒井一郎

6．事前復興で首都直下地震に備える
首都大学東京・東京都立大学　名誉教授　中林一樹

7．持続的に地域に関わり地域の持続性を高める
ということ
㈱トビムシ 代表取締役　竹本吉輝

8．ローカル線は心の栄養剤
元いすみ鉄道㈱代表取締役社長　鳥塚　亮

9．山間過疎地における地域創生
～奈良県川上村にみる一処方箋～
㈱価値総合研究所執行役員　目黒義和

10．秩父の森林資源を活用したメープルプロジェクト
TAP & SAP 代表　井原愛子

11．日本の農業・農村をめぐる課題と私たちの食の未来
～持続可能な農業の確立を目指して～
農林水産省大臣官房政策課上席企画官　木村崇之

12．コンパクトシティをもう一度
首都大学東京教授　玉川英則

13．飯能市の取り組みから
飯能市議会議員　平沼　弘

14．地域創生　成功の方程式
元農林水産省大臣官房政策課　企画官
一般社団法人日本事業構想研究所　代表理事
木村俊昭

上記授業計画は講師等の都合により変更することがあります。

（春）	全学総合講座 （芸術と社会-芸術が社会の中で果たす役割りについて）	担当者	青山　愛香

講義目的

みなさんにとって芸術はどのような存在でしょうか。普段意識しないだけで、それは案外身近にあるかもしれません。

この講義では芸術を仕事にして第一線で活躍する講師陣の話を聞きながら、芸術がこれまで社会とどのように深く結びつき、展開してきたのか、改めて考えることを目的としています。

講義概要

現在日本でアートに関わり、教育機関、美術館・博物館ならびに創作活動の場で活躍する講師陣に、ご自分の仕事についてお話頂きます。例えば、美術館・博物館についてはこれまで知らなかった現場の様子を知る事になるでしょう。

また創作活動に携わるアーチストの仕事とお話に直に接することで、芸術がより一層身近に感じられるはずです。また美術史や文学を研究する専門家からは、幅広い時代の芸術と社会の関わりについてご講義頂く予定です。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

授業で聞いたことを元に、関連テーマについて調べ、考えることが求められる。

受講生への要望

毎回様々なジャンルで活躍するゲストの方々のお話を聞きます。自分の視野を広げるために、質疑応答の際には積極的に参加して下さい。

評価方法

毎回授業内で書くコメントペーパーと学期末の筆記試験で評価。第一回目のイントロダクションには必ず参加して詳細を確認すること。筆記試験 80%、授業参加 20%で評価する。

テキスト

なし

参考文献

授業中に適宜指示する。

授業計画

① イントロダクション
青山愛香（本学ドイツ語学科教授）

② アニメーション作品/夢の記憶装置
村田朋泰（ムラタカンパニー代表・人形作家）

③ ハンセン療養所における芸術活動
金貴粉（ハンセン病資料館　学芸員）

④ 東ドイツにおける芸術と想起の文化 – 日本との比較を交えて
伊豆田俊輔（本学ドイツ語学科専任講師）

⑤ リヴァイアサン、海洋、芸術
榑沼範久（横浜国立大学教授）

⑥ 個人的なこと＝政治的なこと①
山川冬樹（ホーメイ歌手・アーチスト）

⑦ 個人的なこと＝政治的なこと②
山川冬樹（ホーメイ歌手・アーチスト）

⑧ アート・アクティヴィズムと木版画 – みんなで彫るということ
狩野愛（東京芸術大学大学院国際創造研究科、教育研究助手）

⑨ ゲームとしての芸術
木村太陽（美術家）

⑩ 身体の自由　表現の自由
青山愛香（本学ドイツ語学科教授）

⑪ ココ・シャネルと現代
谷口亞沙子（明治学院大学准教授）

⑫ 洞窟壁画の世界 – ヨーロッパの後期旧石器文化を中心に
五十嵐ジャンヌ（東京芸術大学非常勤講師）

⑬ 美術活動から考える　女性と世界の関係
横湯久美（横浜美術大学准教授）

⑭ なぜアートについて考えなければならないのか
神野真吾（千葉大学准教授）

（春）	全学総合講座 (社会を生き抜くセルフブランディングⅠ)	担当者	有吉　秀樹

講義目的

本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。

尚、本講座は初回から外部講師による講話が行われる。単位登録を希望する学生は必ず初回から出席すること。

講義概要

講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの１年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2 年生以上の受講も歓迎する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前に該当講師が執筆した教科書中の章を熟読するなど、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。

受講生への要望

学外の方を迎えての講義である以上、礼節と緊張感をもって臨むこと。また、講義開始 10 分以降の入退室は不可

評価方法

講義への参加度　60%
期末小テスト　40%
を目安とする。

テキスト

有吉秀樹編著　『自分の「軸」を作る　セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』　中央経済社　を使用する。

参考文献

特になし

授業計画

1. ガイダンス及び受講上の注意、外部講師による講話

2～13. 外部講師による講話

14. 外部講師による講話、確認テスト

（秋）	全学総合講座 （社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	担当者	有吉　秀樹

講義目的

本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。

尚、本講座は初回から外部講師による講話が行われる。単位登録を希望する学生は必ず初回から出席すること。

講義概要

講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの 1 年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2 年生以上の受講も歓迎する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

事前に該当講師が執筆した教科書中の章を熟読するなど、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。

受講生への要望

学外の方を迎えての講義である以上、礼節と緊張感をもって臨むこと。また、講義開始 10 分以降の入退室は不可

評価方法

講義への参加度　60%
期末小テスト　40%
を目安とする。

テキスト

有吉秀樹編著　『自分の「軸」を作る　セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』　中央経済社　を使用する。

参考文献

特になし

授業計画

1. ガイダンス及び受講上の注意、外部講師による講話

2～13. 外部講師による講話

14. 外部講師による講話、確認テスト

（春）	全学総合講座（大学における教養教育）	担当者	野澤　聡

講義目的

様々な立場で活躍されている方々から、教養や教養教育について、多様な視点を提示していただくことによって
（1）多様な視点の中で、受講生が自分の考えを自覚し、自分と異なる考えが存在していることに気付く
（2）各自にとっての教養や教養教育に向かう姿勢を主体的に選び取る
（3）人文社会科学系の大学である獨協大学で、自然科学系の知識を学ぶことの意味を考えることを目標とする。

講義概要

大学の教養教育にはどんな意義があるのだろうか。現在の大学は、地球規模で生じている大きな変化の真っただ中にあり、大学における教養教育に対しても、その意義を問い直す声が高まっている。とくに、専門教育や卒業後の仕事と直接関係ないように見える教養教育に対しては、しばしば不要論も唱えられている。他方、社会がますます複雑化すると同時に、専門分野が著しく細分化されている現在では、狭い意味での専門分野だけを学んでいたのでは不十分であることは明らかである。では、現在にふさわしい教養あるいは教養教育とはどのようなものであろうか。

この講義では、本学や他大学の大学教員だけでなく、高校教員、書籍編集者、小説家、ジャーナリスト、行政官、ビジネスマンなど、様々な立場で活躍されている方に登壇していただき、ご自身の生き方と関連付けて、教養や教養教育のあるべき姿や現状の問題点についてお話ししていただく。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

（事前）科学技術の話題に関心をもち情報収集する。
（事後）授業内容を振り返ると同時に授業に関連する文献調査をおこない、授業報告の執筆を進める。

受講生への要望

・授業は静粛に受ける（悪質な場合は退席を命じる）
・特別な理由なく 30 分以上中座した場合は欠席と見なす
・出席カードの取り扱いは厳密にする

評価方法

・授業内に提示する課題（約 30%）と、学期末に提出する授業報告（レポート）（約 70%）により評価する。
・詳細については、第 1 回の授業で説明する。

テキスト

なし

参考文献

【全般的な参考文献】村上陽一郎『あらためて教養とは』新潮文庫，2009 年

授業計画

1. イントロダクション　教養、教養教育とは（野澤）
2. 「教養主義を再構築する――牧師の視点」
上田彰氏（日本基督教団伊東教会牧師）
3. 「教養教育の歴史と多様性」
塚原修一氏（関西国際大学教育学部客員教授）
4. 「文系と理系のあいだ」
塚原修一氏（関西国際大学教育学部客員教授）
5. 「地球儀を俯瞰して考える―世界の中の日本」
北川敬三氏（海上自衛隊幹部学校戦略研究室長）
6. 「生命に向き合う教養」
仙波由加里氏（お茶の水女子大学ジェンダー研究センター）
7. 「科学技術政策から見た大学における教養教育」
山下恭範氏（文部科学省研究開発局原子力損害賠償対策室次長）
8. 「人工知能と社会」
木下泰宏氏（東芝テック株式会社リサーチ&デベロップメントセンター）
9. 「教養としてのネットセキュリティ」
高橋正和氏（株式会社 Preferred Networks　情報セキュリティ最高責任者／セキュリティアーキテクト）
10. 「人生における大学と教養」
村上祐子氏（立教大学特任教授）
11. 「言語発達と学習者世界の深化」
安間一雄氏（獨協大学国際教養学部教授）
12. 「あなたは 10 年後どのように働きたいか―人工知能と働き方」
木下泰宏氏（東芝テック株式会社リサーチ&デベロップメントセンター）
13. 「教養としての文学」
大隅直人氏（さいはて社代表）
14. 「教養を問う意味―大学で学ぶということ」
宮野公樹氏（京都大学学際融合教育研究推進センター准教授

登壇者の都合により、テーマや順番を変更することがある。

（春）	全学総合講座（幅広く教養を考える-体育・スポーツから）	担当者	松原　裕

講義目的

大学生になり、これからどのように人間形成をしていくのか？
大学時代は人間形成ということが中心になります。
その手段のひとつとして教養ということを幅広く考えられることが重要です。
この講座では体育・スポーツから教養を考えてみますが、ここで言う「スポーツ」には日常生活からの気晴らしから戦争までを含みます。健康や世界といった言葉もキーワードです。
ゲストの講義を聞き視点を変えることで今後の生活や将来の生き方を各自が考え発見していくことへの知的刺激が目的です。

講義概要

毎回ゲストを招いてその講義を受ける形式になります。
毎回200字程度、各自の考えをまとめて記述した用紙を提出してもらいます。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

体調管理をしてベストコンディションで臨むこと。
毎回の授業内容を纏めておくこと。

受講生への要望

顔と名前を一致させコミュニケーションをとるために配布したカードに顔写真と必要事項を記入して提出する。

評価方法

授業への参加度・授業で提出した記述内容 70%、最終レポート 30%を目安に総合して評価する。

テキスト

適宜紹介する。

参考文献

適宜紹介する。

授業計画

１．　ガイダンス・ゲスト一覧紹介・ゲスト講義
２．　ゲスト講義・カード配布
３．　ゲスト講義・カード配布
４．　ゲスト講義
５．　ゲスト講義
６．　ゲスト講義
７．　ゲスト講義
８．　ゲスト講義
９．　ゲスト講義
１０．　ゲスト講義
１１．　ゲスト講義
１２．　ゲスト講義
１３．　ゲスト講義
１４．　ゲスト講義・最終レポート課題配布

現段階では依頼中のため決定されていない。
依頼中のゲストは下記の通りですが、都合によりゲストは変更になります。

伊藤慧　サッカー・スポーツ指導者支援
シギー吉田　ラグビー・フォトジャーナリスト
松野隆史　サッカー・理学療法士
岩嶋孝夫　硬式テニス・スポーツ科学
河原工　サッカー・スポーツフォートゥモロー
黒田卓志　サッカー・競技運営
田中重陽　軟式野球・スポーツ科学
矢島鎗司　スキー・土木・情報科学
中塚義実　サッカー・体育社会学
中村孝　サッカー・アジアンズブリッジ
吉田将央　ラグビー・プレーヤー
大保木輝雄　剣道・武道論

（秋）	全学総合講座（自由時間の達人）	担当者	和田　智

講義目的

みなさんは自由時間の大切さに気づいているでしょうか。自由時間をどのように使っていますか。
私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえば7万時間の労働時間のための学習や活動が多かったのではないでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちとそれを実践している人たちを紹介します。
「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目的にしています。
春学期の理論編としての「自由時間設計」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います。

講義概要

第1回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただきます。
第2回目の授業から、それぞれのゲストがどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただきます。
最後の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していきます。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

労働、自由時間のあり方、それぞれの余暇活動について関心を持ち、毎回課される授業レポートに反映できるよう調べておくこと。

受講生への要望

オンラインライブアンケートシステムを利用するので、スマホ等での入力にご協力ください。

評価方法

授業レポート（80%）、学期末レポート（20%）により評価する。

テキスト

必要に応じて配布します。

参考文献

特になし。

授業計画

1　オリエンテーション
「あなたの自由時間の現状」
和田 智 コーディネイター
2　自由時間の達人①
「ライフスタイルとしての有機農業」
鈴木智久　どんちゃんファーム
3　自由時間の達人②
「好きなことを続けるということ」
松元　恵　フリーダイバー
4　自由時間の達人③
「好きなことを続けるということ」
谷川育子　いくらサーカス主宰
5　自由時間の達人④
「私がなぜ空を飛ぶようになったのか」
多胡光純　本学卒業生　エアーフォトグラファー
6　自由時間の達人⑤
「生きることの証をもとめて」
服部 文祥　サバイバル登山家
7　自由時間の達人⑥
「好きなことを続けるということ」
ズッカーマン明子　パントマイムアーティスト
8　自由時間の達人⑦
「好きなことを続けるということ」
内堀晃太郎　本学卒業生　プロダンサー
9　自由時間の達人⑧
「高齢者のためのレジャー」
山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役
10　自由時間の達人⑨
「好きなことを続けるということ」
麻生子八咫　本学卒業生　活弁士
11　自由時間の達人⑩
「好きなことを続けるということ」
水島結子　薩摩琵琶奏者
12　自由時間の達人⑪
「好きなことを続けるということ」
村山恵梨　プロボウラー
13　自由時間の達人⑫
「好きなことを続けるということ」
鈴木彰久　指揮者
14　自由時間を「自由時間をレジャーとするために」
和田　智　獨協大学教授

講師の都合により、予定が変わることがあります。

（秋）	全学総合講座 (食文化と人間生活「気候と風土と食文化」)	担当者	和田　智

講義目的

近年失われつつある伝統的食文化と新しい食習慣のもとに形成されてきた今日的な食文化の比較と現状を理解することは、健康な生活を求め、持続的な社会を形成するうえで重要なライフスキルといえる。

その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

日本の食、世界の食について食の世界のスペシャリスト達の話から食についての関心を高め、行動に移すことを目的とする。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験する。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

世界の食料問題について関心を持ち、毎回課される授業レポートに反映できるよう調べておくこと。

受講生への要望

オンラインライブアンケートシステムを利用するので、スマホ等での入力にご協力ください。

評価方法

授業での小レポート(20%)、学期末レポート(20%)、出席状況等(60%)により総合的に評価する。

テキスト

授業で紹介する。

参考文献

特になし。

授業計画

1　オリエンテーション
　「食をめぐる話題」
　和田 智 獨協大学教授
2　「食と茶の文化伝導」
　磯淵 猛　㈱ティー・イソブチカンパニー代表取締役社長
3　「食事作法の背景にあるもの」
　後藤加寿子　料理研究家　武者小路千家長女
4　「世界の飢餓と WFP の活動」
　国連 WFP 協会　広報担当者
5　「人はズルなしで生きられるか」
　服部文祥　サバイバル登山家
6　「スローフードの考え方」
　吉開俊也　ニッポン東京スローフード協会
7　「酒と日本文化」
　近藤芳美　北雪酒造蔵人
8　「ケケタン先生の考える子どもと食」
　葛　恵子　㈲葛トータルフードプロデュース
　クッキングプロデューサー
9　「The　日本食」
　柳原尚之　江戸懐石近茶流・柳原料理教室副主宰
10　「水の話」
　草加市水道部担当者
11　「怪しい食情報に騙されない」
　講師未定
12　「有機農業と食」
　金子美登　埼玉県小川町有機農業実践家
　　霜里農場代表・小川町町会議員
13　「食を資源とした地域おこし」
　金丸弘美　食環境ジャーナリスト
14　「私たちの食はこのままではいけない」
　和田　智　獨協大学教授

講師の都合により、順番は変更されます。

（秋）	全学総合講座（メディア社会とロック）	担当者	岡村　圭子

講義目的

「ロック」という文化をとおして、わたしたちが生きる現代社会、メディア・音楽産業、グローバル化について考えることが本講義の主なねらいである。かならずしも音楽についての専門的な知識／経験を持っている必要はなく、それぞれの講師の話を聴くなかから、自分なりに（自分の問題関心に応じて）話題を展開していってほしい。たとえば、ロックが生まれた背景や、ロックが日本の音楽（Jポップやグループサウンズ）にどういったかたちで影響してきたのかを知ることによって、異文化受容のメカニズムや多文化共生を考える糸口が見つかるかもしれない。観光、ファッションとロック音楽の関連を知るなかから、文化変容の形態やメディアの影響力についての議論が展開できるかもしれない。講師の方々のお仕事の内容をじかに聴くことによって、将来の方向性や、目指すべき職業があらたに見つかるかもしれない。この機会を十分に活かしてほしい。

講義概要

初回のオリエンテーションでは、授業の進め方や評価方法についての説明、受講に当たっての注意、参考文献リストの配布など、受講にあたっての重要なインフォメーションがあるので必ず出席のこと。

講義の前半では、ロックについての基礎的な解説をし、後半は、日本における大衆音楽とメディアとの関係について、さらに、ロックとの関連からそれぞれのテーマについての各論を展開する。

講師にお招きする方は、それぞれ音楽業界での業績が多くあり、経験・知識ともに豊富な方々ばかりである。なかなか聴く機会のない貴重な話や、専門的な話も出てくるかもしれない。ぜひとも、しっかりと予習をしたうえで、積極的に質問をしてほしい。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

毎週、つぎの回までに観ておくべき映像や読んでおくべき資料を指示する。

受講生への要望

1）自分なりの問題関心を持ち、受講マナーを守って講義に参加できる学生を希望します。
2）初回オリエンテーションには必ず参加すること。

評価方法

授業への積極性（50%）
期末試験（50%）

テキスト

サエキけんぞう『ロックとメディア社会』新泉社

参考文献

授業内で指示する

授業計画

1．　オリエンテーション
2．　メディアの発達とロックの進化１
　——ロック誕生の瞬間から現在まで
　プロデューサー・作詞家・ミュージシャン
　サエキけんぞう
3．　メディアの発達とロックの進化２
　——ロックの変革者たち
　同上
4．　アニメが飲み込むロック
　——世界を席巻するアニメ文化のグローバル性
　音楽評論家　冨田明宏
5．　Jポップ論
　音楽評論家　青木 優
6．　日本のロック・海外進出史
　サエキけんぞう
7．　ロックフェスティバル考
　——ロックが生み出す消費の現場
　同上
8．　ワールドクラブカルチャー論
　音楽評論家　サラーム海上
9．　テクノ音楽と世界
　音楽評論家　小暮秀夫
１０．　グループサウンズ論
　——異形の和製ポップスがもたらしたもの
　音楽評論家　中村俊夫
１１．　ロックとアイドル文化
　ミュージシャン　掟ポルシェ
１２．　ヒップホップ論
　ミュージシャン　高木 完
１３．　越境する音楽
　音楽評論家　北中正和
１４．　まとめ

！注意！
上記の順番は、講師の都合により前後することがあります。

（秋）	全学総合講座（情報社会とルール）	担当者	多賀谷　一照

講義目的

インターネットの普及、スマートフォンなどにより、今後の社会活動が物理的空間から情報空間に移っていく過程において、対面関係を前提としてきた社会ルールがどう変容していくか、新たな情報空間上の社会関係をどう形作っていったらよいかについて、学生諸君に問題意識を持ってもらうことを目標とする

講義概要

情報社会、情報空間について、インターネットや動画像伝送サービス、ビックデータと AI による解析等によって、既存の通信・放送にかかるルールがどう変容したか、暗号技術などにより新たなルールをどう作っていくか、それぞれの分野の専門家により、オムニバス方式で講義してもらう。（講義の順番、内容について若干の変更の可能性がある）

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

インターネットやメディアで関連する話題を注視させる。

受講生への要望

自分がラインなどでネットアクセスしている場合のあり様と対比してください。

評価方法

3 回のレポート提出（６５％）と受講態度・質疑（３５％）により評価する。

テキスト

原則毎回レジメを配布する。

参考文献

特になし。

授業計画

第 1 回 総説
第 2 回 情報社会と違法有害通信
第 3 回 ウイキリークス、盗聴
第 4 回 情報セキュリティと暗号システム
第 5 回 情報社会とルール、倫理
第 6 回 通信システムと情報社会（ネット上の人権）
第 7 回 通信システムと情報社会（プロバイダ責任）
第 8 回 電波と情報空間
第 9 回 放送と情報社会
第 10 回 AI
第 11 回 ビッグデータ
第 12 回 ドローン
第 13 回 自動走行（ITS）
第 14 回 個人情報保護

（秋）	全学総合講座（社会の中の科学）	担当者	野澤　聡

講義目的

科学技術が社会の中で作動するためには、様々な立場の人々の協働が不可欠である。とくに近年では、いわゆる人文・社会科学的な知見を科学技術に活かそうとする試みが注目されている。つまり、社会の中で科学技術を活かすためには、狭い意味での科学技術の専門家だけでは不十分なのであり、人文・社会科学の知見をもった人々との協働が強く望まれるようになりつつあるのだ。

この授業では、科学技術が社会の中で育まれており、つねに変化し続けているということを、様々な具体的な事例を通じて紹介することによって、受講生諸君が科学技術に興味関心をもってもらうことを目標とする。

受講生一人ひとりが学びつつある専門と、科学技術とをどのように関係付け、生かしていくのかを考えるきっかけを提供する。

講義概要

様々な分野で科学技術に関わっている人たちに登壇していただき、どのような科学技術に、どのような形で関わっているか、また、科学技術の希望と問題がどのようなところにあると考えているかをお話していただく。

高校までの授業や、大学での日々の勉強とは違った話題に触れることによって、様々な発見や共感や疑問を抱くことができるだろう。

なお、各回の内容は変更することがある。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

（事前）科学技術の話題に関心をもち情報収集する。
（事後）授業内容を振り返ると同時に授業に関連する文献調査をおこない、授業報告の執筆を進める。

受講生への要望

・ 授業は静粛に受ける（悪質な場合は退席を命じる）
・ 特別な理由なく 30 分以上中座した場合は欠席と見なす
・ 出席カードの取り扱いは厳密にする

評価方法

・ 授業内に提示する課題（約 30%）と、学期末に提出する授業報告（レポート）（約 70%）により評価する。
・ 詳細については、第 1 回の授業で説明する。

テキスト

なし

参考文献

【全般的な参考文献】中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会，2008 年

授業計画

1. イントロダクション、社会の中で科学を考える
2. 先端の科学技術を巡って―人工知能を例に
3. 「からだに良い食べもの」はあるか
4. 寄生虫と社会
5. 科学・技術・産業と知的財産
6. 信仰と学問
7. ICT 政策と社会―5G 通信の事例から考える
8. 出版と科学技術
9. スポーツと社会―ヒトの体が動くしくみ
10. 企業における研究開発における消費者の役割
11. 医療における市民の役割について
12. 緩和医療とは何か
13. 科学技術政策と社会
14. 遺伝子検査をめぐる意識と社会的諸課題

（登壇者の都合により、テーマや回数が変更することがある）

（秋）	全学総合講座（メディアと私たち）	担当者	川村　肇

講義目的

メディアは急速な発展を遂げる一方、メディアに対する政治的な圧力が強まっていることが伝えられています。

そうした中で、私たちはメディアとどう向き合えばいいのでしょうか。また、ソーシャルメディアの発達によって、情報を発信する側にもいる私たちは、どのようにそれを用いていけばいいのでしょうか。

本講義では、メディアと関わりの深いゲスト・ティーチャーにメディアの現場と仕事の実情について語ってもらい、メディアに関する考えを深めていくことを目的とします。

講義概要

テレビ、新聞などのメディアで働くゲストを招いて、それぞれ右のようなテーマでお話し戴きます。メディアとそれを取り巻く環境を考えることを通じて、「公正な報道」とは何か、匿名報道をどう考えるか、権力のメディア介入問題など、社会で問題になっていることについて、自分なりの意見を形作っていけるような講義にしたいと考えています。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

講師が紹介する文献や資料を自主的に集めて読み進めてください。

受講生への要望

質問を歓迎します。

評価方法

最終レポート（100%）によります。

テキスト

なし

参考文献

授業中に紹介します。

授業計画

1. ガイダンス
2. 新聞論説委員（本学非常勤講師／東京新聞・半田滋）
   「自衛隊とは何か・私たちとの関わりは」
3. 元テレビディレクター（元 NHK・永田浩三）
   「テレビメディアと政治権力」
4. テレビアナウンサー（日テレ・井田由美）
   「女性アナウンサーの仕事の変遷」
5. 元テレビディレクター（元日テレ・窪岡文男）
   「ドキュメンタリー「日本の空は今も占領下？」
6. テレビディレクター（日テレ・清水潔）
   「戦争と報道　南京大虐殺ドキュメンタリー番組」
7. 新聞記者（朝日新聞・河原理子）
   「犯罪被害者と取材・報道」
8. 新聞記者（東京新聞・片山夏子）
   「伝えるということ」
9. 映像クリエーター（笠原衛）
   「時代を見る目　自分の目の再構築」
10. 雑誌記者（アエラ・渡辺豪）
    「沖縄の基地問題を本土から考える」
11. 映画監督（綿井健陽）
    「戦争とメディア　戦地をどのように報じるか」
12. 憲法学者（本学名誉教授・右崎正博）
    「メディアと表現の自由」
13. テレビディレクター（MBS・斉加尚代）
    「ネットメディアを支配しようとする人たち」
14. 講義のまとめ

＊講義の順序は変更になることがあります。

（秋）	全学総合講座（企業の社会的責任と企業活動）	担当者	高橋　均

講義目的

1．学修を通じた獲得目標
（1）企業の社会的責任の意義の理解
・企業が社会的責任を果たす意義は何か、具体的な企業活動の状況を通じて、理解を深めること
（2）企業活動の実態認識
・企業風土や企業活動の方針等は、業種・業態によって様々であることを認識すること
2．質疑応答を通じたインプットとアウトプット
（1）講演内容に課題意識を持って聞く能力向上
・各回の講演内容について、課題意識を持って、集中して聴講する習慣を身に付けること
（2）疑問に感じたことを表現する能力向上
・講演内容について質問や確認事項があった場合に、適切に発言できること

講義概要

1．現役の役員・上級管理職による講演
・マスコミ、金融、総合商社、製造業、人材派遣業、弁護士事務所、監査法人等に勤務中、若しくは関係していた現役の役員、上級管理職、弁護士、公認会計士により、企業の社会的責任を念頭に、実務体験（苦労したこと、やりがいを感じたこと等）も交えて講演をして頂きます。
・若手企業担当者による企業説明会とは異なった視点の講演を通じて、将来の職業選択や業界選択の一助になると考えます。

2．質疑
・有益な機会ですので、約 70 分強の講演の後、講演者と質疑の時間を取ります。積極的な学生諸君の参加を期待しています。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

講演者の業界や企業について、事前にインターネットや業界紹介の書籍等でおおよその認識をしたり、事後に興味が湧いた場合に、より深く研究すると有益です。

受講生への要望

獨協大学の学生として相応しい態度で授業に参加すること。遅刻・早退は厳禁とします。

評価方法

① 毎回出席をとります（外部講演者の講演中、９回以上の出席が単位認定の条件）
② 期末レポートの提出　100%
③ 講演者に、教室で直接質問した学生は加点する。

テキスト

講演者の方から、必要に応じてプリントの配付や参考文献の紹介があります。

参考文献

企業法学会編『企業責任と法～企業の社会的責任と法の役割・在り方』文眞堂（2015 年）

授業計画

第１回　イントロダクション
・授業の進め方、注意点、評価の仕方等
第２回　テレビはまだ面白い
・その裏側と本当の魅力
第３回　ブラック企業とは
・企業での働き方と労働者の権利を正しく知ろう
第４回　弁護士からみた企業の不祥事対応
・信頼のＶ字回復のための意識と行動
第５回　総合重機メーカーにおける多様な事業
・ロケットから環境ビジネスまで
第６回　住宅ローン保証事業と地域社会の発展
・お客様の夢の実現のための最高の商品とサービス提供
第７回　総合商社における企業法務の役割
・企業法務によるリスクマネジメント
第８回　生活協同組合のＤＮＡと社会的役割
・地域社会への具体的な貢献
第９回　海外大型プロジェクトのリスクと国際エンジニアリング会社の挑戦
・発展途上国の産業の近代化とインフラ整備のために
第 10 回　日本企業のグローバル化
・仕事経験から見えてきたこと
第 11 回　公認会計士の職業とその魅力
・公認会計士の仕事と企業とのかかわり
第 12 回　自動車産業における地球環境への取り組み
・環境にやさしい車づくり
第 13 回　遺伝子組替作物の製造物企業の法的問題
・技術の進歩にともなうリスク
第 14 回　企業の社会的責任の意義（まとめ）
・企業の社会的責任を果たすことの意義について考える

注．下記は、あくまで予定であり、講演者が直近の内容を織り込む等の理由で、変更もあり得ます。最終的には、第１回のイントロダクションの際に紹介します。

（秋）	全学総合講座（グローバル化と世界の労働）	担当者	大重　光太郎

講義目的

経済のグローバル化とともに世界における労働のあり方が大きく変化している。先進国においては、「第四次産業革命」、規制緩和、労働力不足が就労を取り巻く環境を大きく変化させ、雇用の流動化と不安定化が進んでいる。途上国においては市場経済の広がりの一方で劣悪な労働条件が広がりつつある。さらには先進国への労働力移動の大きなうねりが見られる。労働の変容をグローバルな視点で理解することを通じて、聴講者が日本の状況を複眼的・国際的観点から認識できるようになることを授業の目標とする。

講義概要

本授業では、グローバル化のなかでの労働のあり方を、さしあたり先進国、途上国、その二つを架橋する労働力国際移動という三つの領域に分け、それぞれの領域の現状や問題、それに対する多様なアクター（政府、企業、労働組合、NGO、国際機関など）の取り組みを見ていきたい。授業は各回、それぞれの分野について外部講師を招いて行うことを予定している。

到達目標

身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探求できるようにする。

事前・事後学修の内容

授業内容をもとに、自分で関連テーマについてさらに調べて考えることを期待する。

受講生への要望

労働をめぐって日常的に情報にアンテナを張ってほしい。ゲストへの積極的に質問してほしい。

評価方法

毎回の授業レポート 60%、期末小テスト 40%で評価する。第一回目のイントロダクションには必ず出席して、詳細を確認すること。

テキスト

使用せず

参考文献

特になし

授業計画

１．イントロダクション
２．先進諸国の労働（１）アメリカ
３．先進諸国の労働（２）ドイツ
４．先進諸国の労働（３）フランス
５．先進諸国の労働（４）イギリス
６．アジアにおける労働（１）中国
７．アジアにおける労働（２）フィリピン
８．アジアにおける労働（３）南アジア
９．国際労働力移動（１）ヨーロッパ
１０．国際労働力移動（２）アジア
１１．国際労働力移動（３）アメリカ
１２．労働のグローバル規制（１）ILO
１３．労働のグローバル規制（２）労働組合
１４．まとめ

＊上記の案は、外部講師の都合により変更することがあります。最終的には初回の授業で連絡します。

	ことばと思想１（フランス・ドイツ哲学入門１）	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、近代的な思考法が誕生する15世紀から19世紀のフランス・ドイツの哲学者らに焦点を当て、宗教的世界から人間理性が目覚める過程を追うことにある。別の言葉で言えばそれは、当たり前だと思われてきた世界を人々が疑い、自分の言葉で考え直し、新たな社会を作り出していく過程である。 偉大な哲学者の人生と思想を学ぶことは、一人だけで考えていたのでは思いもよらない世界へと私たちを導いてくれる。また、哲学史という大きな流れを知ることは、私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を知るために重要である。多様な考えの共存する国際社会で活躍するために必要な批判力と表現力をこの授業で身につけてほしい。	１．　イントロダクション：本講義の見取り図 ２．　近代的精神の登場：クザーヌス ３．　モラリストの人間観察１：モンテーニュ ４．　モラリストの人間観察２：パスカル ５．　理性への信頼１：デカルト ６．　理性への信頼２：ライプニッツ ７．　啓蒙思想１：ヴォルテール ８．　啓蒙思想２：ルソー ９．　ドイツ観念論１：カント『純粋理性批判』 １０．ドイツ観念論２：カント『実践理性批判』 １１．ドイツ観念論３：フィヒテ １２．ドイツ観念論４：シェリング １３．ドイツ観念論５：ヘーゲル １４．社会主義の思想：マルクス

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Porta で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト	授業中に適宜指示する。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業内小課題 50%、期末レポート 50%

	ことばと思想１（フランス・ドイツ哲学入門２）	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、19世紀から20世紀のフランス・ドイツの哲学者らに焦点を当て、実存主義・現象学・構造主義といった思想の誕生と発展を追うことにある。これらの思想は、近代社会が基盤としてきた人間の理性・主体性といったものの不確実性を暴き出し、その上で改めて私たちが望みうる人生や社会の構築を考えてきた。 偉大な哲学者の人生と思想を学ぶことは、一人だけで考えていたのでは思いもよらない世界へと私たちを導いてくれる。また、哲学史という大きな流れを知ることは、私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を知るために重要である。多様な考えの共存する国際社会で活躍するために必要な批判力と表現力をこの授業で身につけてほしい。	１．　イントロダクション：本講義の見取り図 ２．　実存主義の先駆者：ニーチェ ３．　生の哲学：ベルクソン ４．　現象学１：フッサール ５．　現象学２：ハイデガー ６．　現象学３：レヴィナス ７．　現象学４：メルロ＝ポンティ ８．　実存主義：サルトル、ボーヴォワール ９．　フランクフルト学派１：アドルノ １０．フランクフルト学派２：ハーバーマス １１．構造主義：レヴィ＝ストロース １２．ポスト構造主義１：フーコー １３．ポスト構造主義２：ドゥルーズ １４．ポスト構造主義３：デリダ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Porta で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト	授業中に適宜指示する。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業内小課題 50%、期末レポート 50%

	ことばと思想１（社会思想史１）（東洋古代から近世まで）	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、東洋という大きな文化圏の古代からの思想史を学ぶことによって、現代の日本における私たちの考え方や社会の特性への理解を高めることである。具体的に今学期は、日本にも大きな影響を及ぼした仏教と儒教が、それぞれインドと中国でどのように誕生しその後発展していったかを中心的に扱う。 私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を自覚することは、国際社会において活躍する際に強みとなる。各文化の芸術作品が美というものを多様な形で表しているように、多様性があるからこそ互いを補い世界を豊かなものにできるという意識をこの講義を通して養ってほしい。	1.　イントロダクション：本講義の見取り図 2.　（インド）古代インドの思想 3.　（インド）原始仏教１：釈迦 4.　（インド）原始仏教２：五蘊・縁起 5.　（インド）大乗仏教１：大乗経典 6.　（インド）大乗仏教２：中観派・唯識派 7.　（チベット）チベット仏教 8.　（中国）諸子百家の登場 9.　（中国）孔子・儒教 10.　（中国）孟子・荀子 11.　（中国）朱子・王陽明 12.　（中国）墨子 13.　（中国）老子 14.　（中国）荘子

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Porta で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト	授業中に適宜指示する。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業内小課題 50%、期末レポート 50%

	ことばと思想１（社会思想史２）（東洋近世から現代まで）	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、東洋という大きな文化圏の古代からの思想史を学ぶことによって、現代の日本における私たちの考え方や社会の特性への理解を高めることである。具体的に今学期は、インドと中国で誕生した仏教・儒教等がどのように日本に影響を与えてきたか、古代から現代までの日本思想史を通して見ていく。 私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を自覚することは、国際社会において活躍する際に強みとなる。各文化の芸術作品が美というものを多様な形で表しているように、多様性があるからこそ互いを補い世界を豊かなものにできるという意識をこの講義を通して養ってほしい。	1.　イントロダクション：本講義の見取り図 2.　古代日本の宗教観・人間観 3.　仏教の受容、平安時代の仏教 4.　鎌倉時代の仏教 5.　江戸時代の儒教 6.　江戸時代の民衆の思想 7.　国学・神道・洋学・幕末の思想 8.　啓蒙思想、キリスト教、国粋主義 9.　人間解放の思想 10.　近代的自我：ロマン主義・理想主義の文学 11.　京都学派１：西田幾多郎 12.　京都学派２：和辻哲郎 13.　民衆の伝承と自然環境の保存 14.　戦後の日本の思想

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Porta で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト	授業中に適宜指示する。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業内小課題 50%、期末レポート 50%

(春) 13～18 年度 12 年度以前	ことばと思想１（言語学概論） ことばと思想１（言語学 a）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の基礎的および応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、言語資料分析については他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域における言語研究にも言及する。	第1回：話し言葉と書き言葉　～言葉は約束事：言語学の研究対象、記号論，ローマ字表記…英文法の基礎となる言語産出モードの質的差異について学ぶ。 第2回：動物の言語と人間の言語　～チンパンジーも言葉が話せる？：動物のコミュニケーション…英文法理解及び産出の基礎となる人間言語の特性を二重分節などのキーワードを用いて学ぶ。 第3回：言語と脳　～失われた言葉を取り戻す：心理言語学と大脳生理学…英文法及び英語音声の産出能力に関わる失語症を中心とした研究に言及する。 第4回：子供の言葉の発達　～どのようにして言語を習得するか？：第 1 言語の発達過程…英文法及び英語音声の獲得を中心的な例とする第2言語習得の理論の背景を学ぶ。 第5回：外国語の上達　～どのようにしたらうまく話せるようになるか？：第 2 言語の習得理論…英文法及び英語音声の獲得を中心的な例として学ぶ。 第6回：音と音声（1）～カテゴリーができるまで：調音音声学と音韻論…英語音声を中心的な例として学ぶ。 第7回：音と音声（2）～音声はどのように聞こえるか？：音響音声学と聴覚音声学…英語音声を中心的な例として学ぶ。 第8回：統語論　～「正しい」言葉の記述　vs　言葉の「正しい」記述：構造主義文法，生成文法、その他の文法…英文法を中心的な例として学ぶ。 第9回：形と意味　～発話に意味を込める：形態論、意味論、語用論…広義の英文法を中心的な例として学ぶ。 第10回：会話の原則　～言葉の適切な使い方：談話分析…広義の英文法を中心的な例として学ぶ。 第11回：言語と社会　～言葉の多様性と普遍性：社会言語学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ。 第12回：世界の言語とその系統　～言語の系統と分類：歴史言語学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ。 第13回：言語の進化　～言語と人類の発達：言語考古学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ。 第14回：まとめ…英文法・英語音声・英語の歴史的発達などを含む言語学全般に関連する基礎知識を総括する。

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。
テキスト	現代言語学 20 章（G. ユール著、今井邦彦・中島平三訳、大修館）
参考文献	The Cambridge Encyclopedia of Language (David Crysta 著、 Cambridge University Press) 言語学百科事典（D. クリスタル著、風間喜代三・長谷川欣佑訳、大修館） 言語学が好きになる本（町田健著、研究社出版）
評価方法	定期試験（100％）

	ことばと思想１（言語学 b）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある．メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり，文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである．この授業では言語の基本的な構造を取り上げ，理論的枠組みを理解すると共に，ハンズオン的学習を通して言語資料の分析練習を行う．対象言語は英語を初め各国語にわたる．教材の事前予習を前提とする．但し英語以外の言語の予備知識は必要ない． 参考文献　David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of Language（Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7） D. クリスタル／風間・長谷川訳 『言語学百科事典』（大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2） 町田健 『言語学が好きになる本』（研究社出版, 1999; ISBN:4-327-37674-4）	1. 形態論（1）　形態素の同定（ハンガリー語，スペイン語） 2. 形態論（2）　形態素の同定（現代ヘブライ語，マレー・インドネシア語，ペルシア語） 3. 形態論（3）　形態素の同定（ラテン語，ラコタ語） 4. 音声学・音韻論（1）　発音記号，音素・異音（英語） 5. 音声学・音韻論（2）　音韻の同定（ウィチタ語，古典ヘブライ語，ラコタ語） 6. 音声学・音韻論（3）　音素の同定（スペイン語，ヒンディー語，日本語） 7. 音声学・音韻論（4）　超分節音素の同定（中国語，アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語） 8. 音声学・音韻論（5）　音韻現象，生成音韻論（トルコ語，英語） 9. 統語論（1）　直接構成素分析，句構造規則（英語） 10. 統語論（2）　句構造規則（英語，イタリア語・ギリシア語） 11. 統語論（3）　構造形成，語順，格（英語，中国語，ドイツ語，クリンゴン語） 12. 意味論　上位概念・下位概念，同意語・反意語（英語，日本語，ペルシア語） 13. 語用論　新旧情報，言語行為，話題化（英語，中国語） 14. 書記法（英語，イタリア語，ギリシア語，ヘブライ語） 教科書　Paul R. Frommer & Edward Finegan, *Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 5th ed.* (Heinle, 2011; ISBN: 978-0495912316)

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする
テキスト	授業計画　の下段のところに記載
参考文献	講義目的・概要の下段のところに記載
評価方法	定期試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

（秋） 18 年度以前	ことばと思想１（英語学 a）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。上記各テーマについて基本的概念を解説し、実際の英語理解の支援を行う．テーマによっては視聴覚資料を補助的に用いる。	第１回：英語の文法理論（6 章） 第２回：音声学（1）：調音音声学（7 章） 第３回：音声学（2）：音響音声学・聴覚音声学（7 章） 第４回：音韻論（1）：分節音韻論（8 章） 第５回：音韻論（2）：超分節音韻論（8 章） 第６回：形態論・語形成（9 章）…語彙及び構成単位の文法規則 第７回：統語論（1）：構造主義の統語分析（10 章） 第８回：統語論（2）：生成文法の統語分析（10 章） 第９回：意味論・語用論（11 章）…意味及び語法の文法規則 第１０回：談話分析…談話の文法規則 第１１回：英語史（1）：古英語・中英語（4 章） 第１２回：英語史（2）：近代英語（5 章） 第１３回：英語史（3）：現代英語（5 章）・英語の多様性（12 章） 第１４回：英語の対照言語学的研究（15 章）…特に日英及び英欧の音韻・文法比較

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。
テキスト	英語学パースペクティブ（龍城正明編、南雲堂）
参考文献	The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed.　（David Crystal 著、Cambridge University Press）　他
評価方法	定期試験（８０％）、授業中の課題（２０％）

	ことばと思想１（英語学 b）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
前半は英語の歴史の概観を通して，英語世界がいかに成立し，どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ．視聴覚資料を補助的に用い，学習を支援する．また，英語史に関連する地誌的資料を随時紹介する． 後半は英語を特徴づけ，他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ，現代社会における英語の位置づけを学ぶ．	1. 英語の概要：ヨーロッパと世界の言語分布 2. 英語以前（1）：印欧語族の成立 3. 英語以前（2）：ゲルマン語族の成立 4. 英語の夜明け：古英語とその社会 5. 英語の変動期：ヴァイキングおよび政治的変動 6. 英語の夜明け：中世とは？そしてその英語 7. 英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展 8. 英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化 9. 英語の多様性：イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異） 10. 英語の現状：アメリカ英語・第 3 世界の英語・コックニー 11. 英語使用の現状（1）：公用語・第 2 言語・英語学習・辞書 12. 英語使用の現状（2）：社会・文化と英語使用 13. 英語の特徴（語彙・語源・文法）：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング，語順・修飾・統御，（発音と綴り）：大母音推移・発音・文字・正書法，（談話構造）：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 14. 英語の特徴（社会的変異）：社会階層・レジスター・ジャンル

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。
テキスト	随時プリントおよびビデオ教材を使用する。
参考文献	David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed.* (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4)
評価方法	定期試験（60%）＋ 平常授業における課題（40%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	ことばと思想１（日本語教育概説）	担当者	石塚　京子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義概要＞ 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。この講義は日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。なお、日本語教員養成プログラムを履修する学生にとっては、日本語教授法Ｉの内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 ＜講義の目的＞ 1.日本語教育と国語教育の違いを知る 2.日本語教育の歴史と現状を知る 3.さまざまな外国語教授法を概観する 4.日本語を外国語として客観的に捉える 5.外国語としての日本語の指導法を考える 6.教師の役割を考える	1.講義の概要、日本語教育の一例を紹介 2.日本語教育とは何か(1)　日本語教育と国語教育の違い 3.日本語教育とは何か(2)　日本語教育の歴史 4.日本語教育とは何か(3)　日本語教育の現状 5.日本語教育とは何か(4)　コミュニケーション教育 6.日本語のしくみと指導のポイント(1)　誤用例 7.日本語のしくみと指導のポイント(2)　誤用添削 8.外国語教授法の歴史 9.外国語教授法の紹介(1)　オーディオリンガルメソッド 10.外国語教授法の紹介(2)　その他の教授法 11.異文化接触と日本語教育 12.言語教育と言語学習観 13.教師の役割と教室活動 14.講義のまとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	授業中に出される課題について事前に調べておいてください。 配布した資料を授業後にまとめ、次回までにきちんと内容を整理しておいてください。
テキスト	適宜プリントを配布
参考文献	佐々木泰子著『ベーシック日本語教育』（ひつじ書房、2007）＊その他は授業中に適宜紹介
評価方法	定期試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

18年度以前	ことばと思想１（応用言語学）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学の領域の中でも主に第二言語・外国語習得諸理論およびそれらの理論が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。また、４技能の領域においてどのような研究がされ、外国語教育に何を示唆しているか考える。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第１回：概要：応用言語学とは 第２回：習得のメカニズム 第３回：モニターモデル 第４回：インタラクション仮説、アウトプット仮説 第５回：学習者言語：中間言語、習得順序 第６回：言語能力(BICS,CALP,DLS)、認知要求度と場面依存度 第７回：教室での言語習得 第８回：４技能の習得：リーディングと他技能との関係 第９回：４技能の習得：リスニングと他技能との関係 第10回：口頭発表1:インプットと他技能との関係 第11回：４技能の習得：スピーキングと他技能との関係 第12回：４技能の習得：ライティングと他技能との関係 第13回：口頭発表２：アウトプットと他技能との関係 第14回：バイリンガル教育

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、テーマごとに設定される課題をこなすこと。
テキスト	配布資料・論文等有り。
参考文献	Understanding SLA (Ortega)、英語教育学体系第５巻：第二言語習得（佐野他）
評価方法	論文のまとめなど諸課題（30%）、口頭発表（30%）、定期試験（40%）

	ことばと思想１（第二言語習得）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを理解し、諸理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。特に個人要因に焦点をあてる。また、テーマごとに論文を読み、研究方法、問題点、展望などについて議論する。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第１回：概要：環境要因・個人要因 第２回：環境要因、社会的動機づけ理論 第３回：適性、MI 第４回：不安 第５回：動機づけの諸理論（自己決定理論等） 第６回：動機づけと言語習得 第７回：学習ストラテジー、学習ビリーフ、好意度 第８回：意欲、WTC 第９回：グループワーク：言語習得過程モデル 第10回：口頭発表 第11回：年齢：臨界期仮説、早期英語教育 第12回：スピーチ学習モデル、音声認識、早期英語教育 第13回：グループワーク：初中等教育における英語教育 第14回：口頭発表

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、テーマごとに設定される課題をこなすこと。
テキスト	配布資料・論文等有り。
参考文献	英語教育学体系第５巻：第二言語習得（佐野他）
評価方法	論文のまとめ（50%）、グループワーク→口頭発表→まとめレポート（50%）

	ことばと思想１（日本語文法形態論）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 日本語の文法のうち形態論をとりあげる。形態論とは語の内部構造を決定する過程である。講義では，日本語における語及び形態素の認定にはじまり，融合的な活用と派生，および自律的な結合である複合をあつかい，さらに動詞，形容詞，名詞についてそれぞれ特有の諸問題をあつかう。 ［講義概要］ 授業は，反転式に準ずる方法をとる。履修者は，ポータルサイトを通じて与えられる問題への解答を準備する予習をし，授業内においてグループでその問題を議論する。授業後やはりポータルサイトを通じて配布されるテキストを読んで理解を深め，小課題に小レポートを提出するとともに，不明な点への質問を提出する。	1.　形態論概説 2.　単語 3.　品詞 4.　形態素 5.　語構成 6.　複合 7.　活用 8.　語の形態のまとめ 9.　二次語幹 10.　テ形からの拡大 11.　自動詞と他動詞 12.　形容詞の形態 13.　名詞の文法カテゴリ 14.　格助詞相当語

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトで配布される問題への解答を用意し，テキストを読了するとともに，質問を含む小レポートを提出すること。全体で毎回 3～4 時間の学習が予想される。
テキスト	担当者(浅山)によるテキストをポータルサイトを通じて配布する。
参考文献	高橋太郎（2005）『日本語の文法』ひつじ書房
評価方法	試験（40%），授業後小レポート（30%），授業活動の積極性（30%）

	ことばと思想１（日本語文法統語論）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 日本語の文法のうち統語論と談話論をとりあげる。統語論とは語から文をくみたてるときの，語順に関する構造を決定する過程のことであり，談話論は発話された複数の文間の関係によって決定される過程のことである。春学期の文法論Ｉもふくめて，日本語教育により適合する意味論的な文法を中心とする。 ［講義概要］ 授業は，反転式に準ずる方法をとる。履修者は，ポータルサイトを通じて与えられる問題への解答を準備する予習をし，授業内においてグループでその問題を議論する。授業後やはりポータルサイトを通じて配布されるテキストを読んで理解を深め，小課題に小レポートを提出するとともに，不明な点への質問を提出する。	1.　統語論・談話論概説 2.　単文の構造 3.　命題のパターン 4.　付加詞と修飾 5.　VAT 6.　モダリティ 7.　否定と疑問 8.　統語論のまとめ 9.　複文～従属節 10.　複文～連体節と補足節 11.　指示 12.　主題 13.　動詞の範疇と談話 14.　談話の構造

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトで配布される問題への解答を用意し，テキストを読了するとともに，質問を含む小レポートを提出すること。全体で毎回 3～4 時間の学習が予想される。
テキスト	担当者(浅山)によるテキストをポータルサイトを通じて配布する。
参考文献	Th.R.Hofmann (1986)『10 日間意味旅行』くろしお出版
評価方法	試験（40%），授業後小レポート（30%），授業活動の積極性（30%）

	ことばと思想１（社会心理学 a）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a、bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは、個人の心の働きに主に焦点を当てる。	1. イントロダクション　:「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知（1）：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知（2）：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論（1）：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論（2）：差別は集団からうまれる 7. 自己（1）：自分はどんな人間か 8. 自己（2）：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響（1）：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響（2）：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響（3）:「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響（4）：そして集団全体が動き出す 14. 社会的影響（5）：人間の力

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）他
評価方法	中間レポート 30%，授業内テスト 70%で評価する。なお，第１回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

	ことばと思想１（社会心理学 b）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a、bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション（1）：言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション（2）：コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション（3）：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク（1）：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク（2）：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク（3）：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情（1）：互恵性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情（2）：表情と感情 11. 社会的感情（3）：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学（1）：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学（2）：感染予防ための挑戦 14. 社会心理学の未来

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）他
評価方法	中間レポート 30%，授業内テスト 70%で評価する。なお，第１回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

	ことばと思想１（環境と生命の倫理 1）	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、「環境倫理学」という新しい学問領域の意義とこれまでの展開を学びながら、これからの「都市」のあるべき姿を考えるための枠組みを手に入れることである。 倫理学とは一般に、人間の行動の規範を問う学問である。それが従来扱ってきたのは人間と人間との関係であるが、地球環境問題が鮮明化する近年、人間と環境との関係についても根本から考え直すことが必要だという意識が高まっている。その中で、現在世界人口の半数以上が住むとされる「都市」のあり方を問うことは、私達の生活とも直接にかかわる課題として有効であると考えられる。 技術・産業・政治が一層複雑になる中、人間はどのように生きるべきかを一人一人が考えていくことが求められる。受講者の人数に応じて発表等の機会を設ける。	1.　イントロダクション：本講義の見取り図 2.　環境倫理学の論点 3.　環境プラグマティズム 4.　日本における環境倫理学の導入 5.　日本における環境倫理学の展開 6.　場所論 7.　風土論 8.　都市の環境倫理の問題 9.　都市の環境倫理の担い手 10.　都市と地球の持続可能性 11.　都市における自然 12.　都市のアメニティ 13.　美の条例 14.　ローカルとグローバル

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	PorTa で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト	吉永明弘『都市の環境倫理：持続可能性、都市における自然、アメニティ』勁草書房，2014 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業内小課題 60%、期末レポート 40%

	ことばと思想１（環境と生命の倫理 2）	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、医療倫理とも呼ばれる「生命倫理学」という新しい学問領域の意義とこれまでの展開を学びながら、出生前診断や緩和ケアなど人間の誕生から死までにかかわる技術について判断するための枠組みを手に入れることである。 倫理学とは一般に、人間の行動の規範を問う学問である。だが今日新たな医療技術が登場するに伴い、「人間」とは何か、「生命」とは何かという根本的な次元から、技術の使用の是非を考える必要性が生まれている。自分や家族の「生」のあり方について個々人の判断が求められる場面が現実のものとなったのである。 技術・産業・政治が一層複雑になる中、人間はどのように生きるべきかを一人一人が考えていくことが求められる。受講者の人数に応じて発表等の機会を設ける。	1.　イントロダクション：本講義の見取り図 2.　生命倫理学の成り立ち 3.　健康／病気とは 4.　生殖技術 5.　移植医療 6.　科学的医学 7.　人工妊娠中絶 8.　安楽死 9.　人間とは 10.　緩和ケア 11.　遺伝子技術 12.　インフォームド・コンセント 13.　今後の医療 14.　まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	PorTa で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト	今井道夫『生命倫理学入門』第 4 版，産業図書，2017 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業内小課題 60%、期末レポート 40%

	ことばと思想１（倫理学概説Ⅰ）	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は倫理論理の諸説を考察し、倫理学の基礎を探求する。功利主義、義務論、徳倫理学、私的と公的、正義と平等、共生倫理学を取り上げ、実生活の諸問題に向けて分析する。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、発表を通して議論する。	1.　イントロダクション 2.　倫理学の定義と方法論 3.　功利主義Ⅰ：快楽と苦痛 4.　功利主義Ⅱ：J.S. ミル 5.　義務論Ⅰ：義理と義務 6.　義務論Ⅱ：カント 7.　徳倫理学Ⅰ：古代ギリシャからマッキンタイアまで 8.　徳倫理学Ⅱ：マッキンタイア以降 9.　私的と公的Ⅰ：滅私奉公から滅公奉私へ 10.　私的と公的Ⅱ：活私開公から公共哲学へ 11.　正義と平等Ⅰ：古代ギリシャからロールズまで 12.　正義と平等Ⅱ：ロールズ以降 13.　共生倫理学Ⅰ：エゴイズムから共生へ 14.　共生倫理学Ⅱ：シンバイーシスとコンヴィヴィアリティ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

	ことばと思想１（倫理学概説Ⅱ）	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
応用倫理学の諸論理を概説し、現代社会の問題に沿って検討する。科学技術、環境、医療、情報、そしてビジネス倫理学を取り上げ、実社会の諸問題にどう向き合うかと考えていく。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、発表を通して議論する。	1.　イントロダクション 2.　応用倫理学の定義：論理と応用 3.　応用倫理学の方法論：観念と事例 4.　科学技術倫理学Ⅰ：定義と起源 5.　科学技術倫理学Ⅱ：安全と安心 6.　環境倫理学Ⅰ：定義と方法 7.　環境倫理学Ⅱ：自由と義務 8.　医療倫理学Ⅰ：定義と原則 9.　医療倫理学Ⅱ：自律と他律 10.　情報倫理学Ⅰ：定義と課題 11.　情報倫理学Ⅱ：私益と公益 12.　ビジネス倫理学Ⅰ：定義と背景 13.　ビジネス倫理学Ⅱ：商業と道徳 14.　ビジネス倫理学Ⅲ：企業と責任

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

	ことばと思想１（哲学概説Ⅰ）	担当者	河口　伸

講義目的、講義概要	授業計画
昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。 西欧思想を歴史的にもしくは主題別に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。 西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。 個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らがその思想を形成した動機や課題、歴史的位置付けなどを重視して論じる。 春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。	1. 哲学とは何か　哲学の誕生（アルケーへの問） 2. ソクラテス以前　ミレトス学派とエレア学派 3. ソクラテス以前　多元論とソフィスト 4. ソクラテス 5. プラトン　イデア論 6. プラトン　理想国とイデア論 7. アリストテレス　実体論（ヒュレーとエイドス） 8. アリストテレス　目的論的世界観 9. スコラ哲学　プラトンとアリストテレスの影響 10. スコラ哲学　知と信 11. 科学革命　パラダイムの転換 12. 科学革命　ガリレオとニュートンの意義 13. 合理論　コギト・エルゴ・スム 14. 合理論　デカルトの実体論

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出されるレポートを次回に提出して下さい。
テキスト	プリント資料配布
参考文献	文献は随時紹介する。
評価方法	試験 70%、レポート 30% （出席は２／３以上必要）

	ことばと思想１（哲学概説Ⅱ）	担当者	河口　伸

講義目的、講義概要	授業計画
（春学期に同じ） 秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。	1. 経験論　ロックの認識論 2. 経験論　バークリーとヒューム（実体概念の否定） 3. 社会契約説 4. カント　理性批判とコペルニクス的転回 5. カント　自律と人格の共同体 6. ドイツ観念論　フィヒテによるカント批判 7. ドイツ観念論　世界精神の自己展開としての歴史 8. キルケゴール・マルクス・ニーチェ 実存と世界の変革 9. キルケゴール・マルクス・ニーチェ 超人思想 10. フッサール・ハイデッガー・ヤスパース　現象学 11. フッサール・ハイデッガー・ヤスパース 世界内存在と実存哲学 12. ウィトゲンシュタイン 13. 構造主義 14. 言語哲学

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出されるレポートを次回に提出して下さい。
テキスト	プリント資料配布
参考文献	文献は随時紹介する。
評価方法	試験 70%、レポート 30% （出席は２／３以上必要）

	ことばと思想１（宗教学概説Ⅰ）	担当者	河口　伸

講義目的、講義概要	授業計画
戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じている。 そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。 更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。 春学期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。 春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。	1. 宗教とは何か　宗教学の誕生と宗教観 2. 神話と宗教 3. ユダヤ教（1）　民族の歴史 4. ユダヤ教（2）　契約と律法 5. キリスト教（1）　イエスの生涯と福音書 6. キリスト教（2）　初期キリスト教の多様性 7. キリスト教（3）　ローマ帝国から中世ヨーロッパ 8. キリスト教（4）　近現代のキリスト教 9. イスラム教（1）　ムハンマドの生涯 10. イスラム教（2）　コーランとハディース 11. イスラム教（3）　スンニ派とシーア派 12. イスラム教（4）　現代のイスラム教 13. ヒンドゥ教（1）　アーリヤ人とヴェーダの宗教 14. ヒンドゥ教（2）　バラモン教とウパニシャッド哲学

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出されるレポートを次回に提出して下さい。
テキスト	『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 ちくま文庫
参考文献	文献は随時紹介する。
評価方法	試験 70%、レポート 30% （出席は２／３以上必要）

	ことばと思想１（宗教学概説Ⅱ）	担当者	河口　伸

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的は春学期に同じ。春学期の続きの後に秋学期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。 秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。	1. 仏教（1）　釈迦の生涯 2. 仏教（2）　初期仏教の教え 3. 仏教（3）　分裂と多様な仏教 4. 仏教（4）　大乗仏教と日本 5. 儒教（1）　中国古来の民間信仰と「儒」 6. 儒教（2）　その宗教性 7. 道教（1）　中国史と道教の成立 8. 道教（2）　現代中国と道教 9. 日本の宗教の歴史と現在（1）儒仏道の伝来と神道以前 10. 日本の宗教の歴史と現在（2）神仏習合と修験道 11. 日本の宗教の歴史と現在（3） 神仏分離、国家神道、政教分離 12. 宗教団体の諸問題（1）伝統的教団と新宗教 13. 宗教団体の諸問題（2）カルト教団 14. 学校教育と宗教

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出されるレポートを次回に提出して下さい。
テキスト	『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 ちくま文庫
参考文献	文献は随時紹介する。
評価方法	試験 70%、レポート 30% （出席は２／３以上必要）

	ことばと思想１（ことばと思考）	担当者	髙橋　輝曉

講義目的、講義概要	授業計画
私たちがものごとを考えるとき、たしかに言葉を用いている。朝、目を覚まして「もう起きなくては！」と思うときも、ことばでそう思っている。手にとげが刺さって「痛い！」と感じるときも、感覚器官で感じられるのは、激しい違和感のみで、「痛い」ということばがなければ、それが痛さだとは認識できないだろう。庭の木を見て「木」だと認識するのも、ことばによる。私たちは、ことばによって内面の世界や外の世界を捉えているのかもしれない。その世界を構成しているのは、物質ではなく、ことばなのだろうか？　私たちが感覚器官を通じて世界を知覚するという常識的理解は間違っているのか？　私たちの常識的な世界認識を確立したのは、西洋近代の科学的世界観だ。この世界観を、「ことばと思考」の観点から、批判的に検討してみよう。なお、毎回の授業終了時に、当該の講義内容を要約した授業記録を提出してもらう。	01. はじめに 02. 私たちの常識的世界観 03.「言霊（ことだま）の幸（さき）はふ国」―『万葉集』の世界 04.「初めに言（ことば）があった」―『聖書』における天地創造 05.「我思う、ゆえに我あり」―デカルトの近代的世界観 06.「神即自然（かみそくしぜん）」―スピノザの汎神論的世界観 07.「モナドは世界を映す鏡」―ライプニッツの意識論 08. 心の「白板」に書き込まれる経験―イギリス経験論 09.「ものそれ自体は認識できない」―カントの構成主義 10. 科学的世界像の数学的構造と因果関係 11. ことばが構成する外の世界―宇宙の言語的構造 12. ことばが構成する内面の世界―魂の言語的構造 13. 私たちの思考と人工知能―魂は永遠不滅か？ 14. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	【事前学習】前回の授業で配布のプリントを予め再読しておく。 【事後学習】当該授業の内容を整理してノートに記録する。
テキスト	プリント
参考文献	ヨースタイン・ゴルデル（池田香代子訳）『ソフィーの世界』（NHK 出版）1995 ほか〔プリント参照〕
評価方法	毎回の授業終了時に提出する授業記録による平常点評価（100%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（ラテンアメリカ研究入門）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、ラテンアメリカ（カリブ海地域も含める）を対象とした地域研究入門 の授業である。日々の新聞記事、ニュースなどに現れるラテンアメリカに関する諸情報を理解するための基礎知識を修得したうえで、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深め、さらに自ら調べる力を養成することを目的としている。 スペイン語を履修しているか、履修するつもりの人の受講を特に歓迎する。ただし、スペイン語の知識は必須ではない。ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について、歴史的背景を中心に深く知る場としたい。 授業は講義形式ですが、授業の冒頭で、授業テーマと関連する音楽や絵画、映像などを示し、ラテンアメリカの多様な文化に接する場にしたい。	1　導入①　対象地域「ラテンアメリカ」とはなにか？ 2　導入②　「ラテンアメリカ」イメージ 3　食文化①　多様性：地理・気候と植物・動物 4　食文化②　事例研究：世界遺産メキシコ食文化 人種・民族構成の特徴と歴史（５から８まで） 5　①　概要＋コロンブスの到着とカリブ海地域における先住民、アフリカ系 6　②　「インディオ」と「メスティーソ」の誕生 7　③　アジア系とレバノン系（日系移民を中心に） 8　④　「未完成」の征服事業　アマゾン 9　文化と社会①：宗教と祭り、家族、女性、子供 10　文化と社会②：文学、造形美術、音楽 11　19-20 世紀のラテンアメリカ 独立、「ラテンアメリカ」の誕生、キューバ革命まで 12　現代ラテンアメリカの政治と経済 13　米国ラティーノ：新しい民族集団の形成 14　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業までにすべき課題を示します。
テキスト	授業で配布、指示します。
参考文献	清水透『ラテンアメリカ五〇〇年：歴史のトルソー』岩波現代文庫 2017 年など
評価方法	数回の小テスト 50%　期末レポート 50%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（恐怖の日本文学）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
人間の感情で最も大きなものは、恐怖と快感である。本講義では、その恐怖の観念にスポットを当て、日本の伝統の中に恐怖がどのように描かれ、また現代人にとっての恐怖とは何かを探る。現代日本文学におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるかを考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮までブックレビュー的に幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わう。 春学期は、「恐怖」にスポットを当て、恐怖を扱った作品から日本人の恐怖の構造理解まで進む。	1. 恐怖の現代文学のアウトライン 2. 伝統的手法による恐怖の造形①、荒俣宏「帝都物語」 3. 伝統的手法による恐怖の造形②、京極夏彦「魍魎の匣」 4. ③坂東眞砂子「死国」 5. 超自然的事象からの造形、「二重螺旋の悪魔」 6. 鈴木光司「リング」 7. 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 8. 心理学的な題材からの造形①サイコパス 9. ②、貴志祐介「黒い家」 10. ③、桐野夏生「OUT」 11. 社会派ミステリーの造形①、宮部みゆき「模倣犯」 12. ②、東野圭吾「容疑者Ｘの献身」 13. 原作を映像で見る① 14. まとめ（総集編）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前準備として、読書経験の中から恐怖を味わった作品を思い起こし、恐怖がどのような構造によるものかを事後に検証する。
テキスト	その都度紹介する
参考文献	その都度紹介する
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%。

	歴史と文化１（日本文学現代）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
人間の感情で最も大きなものは、恐怖と快感である。本講義では、その快感＝癒やし（やさしさ）の観念にスポットを当て、日本の伝統の中に癒やし（やさしさ）が、現代人にとって何かを探る現代日本文学におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるかを考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮までブックレビュー的に幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わう。 秋学期は、「癒やし」にスポットを当て、やさしさを扱った作品から日本人の恐怖の構造理解まで進む。	1. ガイダンス 2. 人間関係からの癒し①家族関係　重松清「ビタミンＦ」ほか 3. ②友人関係恩田陸「夜のピクニック」佐藤多佳子「一瞬の風になれ」ほか 4. 人間関係からの癒し③恋人関係　村上春樹「ノルウェイの森」 5. 時間からの救い①浅田次郎「地下鉄に乗って」②北村薫「スキップ」 6. 筒井康隆「時をかける少女」 7. 佐藤正午「Ｙ」 8. 笑いの持つ癒やし①奥田英朗「インザプール」 9. ②佐藤多佳子「しゃべれどもしゃべれども」 10. 美しい生き方から見る癒やし①藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 11. ②有川浩「阪急電車」 12. ③天童荒太「悼む人」 13. 原作を映像で見る① 14. まとめ（総集編）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、癒やしの構造を整理して、まとめておく。
テキスト	その都度紹介する
参考文献	その都度紹介する
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%。

	歴史と文化１（日本文学古典）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
奈良時代の文学・及び宮崎駿監督「もののけ姫」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ①神話とは何かを説明できる。 ②世界各地に類似する神話が分布する理由が説明できる。 ③ヤマタノオロチ退治神話について、神話的な意味を説明できる。 ④近代と前近代の「神殺し」の違いについて説明できる。 ⑤近代と前近代の労働観の違いについて説明することができる。 ⑥「もののけ姫」と環境思想との関わりについて説明することができる。	1.　神話とは何か 2.　ペルセウス・アンドロメダ型神話について 3.　日本人遙かな旅 4.　同時発生説・伝播説 5.　エリアーデの神話論 6.　バルトの神話作用 7.　ヤマタノオロチ退治神話の意味 8.　日本神話とももののけ姫 9.　アシタカの神殺し 10.　エボシのタタラ場の近代性 11.　前近代と近代の労働観 12.　エボシの神殺しと近代合理主義 13.　ギルガメシュ叙事詩とももののけ姫 14.　もののけ姫と環境思想

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。
テキスト	なし。プリントを配布する。
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70%　　授業への積極的参加：30%

	歴史と文化１（平安時代の文学を読む）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
奈良・平安時代の文学及び宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ①原質神話の基本的な構成を説明することができる。 ②主人公の特徴として、「越境性」「非対称性」の概念を説明することができる。 ③根の国訪問神話の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ④伊勢物語の主人公「昔男」の二つの罪を、非対称性の観点から説明することができる。 ⑤源氏物語第一部の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ⑥「千と千尋の神隠し」のカオナシの役割について、移行対象の観点から説明することができる。	1.　原質神話とは何か 2.　根の国訪問神話 3.　主人公の特徴 4.　魔女の宅急便と原質神話 5.　在原業平の犯した二つの罪 6.　業平像の変容 7.　源氏物語第一部のあらすじ 8.　須磨・明石の巻と原質神話 9.　桐壺帝と父親との対決 10.　千尋の越境性・非対称性 11.　援助者としてのハク・カオナシ 12.　カオナシと貨幣 13.　カオナシと移行対象 14.　ヒーローとヒロインの飛翔

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る
テキスト	なし。プリントを配布する。
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70%　　授業への積極的参加：30%

	歴史と文化１（日本文化論）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
人生儀礼 人の一生には節目ごとに様々な儀礼がおこなわれます。これを「人生儀礼」とか「通過儀礼」と呼び、属する集団での身分の変化や新しい役割の獲得が行われます。 本講義では、人が生まれて成長する過程で迎えるいくつかの儀礼（生誕、成人、婚姻、葬送など）を取り上げ、これを通史的に学習することで、日本文化における様々な伝統行事の成立や展開、そして人生儀礼の意義について理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―人生儀礼とは― 2　生活習俗―衣― 3　生活習俗―食・原始から奈良時代まで― 4　生活習俗―食・平安時代から江戸時代まで― 5　生活習俗―住― 6　人生儀礼―生誕・子授けから出産まで― 7　人生儀礼―生誕・食い初めから初誕生まで― 8　人生儀礼―成人・成年の条件― 9　人生儀礼―成人・成年式の歴史― 10　人生儀礼―婚姻・妻問婚の歴史― 11　人生儀礼―婚姻・嫁取婚の歴史― 12　人生儀礼―葬送・葬送の歴史― 13　人生儀礼―葬送・霊魂の行方― 14　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布されるプリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	レポート７０％、課題を含めた授業への参加度３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（歴史学１）（中世の仏教と社会）	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
中世には「長者」という富裕な商人がいた。いまの経済学では、かれらのことを「前期的資本」と呼んでいる。かれらは都市と地方辺境を行き来して隔地間の交易に精を出していたが、その活動には人を騙すことなどが普通に含まれ、しばしば強欲な苛斂誅求の徒として民衆から憎まれた。本講座ではこうした人間について、尾張国の知多半島に住んだ「長者」長田忠致の観察を通して考えてみたい。 (1)　平治の乱・源義朝逃走行 (2)　「長者」長田庄司忠致 (3)　「長者」の性格 (4)　始原的商業	①　平清盛と京都合戦（平治の乱） ②　青墓宿の遊女と源家重代の縁類 ③　青墓と野間内海荘を結ぶもの ④　義朝野間内海の忠致をたよる ⑤　忠致親子義共を殺す ⑥　長田忠致はどういう人間か　山椒太夫と類似 ⑦　同情されない死　頼朝からの報復 ⑧　民衆のルサンチマン（怨恨） ⑨　「前期的資本」＝「長者」の性格 ⑩　海上交通に足場を置く ⑪　封建領土とどこが違うか ⑫　生産の要素をもたない「不等価交換」 ⑬　地方社会の高級工芸品　鎧甲冑など ⑭　土地の特産性　甕壺陶器など　中世社会の流通脈管

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業関連事項を図書館で調べる。ノートに整理する。
テキスト	新井孝重『中世社会史の原像（仮題）』（吉川弘文館より５月中旬に発刊されます）
参考文献	新井孝重『楠木正成』（吉川弘文館）
評価方法	試験成績（100%）による。

	歴史と文化１（歴史学２）（中世の「悪党」と民衆）	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
中世は人が生きる基盤の弱い時代であった。そのありさまを具体的に眺め、農耕だけでは生きられぬ人びとの生活を観察する。これまでの研究者は古代以来、土地に暮らす民衆をすべて「農民」とみていたが、それははたして正しいか。土地との関係の仕方や、自立の度合いから、初期の中世には「農民」の概念が成立しえないことを論ずる。 (1)　慢性的な飢餓 (2)　脆弱な生産基盤 (3)　背反する二つの方向 (4)　民衆の結集と分散	①　飢饉は気象災害によるものか ②　停滞する人口 ③　「土地」以前の経済 ④　中世はどこから始まったか ⑤　浮浪的労働者 ⑥　「農民史観」と「非農業民史観」 ⑦　中世の初めから農民はいたか ⑧　底辺民衆は雑業で生きる ⑨　生産の相対的安定化 ⑩　「百姓」の登場 ⑪　ひとは社会的に分化する ⑫　売買される「土地」の得分 ⑬　「土地」所有は深化したか ⑭　直接支配に対峙する十四世紀の民衆

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業関連事項を図書館で調べる。ノートに整理する。
テキスト	新井孝重『中世社会史の原像（仮題）』（吉川弘文館より５月中旬に発刊されます）
参考文献	新井孝重『楠木正成』（吉川弘文館）
評価方法	試験成績（100%）による。

	歷史と文化 1(歴史学 1)(イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 （講義概要） 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。 なお、毎回出席をとる。	1. イスラームにの基本事項について 2. イスラーム教の誕生以前の世界について 3. 預言者ムハンマド（マホメット）の出現と時代背景 4. 最初の 4 人のカリフ（正統カリフ）の時代について 5. ウマイヤ朝の歴史。「アラブ帝国」の意味 6. アッバース朝の歴史。「イスラーム帝国」の意味 7. イスラーム教の聖典コーラン、ハディース 8. アッバース朝下に出現しはじめた軍事政権 9. マムルーク朝について。とくにイクター制について 10. マムルーク朝について。とくに奴隷制度について 11. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係 12. アラビア科学とヨーロッパ 13. 歴史にみられるイスラーム教徒の生活と社会 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき，事後に内容を整理してください。あわせて 4 時間の学修時間となります。
テキスト	とくにさだめない。
参考文献	とくにさだめない。授業で指示する。
評価方法	レポートの評価（70%）と平常点（30%）。レポートの表紙は授業で配布するので注意すること。

	歴史と文化 1 (歴史学 2) (イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 （講義概要） イスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても，理解が深められるよう留意したい。 なお、毎回出席をとる。	1. 「西洋の衝撃」とイスラーム改革運動 2. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界 3. 近代シオニズムと第 1 次中東戦争 4. 第 2 次中東戦争とエジプト 5. 第 3 次中東戦争と中東世界の動揺 6. 第 4 次中東戦争とその後の動き 7. イスラーム世界の激動。その地域的な広がり 8. 東西冷戦終結とその後の中東世界 9. 近・現代のアラブ世界の文化について 10. 20 世紀のジハード論と過激思想 11. 現在のアラブ諸国のかかえる問題 12. 中東世界と欧米，いわゆる「アラブの春」 13. 今日のイスラーム主義の主張と展開 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき，事後に内容を整理してください。あわせて 4 時間の学修時間となります。
テキスト	とくにさだめない。
参考文献	とくにさだめない。授業で指示する。
評価方法	レポートの評価（70%）と平常点（30%）。レポートの表紙は授業で配布するので注意すること。

	歴史と文化１（歴史学１） （アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の前半ではユダヤ人たちがアメリカに渡る以前のヨーロッパでの「負け犬」時代を学ぶ。特にユダヤ人差別の発生メカニズムについて解明する。 後半では「負け犬」だったユダヤ人たちがアメリカで辿った苦難の歴史と、多数派からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきた姿を学ぶ。	1. 中世英国のユダヤ人金融 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る —1290年のイングランド— 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国 5. 17~18世紀英国の外国貿易とユダヤ人 6. 英国人地主貴族社会への同化現象 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ 9. 現代英国のユダヤ人社会 10. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 11. 植民地時代、建国初期における反ユダヤ主義の不在 12. 南北戦争期における反ユダヤ主義の出現 13. 公民権闘争期のユダヤ教会堂爆破 14. 1970年代以後の反ユダヤ主義

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書　1600 円）
参考文献	特になし
評価方法	評価は筆記試験によって決定する（100%）。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。12 択 20 問の Quiz 形式。

	歴史と文化１（歴史学 2） （アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生みだしたメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの人種関係史について学ぶ。	1. ユダヤの経済力はなぜ解明されなかったのか 2. 情報・通信産業のユダヤ人 3. メディア産業のユダヤ人 4. 小売業のユダヤ人 5. 不動産業のユダヤ人 6. 伝統的ユダヤ・ビジネス 7. ウォール街のユダヤ人 8. ユダヤ系投資銀行の興亡 9. ユダヤ人企業家成功の原因とは 10.大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11.自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12.甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13.アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 14.アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（電子書籍版　ダイヤモンド社　1280 円）
参考文献	特になし
評価方法	春学期と同じ。その他に 12 月第一週の授業日に中間試験を実施します。出題範囲はダイヤモンド社の教科書からとする。

	歴史と文化１(歴史学1)(ヨーロッパ史1)	担当者	黒田　多美子

講義目的、講義概要	授業計画
（記憶の継承：ホロコーストと歴史否定論者） 日本ではドイツの歴史と聞くと「ホロコースト」を想い起す人が多いでしょう。本講義では、反ユダヤ主義の歴史的経緯やナチ体制下での迫害の変容をたどることによって、ナチ体制下でなぜ未曽有の大量虐殺に至ったのかを解明する手掛かりとしたいと思います。さらにその記憶を後の世代に継承していくための記念碑を紹介します。 しかし、一方で、そうした歴史的事実を否定する人々も後を絶ちません。そこで、否定論者の主張を分析し検討していきます。本講義の目的は、以上の分析を通じて、受講生が自国の歴史問題を考える際の分析力を涵養することにあります。	1）講義の概要／課題・レポートに関する注意 2）反ユダヤ主義（中世から近代まで） 3）「人種論」と反セム主義 4）第一次世界大戦と戦争責任 5）ヴァイマル共和国と反ユダヤ主義 6）ナチ体制下のユダヤ（人）迫害 7）ナチ体制下の諸民族虐殺／犠牲者の追悼と記念碑 8）ホロコーストを否定する人々 9）歴史否定論者の主張と意図 10）歴史否定論者の系譜 11）映画『否定と肯定』 12）映画『否定と肯定』より「言論の自由」と「両論併記」 13）日本の記念碑と歴史否定論者 14）まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内容に関する課題などで、事前学習または事後学習を行います。
テキスト	必要に応じて授業時に配布します。
参考文献	授業時に適宜紹介します。
評価方法	課題(70%)とレポート(30%)で評価します。課題は６回程度、レポートは１回の予定です。

	歴史と文化１(歴史学2)(ヨーロッパ史2)	担当者	黒田　多美子

講義目的、講義概要	授業計画
（ドイツにおける戦争責任と歴史認識） 本講義では、第二次世界大戦後、ドイツが自国の「負の遺産」にどう対処したか、あるいはしようと努めてきたのか、さらに戦争の記憶をどのような視点から後の世代に伝えていこうとしているのかを考察していきたいと思います。自国の「過去」とどう向き合うかという歴史認識は、その時々の政治風土とも大きくかかわっています。また、自国の歴史を後の世代にどのように伝えようとしているかという点は、特に学校での歴史教育のあり方に顕著に表れています。そこで、ドイツの学校ではどのような観点から、またどのような方法で歴史の授業が行われているかを紹介します。そのうえで、日独の歴史認識を比較・検討したいと思います。 この講義を通じて、受講生はドイツにおける歴史認識の変遷と現在の教育実践についての知識を得ると同時に、日本における歴史認識についても考察することが期待されます。	1）講義の概要／課題・レポートに関する注意 ―ドイツの歴史教育― 2）① ドイツの教育制度 3）② 歴史の授業/教科書の記述／学習目標 4）③ 教科書問題　/大学入学試験 ―戦後ドイツの歴史認識の変遷― 5）① 反ユダヤ主義とナチの犯罪/経済復興とタブー 6）② 歴史家論争/「国防軍の犯罪」展 7）③ 基本法(兵役拒否・庇護権）/記憶の継承 8）④ 世代を超える戦争責任 DVD『父と子の対話』 ―歴史認識の日独比較― 9）① 資料分析 10）②「戦争犯罪」と「人道に対する罪」 11）③ 国民の責任 12）④ 加害と被害 13）⑤ 歴史教育／教科書問題 14）まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内容に関する課題などで、事前学習または事後学習を行います。
テキスト	必要に応じて授業時に配布します。
参考文献	授業時に適宜紹介します。
評価方法	課題(70%)とレポート(30%)で評価します。課題は６回程度、レポートは１回の予定です。

（春） 18 年度以前	歴史と文化１(英語圏の文学)	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語で書かれた代表的な文学作品を読みながら英語表現や文化を積極的に学ぶ。 英語で書かれた代表的な文学（主に小説、アメリカ文学）を通して、その作品における様々な英語表現が理解できるようになり、またその国や地域の文化についても理解を深めることを目的とします。具体的には英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品、トウェイン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、サリンジャーなど、を読みながら英語表現や文化を積極的に学んでいきます。 なお、この科目は講義科目となってはいますが、教員側からの一方通行的講義ではありません。90分間ただ座って聞いているだけ、という授業はほとんどせず、参加者全員が主体的に学び、対話をし、その場で調べ、分析しながら深く学ぶことを目指す全員参加型のアクティブラーニング形式で進行します。よって毎回の出席は当たり前、かつ授業内で毎回何をどう学んだのかを明確にしていくことが評価へとつながっていきますので、その旨よく理解した上で履修してください。	第１回：イントロダクション　文学とは何か？/ アメリカ文学への招待 第２回：マーク・トウェインとその時代（南北戦争とミシシッピ） 第３回：マーク・トウェインの作品（*Adventures of Huckleberry Finn*）を読む 第４回：マーク・トウェインの英語表現 / 晩年のトウェイン 第５回：フィッツジェラルドとその時代（1920年代とアメリカンドリーム） 第６回：フィッツジェラルドの作品（*The Great Gatsby*）を読む 第７回：フィッツジェラルドの英語表現 / 短編小説と映画 第８回：トウェインとフィッツジェラルドの比較（伝記的事実とその影響） 第９回：ヘミングウェイとその時代（アメリカンドリーム以後のアメリカ） 第１０回：ヘミングウェイの作品（短編小説）を読む 第１１回：ヘミングウェイの英語表現とフィッツジェラルドの影響 第１２回：サリンジャーとその時代（第二次大戦以後のアメリカ） 第１３回：サリンジャーの作品（The Catcher in the Rye）を読む 第１４回：サリンジャーの英語表現 / 翻訳と村上春樹 / トウェイン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、サリンジャーの系譜（まとめ）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前（作家、作品についての情報収集）、事後（授業の内容と自分の意見、解釈のまとめ）
テキスト	特定のテキストは指定しないが、必要に応じて個々の作品を参照。
参考文献	*The Great Gatsby*（F・スコット・フィッツジェラルド著），*Adventures of Huckleberry Finn*（マーク・トウィン著）など
評価方法	授業内課題（６０％）、レポートないしプレゼンテーション（４０％）

（秋） 18 年度以前	歴史と文化１（英語圏の文学Ⅱ）	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語で書かれた代表的な文学作品を読みながら英語表現や文化を積極的に学ぶ。 英語で書かれた代表的な文学（英米の小説、詩、演劇など）を通して、その作品における様々な英語表現を理解できるようになり、またその国や地域の文化についても理解を深めることを目的とします。具体的には英語で書かれた代表的な文学作品、シェイクスピアやカズオ・イシグロなど、を読みながら英語表現や文化を積極的に学んでいきます。 なお、この科目は講義科目となってはいますが、教員側からの一方通行的講義ではありません。90分間ただ座って聞いているだけ、という授業はほとんどせず、参加者全員が主体的に学び、対話をし、その場で調べ、分析しながら深く学ぶことを目指す全員参加型のアクティブラーニング形式で進行します。よって毎回の出席は当たり前、かつ授業内で毎回何をどう学んだのかを明確にしていくことが評価へとつながっていきますので、その旨よく理解した上で履修してください。	第１回：イントロダクション　文学とは何か？ 第２回：イギリスの小説（時代と文化、英語表現） 第３回：イギリスの詩（時代と文化、英語表現） 第４回：イギリスの演劇、映画（時代と文化、英語表現） 第５回：アメリカの小説（時代と文化、英語表現） 第６回：アメリカの詩（時代と文化、英語表現） 第７回：アメリカの演劇、映画（時代と文化、英語表現） 第８回：英米文学の特徴（まとめと中間報告） 第９回：カズオ・イシグロの世界（The Remains of the Day） 第１０回：カズオ・イシグロの世界（The Remains of the Day）と英語表現 第１１回：英米文学と日本（受容の歴史） 第１２回：英語で読まれる日本文学（翻訳と表現） 第１３回：英語で発信する日本文学（翻訳と英語表現） 第１４回：世界文学、英米以外の英語圏文学の作品と英語表現　/ イギリス、アメリカ、日本、そして世界文学（まとめ）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前（作家、作品についての情報収集）、事後（授業の内容と自分の意見、解釈のまとめ）
テキスト	特定のテキストは指定しないが、必要に応じて個々の作品を参照。
参考文献	*The Remains of the Day*（カズオ・イシグロ著），*Romeo & Juliet*（シェイクスピア著）など
評価方法	授業内課題（６０％）、レポートないしプレゼンテーション（４０％）

（秋） 18 年度以前	歴史と文化１（異文化間コミュニケーションｂ）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法のことであり、グローバル化時代では必須要件である。しかし、それは「言うは易く行うは難し」である。本講義ではその事例としてアメリカの黒人問題をとり上げる。 価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出遭いでは、相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただアメリカは黒人種の受入れでは大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したのである。この大罪に、アメリカはいまだに苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となって社会不安を煽りつづけている。 苦悩するアメリカの現状を紹介し、歴史をさかのぼって奴隷からの解放、そして真の「解放」への闘争を紹介する。	第１回：ガイダンス 第２回：モザイク国家アメリカ 第３回：最近の黒人暴動にみる「共生」の現実 第４回：奴隷制とは 第５回：奴隷解放？現実は？ 第６回：自由と平等への戦いのはじまり 第７回：バスボイコット事件 第８回：公民権運動の共生理念 第９回：非暴力不服従：ガンジーとキング 第１０回：迷える北部の黒人たち 第１１回：急進派ブラック・パワーとは 第１２回：ベトナム反戦と黒人運動 第１３回：モハメッド・アリの生涯 第１４回：近年の異人種関係

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする
テキスト	使用しない
参考文献	アメリカ黒人の歴史（本田創造著、岩波新書） キング牧師とマルコムＸ（上坂昇著、講談社現代新書）
評価方法	定期試験（８０％）、小レポート（２０％）

	歴史と文化１（移民・交易に見る文化変容）	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化された社会では、人、物、資金、情報の空間移動に注目が集まっている。本講義では、中でも人と物の移動を中心テーマに歴史を振り返ることで、移動により生じる人々の生き方の変化についての概括的な知識を修得することを到達目標とします。授業では、①交通手段の発達による接続空間の広がり、②人の移動によってもたらされる集団の統合と対立について解説します。そのことを通し、21世紀型市民社会においてどのような文化変容が生じつつあるかについて理解を深め、「移動の自由」について自分の意見を述べることができるようにします。 授業の進め方は講義形式が中心ですが、8回目から、理解を深めるためにグループ討論を取り入れます。	1. イントロダクション（多文化共生・文化変容から考える） 2. 古代の空間接続： 地中海世界の交易について 3. 中世の空間接続： 香料とインド洋交易について 4. 近代の空間接続： ヨーロッパ人と世界システムについて 5. 工業化の発展： 労働者の移動と奴隷貿易について 6. 近代と国民国家： 移動と国家の枠組みについて 7. 国際移民： 移民システムについて 8. 国際移民と社会： 人種差別・偏見について 9. 移民の暮らし（討論：ヘイトスピーチから考察） 10. 国際移民と経済： 移民と労働市場について 11. 労働力としての外国人受け入れ（討論：ゲストワーカー・システムから考察 12. 国際移民と政治： 移民の政治参加について 13. 反移民運動の高まり（討論：欧米の移民排泄運動から考察） 14. まとめ：移動と多文化共生社会

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習資料を事前に熟読（30 分程度）、不明な用語の調べ（60 分程度）を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください（90 分程度）。
テキスト	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。
参考文献	ジョン・アーリ『モビリティーズ』作品社、S･カースルズ・M･J･ミラー『国際移民の時代』 名古屋大学出版会
評価方法	学習態度（15%）、課題（35%）、最終レポート（50%）で総合的に評価します。

	歴史と文化１（グローバル化と情報・通信の文化史）	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、メディアの発達史を通し、情報と社会の関係についての概括的な知識を習得することを到達目的とします。 講義内容は、通信方法の発達史を振り返り、人類がどのような工夫をして情報を伝達してきたか、それが人々の結びつきや社会形成にどのような影響を与えたかについて解説します。さらに、現代の市民生活と情報がどのように関係しているかについて、メディアと公共性の観点から討論を行います。これらを通し、グローバル化する社会では「情報」の収集・分析が一層重要になっており、その能力を高める必要があることについて理解を深めます。 授業の進め方は講義形式が中心ですが、8回目から、理解を深めるためにグループ討論も取り入れます。	1. イントロダクション（情報伝達と時空の制約について考える） 2. 歴史的情報伝達制度： 駅制による接続空間の広がりについて 3. 印刷メディアの発達： 新聞･雑誌による空間の統合性について 4. 有線・無線通信メディア： 電話の発達について 5. 映画メディア： 大衆娯楽の発展について 6. ラジオ・テレビ・メディア：発達国民の同質性ついて 7. パソコンとネットワーク化： 新たなコミュニティについて 8. グローバル･メディア：コミュニケーション空間の変化について 9. 人的ネットワークの拡大と信頼（討論：フェイクニュースから考察） 10. メディアの公共性： メディア産業のあり方について 11. 情報の取材・提供と中立性（討論：公共放送から考察） 12. 市民社会と情報インフラ： 地域メディアについて 13. 地域住民とメディア活動（討論：自治体の復興から考察） 14. まとめ：市民社会におけるメディアの役割

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習資料を事前に熟読（30 分程度）、不明な用語の調べ（60 分程度）を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください（90 分程度）。
テキスト	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。
参考文献	大石雄ほか『メディアの公共性』慶應義塾出版会、吉見俊哉『メディア文化論〔改訂版〕』 有斐閣
評価方法	学習態度（15%）、課題（35%）、最終レポート（50%）で総合的に評価します。

18年度以前	歴史と文化１（文化史入門）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。その時、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれらを包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているか古代ギリシア・ローマ世界を例に取り上げ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的としています。授業は講義形式で行いますが、討議形式になるテーマもあるので積極的に参加して下さい。	１．　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２．　動力とエネルギー源（奴隷労働の意義） ３．　水の供給と浴場（テルマエ・ロマエ） ４．　船と海上輸送（三段櫂船と商船） ５．　陸上輸送（一般道と高速道） ６．　造形芸術：建築と彫刻（アルカイック・スマイル） ７．　文学の世界：叙事詩と演劇（ギリシア悲劇の普遍性） ８．　宗教と祭祀：神々と人間（ギリシア神話とは何か？） ９．　同性愛と稚児愛 １０．結婚と家の継承 １１．競技（アゴン）的人間類型：理想的人間とは？ １２．民主政の中のデマゴーグの存在 １３．ポピュリズムと政治 １４．春学期のまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。毎回出される課題に答えて授業後、あるいは次回に提出して下さい。宿題にすることもあります。
テキスト	テキストは使わず、プリントを配布します。
参考文献	初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。それ以外に各授業の際に、追加の参考文献を紹介することがあります。
評価方法	定期のレポート６０％、毎回の課題提出２０％、授業の参加度２０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（文化人類学 a）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学への入門授業である。学問としての成り立ちや、主要な関心に触れながら、文化人類学の基本概念を理解することを目的とする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求めるまた授業中、あるいは期限を設定して小課題を課すことがある。小課題は原則小レポートであるが、一部調査課題を課す。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1. ガイダンス 2. 未開とは何か 3. 文化と文明 4. 言語と文字 5. 日常と非日常 6. 通過儀礼 7. 年齢と分類 8. タブー 9. 宗教と人類学 10. ジェンダーと人類学 11. 家族・親族 12. 贈与と交換 13. 伝統の創造 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	山下晋司等著『文化人類学キーワード　改訂版』（有斐閣）。その他のものは授業内で指示する。
参考文献	授業内で適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

	歴史と文化１（文化人類学 b）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学習した文化人類学の基本概念をふまえて、応用的で現代的なトピックを扱うとともに調査を実践することで、人類学の方法論と考え方を学ぶ。 本授業は講義形式を中心に行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には教員の解説する概念や視点について理解を深めるために簡単な調査を行ってもらう。特に秋学期は主体的に課題をこなすことが重要となる。また授業中、あるいは期限を設定して小課題を課すことがある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。 この授業は原則として歴史と文化1（文化人類学a）を履修していることを前提とする。そのため早い段階で文化人類学についての基礎知識をチェックするテストを行う（これも小課題の一つとして評価に含める）。	1. ガイダンス 2. 文化とは何か 3. 食と政治 4. 基礎知識のチェック 5. 自然とは何か 6. 可視化・単純化 7. 可視化：再説 8. 調査実習：可視化に関わる課題 9. 可視化と地域知 10. 調査実習：文化に関わる課題 11. 地域知と実践知 12. 調査実習：地域知に関わる課題 13. 地域の中の多様なアクター 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	教材は原則として教員が用意・配付する。
参考文献	『文化人類学キーワード』は参考資料とする。その他のものは適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（日本研究概論Ⅱ）	担当者	生田　守

講義目的、講義概要	授業計画
日本語や社会・文化について、日本研究の礎となる視点を提供し、日本について考える力を涵養するのがこの講義の目的である。 （1）日本語とはどんな言語だろうか。世界言語の中で日本語の特徴をとらえることを試みる。 （2）日本語の表現の特徴で、特に敬語を取り上げ、社会と言語の関係について考察する。 （3）文化という語もよく使われるが、その基本的定義をふりかえり文化に根ざす問題について考察する。 日本文化についても、文楽や文化論等から考察を行なう。 授業は講義形式で行う。	1. 講義の概要 2. 日本語論（1）世界の中の日本語、日本語の文字と語彙 3. 日本語論（2）オノマトペ、役割語 4. 日本語論（3）主語の省略、主題と主語 5. 日本語論（4）有題文と無題文 6. 日本語論（5）受動文 7. 日本語論（6）時間の表現 8. ことばと社会（1）日本社会と敬語 9. ことばと社会（2）ポライトネス 10.ことばと社会（3）配慮表現 11.文化をめぐって（1）文化の定義、価値・倫理 12.文化をめぐって（2）文楽に見る忠義 13.文化をめぐって（3）『武士道』を読む 14.講義のまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内容で興味を持った点を自分で深めたり、調べたりすること
テキスト	授業時に資料を配布する
参考文献	特になし
評価方法	学期末に試験かレポート 100%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 日常のコミュニケーションに見られる日本語的特徴について考え、それらを説明するための代表的な理論を理解することを目的とします。自身のコミュニケーションを振り返り、見直すきっかけにしてほしいと思います。 【講義概要】 普段あまり意識することのない日本語によるコミュニケーションについて、人が互いに「何をしているのか」を学問的に捉え、その行為の持つ意味を検討します。さらに、行為が相手に与える印象についても一緒に考えます。 なお、授業は主に講義形式で進めますが、テーマにより、小グループでの討論、発表も予定しています。	1.　コミュニケーション力とは 2.　あいさつ 3.　言語メッセージと非言語メッセージ 4.　対人関係の言葉 5.　依頼・勧誘と応諾・断り 6.　感謝・謝罪・褒め 7.　対人関係のマネジメント 8.　敬語 9.　スピーチのコミュニケーション 10.　比喩とコミュニケーション 11.　レトリック表現とオノマトペ 12.　公共圏のコミュニケーション 13.　異文化間のコミュニケーション 14.　印象形成との関係

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。
テキスト	滝浦真人・大橋理枝著『日本語とコミュニケーション』（放送大学教材、2015 年）、適宜プリントを配布。
参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	①課題の取り組み　３０％　②参加態度・貢献度　２０％　③期末試験　５０％

18年度以前	歴史と文化１（教育の歴史１）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを第一の目的とします。また、前近代の教育の歴史の概略を理解することを第二の目的とします。 本講義では日本の前近代の教育史を担当しますが（２では近代以降になります）、具体的には江戸時代とそれを前後する時期の、教育の実際の姿（手習塾や藩校、子育て習俗等）および教育思想（貝原益軒等）を扱います。 江戸時代には、現代とは全く異なった枠組みで教育的営為が行なわれていました。そのため、初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義したいと考えています。	1　ガイダンス 2　日本の前近代（江戸という時代とその民衆） 3　子育ての習俗 4　江戸時代の二つの知 5　江戸時代の教育諸機関とその研究（手習い塾） 6　同上（私塾・藩校） 7　同上（郷学など） 8　キリスト教伝来と日本人の対応 9　朱子学の理解 10　日本の儒学 11　江戸時代の思想の流れ 12　貝原益軒の儒学と教育思想 13　民衆の儒学と民衆の教育 14　「学制」による知の統合

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で紹介された文献を読む。
テキスト	指定せず。ポータルサイトからの配布プリントによる。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	授業貢献度と中間レポートによって70%、最終レポートによって30%。

18年度以前	歴史と文化１（教育の歴史２）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを第一の目的とします。また、近代以降の教育の歴史の概略を理解することを第二の目的とします。 本講義では日本の近代の教育史を担当しますが（１は前近代）、具体的には幕末以降、1950年代までの、教育の制度や実際の姿および教育思想を扱います。 できるだけ初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義しようと考えています。	1　開講の辞／講義の進め方の説明 2　近現代（第二次大戦以前）の教育史概略 3　「学制」とその影響 4　「学制」後の明治期の教育 5　独逸学教会学校と高等教育 6　教育勅語とその扱い 7　大正自由主義教育（学校教育の実践） 8　同上（思想的基盤） 9　学校慣行の登場 10　中等教育の歴史 11　生活綴方教育 12　教師への道 13　戦時下の教育 14　戦争と教育（ビデオ観賞）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で紹介された文献を読む。
テキスト	指定せず。ポータルサイトからの配布プリントによる。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	授業貢献度と中間レポートによって70%、最終レポートによって30%。

18 年度以前	歴史と文化 1（中国史 a）	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代中国をより深く理解するために，その原型が形成された18世紀の中国について学ぶ。 18世紀の中国は清朝の統治下で盛世の時代を迎える。版図は歴代王朝の中で最大となり,経済は発展し,人口も1億人から3億人となる。授業では王朝支配の体制,国際関係,広域経済の形成，多民族統治，法と裁判,警察・徴税から見た地方行政，地域エリートと慈善事業などについて講義する。	1　講義の概要 2　皇帝支配 3　科挙と地方統治 4　税制改革と財政 5　国際関係と冊封朝貢体制 6　銀両・銅銭通貨と広域経済の形成 7　多民族統治の実態 8　映像資料の視聴 9　法制度 10　裁判の実態と情理 11　犯罪と警察制度の展開 12　徴税と地方行政 13　地域エリートと慈善事業 14　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読むこと。授業時に紹介した関連文献を図書館などで探し読むこと
テキスト	岸本美緒・宮嶋博史『世界の歴史 12　明清と李朝の時代』（中公文庫 S-22-12）中央公論新社、2008 年。
参考文献	授業時に指示する
評価方法	定期試験 80%、平常点 20%

18 年度以前	歴史と文化 1（中国史 b）	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代中国をより深く理解するために，その原型が形成された18世紀の中国について学ぶ。 18世紀の中国は清朝の統治下で盛世の時代を迎える。版図は歴代王朝の中で最大となり，経済は発展し,人口も1億人から3億人となる。授業では台湾の開発,山地経済の形成と無生老母信仰の展開，家と家族や婚姻などの慣行から見る女性の地位の変化，イスラームと中華との文化対話などについて講義する。	1　講義の概要 2　台湾の開発 3　山地経済の形成 4　無生老母信仰の展開と嘉慶白蓮教徒の反乱 5　家と宗族 6　婚姻の諸形態 7　売妻・典妻慣行 8　纏足の展開と婚活戦略 9　女性の地位の変化 10　映像資料の視聴 11　中国ムスリム社会の形成 12　回儒と中華との対話 13　イエズス会宣教師の見た中国 14　まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読むこと。授業時に紹介した関連文献を図書館などで探し読むこと
テキスト	岸本美緒・宮嶋博史『世界の歴史 12　明清と李朝の時代』（中公文庫 S-22-12）中央公論新社、2008 年。
参考文献	授業時に指示する
評価方法	定期試験 80%、平常点 20%

	歴史と文化１（歴史学１）（「15 年戦争」をどうとらえるか）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年に終わった戦争は、太平洋戦争と呼ばれアメリカの強大な軍事力で日本が大きな被害を受けながら敗北した戦争ととらえられがちだが、事実に照らして見直したい。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続き、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高では原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるが、映像をかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。今、中国や韓国と「対立」がつくられている。だからこそ、この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。 なお、秋学期と連動させており、できればあわせて受講して欲しい。	1. 1945年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2. 1941年12月8日―真珠湾からかコタバルからか 3. 被害の問題①―空襲は何を示すか 4. 被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5. 15年戦争の開始―満州事変から日中戦争へ 6. 加害の問題①―731部隊とは何か 7. 加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 8. 対米英戦争下の中国―「尽滅掃討」作戦 9. 日本軍隊の特徴をみる 10. 戦時下の社会―戦争への動員・女性と戦争他 11. 日本の戦争と植民地朝鮮 12. 敗戦をめぐって①―本土決戦体制の構築と沖縄 13. 敗戦をめぐって②―ポツダム宣言とその受諾 14. 「15年戦争」を振り返る

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に吉田裕『日本軍兵士―アジア・太平洋戦争の現実』（中公新書）通読、事後はプリント見直しを
テキスト	毎時間プリントを配布する
参考文献	上記のほかは、講義の中で紹介する
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90%　平常時の意見･感想など 10%

	歴史と文化１（歴史学２）（戦後史の中の「15 年戦争」）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年8月15日に敗戦を迎えた戦争は、戦後70年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。その背景には、占領そして講和や賠償問題等を通してアメリカの強い関わりがある。トランプ政権が誕生し日米関係見直しが必至となる今、この歩みを知ることは重要である。沖縄のことを日本の問題としてしっかり考えたい。 中国や韓国などでは、この2、30年間で民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、同時に日本とも民衆同士の交流が進んできた。戦後補償や戦争認識をめぐる問題は、やっとそれを民衆が論議できるようになったと捉えたい。きちんと論議できる知識をもつ若者でいて欲しい。 2011年の3･11を経て、原発がどのように導入されどのような問題を持つかを学ぶこともあらためて欠かせないことになった。取り上げていきたい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。	1. 「15年戦争」の終わり方と天皇制 2. 民主化・日本国憲法・象徴天皇制 3. 東京裁判と日本の戦争責任をめぐって 4. 朝鮮戦争とサンフランシスコ講和のもった問題 5. 日本の国内での補償とアジアへの補償 6. 日韓条約はなぜ1965年に結ばれたか 7. 日中国交回復を考える 8. 「戦後」の沖縄の歩み 9. ベトナム戦争と沖縄の日本復帰 10. 米軍基地問題と日本の安全保障を考える 11. 原発をめぐって①―「ビキニ被曝」と原子力平和利用 12. 原発をめぐって②―3.11から何を学ぶか 13. 戦後50年の国会決議をめぐって―政治家の戦争認識 14. 「戦後70年」を超えて

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ぜひ毎日、新聞に目を通すことを勧める。事後はプリントを見直して欲しい。
テキスト	毎時間プリントを配布する
参考文献	講義の中で紹介する
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90%　平常時の意見･感想など 10%

18 年度以前	歴史と文化１（英語圏の文化）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP＜White Anglo-Saxon Protestant＞）社会を創造した。19 世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。	1. ガイダンス 2. ワスプ主義とは 3. 新しい白人移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. 反戦に揺れる 60 年代 10. カウンターカルチャー 11. ロックミュージックの誕生 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を読み、講義理解の補助とする
テキスト	特になし
参考文献	『アメリカの反知性主義』みすず書房、2016 年
評価方法	定期試験 80%、課題提出など 20%

18 年度以前	歴史と文化１（英語圏事情）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化の理想は、世界の共生のはずである。しかし、テロの脅威が世界を不安に陥れている。力を武器に富の眠る第三世界を思うままに支配してきた欧米への反撃が収まらない。 授業では経済と軍事の頂点に君臨してきたアメリカをとり上げて、その価値観と行動様式を見ていき、平和に資する多国間の共生のあり方を探っていこう。キーワードは「力の支配」である。 ① 銃社会アメリカで起こる惨劇はたびたび報道される。銃を所持しようとするアメリカ人の価値観とはいったいなんなのか、検証する。 ② アメリカと日本は第二次大戦以降、緊密な関係を築いてきたのだが、問題はないのか？日米は互いに敬い、果たして平等なのだろうか	1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. なぜ、銃が必要か 4. 日本の中のアメリカ、米軍を考える 5. アメリカの占領 6. 日米による安全保障とは 7. 米兵事件の実相 8. 湾岸戦争 9. ９１１ 10. アフガン/イラク戦争 11. もう一つの９１１ 12. 映像 13. ソフト・パワー 14. アメリカンポップカルチャーの力

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを熟読し、授業理解の補助とする
テキスト	『米兵犯罪と日米密約』明石書店
参考文献	特になし
評価方法	定期試験 80%、課題提出など 20%

18 年度以前	歴史と文化１（韓国文化各論 c）	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は先史から朝鮮時代までの歴史を概観し、韓国の歴史に関する基礎的知識を習得し、現代社会の前近代史に対する捉え方を理解することにある。 講義では韓国史の手引書となる1冊を選び、先史から朝鮮時代までの歴史の歩みを、国家別・時代別にみていく。この際、国内政治とともに、東アジアや西洋との国際関係の中での歴史的展開を重視する。また、各回で扱う単元に関連する論点を取り上げ、現代社会の韓国前近代史に対するまなざしも考えるようにしたい。 基本的には講義形式だが、重要な論点についてはグループで議論・発表するようにする。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時プリントを配布し、小テストなども行う。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1.　ガイダンス 2.　韓国史の時代区分 3.　韓国の先史時代 4.　古朝鮮・楽浪と領域論 5.　高句麗史と帰属問題 6.　百済史の展開と古代日本 7.　新羅の成長 8.　加耶諸国と倭 9.　統一新羅とその虚構性 10.　渤海の領域と対外関係 11.　高麗社会の展開と外交 12.　朝鮮前期の政治構造と国際関係 13.　朝鮮後期の社会変動 14.　まとめ－韓国前近代史と現代韓国社会

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読んでおく。また授業中に配布したプリントは自分なりに整理しておくこと。
テキスト	田中俊明編『朝鮮の歴史 ： 先史から現代』昭和堂, 2008 年
参考文献	李成市, 宮嶋博史, 糟谷憲一 編『朝鮮史 1: 先史-朝鮮王朝（世界歴史大系）』山川出版社, 2017 年
評価方法	授業に対する積極的参加度（20%）、小レポート（30%）、試験（50%）をもとに評価を行う。

	歴史と文化１（日韓交流史）	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では古代から現代までの日韓交流の歴史を概観することで、多様な日韓交流に関する知識・理解を深めるとともに、東アジア地域や世界の情勢に対する見方・考え方も身につけることを目的にしている。 そのため、東アジア地域や世界のなかで日韓交流の歴史を見ることにする。まず、1回の講義ごとにいくつかの重要なトピックについて検討していく。また、交流の社会背景や現代社会との関わりについても考えることで理解を深めることにする。 基本的には講義やグループでの議論・発表を中心に進めていく。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時補充プリントなども配布していく。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1.　日韓交流史概観 2.　先史時代の交流 3.　三国・伽耶と倭との交流 4.　隋唐帝国の成立・展開と東アジアの情勢 5.　10世紀～12世紀の東アジアと日本・高麗の交渉 6.　モンゴル帝国の成立と東北アジア 7.　明の成立と日本・朝鮮 8.　豊臣秀吉の世界構想と日朝関係 9.　通信使外交の成立と展開 10.　日韓の開港と東アジアの紛争 11.　帝国主義と独立運動 12.　日韓国交正常化以前の交流 13.　現代日韓交流の拡大・発展 14.　まとめ―日韓交流の未来を展望する

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト、プリントを精読しておく。 事後学修：授業で配布するプリントを整理する。
テキスト	講義のなかで適宜指示する。
参考文献	歴史教育研究会・歴史教科書研究会編『日韓歴史共通教材　日韓交流の歴史』明石書店、2007 年
評価方法	授業に対する積極的参加度（20%）， 小レポート（10%）， グループ発表（20%）， 期末レポート（50%）をもとに評価を行う。

	歴史と文化１（大衆文化論）	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
明治以降の大衆文化の変容を通して、日本における近代とはいかなる時代であったのかを社会学的な視点から再考する。高校までの一般的な「近代史」のなかで扱われるような事例も取り上げるが、それ以上に忘れられがちな大衆文化に注目することで、より多角的に近代日本の動態を捉えていくことを目指す。また現代の日本社会にも共通する点などを随時取り上げ、近代と現代の連続性についても考えていく。各回に考察の時間をもうけているので、学生の積極的な参加を期待したい。必ずしも日本の近代史に対する知識がない学生の参加も歓迎したい。基本的な議論の枠組みは社会学である。取り上げる大衆文化のなかでも、特に戦前・戦中期から戦後期のボクシングにはそれなりの時間を割く。当時のボクシングは代表的な大衆文化の一つであるためだ。そのためボクシングが戦中から戦後へと形を変えていく様は、大衆文化から近代史を捉えようとする本講義において、格好の事例となる。	1. イントロ 2. 文化のグローバル化／ローカル化と日本の近代化 3. 大衆文化と日本の近代化〜明治・大正・昭和１（日清戦争、日露戦争、近代文化等々） 4. 大衆文化と日本の近代化〜明治・大正・昭和 2（社交ダンス、武士道野球、乃木希典の死等々） 5. 大衆文化と日本の近代化〜明治・大正・昭和 3（大正デモクラシー、都市文化、エログロナンセンス、関東大震災、格差社会等々） 6. 大衆文化と日本の近代化〜明治・大正・昭和４（昭和維新、「皇軍」の価値観、「軍神」、国防競技等々） 7. 大衆文化と日本の近代化〜戦中の文化（翼賛映像作品鑑賞） 8. 大衆文化としてのボクシング〜明治、大正から昭和にかけて（メリケンから柔拳、興行の一般化等々） 9. 大衆文化としてのボクシング〜昭和１（自律化以降〜戦中の「武士道としてのボクシング」等々） 10. 戦後という時代１（右翼の自死、人間宣言、ヤミ市、カストリ雑誌、三島由紀夫等々） 11. 大衆文化としてのボクシング〜昭和２（「科学的ボクシング」等々） 12. 戦後という時代 2（「悪所」としての「基地の街」、ポピュラー音楽文化、ドラッグ文化、消費される「基地の街」等々） 13. 明治・大正・昭和の大衆文化 14. テストとまとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の中で随時指示する。なるべく下記の参考文献に目を通しておいてほしい。
テキスト	特になし
参考文献	木本玲一、2018『拳の近代: 明治・大正・昭和のボクシング』現代書館
評価方法	試験（100%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（民俗学）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
民俗学は柳田國男が体系化し、庶民が何を考え、どのような生活を送ってきたのかを「伝承」から問う学問として発展してきました。そのため民俗学は「伝承」とは何かをも問う学問でもあります。明治以降、生活様式や観念は大きく変化しました。この変化は現在にまで続いています。民俗学は決して「過去」を掘り起こすだけの学問ではありません。現在の学問です。 民俗学の研究対象は多岐にわたります。2018年に「来訪神」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。本講座では民俗学の概説的、「他界」「妖怪」「神」「祭り」など目に見える非日常の形と観念とその変化、「昔話」「伝説」など語られてきた物語の背景について考えていきたいと思います。「伝承」は変化すること、「伝統」の問題を念頭に置きつつ、「現在」の様相をも視野にいれ、「今」を考えていきたいと思います。	1. ガイダンス 2. 民俗学とは何か 3. 国学と民俗学 4. 日本の信仰 5. 国家神道 6. 異界の存在―妖怪・幽霊とは何か― 7. 異界の存在―『東海道四谷怪談』― 8. 昔話とその背景―桃太郎はなぜ英雄か― 9. 昔話とその背景―浦島太郎は何者か― 10. 災害伝承と伝説 11. 年中行事―正月とは何か― 12. 年中行事―盆とは何か― 13. 現代の年中行事 14. 人の一生（人生儀礼）

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験 100%。授業への参加度を加味する。

	歴史と文化１（地域文化）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では「地域文化」を学びます。方言や雑煮など「地域」ごとに生活文化に異なりが見られます。地域差と言われるものです。しかし、「地域文化」には、直接に生活構造で結びついたミクロ的「地域文化」と、類似文化の広がりから捉えられるマクロ的「地域文化」があり、また、他所から見た地域認識も「地域文化」を背景とするもので、必ずしも「地域文化」が担い手だけのものではないことがわかります。本講座では文化の差異だけではなく、「地名」や「祭り」を中心に地域文化のあり方とその変化を捉えていきたいと思います。とくに「変化」に関しては過疎地と都市部で旧来から行われてきた祭りの現状をふまえ、その方向性や背景を考えます。さらにボーダレスとなっている今日における「郷土」意識など、現代的な問題として考えていきたいと思います。地方創生が叫ばれている現在、地域文化を考えることは重要ではないでしょうか。	1. ガイダンス 2. 文化としての「地名」 3. 「地域文化」とは何か 4. 広義の「地域」と狭義の「地域」における文化 5. 結の実際（白川郷の屋根葺き） 6. 地域認識と社会概念 7. 地域文化としての祭り―祭りによる地域文化形成― 8. 地域文化としての祭り―祭りと地域認識の問題― 9. 地域文化の重層性 10. 伝統的祭りの方向性―過疎地域― 11. 伝統的祭りの方向性―都市部― 12. フォークロリズム 13. 新興の祭りと地域文化 14. ボーダレス社会と地域文化

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読し、自分の住む「地域」の現在を学び、さらにこれからを考えつつ授業を受けてください。
テキスト	プリントを配布します
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験 100%。授業への参加度を加味する。

	歴史と文化１（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	担当者	井垣　昌

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、主に南米の数カ国に関する事例研究に触れながら、現代ラテンアメリカの社会と文化との関係について理解することにある。ラテンアメリカ全体の特徴、域内における多様性と相違についても視野に入れる。 本授業は講義形式で行なうが、履修生には、自由研究の提出や発表、講義や発表への質問など、積極的な授業参加を求める。また、知識や概念の理解度を試す小テストや、概念を用いた思考力を試す課題を出す。なお、課題を全て提出しない学生は、成績評価の対象としない。 ※履修生の興味・関心、授業の進捗などに応じて、授業計画等を変更する場合があるが、講義で取り上げる主な国やテーマは、ラテンアメリカの一部に限られる。 ※授業の進め方については、初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。また、右記の授業計画は、進捗状況などにより変わる場合がある。	1. ガイダンス、ラテンアメリカの概念と全体像 2. ラテンアメリカの主な亜地域と諸国家の特徴 3. ラテンアメリカにおける人種と民族 4. ラテンアメリカにおける宗教と国家 5. アンデス地域におけるコミュニティ形成 6. アンデス地域の宗教、政治、文化―コカ葉 7. アンデス地域の宗教、政治、文化―祝祭 8. アンデス地域の伝統、社会、文化―フォルクローレ 9. 異文化接触―アンデス地域とアマゾン地域 10. ラプラタ地域の政治、文学、舞踊―ガウチョ 11. ラプラタ地域の宗教、政治、経済―マテ葉 12. 異文化接触―アンデス地域とラプラタ地域 13. ラテンアメリカの他地域との比較―嗜好品 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	事前：資料の指定された箇所を精読し、用語の意味と具体例を関連付けて把握しておくこと。 事後：授業の学習内容を復習し、新出用語の意味と具体例を調べること。出された課題に取り組むこと。
テキスト	参考資料を配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	試験 50%、平常点 50%（小テスト、リアクションペーパー、プレゼンテーションなど）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１(アラブ文化・芸術 a)	担当者	W　イブラヒム

講義目的、講義概要	授業計画
アラブ文化はイスラームを基調としますが、メディアで取り上げられるイスラームに関するニュースの多くは、好いイメージの結びつくものはありません。しかし、メディアで伝えられるイメージと現実の世界実体の間には大きなギャップがあります。現在、グローバル化が進む中、アラブ文化を理解することが、将来、有益であるに違いありません。 本講義では、可能な限り動画資料を取り入れ、イスラームの基礎的な知識はもちろん、アラブ文学・芸術・アラブ人の生き方など、様々な文化的要素を取り上げながら、この地域の全体像をつかめてもらえるようにしたいと考えています。	1. イントロダクション：アラブ人とは？ 2. イスラームとは何か？①（基礎知識） 3. イスラームとは何か？②（現代世界とイスラーム） 4. ムスリムにとってクルアーンとは？ 5. アラブ人の生活と文化①（アラブ人の生き方） 6. アラブ人の生活と文化②（アラブ人の心） 7. アラブ人の生活と文化③（社会・女性） 8. 「アラブの春」は何だったのか？ 9. アラブ音楽入門 10. アラブ文学（詩と言葉） 11. パレスチナ問題①（文学・芸術を通して見る） 12. パレスチナ問題②ドキュメンタリー「五つのカメラを壊された」鑑賞・ディスカッション 13. パレスチナ問題③小説　ガッサーン・カナファーニ中編「太陽の男たち」「ハイファ―に戻って」・ディスカッション 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ガッサーン・カナファーニの課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください
テキスト	課題図書：ガッサーン・カナファーニ著　「太陽の男たち」「ハイファ―に戻って」読後レポート提出・ディスカッションが評価の大きなポイントになります。
参考文献	講義中に各テーマに適した参考書を紹介します。
評価方法	レポート（70%）、積極的な授業参加とレポート提出後ディスカッション（30%）

	歴史と文化１(アラブ文化・芸術 b)	担当者	W　イブラヒム

講義目的、講義概要	授業計画
現在流通している中東についての情報は、テロ、石油といった政治・経済面に偏っています。「アラブ文化・芸術 a」に引き続き、本講義では、アラブ文化に関わる基本的なスタンスを取ることを目的とします。それゆえ、授業の前半では、アラブというアイデンティティについて解説、イスラームの金融・政治・異文化に対する考え方を概観します。そして、後半では、様々な面から文化と芸術に触れつつ、日本社会との接点やこれからの関係性について考察を深め、複眼的な観察力を身につけていきます。	1. イントロダクション：概要と目的 2. 世界三大宗教：イスラームと異文化 3. アラブというアイデンティティ 4. イスラームにおける金融と政治 5. イスラーム世界の代表的な歴史家・思想家（Ibn Khaldun やAl-Qalqashandi） 6. アラブ文学：代表的な作家・知識人（Taha Hussain, Al-hakim, N. Mahfuz） 7. アラブ世界のポップカルチャー 8. アラブのメディア 9. ノーベル賞作家N.マフフーズの小説「バイナルカスライン」を理解するためのエジプト近代史 10. イスラーム神秘主義（スーフィズム）：イブヌ・アターイッラー師の箴言集 11. イスラーム美術 12. 声の文化・アラブの歌謡曲 13. 小説「バイナルカスライン」（新訳タイトル「張り出し窓の町」）読後レポート提出・ディスカッション 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ナギーブ・マフフーズの課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください
テキスト	課題図書：ナギーブ・マフフーズ著「バイナルカスライン」（新訳タイトル「張り出し窓の町」読後レポート提出
参考文献	講義中に各テーマに適した参考書を紹介します。
評価方法	レポート（70%）、積極的な授業参加とレポート提出後ディスカッション（30%）

18 年度以前	歴史と文化 1（歴史学 1）（文明史研究 a）	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 講義全体をとおして、文明とは何かを考えていくことを目的とします。多彩な文明を作り出してきた人類の歴史について、はば広く学んでいきます。それにより多角的な視野を獲得し、現代社会を生きていく上で求められる国際的な教養や自らの価値観、世界観を築き上げていくことを目指します。 【講義概要】 ヨーロッパに焦点を当て、その歴史や文明を学んでいきます。講義のみならず、映像資料も使用します。 また右記の授業計画はあくまでも一応の目安であり、人数や皆さんの関心に応じて、授業内容を多少変更する可能性があります。	1. ケルト 2. 古代ギリシア 3. 古代ローマ 4. キリスト教の誕生 5. 中世（前期） 6. 中世（後期） 7. 大航海時代 8. ルネサンス 9. オランダの繁栄 10. ヨーロッパ諸国の海外進出と奴隷制 11. 革命の時代 12. 第一次世界大戦 13. 第二次世界大戦 14. 戦後の世界

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習をし、興味を持った箇所について参考文献を読むなど、より深く掘り下げて勉強してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を主に使用します。参考文献は授業中に適宜指示します。
評価方法	レポート　100%

18 年度以前	歴史と文化 1（歴史学 2）（文明史研究 b）	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 同上。 【講義概要】 前半は、文明や人間というものについて、自ら考えるためのヒントとなる様々な課題やテーマを取り上げていきます。映像資料も使用する予定です。 後半は、海外の人たちに日本について語ることができるようになることを目指して、日本に的を絞ります。古墳時代にいたるまでの社会の変遷を講義していきます。 また右記の授業計画はあくまでも一応の目安であり、人数や皆さんの関心に応じて、授業内容を多少変更する可能性があります。	1. イントロダクション 2. 人類の誕生 3. 創造力と芸術の誕生 4. 農業の誕生と発展 5. 国家と支配 6. お金の誕生と発展 7. 旧石器時代（1）氷河期の日本列島 8. 旧石器時代（2）社会と生活 9. 縄文時代（1）土器の発明 10. 縄文時代（2）定住と社会 11. 弥生時代（1）稲作と社会の発展 12. 弥生時代（2）金属器の発展と戦争 13. 古墳時代（1）巨大墳墓と支配の確立 14. 古墳時代（2）一般人の生活

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習をし、興味を持った箇所について参考文献を読むなど、より深く掘り下げて勉強してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を主に使用します。参考文献は授業中に適宜指示します。
評価方法	レポート　100%

	歴史と文化１（東西の文化を結ぶもの）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） アジア史的な観点を中心に「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい。「東洋」という概念は，「西洋」側の主観の産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが最初の目標である。 （講義概要） 最初はセム系の一神教の理解を歴史に沿ってすすめ，やがてキリスト教が西洋世界の形成とつながることを理解し，次に東洋におけるイスラーム教や仏教やヒンドゥー教などを考察し、最後に大航海時代がもたらした「世界の一体化」の意味を検証する。	1. ユダヤ教・キリスト教の広がりとアジア世界 2. ユダヤ教の歴史（バビロン捕囚以前） 3. ユダヤ教の歴史（バビロン捕囚以後） 4. キリスト教の誕生 5. キリスト教の広がり（古代世界） 6. キリスト教の広がり（中世世界） 7. イスラーム教の誕生 8. イスラーム教の広がり 9. 十字軍・レコンキスタ 10. バラモン教・ヒンドゥー教とその世界 11. インドの仏教とその伝播 12. 日本への仏教の伝播とその歴史 13. 日本における仏教の展開 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき，事後に内容を整理してください。 あわせて４時間の学修時間となります。
テキスト	とくに定めない。
参考文献	高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』（中公新書）
評価方法	レポートによる評価（100%）レポートの表紙を授業で配布するので注意すること。

	歴史と文化１（東西文化と近代化）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 秋学期ではとくに、東洋における近代化が事実上の「西洋化」であった点を考察し、それが生み出すさまざまな現実を検討しながら、現代の世界のしくみを理解するための橋渡しとなることが目的である。 （講義概要） アジア地域について近代化の問題を広く考察する。とくに近代化にともなってオスマン帝国が解体し，広範な地域で宗教や民族意識にかかわる問題があらわれるが、それらが現在の国際情勢と結びついている点を検討したい。	1. 中東におけるさまざまな近代化。 2. 近代シオニズムとパレスチナ問題 3. パレスチナ問題と中東世界 4. 旧ユーゴスラヴィア世界の歴史 5. オスマン朝治下の旧ユーゴスラヴィア 6. パン・スラヴ主義とパン・ゲルマン主義 7. 社会主義ユーゴスラヴィアとその崩壊 8. ボスニア紛争とコソヴォ紛争 9. 旧ソ連の崩壊と民族自覚 10. カスピ海石油が引き起こす問題 11. いわゆる色付革命と旧ソ連諸国 12. チェチェン・ジョージア（グルジア）・ウクライナなどの紛争問題 13. イスラームからの問題提起と西洋世界への挑戦 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき，事後に内容を整理してください。 あわせて４時間の学修時間となります。
テキスト	とくに定めない。
参考文献	高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』（中公新書）
評価方法	レポートによる評価（100%）レポートの表紙を授業で配布するので注意すること。

	歴史と文化１（スペイン・ラテンアメリカの文学）	担当者	中井　博康

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語で書かれた文学テクストについて、主要な作家や作品を取り上げながら、通時的に概説します。文学史や文化史の知識を身につけることも大切ですが、受講者にはむしろできるだけ多くの文学テクストを実際に読んでもらい、新たな作家や作品に出会う機会にしたいと思っています。	1. 中世のイベリア半島 : <El Cid>, Arcipreste de Hita, Don Juan Manuel 2. ルネサンスに向けて : Jorge Manrique, <La Celestina>, Romancero 3. 1492とクロニカ : Colón, Las Casas, Garcilaso de la Vega, Ercilla 4. 16世紀 : 神秘主義、ピカレスク小説、モーロ小説 5. 17世紀の散文と詩 : Cervantes, Góngora, Quevedo, Gracián 6. 17世紀の演劇 : Lope de Vega, Tirso, Calderón, Ruiz de Alarcón 7. 18世紀 : Moratín 8. 19世紀（1）：ロマン主義 9. 19世紀（2）：写実主義, 自然主義 10. 19世紀（3）：モデルニスモ, 98年の世代など 11. 20世紀（1）：27年の世代, Cela, Sender, Delibes, Buero Vallejo 12. 20世紀（2）：Borges, Asturias, Carpentier, Rulfo, Neruda 13. 20世紀（3）：Paz, Cortázar, García Márquez, Fuentes, Vargas Llosa 14. 現代

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	レスポンスシートにより理解度を確認します。また，ブックレポートを作成してもらいます。
テキスト	特定のテキストは使用しません。レポートのためのブックリストを配布します。
参考文献	講義で随時紹介します。
評価方法	レスポンスシート（50%）とブックレポート（50%）により，総合的に評価します。

	歴史と文化１（カリブ海域研究）	担当者	工藤　多香子

講義目的、講義概要	授業計画
カリブ海域といっても、日本から遠く、あまりなじみのない場所かもしれません。しかし、砂糖やタバコ、そしてサルサやレゲエといった音楽を通じてカリブ海域と私たちの社会は密接につながっています。この講義では、なぜ砂糖がこの地域で栽培されるようになったのか、また、どうして多様な音楽がこの地域から生まれるのかを歴史的背景にさかのぼりながら解説します。 具体的には2015年に米国と国交再開したばかりのキューバを中心に人々の暮らしなどを紹介しながら、広くカリブ海域の人々の経験について文化人類学的に考察します。コロンブスの「発見」以来、独特の歴史を背負うこととなったこの地域の社会や人々の考え方に、遠い日本に住む私たちにもきっと学ぶべきことが多くあるはずです。	1. 概論　「ヨーロッパの闘技場」としてのカリブ海域 2. コロンブスと「カリブ」の出会い 3. ヨーロッパと砂糖 4. 砂糖が生んだ社会 5. タバコの文化史 6. 海賊とラム酒 7. 奴隷制度の実態 8. 奴隷制度の爪痕 9. 人種と民族 10. クレオール文化 11. カリブ海域の音楽 12. カリブ海域の宗教 13. キューバ革命 14. キューバのいま

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。ふだんからカリブ海域のニュースなどに関心をもつようにしてください。
テキスト	特に指定なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	レポート 60%、リアクションペーパー40%

	歴史と文化１（日本文学論・中世Ⅰ）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
古今集の世界―中世和歌史と古今伝授― 我が国の勅撰和歌集の第一にあげられる『古今和歌集』は、後代にわたって「注釈」されつつ、さらには「本説」と呼ばれる歌に関するエピソードなどを伴って享受されていきます。 本講義では、『古今和歌集』に関する様々な「注釈」や「古今伝授」と呼ばれる学習パターンが盛んとなる中世期から近世期にかけての和歌文学史の流れを理解することを講義の目的とします。	1. ガイダンス―勅撰和歌集とは― 2. 『古今和歌集』仮名序の世界―「仮名序」を読む― 3. 『古今和歌集』の注釈―『俊頼髄脳』― 4. 『古今和歌集』の注釈―『奥義抄』― 5. 『古今和歌集』の注釈―『古今集注』― 6. 六条藤家の登場―柿本人麿影供― 7. 御子左家の登場―藤原俊成・『古来風体抄』― 8. 御子左家の登場―藤原定家・『顕注密勘』― 9. 御子左家の分裂―二条家・『六巻抄』― 10. 二条家の流れ―頓阿・『頓阿序注』― 11. 反御子左家の誕生―為顕流・『古今和歌集聞書三流抄』 12. 為顕流からの展開―謡曲への影響― 13. 古今伝授の世界―御所伝授・地下伝授― 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布プリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	レポート 70%、課題を含めた授業への参加度 30%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（日本文学論・中世Ⅱ）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的：お伽草子に見る中世日本人の想像力を考えることで現代日本文化の淵源を探る。 ○講義概要：鎌倉時代以降、日本人の庶民の想像力が解放されて爆発的に様々な「お話」が記録されるようになった。それらを総称して「お伽草子」と呼ぶ。 　現在「昔話」として語られる「お話」のほとんどは、「お伽草子」に淵源していると言っても過言ではない。つまりそれは、現代日本人の発想の根源の大きな一つが「お伽草子」にあるということである。 　今期は「浦島太郎」を講読し、考える。皆よく知っている昔話だが、実は元の形はかなり違っている部分もある。さらに古代から現代まで様々に変化して語り継がれてきた。それでも各時代に共通している世界観が存在している。 　現代生活の中にも潜む「境界領域」観を明らかにしながら物語を楽しんでいく。	1.　オリエンテーション・導入 2.　概説①（日本の「お話」の歴史） 3.　概説②（「お伽草子」とは何か？） 4.　「浦島太郎」を読む…発端と展開 5.　「浦島太郎」を読む…異人の出現と異世界への旅立ち 6.　「浦島太郎」を読む…異世界の理想郷性 7.　「浦島太郎」を読む…異世界の時間と空間 8.　「浦島太郎」を読む…異世界と現実世界の時間と空間 9.　「浦島太郎」を読む…結末「玉手箱」の意味 10.「浦島太郎」を読む…古代の「浦島太郎」日本書紀他 11.「浦島太郎」を読む…古代の「浦島太郎」万葉集他 12.「浦島太郎」を読む…現代の「浦島太郎」国定教科書 13.「浦島太郎」を読む…現代の「浦島太郎」絵本 14.まとめ…「浦島太郎と」と境界領域

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを読んでくること。 事後学修：講義の重点を確認しておくこと。
テキスト	授業時にプリントを配布する。
参考文献	授業中に一覧をプリントして配布する。
評価方法	学期末に、記述式の試験を実施する。その成績（100%）による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（韓国史）	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
現在、日本と韓国の関係は緊密になっているにもかかわらず政治的には良くない状況となっている。その原因は近代の歴史に起因する問題である。インターネットサイトの中には様々な見解が溢れ、中には極端なものも多い。いま必要なのは、韓国（朝鮮半島）の歴史についてのバランスのとれた理解である。そこで本講義では韓国の通史を講義し、東アジアの中での韓国の位置および日韓関係について学ぶ。 講義は、事前の予習を前提とし、ポイントを記したプリントを配布し、それに基づいて話をする。 知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。 なお不定期にレポートを課す場合がある。	第１回：ガイダンスー韓国史を学ぶ意義と全体像 第２回：古代から統一新羅へ（1）先史時代から高句麗 第３回：古代から統一新羅へ（2）百済と新羅 第４回：高麗時代（1）10世紀から12世紀 第５回：高麗時代（2）13世紀から15世紀 第６回：朝鮮時代（1）16世紀から17世紀 第７回：朝鮮時代（2）18世紀から19世紀 第８回：朝鮮時代（3）19世紀から20世紀 第９回：まとめと中間テスト 第10回：植民地時代 第11回：現代（1）1945年から1960年 第12回：現代（2）1960年から1980年 第13回：現代（3）1980年から2000年 第14回：現代（4）2000年以後

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを読んでくること。 事後学修：小テストに備え、テキストとプリントを見直すこと。
テキスト	水野俊平著『韓国の歴史＜増補改訂版＞』（河出書房新社、2017 年）
参考文献	授業時に指示する
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、中間、期末試験（50%）。 ※ただし試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（在外日本人研究）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。 明治のころ、一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫はいまや270万人にのぼる。 授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②そのうち家族をもち異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの激しい差別を受け、日本人たちは、④それに忍従で対応して、⑤今日の確固とした地位を確立する、過程をみていく。 ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、授業では日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。 この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部は参考文献を用いて講義の理解を深めることとする。	1. ガイダンス 2. 夢のハワイへ 3. ポリネシアハワイの生活 4. アメリカ西海岸への移動 5. 敵意のはじまり 6. 差別のメカニズム 7. 日本人の完全排除 8. 日米戦争と強制収容 9. 収容キャンプの生活 10. アメリカへの忠誠と従軍 11. 二世部隊 12. 帰米二世 13. 中南米へ渡った日本人 14. 戦後の人権獲得と汚名返上

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする
テキスト	『ハワイの日本人移民』明石書店
参考文献	特になし
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化１（日本における死生学）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
人は必ず死にます。そして「死」と直面したときに「生」を意識します。そのために儀礼が行なわれてきました。「死生学」は「死」と「生」をめぐる研究の1つです。 本講座で扱う問題は、決して過去の問題ではなく、現在、そして未来の問題です。現在では葬儀価格の高騰と葬儀の簡略化、一方で、格安葬儀社の社会問題化。そして墓地不足から墓地の変化、また限界集落では墓地管理者不足の問題を抱えています。なんのために葬儀をするのか、墓はなぜあるのか、葬儀や墓の形が多様化してきている現在ですが、いずれ我々が直面する問題であり、「死」を考えることは、現在の「生」の意味にも関わってくる問題だと思います。日本人が「死」をどのように捉え、儀礼を行ってきたのか。さらに、儀礼や墓制から死生観や霊魂観・先祖観を見ることで、未来を考えたいと思っています。	1. ガイダンス 2. 「死」と葬法 3. 日本の葬法の時代的変遷 4. 「死」の確認と直後の儀礼 5. 葬送儀礼次第―土葬― 6. 葬送儀礼次第―前近代の火葬― 7. 墓地・墓石の意味 8. 両墓制の問題 9. 近代以降の火葬の受容―葛藤― 10. 近代以降の火葬の受容―受容理由― 11. 葬法の変化とその意味 12. 霊魂観・死生観・先祖観 13. 葬送儀礼と誕生儀礼の類似性 14. 現代における葬送儀礼と問題

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。

	歴史と文化１（日本における世間学）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
「今日は何を着て学校へ行こうか、この恰好で変に思われないだろうか」と考えたことはないでしょうか。日本人はとかく「主体」的にではなく、「まわりの目」によって行動が、良くも悪くも規制される傾向にあります。それが「世間」であり、日本独特のものと言われています。現代において、「社会」の枠組みの中で生きている私たちですが、それとは別に、同時に「世間」の中を生きています。西洋的価値観の基に「社会」が成り立ち、ネットの発達で世の中が大きく変化していますが、「世間」が無くなることはなさそうです。 本講座が、我々をとりまく「世間」の構造を捉えることで、「主体」である「私」を「世間」の中でどのように位置づけ、どのように生きるのかを考える礎になればと思っています。	1. ガイダンス 2. 私と「ウチ」 3. 「ウチ」の可変性と同質性 4. 「ウチ」なる世界と「ソト」なる世界の関係 5. 「世間」とは何か 6. 「世間」の特質―「個人」の在り方を中心に 7. 「世間」の特質―無責任性を中心に 8. 「世間」の特質―長幼の序を中心に 9. 祭祀組織構造を概念としての「世間」から読み解く 10. 「恥」の文化 11. 「社会」と「世間」 12. 庶民感覚と政治―戦前までの意識 13. 庶民感覚と政治―戦後の問題 14. 現代の「世間」的世界

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。

	歴史と文化１（韓国の芸術と文化 a）	担当者	田代　裕一朗

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国における芸術（とくに造形）の変遷と展開を概観することで韓国の文化を理解することを目的とするとするものである。時代としては、前近代、つまり三国時代から朝鮮時代までを対象とし、各時代の造形を分野ごとに概観する。 基本的に講義形式の授業であるが、毎回の授業でコメントペーパー（授業終了時に提示する作品図版に関する短作文）の提出が必要となる。また現地調査課題（美術館博物館見学）にもとづくレポートを通して、実体験を伴った知識の習得を図る。 ※本講義は、韓国語能力を問わない。 ※秋学期の「韓国の芸術と文化b」は近現代を扱うが、それぞれ独立した講義であり、単独での履修でも内容の理解には差し支えない。	1. ガイダンス 2. 三国時代 ①（壁画） 3. 三国時代 ②（彫刻、瓦） 4. 統一新羅時代（彫刻、金属工芸、瓦） 5. 高麗時代 ①（螺鈿、金属工芸） 6. 高麗時代 ②（陶磁器） 7. 高麗時代 ③（彫刻、絵画） 8. 中間まとめ 9. 朝鮮時代 ①（彫刻、絵画） 10. 朝鮮時代 ②（絵画） 11. 朝鮮時代 ③（螺鈿、金属工芸、木工芸、服飾） 12. 朝鮮時代 ④（陶磁器） 13. 近現代の造形文化概観 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に配布するプリントを事前に読んでおく。また現地調査課題（美術館博物館見学）にもとづくレポートを通して、授業で学んだ内容を実体験とともに復習する。
テキスト	授業中に配布するプリント
参考文献	『世界美術大全集』東洋編 第 10 巻（高句麗・百済・新羅・高麗）・第 11 巻（朝鮮王朝），（小学館, 1998-99）.
評価方法	コメントペーパー60%、レポート（現地調査課題）40%

	歴史と文化１（韓国の芸術と文化 b）	担当者	田代　裕一朗

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国における芸術（とくに造形）の変遷と展開を概観することで韓国の文化を理解することを目的とするとするものである。時代としては、近現代を対象とし、社会的状況の変化と対応させながら時系列順にその変遷と展開を追う。 基本的に講義形式の授業であるが、毎回の授業でコメントペーパー（授業終了時に提示する作品図版に関する短作文）の提出が必要となる。また現地調査課題（美術館博物館見学）にもとづくレポートを通して、実体験を伴った知識の習得を図る。 ※本講義は、韓国語能力を問わない。 ※春学期の「韓国の芸術と文化a」は前近代を扱うが、それぞれ独立した講義であり、単独での履修でも内容の理解には差し支えない。	1. ガイダンス 2. 前近代の造形文化概観（三国時代～高麗時代） 3. 前近代の造形文化概観（朝鮮時代） 4. 日韓併合前後の東洋画、「西洋画家」の誕生 5. 朝鮮美術展覧会と「郷土色」 6. アカデミズムの形成と抽象画の受容 7. 日本人の韓国古美術愛好 8. 中間まとめ 9. 国展の創立と朝鮮戦争 10. 反国展とモダニズム 11. 軍事政権下の造形活動、民衆美術 12. 1990年代以降の動向 13. 北朝鮮の造形文化概観 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に配布するプリントを事前に読んでおく。また現地調査課題（美術館博物館見学）にもとづくレポートを通して、授業で学んだ内容を実体験とともに復習する。
テキスト	授業中に配布するプリント
参考文献	金英那（著），神林恒道（訳），『韓国近代美術の百年』，（三元社, 2011）.
評価方法	コメントペーパー60%、レポート（現地調査課題）40%

	現代社会１（グローバリゼーションを巡って）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
市場経済システムと民主主義という政治の仕組みによって近代社会が生まれ、文明を導いた要因の一つは、それが情報の優位性（アドバンテージ）をめぐる競争の勝者によってもたらされたことである。こうした観点から欧州や米国、そして後発地域のアジアから抜け出して「脱亜入欧」を果たした日本の歩みと情報のかかわりを考えてゆく。 経済成長のエンジンともいうべき科学技術の発展と情報を駆使して支配した市場の拡大は、欧米が近代社会をリードする大きな要因であり、民主主義など政治や社会のシステムもその産物といえよう。情報技術（IT）をこうした市場化や民主化を拡大してグローバリゼーションを進める力として歴史の中に位置づける一方、それが米国の覇権の揺らぎと中国など新興国の台頭、国内の格差の拡大や排外主義などの反作用を生んでいる現在にも目を向けて、近代から現代への歴史の道筋を捉えなおしたい。	1. はじめに 2. 文化と文明 3. 三つの波 4. 情報と近代社会①ルネサンスと科学技術 5. 情報と近代社会②プロテスタントと富の蓄積 6. 情報と近代社会③産業革命と大英帝国 7. 情報と覇権国家①米国と市場経済の発展 8. 情報と覇権国家②冷戦と豊かな社会 9. 情報と覇権国家③米国の覇権と揺らぎ 10. 情報と日本の近代①キャッチアップ 11. 情報と日本の近代②孤立と破綻 12. 情報と日本の近代③成長とその翳り 13. 情報とグローバリゼーション 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自参考文献の通読とともに、講義の中のキーワードを調べなおして論点の整理を心がけること。
テキスト	各回配布する資料をテキストとする
参考文献	佐和隆光『市場主義の終焉』（岩波新書）を参考文献とする。
評価方法	定期試験の実績（80%）に加えて、授業内で課すレポートの実績（20%）を勘案して評価する。

	現代社会１（日本の表象と世界）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
情報化の進展は企業間の競争のシステムから民主主義や法など統治の仕組み、社会の「公」と「私」の関係や固有の文化のありようなど、「近代」が自明としてきたさまざまなシステムや制度、ルール、価値観を大きく変える。 米国の一極支配に覆われてきた前世紀の経済社会がその覇権の凋落と新興国の著しい台頭へ局面を転換させ、文明の正統性を担う欧州がEUの分裂で混迷する一方、異文化のイスラムが激しい反抗を広げているのも、情報化によるグローバリゼーションの陰画であろう。 ネット世論が強まる一方で仮想通貨が貨幣システムを揺るがす。知的財産の価値が企業の秩序を変える一方、グローバリゼーションはローカルな文化の反発も呼び起こす。情報技術によって激しい変化の波に洗われている近代社会のシステムや価値観をさまざまな領域に探り、これからの社会が共有すべき新たな秩序形成の条件を探る。	1. はじめに 2. ソフトパワーの時代 3. 「表現の自由」の二律背反 4. 選挙と「炎上」－民主主義の逆説 5. フラットな企業と尖った人材 6. ビットコイン－貨幣とは何か 7. 社会リスク－ネット犯罪と安全 8. 知的財産　保護と利用－著作権・特許権 9. 国際分業と競争力 10. 文化の逆説―レクサスとオリーブの木 11. 規制緩和と派遣労働 12. エンロン破綻－金融化と市場の失敗 13. フェアとシェア－互酬社会と格差社会 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自参考文献の通読とともに、講義の中のキーワードを調べなおして論点の整理を心がけること。
テキスト	各回配布する資料をテキストとする
参考文献	石田英敬『大人のためのメディア論講義』（ちくま新書）を参考文献とする
評価方法	定期試験の実績に加えて、授業内で行うリポートの実績（20%）を勘案して評価する。

	現代社会１（経済学１）（はじめての経済学）	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　本講義の目的は、経済学の基本的な考え方をマクロ経済学を中心に紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 　テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う。 　Ⅰ．マクロ経済学の基本 　Ⅱ．公共部門が担う経済的機能 　Ⅲ．金融システムを理解する 　Ⅳ．国際経済を見る目を養う 　なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト上巻の第Ⅱ章および下巻の第Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ章に対応している。	1.　ガイダンス――経済学とはどのような学問か 2.　GDP を中心にマクロ経済を考える 3.　需要と供給で考える 4.　マクロ経済のコントロール 5.　財政支出と累進課税 6.　自然独占と公共財 7.　景気対策と日本の財政状況：プライマリーバランス 8.　貨幣のもつ様々な機能 9.　マネーストックと金融政策 10. 信用乗数と資産市場の全体像：バブルの発生と崩壊 11. 国際収支表の基本 12. 為替相場の仕組みとその動向 13. 企業の戦略および収益と為替の関係 14. 比較優位――国際的な自由貿易の恩恵

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業時に強調するポイントや次回の講義箇所の指摘等による教科書ないし参考文献の復習および予習
テキスト	伊藤元重『はじめての経済学（上）・（下）』日本経済新聞社.
参考文献	伊藤元重『入門 経済学 第４版』日本評論社.
評価方法	レポートと期末試験のいずれかないし両方を行い、学習の成果を示すそれら出来具合に基づいて（両方を行った場合は合算で 100％となる形で）評価する。

	現代社会１（経済学２）（はじめての経済学）	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　本講義の目的は、経済学の基本的な考え方をミクロ経済学を中心に紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 　テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う。 　Ⅰ．ミクロ経済学の基本 　Ⅱ．ゲーム理論の考え方 　Ⅲ．マクロ経済学の考え方 　Ⅳ．日本経済の変遷を学ぶ 　なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト上巻の第Ⅵ・Ⅴ・Ⅱ・Ⅲ章に対応している。	1.　ガイダンス――経済学とはどのような学問か 2.　民営化・規制緩和の経済学的根拠 3.　市場メカニズムを解剖する 4.　市場はこうして失敗する 5.　ゲーム理論のエッセンス 6.　囚人のジレンマ 7.　コミットメントとは何か 8.　出店戦略分析 9.　GDP と三面等価 10. 需要と供給で考える 11. 財政・金融政策 12. 日本経済の構造変化――石油ショックと変動相場制 13. 日本経済のグローバル化――プラザ合意前後 14. バブルの形成と崩壊後の日本経済

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業時に強調するポイントや次回の講義箇所の指摘等による教科書ないし参考文献の復習および予習
テキスト	伊藤元重『はじめての経済学（上）・（下）』日本経済新聞社.
参考文献	伊藤元重『入門 経済学 第４版』日本評論社.
評価方法	レポートと期末試験のいずれかないし両方を行い、学習の成果を示すそれら出来具合に基づいて（両方を行った場合は合算で 100％となる形で）評価する。

	現代社会 1（日本国憲法）	担当者	L．ペドリサ

講義目的、講義概要	授業計画
日本国憲法は生誕 70 年を迎えました。例えば、憲法改正の妥当性、国防と集団的自衛権の必要性、天皇の退位、ヘイトスピーチの規制など、最近、「憲法」に関るニュースや議論は、メディアの話題となっています。この講義では、日本国憲法にスポットライトを当てて、「憲法」という学問分野の基礎知識を身につけます。また、「日本国憲法」を一つのドキュメントとして一通り読むことは、この講義のもう一つ大きな目標です。授業は講義式で行います。	1. 講義の概要 2. 憲法とは 3. 日本憲法略史 4. 国民主権の原理 5. 天皇制 6. 平和主義 7. 立法の府：国会 8. 行政の府：内閣 9. 司法の府：最高裁判所と下級裁判所 10. 人権の歴史 11. 人権の主体と人権の限界 12. 自由権 13. 社会権 14. 参政権

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回配布される講義ノートと資料を精読しておいてください。また、定期的に出される課題を解いて提出してください。およそ 4 時間分の学習
テキスト	毎回、講義ノートを配布します
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験 70%、小テスト・課題 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	現代社会１（日本国憲法）	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
日本国憲法の入門講義を行う。半期完結講義なので、ピンポイント的に日本の人権問題を扱うことになる。 毎回、判例を読みながら、この国の人権状況を考えてみたい。 指定した教科書の他、『六法』と判例は必ず持参すること。『六法』については初回、講義で説明する。	1. ガイダンス 2. 『六法』の使い方／憲法の意味 3. 憲法概念 4. 日本国憲法制定小史 5. 法の下の平等 6. 法の下の平等＋精神的自由：信教の自由 7. 精神的自由：信教の自由と政教分離 8. 精神的自由：学問の自由 9. 精神的自由：表現の自由／報道の自由 10. 精神的自由：表現の自由／プライバシーの権利 11. 人身の自由と被疑者の人権 12. 社会権：生存権 13. 社会権：教育権 14. 総評＋「法律学の答案の書き方」

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：教科書を通読しておくこと。 事後：講義中あげた参考文献を下に「憲法復習ノート」を必ず作成すること。
テキスト	加藤一彦『教職教養憲法 15 話［改訂 3 版］』（北樹出版）
参考文献	加藤一彦『憲法〔第 2 版〕』（法律文化社）
評価方法	定期試験：100％

	現代社会１（日本国憲法）	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
日本国憲法の入門講義を行う。半期完結講義なので、ピンポイント的に日本の人権問題を扱うことになる。 毎回、判例を読みながら、この国の人権状況を考えてみたい。 指定した教科書の他、『六法』と判例は必ず持参すること。『六法』については初回、講義で説明する。	1. ガイダンス 2. 『六法』の使い方／憲法の意味 3. 憲法概念 4. 日本国憲法制定小史 5. 法の下の平等 6. 法の下の平等＋精神的自由：信教の自由 7. 精神的自由：信教の自由と政教分離 8. 精神的自由：学問の自由 9. 精神的自由：表現の自由／報道の自由 10. 精神的自由：表現の自由／プライバシーの権利 11. 人身の自由と被疑者の人権 12. 社会権：生存権 13. 社会権：教育権 14. 総評＋「法律学の答案の書き方」

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：教科書を通読しておくこと。 事後：講義中あげた参考文献を下に「憲法復習ノート」を必ず作成すること。
テキスト	加藤一彦『教職教養憲法 15 話［改訂 3 版］』（北樹出版）
参考文献	加藤一彦『憲法〔第 2 版〕』（法律文化社）
評価方法	定期試験：100％

	現代社会１（民法１）	担当者	小川　佳子

講義目的、講義概要	授業計画
法とはなにか。私たちは、あらゆる法に囲まれ、法と密接な関わりを持ちながら生きているが、そもそも法とはなにか。何のためにあるのか。さらに、裁判とは何か。これらについて解説した後、民法についての講義を行う。後半では、典型的なケースについて説明を行う。なお、講義を通し、その都度、ニュースとなった裁判や法律問題についても解説を行う予定である。	1. 法とは何か。 2. 法と裁判 3. 生活関係と法 4. 民法とは（1）概説 5. 民法とは（2）財産編 6. 民法とは（3）家族編 7. ケース：金銭消費貸借 8. ケース：建物賃貸借 9. ケース：不動産明渡 10. ケース：売買 11. ケース：親族関係 12. ケース：相続関係 13. ケース：成年後見 14. ケース：まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバス及び直前の講義においてテーマとして指定された論点につき、考察しておくこと
テキスト	最新版の六法
参考文献	特になし
評価方法	期末試験で評価する。なお、答案作成は黒または青のペン書きに指定する（鉛筆で作成された答案は成績評価の対象としない）。

	現代社会１（民法２）	担当者	小川　佳子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、民法についての解説を行う。秋学期では民事紛争の解決はどのように行われるかについてまず解説し、その後、春学期では触れられなかった類型の民事事件につき解説する。	1. 民事紛争と民法 2. 民事紛争の解決：さまざまな方法 3. 民事紛争の解決：裁判 4. 民事紛争の解決：裁判外解決手続について 5. 民事紛争の解決：国際的な紛争 6. ケース：債権回収 7. ケース：労働事件 8. ケース：損害賠償 9. ケース：医療関係事件 10. ケース：交通事故事件 11. ケース：時効 12. ケース：保証 13. 最近の裁判例 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバス及び直前の講義においてテーマとして指定された論点につき、考察しておくこと。
テキスト	最新版の六法
参考文献	特になし
評価方法	期末試験で評価する。なお、答案作成は黒または青のペン書きに指定する（鉛筆で作成された答案は成績評価の対象としない）。

	現代社会 1（国際法 1）（国際社会と私たち）	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において国際法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国際法上の主たる行為主体である国家を中心とした観点から学ぶ。また、海洋についての国際制度を概観する。	1. 講義の概要 2. 国際法の形成と発展 3. 国際法の存在形態 4. 条約法 5. 国際法と国内法 6. 国際法の基本的法原則 7. 国際法における国家 8. 主権免除 9. 国家責任 10. 外交関係法 11. 沿岸国の権限が及ぶ海洋 12. 国際公域としての海洋 13. 地球環境の保全 14. 講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストや参考文献等の指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。
テキスト	横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年。
参考文献	『国際条約集』有斐閣 2019 年。
評価方法	期末試験の成績により評価し（70%）、課題レポート・小テストなどの成果および授業への参加度も評価対象にする（30%）。

	現代社会 1（国際法 2）（国際紛争を考える）	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において国際法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会のさまざまな分野で発展しつつある国際法を概観するとともに、国際社会に生じる紛争が、集団安全保障や裁判を通じてどのように解決が図られているかについて考察する。	1. 講義の概要 2. 国際法と戦争の違法化 3. 国連の集団安全保障 4. 国連のもとでの武力行使に関する諸問題 5. 平和的紛争解決と仲裁裁判 6. 国際司法裁判所 7. 国際機構 8. 国際連合の設立と活動 9. 国籍・外国人 10. 難民・国際犯罪 11. 国連による人権保障 12. 人権条約 13. 経済活動と国際法 14. 講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストや参考文献等の指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。
テキスト	横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年。
参考文献	『国際条約集』有斐閣 2019 年。
評価方法	期末試験の成績により評価し（70%）、課題レポート・小テストなどの成果および授業への参加度も評価対象にする（30%）。

18 年度以前	現代社会 1（社会学 a）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も、家族や親しい友人も「他者」である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、そういった他者たちと社会的関係を築かなくては私たちは生活できない。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。本講義では、社会学の基礎知識をふまえつつ、先行研究を現代的な文脈で捉え、社会学が生まれた経緯と社会学的視点、さらにアイデンティティ形成のメカニズムについて学ぶ。それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えてみよう。	1. イントロダクション 2. 社会学的視座とは 3. 社会学の歴史（1）――A.コント、H.スペンサー 4. 社会学の歴史（2）――E.デュルケム 5. 社会学の歴史（3）――M.ウェーバー 6. 社会の類型（1）――コミュニティとアソシエーション 7. 社会の類型（2）――ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 8. 社会の類型（3）――第一次集団 9. Identity形成と社会（1）――鏡に映った自己 10. Identity形成と社会（2）――重要な他者 11. Identity形成と社会（3）――マージナル・マン 12. Identity形成と社会（4）――未定 13. 補完的アイデンティティについて 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	身分証明書以外に私が私であることを証明するものはなにか、考えておく。
テキスト	授業内で指示する
参考文献	授業内で指示する
評価方法	授業への積極性（小レポートや提出物）50%、 期末試験 50%

18 年度以前	現代社会 1（社会学 b）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちが日常的に何気なく行っていることや「あたりまえ」だと思っていること、あるいは「社会問題」と呼ばれる事象について、社会学的な見地から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。 本講義では、近代の都市社会やグローバル化が抱える問題についての研究業績を知り、それを手がかりにしながら、わたしたちにとって身近な出来事を社会学的に考えてみたい。とくに「都市」「移民」「地域」「大量消費」「社会的逸脱」といったキー概念を中心に扱う。	1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」――E.フロム 3. 同調様式の3類型――D.リースマン 4. 都市化と移民――W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説――E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題――R.パーク 7. 予言の自己成就――R.K.マートン 8. 誇示的消費――T.ヴェブレン 9. 認知的不協和の理論――L.フェスティンガー 10. 文化的再生産――P.ブルデュー 11. コンフルエント・ラブ――A.ギデンズ 12. 現代社会を社会学的にみる（1）情報技術とメディア 13. 現代社会を社会学的にみる（2）グローバル化 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	グローバル化と都市化がもたらす光と影について考えておく。
テキスト	授業内で指示する
参考文献	授業内で指示する
評価方法	授業への積極性（小レポートや提出物）50%、 期末試験 50%

	現代社会１（地理学１）（自然環境と文化）	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。春学期は自然環境の成り立ちと熱帯地域および砂漠地域の諸相を検討する	1. オリエンテーション 2. 自然と人間とのかかわり 3. 環境の諸要素（1）地球の特質 4. 環境の諸要素（2）地形環境 5. 環境の諸要素（3）気候環境 6. 環境の諸要素（4）植生と土壌　生態系 7. 熱帯地域（1）自然的特質と伝統的農業 8. 熱帯地域（2）アジアの稲作 9. 熱帯地域（3）熱帯の開発と問題（マレーシアの例） 10. 熱帯地域（4）熱帯の開発と問題（アマゾンの例） 11. 砂漠地域（1）自然的特質と伝統的生業 12. 砂漠地域（2）イスラムの世界 13. 砂漠地域（3）石油資源と近代化 14. 砂漠地域（4）アラブとイスラエル

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。その地域のニュースを地理的な視点から読み解く。
テキスト	授業中に示す
参考文献	山本他『自然環境と文化』他授業中に示す
評価方法	定期考査９割　授業参加度１割

	現代社会１（地理学２）（自然環境と文化）	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。秋学期は、温帯地域、冷帯地域、寒帯地域および世界の環境問題について扱う。	1. 温帯地域（1）自然的特質 2. 温帯地域（2）地中海地域 3. 温帯地域（3）西ヨーロッパ（歴史と文化） 4. 温帯地域（4）西ヨーロッパ（産業と経済） 5. 温帯地域（5）北米の温帯地域（歴史と文化） 6. 温帯地域（6）北米の温帯地域（産業と経済） 7. 温帯地域（7）アジアの温帯地域（歴史と文化） 8. 温帯地域（8）アジアの温帯地域（産業と経済） 9. 冷帯地域（1）自然的特質 10. 冷帯地域（2）北欧諸国とロシア 11. 寒帯地域 12. 山地地域 13. 世界の環境問題（1）人口と食糧問題 14. 世界の環境問題（2）気候変動

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。その地域のニュースを地理的な視点から読み解く。
テキスト	授業中に示す
参考文献	山本他『自然環境と文化』他授業中に示す
評価方法	定期考査９割　授業参加度１割

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	現代社会１（ジェンダーとメディア表象）	担当者	西山　千恵子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　私たちは毎日メディアを通じて膨大な情報に接し、そこから女性、男性についての「知識」を得て、男女のイメージ、固定観念を作り上げています。 　この講義では、ジェンダー概念を理解したうえで、ジェンダーの視点からメディアを批評的に読み解く力をはぐくむことを目的とします。 講義概要 　講義の前半はジェンダー概念の基礎的理解を図り、後半はメディア・リテラシーの基礎を踏まえたうえで、メディアをジェンダーの視点で検討していきます。また既存の固定的な男女のイメージに対抗する表現についても考察していきます。授業の終わりにはコメントカードの提出があります。一部、性的表現や暴力的表現を含む映像等もありますので、ご了承ください。	1.　ジェンダーとは何か 2.　国連の「男女平等」に向けての動き 3.　日本の「男女平等」に向けての動き 4.　日本語とジェンダー 5.　ジェンダーとジェンダーの周辺概念 6.　セクシュアル・マイノリティの主張・運動 7.　セクシュアル・マイノリティとメディア表現 8.　メディアとジェンダー 9.　ジェンダー視点のメディア・リテラシー 10. 広告における性表現とジェンダー 11. 映画とジェンダー 12. 教材・広報におけるジェンダー 13. ポルノメディアとジェンダー 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	授業後、配布したプリントやノートを確認し、講義内容を復習すること。 また日常接するメディアに描かれた人物の表象について、「作られた男女イメージ」などの観点から意識して見直してみること。
テキスト	印刷物を配布します
参考文献	参考文献は授業中に指示します。
評価方法	学期末試験 100% 。特にすぐれたコメントはこれを加点要素とする。

	現代社会１（歴史の中のメディア）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
歴史とコミュニケーションの技術の変化のなかでメディアが果たしてきた役割の変遷を歴史のなかで考える。今日のデジタルメディアの広がりがもたらしている社会の変容を見るまでもなく、メディアがもたらす情報の伝達の歴史は政治経済、国際関係をはじめ、その時代の価値を作り出す、すぐれて文明的な営みの歴史である。 人の肉声のやりとりが文字で記録され、さらに活字印刷が同時大量伝達を可能にして近代社会への道筋ができた。やがて新聞雑誌など活字媒体から電信、映像、電波へ技術革新によるコミュニ―ケーションの広がりは、情報伝達のスピードと規模を飛躍させただけでなく、知識の価値や人間の感覚の拡張などの新たな地平を広げた。インターネットによってあらゆる情報が瞬時にやりとりされる今日からさかのぼって、メディアが取り結ぶ人間と情報のかかわりと、その社会システムの形成について学んでゆく。	1. はじめに 2. グーテンベルクの革命 3. ピュリツァーと〈新聞戦争〉 4. ロイターと大英帝国 5. 視覚の 20 世紀 6. プロパガンダとメディア 7. 戦争と国民国家とメディア 8. グローバリゼーションと情報 9. メディア複合体とテレビの行方 10. エンターテインメントとメディア 11. 民主主義とメディアモデルの揺らぎ 12. GAFA と情報の無償化 13. メディアのなかの人間 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を事前に読んでおくとともに、各回のキーワードを事後調べなおして論点整理を心がける。
テキスト	各回配布する資料をテキストとする
参考文献	ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする
評価方法	定期試験の評価（80%）に加えて、授業内で課すリポート（20%）を勘案して評価する

	現代社会１（メディアと現代社会）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
「マスメディア」と呼ばれてきた新聞、テレビ、出版など伝統的なメディアは、その発展と社会的な機能の広がりが近代の民主主義と市場経済という仕組みと密接にかかわってきた。これらは公権力のような力の裏付けを持たず、一般の企業体のような利益動機だけで動くのでもないが、国民の代理人というべき立場から、自由な言論表現を通して広く民主主義社会の公益に資することを、その存在理由としてきた。近年それが大きな曲がり角にあるのは、インターネットの台頭による個人の情報発信の拡大と、その反面で進むジャーナリズムの衰弱など、メディアの技術革新の光と影に負うところが大きい。言論機能の後退、フェイクニュースの蔓延にみる民主主義の機能不全など、世界のメディアを取り巻く問題点を具体的な事例に沿って検証しながら、今日のメディアの機能を改めて考える。	1. はじめに 2. ジャーナリズムとはなにか 3. 調査報道と「知る権利」 4. 「表現の自由」と現代社会 5. 誤報・虚報はなぜ生まれるのか 6. 「世論」はだれがつくるのか 7. 情報操作はなぜ行われるのか 8. メディアの倫理と「公益性」の行方 9. 放送と通信の融合とメディア再編 10. 外交と情報摩擦 11. 国家機密保護と情報漏洩 12. メディアと文化 13. フェイクニュース―ネット社会と「公共圏」 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を事前に読んでおくとともに、各回のキーワードを事後調べなおして論点整理を心がける。
テキスト	各回配布する資料をテキストとする
参考文献	佐藤卓己『メディア社会』（岩波新書）
評価方法	定期試験の評価（80%）に加えて、授業内で課すリポート（20%）を勘案して評価する。

	現代社会 1（社会科学概論 1）	担当者	嶋津　格

講義目的、講義概要	授業計画
大学でこれから学問を始めようとしている諸君を相手に社会科学の入門的授業をするというのは、私のような老学者にとってはとてもワクワクする挑戦です。私の能力の許す限りで、自分が18歳だったらこんな授業が聴きたかったな、と思えるような授業をしたいと考えています。講義の目的は、これから社会科学上の様々な議論を学ぶ諸君に対して、全体の海図として使えるような大まかな地図を与えることです。もちろんそれは、私の個人としての偏りから自由ではありませんが、後で学生諸君が自由に訂正・批判してゆくための手始めとして役立てばよいのです。何の先入観ももたずに大海原の航海に乗り出すのは、あまりにも無謀、いやむしろ不可能なことですから。 前半の社会科学概論1では、私がこれまで付き合ってきた何人かの思想家を種にして、自分の学問史の要素も含めて講義します。	1. ケルゼン 2. マルクス主義1（歴史哲学） 3. マルクス主義2（搾取論） 4. ポパー1（科学哲学） 5. ポパー2（開かれた社会論） 6. ハイエク1（思想史） 7. ハイエク2（自生的秩序論） 8. ロールズ1（正義論） 9. ロールズ2（政治的リベラリズム論）とクカタス 10. ノージック 11. オークショット1（政治的合理主義） 12. オークショット2（Human Conduct論） 13. ファインバーグ1（道徳的権利論） 14. ファインバーグ2（安楽死論、環境論など）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	下記 HomePage で挙げる文献に目を通してみよう。嶋津に、質問や自分の意見を書いたメールを出してみよう。メアドは k17010@dokkyo.ac.jp
テキスト	一部のテキストはネット経由（regulativeidea.cool.coocan.jp）で配布する。
参考文献	参考文献については、上記ネット経由で指示する。授業で Password 確認のこと。
評価方法	期末試験 100%（短答式）による。質問等のメールは 5%以内で加点する（減点はなし）。

	現代社会 1（社会科学概論 2）	担当者	嶋津　格

講義目的、講義概要	授業計画
前期では何人かの（私が影響を受けた）思想家の思想内容を駆け足で紹介することが中心でした。後期は私なりの近現代史です。現代日本の理解のために必要と思われる部分について、日本から見た世界史、世界から見た日本史、を話してみます。これまで学校で学んだものとはかなり異なる内容になる予定です。できれば一つ一つの論点を、自分がこれまで信じてきたものと突き合わせ、チェックしながら授業を聴いてほしいと思います。もちろん、その結果が私と同じ考えになる必要はまったくありません。それぞれ私の授業の元になったアイデアの書いてある本を紹介しながら授業を進めます。学生諸君にはその中から自由にどれか一冊を選んで読み、それについて期末試験に代わるレポートを書いてもらいます。	1. 序論：全体の見通し、その他 2. 第1次世界大戦と平和主義 3. 戦間期の日本（台湾・朝鮮・満州） 4. 第2次世界大戦1（開戦） 5. 第2次世界大戦2（終戦） 6. 米軍の占領政策と日本の戦後体制 7. 冷戦と日本（安全保障と平和主義） 8. 明らかになった共産主義の現実1（ソ連） 9. 共産主義の現実2（中国他） 10. 冷戦の終焉と「歴史の終わり」 11. 「終わ」らなかった歴史と文明の衝突 12. もう一つのフェミニズム 13. 米国における多文化主義またはdiversity論の日常 14. ナショナリズム論

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	全部は無理でも、授業の前または後に、できるだけネットで示した参考書に目を通してみてほしい。
テキスト	なし
参考文献	ネット経由（regulativeidea.cool.coocan.jp）で、各回の授業について参考書を指示する。
評価方法	期末レポート 100%による。質問等のメール（k17010@dokkyo.ac.jp）は 5%以内で加点する（減点はなし）。

	現代社会１（中東の社会空間）	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、西アジア・北アフリカ両地域に暮らす人々の社会について学び、グローバル化社会で活躍するために必要な異文化理解力を習得することを目的とします。 講義内容は、社会の仕組みと関係する宗教、慣習、立法、制度などの基礎的な知識を解説します。また、社会現象として対立を取り上げ、人々の行動および思考と社会との関係について理解を深め、異なる文化を持つ人々との共生方法について、自分の意見を述べることができるようにします。 授業は、基本的に講義形式をとりますが、理解を深めるため、7回目からグループ討論を取り入れます。	1. イントロダクション（市民社会と生活規範を考える） 2. 地域概念：中東の誕生について 3. 地域の多様性：宗教、民族、言語について 4. 一神教の基礎知識：啓典の民について 5. イスラムの基礎知識：共同体と生活規範について 6. イスラム法学：法根源と法学派 7. イスラエル・パレスチナ紛争について 8. 占領と抵抗（討論：中東における占領の事例から考察） 9. イラン・イラク戦争について 10. 国境と越境（討論：中東における国境紛争から考察） 11. 湾岸戦争について 12. 正統性と違法性（討論：武力行使から考察） 13. テロとの戦いについて 14. 共生と排除（討論：多文化共生から考察）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習資料を事前に熟読（30 分程度）、不明な用語の調べ（60 分程度）を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください（90 分程度）。
テキスト	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。
参考文献	アンソニー・ギデンズ『社会の構成』、ロバート･N･ベラー『宗教とグローバル市民社会』
評価方法	学習態度（15%）、課題（35%）、最終レポート（50%）で総合的に評価します。

	現代社会１（中東政治と市民社会）	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、21世紀型市民社会における市民の政治・社会運動を理解するための知識を習得することを到達目的とします。 講義内容は、社会が大きく変動している西アジア・北アフリカ両地域でみられた「アラブの春」の事例分析を通し、社会運動や帰属意識について解説します。そのことで、国際的な市民運動の高まりを理解し、分析する力を身につけるようにします。 授業は、4回目までは講義形式で社会変動についての基礎知識を学びます。5回目以降は、具体的事例の解説、その次の授業でその事例にかかわる具体的な概念の確認と理解を深めるためのグループ討論という形式で授業を進めます。	1. イントロダクション（市民社会における統治を考える） 2. 社会変動と社会運動：社会変動について 3. 現代の社会運動とその特徴：運動の広がりについて 4. 現代中東と政治：民主化移行論について 5. チュニジアの政変について 6. 青年層と失業（討論：産業構造から考察） 7. エジプトの政変について 8. 社会運動と宗教（討論：富の分配から考察） 9. リビアの政変について 10. 民意と統治（討論：直接民主制から考察） 11. シリアの政変について 12. マイノリティと権利（地方自治から考察） 13. 市民運動の比較 14. 市民運動の行方（討論：市民の政治参加から考察）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：予習資料を事前に熟読（30 分程度）、不明な用語の調べ（60 分程度）を行ってください。 事後学習：授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください（90 分程度）。
テキスト	特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。
参考文献	田中ひかる編著『社会運動のグローバル・ヒストリー』、福富満久『中東・北アフリカの体制崩壊と民主化』
評価方法	学習態度（15%）、課題（35%）、最終レポート（50%）で総合的に評価します。

	現代社会１（地域メディア論）	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locallyというフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。それに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには現代の環境問題や社会福祉のあり方を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌やフリーペーパー、コミュニティFMなどである。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。学期のさいごには、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらう。	1.　イントロダクション 2.　グローバル化とローカル・コミュニティ 3.　地域・地方文化の復権とメディア 4.　各地の地域メディア（谷根千） 5.　各地の地域メディア（渡良瀬通信） 6.　各地の地域メディア（シティライフ） 7.　メディアによる地域文化の創造 8.　メディアによる地域文化の継承 9.　災害と地域メディア（FM わぃわぃ） 10.　災害と地域メディア（石巻日日新聞） 11.　多文化共生と地域メディア 12.　多言語地域メディア 13.　受講者による発表（前半グループ） 14.　受講者による発表（後半グループ）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分がよく読んだり視聴したりするローカル・メディアについて調べておく。
テキスト	岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房
参考文献	授業の中で指定する
評価方法	授業時間内での発表・質問など（50%）、期末試験（50%）

	現代社会１（NGO 論）	担当者	清水　俊弘

講義目的、講義概要	授業計画
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。	1.　NGO論オリエンテーション 2.　紛争の蓋然性を高める世界情勢を概観する 3.　「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ／アフガニスタンの現状とNGOの活動 4.　「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ／イラク戦争と人道支援 5.　イラクの現状とNGOによる平和構築の取り組み 6.　パレスチナ問題とNGOの取り組み 7.　NGOの安全対策（講義と演習） 8.　東アジアの平和と市民交流 9.　「貧困対策」と持続的開発目標（SDGs）。ラオスにおける森林保全から考える。 10.　アフリカにおけるHIV／AIDSの原状とNGOの取り組み 11.　NGOの組織運営と人材、資金について 12.　非人道兵器の禁止と市民社会Ⅰ・対人地雷の全面禁止を実現した市民社会　～地雷廃絶ｷｬﾝﾍﾟｰﾝに学ぶNGOのﾈｯﾄﾜｰｸ～ 13.　非人道兵器の禁止と市民社会Ⅱ・クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 14.　非人道兵器の製造と社会的責任投資　ESG投資を促すNGOの取り組み

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に政府開発援助（ODA）や国連などの国際機関の概要について予習をしておくこと、そして事後には様々な NGO が主催するセミナーに参加したり、インターンとして関わることを薦める。
テキスト	特になし。
参考文献	日本国際ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ著『NGO の選択』めこん　2005 年・清水俊弘著『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年
評価方法	平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30%）及び期末考査（小論文またはリポート）の結果（70%）を評価対象とする。

	現代社会１（教育法１）	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法は、教育の場で生じる様々な問題を、法的視点から、つまり、権利義務関係の視点から整理して問題の分析・解決を提起してゆく法分野です。現在、学校でも、家庭でも、子どもの人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例も後を絶たないし、一部の部活動では一定程度の体罰・暴力を当然視している場合もあります。また、いじめについては対策法も制定されるほど学校では常態化しており、いじめ自殺報道も続いており、いじめ裁判は増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害についての具体的な裁判例を、体罰、いじめ、校則、学校教育措置、教育情報に分類して、法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を解説します。	1. 学校における子どもの人権侵害と裁判 2. 学校事故裁判と子どもの人権裁判 3. 体罰裁判とその特徴 4. 天草市体罰事件最高裁判決 5. 生活指導とその限界（指導死事件） 6. いじめ裁判とその論点 7. いじめ自殺と予見可能性 8. いじめ対策推進法と課題 9. 丸刈り訴訟と校則裁判の論点 10. パーマ校則裁判 11. 学校教育措置と原級留置き訴訟 12. 信教の自由と学習権（エホバの証人信徒退学事件） 13. 教育個人情報保護（指導要録開示請求事件） 14. 学力テスト学校別結果公開請求事件

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で取り上げる判例を事前または事後に読んでほしい。
テキスト	教育関係 6 法：教育小六法（学陽書房）・解説教育六法（三省堂）
参考文献	市川須美子「学校教育裁判と教育法」（三省堂）
評価方法	試験　100%

	現代社会１（教育法２）	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法の現代的状況把握（教育法a）を前提に、教育法のより体系的な理解のために、歴史的アプローチとして簡略な戦後教育法史を解説し、教育法の基礎概念である教育人権の理解を深めます。まず、戦後教育改革の法制とその変質過程（教育法の生成過程でもあります）を、代表的な自主性擁護的教育裁判を通じて通覧し、国家と教育のかかわり方を考察します。次に、主要な教育人権である学習権、親の教育の自由、教師の教育の自由を教育判例によって考察します。最後に、地方教育行政のあり方、2006年教育基本法改正とその後の教育法制の展開を分析します。	1. 戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2. 逆コースの教育改革 3. 教科書裁判――教科書検定制度 4. 教科書裁判――家永教科書訴訟の論点 5. 最高裁学テ判決 6. 障害児の学習権（特殊学級入級処分訴訟） 7. 子どもの市民的自由（内申書裁判） 8. 親の教育の自由の歴史的展開（日曜日訴訟） 9. 道徳教育債務履行請求事件 10. 親の教育情報請求権 11. 教師の教育の自由（伝習館高校事件） 12. 教師の教育の自由と日の丸・君が代強制 13. 教育委員会制度の変遷 14. 教育基本法改正とその後の教育法制

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で取り上げる判例を事前または事後に読んでほしい。
テキスト	教育関係 6 法：教育小六法（学陽書房）・解説教育六法（三省堂）
参考文献	兼子仁「教育法」（有斐閣）
評価方法	試験　100%

	現代社会１（ブラジル研究）	担当者	Ｅ．ウラノ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、受講生がブラジルについて積極的に考え、独自の視点を身につけることである。そのために、ブラジルに関する基礎知識を勉強していただくとともに、社会科学をベースとした思考能力を高めることを目指す。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性と挑戦的課題を、社会･経済・政治面から解説する。例えば、これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や社会政策が必要なのか、激変するブラジルの政治的シナリオをどう解釈すれば良いのかなどを課題として取り上げる。 近年目立つ出来事として､BRICsやG20などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。また、２０１９年に誕生した新政権により、今後ブラジルはいかなる方向に進行しうるのかを議論する。 講義形式の授業ではあるが、双方向のコミュニケーション、学生のプレゼンテーションなどを通じて積極的な参加が期待される。	1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 「失われた 80 年代」、90 年代、インフレーション、経済安定化 3. 2000 年代、経済成長への道 4. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família、新中間層の誕生 5. 人種による不平等：クォーター制度と是正の試み 6. 2010 年代の経済停滞と政治混乱 7. 左から右へ：2019 年新政権誕生が持つ意味 8. 映像から見たブラジル 9. 映像が語るブラジルという国 10. 日本の中のブラジル：１９８０年代に始まった日系ブラジル人の日本への国際移動 11. 在日ブラジル人の労働と社会 12. 外国人労働者受け入れにおける今日的課題と在日ブラジ人 13. 学生のプレゼンテーション 14. 学生のプレゼンテーションとまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	書籍、新聞、ニュースなどからブラジル関連の情報を自分でピックアップして、内容について予習をすること。
テキスト	テキストはなし。文献は授業時に紹介する。
参考文献	堀坂浩太郎（2012）『ブラジル―跳躍の軌跡』、岩波新書
評価方法	平常授業における課題レポートと参加(20%)、 プレゼンテーション(20%)、 期末試験（60%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

18年度以前	現代社会１（韓国政治論）	担当者	呉　吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国の政治や政治史についての基礎的な知識を習得して、朝鮮半島の政治と社会に対する理解を深めることが目的である。 韓国の政治社会を正確に理解するためには、政治の展開過程だけではなく韓国固有の政治文化（政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のこと。）の形成・展開過程をも合わせて把握していくことが重要である。講義では、朝鮮半島における政治社会が大きく変換し始める19世紀後半から現在に至るまでの期間を、時代順に概観しながら韓国政治の特徴を明らかにしていく。	1. ガイダンス、韓国政治史の時期区分 2. 朝鮮の政治システムについて 3. 開国と開化政策 4. 近代的政治への模索と挫折 5. 日本の植民地支配 6. 解放と南北分断体制の成立 7. 朝鮮戦争と分断体制の固着化 8. 学生革命と政治社会の変化 9. クーデタと軍事政権の成立 10. 軍事独裁政権下の韓国社会 11. 韓国の民主化 12. 民主化以降の韓国政治①（1988～2002） 13. 民主化以降の韓国政治②（2003～2016） 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習として朝鮮史の概説書を１冊以上読んでおくこと。
テキスト	テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。
参考文献	初回の授業時に紹介する。
評価方法	授業への参加度（授業態度、コメントペーパの内容など）：50%、期末試験：50%

	現代社会１（韓国社会各論b）	担当者	奥田　聡

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では韓国の政治、経済動向等、最近の動きを紹介しながら同国に対する基本的理解を図る。 経済成熟期に特有な社会、経済的課題に直面する韓国の現状を概観し、今後の進路について考察してみたい。具体的には、各方面で強い影響を及ぼす国民感情、大国のはざまで翻弄される韓国の地政学的現状、依然として続く財閥主導の輸出主導的成長構造、技術不在・学歴偏重・過激な組合活動などの課題についてみていく。また、最近激化している日韓対立についても考える。 授業は講義形式を基本とする。	１．オリエンテーション ２．強すぎて脆い韓国大統領 ３．弱い政府、最上位は「国民情緒法」 ４．病める構造「財閥頼み」 ５．深刻な韓国経済 ６．路上デモでは終わらない・住みにくいソウル ７．第１～６回補遺、第１回小テスト ８．ポピュリズム人気 ９．北朝鮮も政争のタネに 10．悲しき地政学的リスク 11．政治安定を取り戻す術 12．不安定経済に打つ手は 13．日韓関係リセットはあり得るのか 14．第８～14回補遺、第２回小テスト

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前には、テキストの該当部分をよく読みこんでくること（予習：約１時間）。授業後は授業で配布されたキーワードリストの記載内容をよく読み返し、不明の部分はネット等で調べる。（復習：約２時間）
テキスト	峯岸博著、『韓国の憂鬱』、２０１７年８月、日本経済新聞出版社。
参考文献	授業中に適宜紹介
評価方法	第１回小テスト30%、第２回小テスト40%、授業参加度30%を基本とする。

	現代社会１（現代の企業経営）	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講義はこれらの中で組織行動論を扱う。組織行動論とは、いろいろな利害関係者の集まりである現実の組織、教科書通りには動かない組織の中で、人はどのような行動をとるのかを分析する。講義方法前半はパワーポイントを使い、なるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明を行う。後半はグループに別れてケース分析を行い、分析結果を学生が発表する。	1. ガイダンス 2. モチベーション 3. グループの性質 4. リーダーシップ 5. コミュニケーション 6. 紛争と対立 7. 意思決定 8. パワーとポリティクス 9. 人的資源 10. 企業文化 11. 組織構造 12. 組織変革 13. 復習 14. Q&A

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義は復習中心である。興味あるトピックに関し講義中にあげる文献や資料を各自が読んでおくこと。
テキスト	特にテキストはない。毎回講義資料を配布する。
参考文献	Organizational Behavior　17th　edition Robbins&Judge, Pearson
評価方法	評価は学期末試験（100%）による。出席は本学の慣例による。4 回以上欠席は不可。遅刻については、公的機関の遅れ等以外の理由の入室は禁止。

	現代社会１（基礎から学ぶマネジメント）	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：マネジメントの基礎概念を理解することを目的とする。概念レベルとしての企業や経営、管理や組織、経営効率性や事業有効性等について、事例等を通して解説する。そこから見えてくる、マネジメントとはどのようなものかを一緒に考えたい。 講義概要：本講義では、マネジメントで明らかにしている基本的な課題を取り上げる。企業は、よくヒト・モノ・カネ・情報が大切だという。なぜ大切なのか、組織を構成する要素とは何か、実際の仕組みが株式会社やNPOには存在する。ものづくりとしての仕組み、ヒトを動かす仕組み等、システムとしてマネジメントを見ると、カネの動きを統制する財務、社会の器としての組織の新しい視点が学習効果を高める。	1. オリエンテーション・・本講義の全体を紹介する 2. マネジメントとは何か 3. 株式会社等の仕組み 4. コーポレート・ガバナンス 5. 企業集団とグループ経営 6. ものづくりと生産システム 7. NPO・企業の組織 8. 組織における人間行動 9. モチベーションと組織 10. イノベーションとマーケティング 11. 人的資源・戦略・管理 12. BOP ビジネス 13. 企業市民などの課題 14. マネジメントのフロンティア・・まとめとして、これまで取り上げた知見をはじめ、有用な分析用具等も取り上げ、その動向に注目して説明する

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：メディアに出てくる企業名とその活動、事後：具体的な企業研究
テキスト	授業時指示
参考文献	拙著『経営組織論の展開』創成社など
評価方法	出席 30%、アクティブラーニング 20%、クイズ 20%、レポート 30%

18年度以前	現代社会１（東南アジアの開発と社会）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　東南アジアの開発／発展がもたらした社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。東南アジアの人々について、よその地域の他人ごとの話ではなく、さまざまな形で自分とつながる人々であることを理解し、この講義で学びを自分自身の今後の生き方を考える機会とする。 講義概要 　東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から学習し、望ましい発展とは何か、また、今日のグローバルな発展／開発に対して、自分自身のとるべきスタンスを考える。また、主としてタイを事例に、１、開発／発展に関わる政府の政策、NGOsなどによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、２、開発／発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチについて検討する。	第 1 回：地域研究的な思考方法について 第 2 回：東南アジアの地域的特徴 第 3 回：東南アジア地域研究の課題 第 4 回：東南アジア社会の多様性 第 5 回：東南アジアにおける都市−農村間の格差 第 6 回：東南アジアと私たちの関わり 第 7 回：東南アジアにおける開発政策の展開 第 8 回：オルタナティブな開発／発展観／思想 第 9 回：タイにおける開発／発展と宗教 第 10 回：タイにおける開発／発展と環境 第 11 回：タイにおける開発／発展と労働力 第 12 回：タイにおける開発／発展と家族・子ども 第 13 回：タイにおける開発／発展と女性 第 14 回：タイにおける社会保障／福祉

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を読んでおく。講義中に示された資料をヒントに、さらに関連事項を調べる。
テキスト	プリントを配布する
参考文献	『地域研究』（JCAS Review）Vol.7 No.1　（2005 年 6 月発行）　『老いてゆくアジア』（中公新書）大泉啓一郎著
評価方法	定期試験が 60 パーセント、授業中に提出された課題を 40 パーセントとして総合的に判断する。

	現代社会１（非正規雇用を考える）	担当者	市原　博

講義目的、講義概要	授業計画
近年仕事にかかわる問題としてもっとも注目を集めてきたのは、非正規で働く人々、特に若者が増えていることです。バブル崩壊後の長期不況の中で、コスト削減のために非正規社員による正社員の置き換えが広く行われてきました。最近の雇用情勢の好転によってもこの問題は解決されておらず、むしろ、中高年となった非正規の方々の貧困問題＝格差拡大が注目されるようになっています。この授業では、そうした事態がどのように生じたのか、その実態はどのようなものであり、企業は彼ら・彼女らをどのように使用しているのか、また、非正規雇用に対する法的規制はどのようになっており、最近政府が取り組んでいる「働き方改革」で何が変わるのかを考えます。 　また、非正規雇用とともに近年関心を集めている「ブラック企業」や「ブラックバイト」の問題も取り上げます。 　非正規雇用をめぐる問題を正しく理解し、自らの働き方を考え直す機会を提供するのがこの授業の目的です。	1.　イントロダクション−正社員と非正規とは何か 2.　パート労働−基幹パート 3.　パート労働法による規制とその変化 4.　フリーターの増加とその理由 5.　中高年フリーターの実態 6.　フリーターから正社員への移行の条件 7.　派遣労働の法的規制とその変化 8.　派遣労働者の属性 9.　「ブラックバイト」の原因と対処法 10. 男女雇用機会均等法の変化 11. 女子社員の職務配分と均等処遇 12. ブラック企業の見分け方 13. ブラック企業への対処法 14. 「働き方改革」の内容

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献をよく読んでください。
テキスト	ありません
参考文献	毎回参考資料を配布します。
評価方法	小レポート 10%、定期試験 90%

	現代社会１（シネマで学ぶ法律学）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
法律学というと、何か堅苦しいイメージを持つ学生が多いように思う。確かに、法律学は、説得の学問であり、論理的な整合性を重視する。 しかし、人間が社会において生活していく上で、切っても切り離せないのが、法律というものである。したがって、法学部の学生のみならず、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、大学時代に法律学のエッセンスを学んでおくべきであろう。 それでは、いかにして学ぶか。本講義は、シネマを鑑賞しながら、そこに出てきた法律問題を素材に、法律学のエッセンスを紹介するという方法を採用する。 同時に、本講義は、名作シネマを鑑賞してもらうことで、文化的教養を培うことも目的としている。	1.　「依頼人」－法の世界の登場人物（前編） 2.　「依頼人」－法の世界の登場人物（後編） 3.　「禁じられた遊び」－国民主権・平和主義（前編） 4.　「禁じられた遊び」－国民主権・平和主義（後編） 5.　「レオン」－契約は守らなければならない（前編） 6.　「レオン」－契約は守らなければならない（後編） 7.　「エリン・ブロコビッチ」－不法行為（前編） 8.　「エリン・ブロコビッチ」－不法行為（後編） 9.　「レインマン」－相続問題（前編） 10.「レインマン」－相続問題（後編） 11.「それでもボクはやってない」－刑事裁判（前編） 12.「それでもボクはやってない」－刑事裁判（後編） 13.「デッドマン・ウォーキング」－死刑廃止論（前編） 14.「デッドマン・ウォーキング」－死刑廃止論（後編）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	学んだ法律問題の内容を復習しておくこと。受講者同士で鑑賞したシネマについて意見を述べ合うこと。
テキスト	特になし。
参考文献	野田進・松井茂記編『新・シネマで法学』（有斐閣、2014 年）
評価方法	定期試験 100％

	現代社会１（続・シネマで学ぶ法律学）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
法律学というと、何か堅苦しいイメージを持つ学生が多いように思う。確かに、法律学は、説得の学問であり、論理的な整合性を重視する。しかし、人間が社会において生活していく上で、切っても切り離せないのが、法律というものである。したがって、法学部の学生のみならず、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、大学時代に法律学のエッセンスを学んでおくべきであろう。 それでは、いかにして学ぶか。本講義は、シネマを鑑賞しながら、そこに出てきた法律問題を素材に、法律学のエッセンスを紹介するという方法を採用する。同時に、本講義は、名作シネマを鑑賞してもらうことで、文化的教養を培うことも目的としている。 なお、本講義は、春学期に開講した「現代社会１（シネマで学ぶ法律学）」のアドバンスト科目であるが、本科目のみの受講でも一向に差し支えない。	1.　「独裁者」－平和主義・基本的人権（前編） 2.　「独裁者」－平和主義・基本的人権（後編） 3.　「評決」－医療過誤（前編） 4.　「評決」－医療過誤（後編） 5.　「クレーマー、クレーマー」－離婚問題（前編） 6.　「クレーマー、クレーマー」－離婚問題（後編） 7.　「東京原発」－不法行為等（前編） 8.　「東京原発」－不法行為等（後編） 9.　「真実の行方」－罪と罰（前編） 10.「真実の行方」－罪と罰（後編） 11.「ショーシャンクの空に」－冤罪（前編） 12.「ショーシャンクの空に」－冤罪（後編） 13.「この自由な世界で」－労働問題（前編） 14.「この自由な世界で」－労働問題（後編）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	学んだ法律問題の内容を復習しておくこと。受講者同士で鑑賞したシネマについて意見を述べ合うこと。
テキスト	特になし。
参考文献	野田進・松井茂記編『新・シネマで法学』（有斐閣、2014 年）
評価方法	定期試験 100％

	現代社会 1（家族と法）	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、世間で話題になっている家族と法にまつわる様々な件や全く話題になっていない件に対して、ちょっとだけ首を突っ込んだり、突っ込まなかったり、深入りしたりする授業です。 1876（明治 9）年の太政官布告で成人年齢は 20 歳とされていましたが、140 年ぶりに改正民法ではこれを 18 歳に引き下げ、2022 年 4 月 1 日に施行されます。 平成 30 年 3 月 13 日、第 196 回国会に、民法及び家事事件手続法の一部を改正する法律案が提出され、民法相続編の改正議論が進められています。 本講では、これら法改正の動向も踏まえながら、昨今の社会記事なども教材に取り入れながら、講義形式で授業を行います。	第 1 回　開講にあたり 第 2 回　家族法の話 第 3 回　婚姻の話 第 4 回　婚姻解消の実体法の話 第 5 回　婚姻解消の手続法 第 6 回　親子の話 第 7 回　養子の話 第 8 回　親権の話 第 9 回　後見の話 第 10 回　相続総論の話 第 11 回　遺産分割の話 第 12 回　遺言の話 第 13 回　DV・ストーカー防止法の話 第 14 回　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書を読んで受講することが望ましい
テキスト	齋藤哲・家族と法（信山社）、六法全書
参考文献	開講時に適宜紹介する。
評価方法	期末試験 100%　＊期末試験の受験資格として 10 回以上出席していること

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	現代社会１（ビジネス法務）	担当者	高橋　均

講義目的、講義概要	授業計画
1. 講義目的 株式会社の仕組みや特徴、企業活動の内容の学修を通じて、ビジネス法務として最も重要な会社法を中心に理解を深めます。また、企業戦略として、近年その重要度を増している企業買収や合併・分割についても、実際の企業間の攻防の実例を通して、知見を深めます。更に、マスコミ報道されている企業不祥事の問題についても、その共通の要因やリスク管理の在り方についても考えます。 卒業後に会社勤務にあたって、又は将来、起業化する際にも役立つ内容となります。 2. 授業の実施要領 講義形式ですが、双方向や学生相互のディスカッションを積極的に取り入れる予定です。企業の最前線の様子も紹介するために、DVDの鑑賞も行います。 3. 履修対象者 全学部の学生諸君が履修できます。	1. 導入（授業の進め方、会社組織について） 2. 会社の種類と会社の利害関係者 3. 会社の会社機関と企業自治 4. 欧米の会社の機関設計とその特色 5. 株式会社の資金調達の方法と長短 6. 会社役員の損害賠償責任 7. 企業買収の概念と具体的な方策 8. 敵対的買収への防衛（経営者の決断） 9. 買収戦略の是非 10. 会社の合併と分割 11. 会社の設立と準備 12. 会社の倒産・会社更正 13. コーポレート・ガバナンスの概念と最近の動向 14. 企業不祥事の防止と内部統制システムの整備

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の学修としては、教科書の該当頁に予め目を通しておくこと、事後の学修としては、個別企業に関するマスコミ報道に関心を持つことにより、授業との関連を意識すること
テキスト	高橋均『実務の視点から考える会社法』中央経済社（2017 年）
参考文献	企業法学会編『企業責任と法～企業の社会的責任と法の役割・在り方』文眞堂（2015 年）
評価方法	期末試験 100％（授業前後の質疑等、積極的な授業への取組み姿勢が認められる学生は加点します。）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	現代社会１（市民と刑事司法）	担当者	徳永　光

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）　刑事法は、犯罪と刑罰に関する法律です。新聞やテレビのニュース、小説やドラマの中では、犯罪や捜査、刑事裁判の話がよく取り上げられ、目にする機会は多いと思います。その反面、刑事法は、日々の暮らしに縁遠いものとして敬遠され、実はよく知られていない分野でもあります。この講義では、ニュースなどの背景にある犯罪や捜査・裁判手続についての基本的なルールと実態を学び、またどのような問題があるのかを考えてもらいたいと思っています。 （講義概要）　「刑事法」の分野は、大きくわけて、刑法、刑事訴訟法、刑事政策（犯罪者への処遇・支援、少年法など）の3つに分かれます。この講義では、それぞれから具体的な話題を拾い、検討していきたいと思います。毎回授業レポートを作成してもらいます（とりあえず提出されれば加点するというわけではなく、内容により評価します）。	1.　ガイダンス 2.　犯罪と刑罰 3.　日本の犯罪動向（1）――犯罪「発生率」、検挙率等 4.　受刑者処遇と社会復帰支援 5.　日本の犯罪動向（2）――科刑状況等 6.　日本型刑事司法 7.　再審事件と冤罪原因 8.　刑事裁判の諸原則 9.　裁判員裁判 10. 捜査の諸原則と新たな捜査手法 11. 被害者支援 12. 死刑制度 13. 刑事司法制度改革 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	翌週のテーマに関する簡単な課題を示します。各自準備の上出席してください。
テキスト	指定はありません。
参考文献	適宜、資料を配付します。六法は不要です。
評価方法	授業レポート等（40%）、期末試験（60%）により評価します。

	現代社会１（不動産取引と法）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
賃貸マンションを借りる、分譲マンションを買う、一戸建てを買う。人が生活をするにあたって、「住むところ」の存在は必要不可欠なものである。したがって、ほとんど全ての人は、一生のうちに、一度は不動産取引を経験することになる。しかしながら、その不動産取引の際に法律問題が生じた場合、どうすれば良いのかを学んでいる人は、ほとんどいない。そのため、欠陥住宅問題などの社会問題が絶えず生じているのである。 そこで、本講義は、獨協大学で学ぶ全学生に向けて、不動産取引の際に法律問題が生じた場合に、どのように対処すれば良いのか、そのために必要な法的知識を伝授することを目的とする。同時に、本講義は、不動産という物の見方や注意点をも講義することで、法的問題が生じるのを未然に防止する方法も伝授しようと考えている。	1.　不動産建築の法律①－市街化区域と用途地域 2.　不動産建築の法律②－建ぺい率と容積率 3.　不動産売買の法律①－契約書の作成、手付 4.　不動産売買の法律②－欠陥住宅問題 5.　不動産登記の法律①－甲区と乙区 6.　不動産登記の法律②－共同申請主義 7.　マンションの法律①－専有部分と共用部分、管理組合 8.　マンションの法律②－修繕と建替え 9.　借地借家の法律①－借地契約の期間と更新 10. 借地借家の法律②－定期借地権 11. 借地借家の法律③－賃借権の登記と特則 12. 借地借家の法律④－借家権 13. 道路・境界・隣近所の法律①－筆界特定制度 14. 道路・境界・隣近所の法律②－相隣関係

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学修した内容を復習しておくこと。
テキスト	木島康雄監修『最新不動産の法律と手続きがわかる事典』（三修社、2017 年）
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	定期試験 100%

	現代社会１（ドイツ地域論）	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ地域論 　現在のEUやドイツ連邦共和国、ヨーロッパはどのように作られたでしょうか。本講義では、ドイツ語圏とEU（ヨーロッパ連合）について、歴史的な背景から考察します。 　春学期では、二つの世界大戦と東西冷戦、および戦後のヨーロッパ統合史（現在のEU, 欧州連合）の三つを中心に扱います。この中でも、ヨーロッパ統合のはじまりから現在のEUに至るまで、中心的役割を果たしている「ドイツ」の歴史に的を絞り、ヨーロッパ統合とドイツの関係を見ていきます。 　なお、この講義では、毎回短いコメントを書くことを求めています。これが「参加度」として評価される部分です。課題や質問に返答することができて、はじめて出席と見做されますので、ただ「来るだけ・いるだけ」では欠席扱いになります。	1.　シラバスに基づいた授業ガイダンス 2.　ドイツ帝国と第一次世界大戦 3.　ヴァイマル共和国とヨーロッパ 4.　ナチ・ドイツと第二次世界大戦 5.　ドイツの敗戦と第二次世界大戦の帰結 6.　占領時代のドイツと冷戦のはじまり 7.　西ドイツ国家の誕生と西欧統合の始まり 8.　西ドイツの「長い60年代」と 西欧社会 9.　ブラントの東方外交とヨーロッパ 10. 東ドイツ国家とヨーロッパ1949-1985 11. 1960-80年代の欧州統合の危機と進展 12. 冷戦終結と1989年の東欧革命 13. 東西ドイツ統一 14. 統一ドイツとEUの課題

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	常に復習を心がけてください。また授業中に紹介した文献を自発的に読み進めることが好ましい。
テキスト	教科書は指定しない。
参考文献	参考文献は毎回レジュメに記載する。
評価方法	期末テスト 70%, 授業への参加度 30%を目安に、総合的に判断する。

	現代社会１（ヨーロッパ地域論）	担当者	伊豆田　俊輔

講義目的、講義概要	授業計画
ヨーロッパ地域論 　現在のドイツ連邦共和国とEUは、それぞれどのような構造を持ち、どのような「危機」に直面しているのでしょうか。本講義では、ドイツ連邦共和国とEUの制度や問題について考えることを目的にしています。講義は3部構成です。最初に、ドイツとEUの基本的な政治制度について概説します（1-4回）。続いて、EUを結びつけている価値観や文化的な連帯について考察します（5-6回）。三番目に、冷戦終結以後の「ドイツ」と欧州の変容（7-9回）、および現在EUの「危機」と呼ばれている諸現象を取り扱います（10-14回）。なお、この講義では、毎回短いコメントを書くことを求めています。これが「参加度」として評価される部分です。課題や質問に返答することができて、はじめて出席と見做されますので、ただ「来るだけ・いるだけ」では欠席扱いになります。	1.　シラバスに基づいた授業ガイダンス 2.　概説①―ドイツの政治制度 3.　概説②―EUの制度と課題 4.　概説③―ドイツのEU内における「大国化」？ 5.　「ソフト」な統合①―教育と歴史 6.　「ソフト」な統合②―EU市民権 7.　変容と「危機」①―東ドイツ問題 8.　変容と「危機」②―ドイツの移民国化 9.　変容と「危機」③―ドイツの「新右翼」 10. EUの「危機」①―EUの東方拡大 11. EUの「危機」②―憲法条約の失敗 12. EUの「危機」③―Brexit 13. EUの「危機」④―「欧州難民危機」 14. EUの「危機」⑤―ポピュリズム

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	常に復習を心がけてください。また授業中に取り扱ったトピックスに関するニュースを見てください。
テキスト	教科書は指定しない。
参考文献	参考文献は毎回レジュメに記載する。
評価方法	期末テスト 70%, 授業への参加度 30%を目安に、総合的に判断する。

	現代社会 1（History of International Relations I）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for students to learn the history of international relations. Students will enhance the knowledge and the understanding of international relations through the studies of key events that occurred from the 16th century to the end of World War II. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn history of international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. The Rise of Sovereign States and Europe 3. Revolutions and the Congress of Vienna 4. The Age of Pax Britannica 5. The Emergence of Imperialism 6. Emerging New Alliances and Imperialism 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ World War I: A Brief Introduction 9. The Path to World War I 10. The End of World War I 11. The Resurgence of Peace and Stability 12. The Path to World War II 13. The End of World War II 14. Course Review

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%). Details will be explained by the instructor in the first class.

	現代社会 1（History of International Relations II）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for students to learn the history of international relations. Students will enhance the knowledge and the understanding of international relations through the studies of key events that occurred from the beginning of the Cold War to the early 21st century. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn history of international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. The Beginning of the Cold War 3. The Cold War in Europe 4. The Cold War in the Middle East 5. The Vietnam War and the Bipolar Structure 6. The Cold War in South Asia 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ The End of the Cold War: A Brief Introduction 9. The End of the Cold War 10. The Post-Cold War World 11. The End of Pax Americana 12. Changing Global Order/ Overview 13. Changing Global Order/ General Discussion 14. Course Review

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト	To be announced.
参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%). Details will be explained by the instructor in the first class.

（春） 18 年度以前	現代社会 1（暮らしの中の民法入門）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
民法の三大原則とその修正や、「民法」の中でも「生活民法」といわれる分野である、人の行為能力、法律行為、保証と担保、売買・消費貸借・賃貸借・請負等の各種の契約、不法行為、親族、相続等の各問題に関して、具体的な事例を素材としながら、その制度の概要と基礎知識を講義するとともに、適宜、双方向・多方向型の問答や議論をおこなうことで、受講者の理解を深めることとする。	第 1回：民法とは何か、民法の構造、民法の三大原則とその修正1（所有権絶対の原則） 第 2回：民法の三大原則とその修正2（契約自由の原則、過失責任主義） 第 3回：人の権利能力と行為能力 第 4回：法律行為1（心裡留保、通謀虚偽表示） 第 5回：法律行為2（錯誤、詐欺、強迫） 第 6回：保証と担保 第 7回：売買契約 第 8回：消費貸借契約と利息制限法 第 9回：賃貸借と借地借家法 第10回：請負契約と住宅の品質確保の促進等に関する法律 第11回：不法行為1（一般不法行為） 第12回：不法行為2（特殊不法行為） 第13回：親族（結婚・離婚・親権） 第14回：相続（相続人・相続分・遺言）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学んだ内容を必ず復習すること。
テキスト	鎌野邦樹『今日から役立つ民法』（ナツメ社、2018年）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	筆記試験（80%）と平常点（20%）により評価する。

	現代社会１（社会生活と犯罪）	担当者	関根　徹

講義目的、講義概要	授業計画
法律は社会を規律するルールです。しかし、我々は特にそのルールを意識することなく、日常生活を送っています。我々が法律を意識するようになるのは、何らかのトラブルが発生した時です。そのトラブルの最たるものが犯罪です。本授業では、社会生活の中で生じている主な犯罪を題材にして、それがどのように解決されるのかということを見て、法律の運用の感覚をつかんでもらいたいと思います。 本授業は、実際に発生した事件を題材にして、どのようなことが問題となったのか、その事件の解決方法には、どのようなものがあるのかということを見ることを内容とし、講義形式で行います。 なお、途中でレポートを課します。詳しくは授業で説明します。	1. 講義の概要 2. 刑法総論の基礎 3. 刑法各論の基礎 4. 殺人と同意殺人 5. 錯誤 6. 臓器移植 7. 責任 8. 罪刑法定主義 9. 胎児傷害 10. 窃盗 11. 詐欺 12. 強盗 13. 共同正犯 14. 講義のまとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に授業で必要な法律の条文を読んできてください。授業後に問題となる条文を読みながら、事件がどのように解決されているのかということを確認してください。
テキスト	テキストは特に指定しません。資料を配布し、それに基づいて授業を進めます。
参考文献	参考文献については、必要に応じて紹介します。
評価方法	試験（80%）レポート（20%）

	現代社会１（大学生のための法律入門）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
大学生になり、サークル等に入るなどして交友関係が広がったり、アルバイトを始めた学生諸君も多いであろう。人との交流を通じて人間関係を学ぶこと、そして社会経験を積むことは、将来就職をして、一人前の社会人になるために、大変有意義であると思われる。しかし、他方で、社会経験の乏しさゆえに、トラブルに巻き込まれる大学生も後を絶たない。 そこで、本講義は、獨協大学で学ぶ全学生に向けて、日々の生活において法律問題（トラブル）が生じた場合に、どのように対処すれば良いのか、そのために必要な法的知識を伝授することを目的とする。 本講義で、身近な法律を学んで、「生きる力」を身に付けて欲しい。	1. お金のトラブル①－クーリングオフ 2. お金のトラブル②－消費貸借契約 3. アパート・マンションのトラブル 4. ネット・SNSでのトラブル 5. 恋愛トラブル 6. 旅行トラブル 7. 交通関係のトラブル 8. 未成年から成人へ 9. アルバイトでのトラブル 10. 就職活動でのトラブル 11. 大学・授業でのトラブル 12. サークルでのトラブル 13. 刑事事件①－逮捕・勾留・取調べ 14. 刑事事件②－裁判員裁判

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学修した内容を復習しておくこと。
テキスト	近江幸治・弘中惇一郎編『学生のための法律ハンドブック』（成文堂、2018 年）
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	定期試験 100%

	現代社会 1（社会保障論 a）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
年金や医療などの社会保障制度のあり方は、人々の生活、企業の活動、政府の財政に対して大きな影響を与えます。この講義では、社会保障とは何か、なぜ必要とされてきたのかについて考えることから始め、続いて現在の日本の社会保障制度とそれが直面している課題について解説します。日本の置かれている状況の理解を深めるために、随時外国との比較を行います。 とりあげる予定のテーマは右の「授業計画」の通りです。学期末までに、今後の社会保障のあり方について、意見を形成できるようになることを目指します。 毎回授業中に課題を提出してもらい、受講者のコメントに答えながら授業を進めていきます。	1. 講義目的・概要・毎回の評価方法の説明 2. 社会保障とは何か 3. 日本の経済・社会の変容 4. 年金制度の基本原理 5. 年金制度改革の選択肢 6. 中間まとめ＆年金制度の将来を考える 7. 医療保険制度の基本原理 8. 医療保険制度の国際比較 9. 日本の医療保険制度改革 10. 介護保険制度 11. 公的扶助（生活保護） 12. 子ども・子育て支援政策 13. 障害者福祉 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。
テキスト	指定しない。
参考文献	椋野美智子、田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣アルマ、最新版。その他授業中に紹介。
評価方法	平常点（授業への参加度）30%、中間テスト 20%、期末テスト 50%。テストの無断欠席は 0 点扱い。 やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。

	現代社会 1（社会保障論 b）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
「ジェンダーから見た社会保障」がテーマです。第二次世界大戦後の先進諸国では、年金や医療などの社会保障制度が発展しましたが、こうした社会保障制度は往々にして「男性はお金を稼ぎ、女性は家で家事やケアをする」といった性別役割分業やジェンダー・バイアスを前提としていました。 この講義では、ジェンダーの視点から日本や諸外国の社会保障制度を捉え直し、今後の社会のあり方について考えていきます。 毎回授業中に課題を提出してもらい、受講者のコメントに答えながら授業を進めていきます。 春学期「社会保障論a」の履修は前提としませんが、両方履修することで理解が深まると思われます。	1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. ジェンダーから見た社会保障①　歴史的変遷 3. ジェンダーから見た社会保障②　現在の課題 4. 出産に関する社会保障 5. 子育てに関する社会保障 6. ジェンダーから見た雇用と税制 7. 中間まとめ 8. ジェンダーから見た年金 9. ジェンダーから見た介護 10. シングルマザーと社会保障①　日本の状況 11. シングルマザーと社会保障②　海外の状況 12. ジェンダーから見た生活保護 13. ジェンダーから見た海外の社会保障 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	平常点（授業への参加度）30%、中間テスト 20%、期末テスト 50%。テストの無断欠席は 0 点扱い。 やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。

	現代社会１（地誌学１）（世界の自然環境と文化）	担当者	大竹　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。 講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。	1. オリエンテーション 2. 我々の暮らしと自然環境 3. 地球の成り立ちと地形 4. 地球の周りの気団と気候 5. 地球の植生と土壌 6. 地球に暮らす様々な生き物 7. 熱帯地域の人々の暮らと文化 8. 焼畑農業と熱帯の稲作 9. 熱帯開発と環境問題　拡大する焼畑 10. 熱帯開発と環境問題　進む違法伐採 11. 乾燥帯地域の人々の暮らしと文化 12. 一神教と自然環境 13. 資源ナショナリズムの台頭 14. 中東問題の遠因と現状

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には学習内容を復習する。
テキスト	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房
参考文献	和辻哲郎『風土　人間学的考察』岩波書店
評価方法	定期試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

	現代社会１（地誌学２）（世界の自然環境と文化）	担当者	大竹　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。 講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。	1. オリエンテーション 2. 温帯地域の特徴と人々の暮らし 3. 地中海性気候の人々の暮らしと文化 4. 大陸西岸気候の人々の暮らしと文化 5. モンスーン気候の人々暮らしと文化 6. 北米温帯地域の人々の暮らしと文化 7. ネイティブアメリカンの暮らしと文化 8. 北方狩猟民族の暮らしと文化 9. 寒帯地域の人々の暮らしと文化 10. 山地地域の暮らしと文化 11. 人口問題と食料 12. 越境する大気汚染 13. グローバリゼーションの功罪 14. ファストファッションの光と影

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には学習内容を復習する。
テキスト	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房
参考文献	和辻哲郎『風土　人間学的考察』岩波書店
評価方法	定期試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

	現代社会１（政治学の基礎概念）	担当者	大串　敦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、政治学の基礎概念の習得が狙いになるが、概念をただ理解するという無味乾燥なものから離れて、概念が成立する過程にも注目する。ある新しい概念が生み出されるのは、多くの場合、既成の概念ではとらえきれない現実の展開があるときである。研究者が把握した現実からの挑戦によって、どのように政治学の概念が成立するのか、一連の過程を理解することによって、政治学の概念を生きたものとして理解できるようになることが最終的な目的となる。	1. 序：講義の概要の説明と方法論的考察 2. 国家：近代国家とは何か 3. 権力：権力と権威、権力を握っているのは誰か 4. 支配の正当性：支配の正当性とは何か 5. 官僚制：ウェーバーの理解、合法的支配と官僚制 6. 民主制1：シュンペーターの民主制理論まで 7. 民主制2：シュンペーターからダールへ 8. 全体主義体制 9. 権威主義体制 10. 競争的権威主義体制 11. 民主化・体制転換1：近代化 12. 民主化・体制転換2：移行の理論 13. 民主化・体制転換3：体制転換の実際 14. 日本政治と政治学の諸概念、まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献リストを配布するので、できるだけ目を通してください。
テキスト	特になし。
参考文献	授業で文献リストを配布します。
評価方法	期末試験による。

	現代社会１（国際政治学の基礎）	担当者	大串　敦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、国際政治学の基礎を扱う。国際政治学の基礎概念と、国際政治史の展開を大まかにつかむことが目的となる。国際政治の概念を用いて歴史を分析的に理解できるようになれば、目的は達成される。	1. はじめに、国際政治とは何か 2. 国際政治の主体 3. 国際政治における力 4. 国際政治における秩序1 5. 国際政治における秩序2 6. 主権国家体系の成立 7. フランス革命・ナポレオン戦争・ウィーン体制 8. ビスマルク体制 9. 第一次世界大戦 10. 戦間期の世界 11. 第二次大戦・冷戦の開始 12. 冷戦の展開 13. 冷戦の終結 14. 冷戦後の世界、まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献リストを配布するので、できるだけ目を通してください。
テキスト	特になし。
参考文献	授業で文献リストを配布します。
評価方法	期末試験による。

	現代社会１（地誌学概説Ⅰ）	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。 本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。後半は、日本地誌を扱う。 ★中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書（地理Bおよび地図帳）を購入し、自習しておくこと。 ★講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。	1.　「地域」の概念 2.　地域分析の基礎（1）文献・資料・統計の所在と検索 3.　地域分析の基礎（2）統計の利用 4.　地域分析の基礎（3）統計の地図表現 5.　地域分析の基礎（4）空間分析 6.　地域分析の基礎（5）地域構造 7.　日本地誌（1）自然環境と風土 8.　日本地誌（2）歴史的背景と地域文化 9.　日本地誌（3）人口分布と人口構造 10. 日本地誌（4）第1次産業と地域変容 11. 日本地誌（5）第2次産業と地域変容 12. 日本地誌（6）交通・通信と地域 13. 日本地誌（7）都市の変容 14. 日本地誌（8）地域構造と地域区分

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：高等学校までの地理の内容の修得しておく。 事後学習：授業で取り上げた以外の事例についての学習を通じて深化を図る。
テキスト	特に指定しない
参考文献	授業中に示される
評価方法	定期考査（約 7 割）および課題（約 3 割）

	現代社会１（地誌学概説Ⅱ）	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、北アメリカ（アメリカ合衆国およびカナダ）を事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。 ★中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書（地理Bおよび地図帳）を購入し、自習しておくこと。	1.　世界認識の基礎 2.　世界の地域構造とその変容（1）自然的基盤 3.　世界の地域構造とその変容（2）人口 4.　世界の地域構造とその変容（3）文化 5.　世界の地域構造とその変容（4）社会 6.　世界の地域構造とその変容（5）産業と経済 7.　世界の地域構造とその変容（6）政治と国家 8.　北アメリカ地誌（1）アメリカの自然 9.　北アメリカ地誌（2）歴史的背景 10. 北アメリカ地誌（3）人口と社会 11. 北アメリカ地誌（4）第1次産業と地域 12. 北アメリカ地誌（5）第2次産業と地域 13. 北アメリカ地誌（6）都市と生活 14. 北アメリカ地誌（7）アメリカと国際社会

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：高等学校までの地理の内容の修得しておく。 事後学習：授業で取り上げた以外の事例についての学習を通じて深化を図る。
テキスト	特に指定しない
参考文献	授業中に示される
評価方法	定期考査 9 割　授業参加度 1 割

	現代社会１（地理学概説Ⅰ）	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。 本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方を例に自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。 ★中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書（地理Bおよび地図帳）を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する）。 ★講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。	1. オリエンテーション（講義の概要） 2. 地形図利用の基礎（1）地形図の基礎知識 3. 地形図利用の基礎（2）距離と面積、等高線と地形 4. 地形図利用の基礎（3）土地利用を読む 5. 東京・関東の地形的特色（1）山の手と下町 6. 東京・関東の地形的特色（2）台地 7. 東京・関東の地形的特色（3）荒川と利根川の低地 8. 東京・関東の地形的特色（4）東京湾 9. 東京・関東の地形的特色（5）関東山地 10. 東京・関東の気候的特色（1）気候システムと気候のスケール、気候と景観、観測とデータ 11. 東京・関東の気候的特色（2）地形と気候 12. 東京・関東の気候的特色（3）都市気候 13. 東京・関東の自然災害と防災（1）外水氾濫と内水氾濫 14. 東京・関東の自然災害と防災（2）地盤災害

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：高等学校までの地理の内容の修得しておく。 事後学習：授業で取り上げた以外の地域についての学習を通じて深化を図る。
テキスト	特に指定はしない
参考文献	授業中に指示する
評価方法	定期考査（7 割）および課題（3 割）を総合的に評価する

	現代社会１（地理学概説Ⅱ）	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。 本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。 ★中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書（地理Bおよび地図帳）を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する）	1. 地理学の歴史（1）古代・中世の地理学 2. 地理学の歴史（2）近代の地理学 3. 地理学の歴史（3）現代の地理学 4. 地理学の主要概念（1）環境 5. 地理学の主要概念（2）景観 6. 地理学の主要概念（3）場所と立地（位置の表記） 7. 地理学の主要概念（4）場所と立地（環境とのかかわり） 8. 地理学の主要概念（5）場所と立地（立地論） 9. 地理学の主要概念（6）地域と空間 10. 地理学の主要概念（7）伝播 11. 地理学のトピックス（1）メンタルマップ 12. 地理学のトピックス（2）時間地理学 13. 地理学のトピックス（3）地理情報システムの原理 14. 地理学のトピックス（4）教育と地理

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：高等学校までの地理の内容の修得しておく。 事後学習：授業で取り上げた以外の事例についての学習を通じて深化を図る。
テキスト	特に指定はしない
参考文献	授業中に指示する
評価方法	定期考査（8 割）および課題（2 割）を総合的に評価する。

	自然・環境・人間１（私の自由時間設計）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の2割から3割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1割です。あなたは1割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目的にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。	1. オリエンテーション 2. 自由時間とは 3. 生活時間の構成 4. 自由時間の推移と現状 5. 自由時間「三つの意味」休息休養保養とレクリエーション 6. 自由時間「三つの意味」スコレーと自己開発 7. 少子化とライフスタイル 8. 古典的解釈から知るレジャー 9. 「スコレー」とは 10. 余暇享受能力を開発していますか 11. ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12. クオリティオブライフ 13. 環境と健康 14. 幸福とは何か 授業で通信端末を大教室における双方向授業としてライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、大講義室での授業をより活性化するためにぜひご協力をお願いします。

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	身近な社会人の労働と余暇について時間配分、余暇享受能力という観点で観察しておくこと。学習後は授業内で考えたことを実践するための自らの自由時間設計を行う。
テキスト	講義支援システムまたは Porta に授業資料をアップロードしますので、授業前に印刷してお持ちください。
参考文献	ミヒャエル・エンデ，　モモ，　岩波書店.
評価方法	授業への取り組み姿勢と授業内レポート（50%）、学期末試験（50%）により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	自然・環境・人間１（地球環境の変化とその要因）	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然的および人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。	1. オリエンテーション：授業概要等の説明 2. 地球環境とその役割 3. 地球環境の歴史 4. 地球環境の構造等：地球という惑星について 5. 地球環境と地球システム（Ⅰ）：物質圏の相互関係 6. 地球環境と地球システム（Ⅱ）：炭素循環など 7. 地球環境と資源（Ⅰ）：資源の特性 8. 地球環境と資源（Ⅱ）：エネルギー 9. 地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは 10. 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ 11. 環境：地球環境と広域・地域環境との比較 12. 環境と共生：人間活動・物質循環との関係 13. 地球環境問題概論 14. まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある。

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料等の指定した箇所について事前に精読しておいてください。また、受講後は講義内容を整理し、まとめるようにしてください。
テキスト	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	講義内容によって、適時指示する。
評価方法	基本的には定期試験の結果（100%）による。

	自然・環境・人間１（地球環境問題と環境保全）	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものの見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。	1. オリエンテーション：授業概要等の説明 2. 地球環境問題とは何か？ 3. 地球環境問題各論（Ⅰ）：地球温暖化 4. 地球環境問題各論（Ⅰ）：オゾン層破壊 5. 地球環境問題各論（Ⅱ）：酸性雨 6. 地球環境問題各論（Ⅱ）：海洋汚染 7. 地球環境問題各論（Ⅱ）：有害廃棄物の越境移動 8. 地球環境問題各論（Ⅲ）：砂漠化 9. 地球環境問題各論（Ⅲ）：森林減少 10. 地球環境問題各論（Ⅲ）：野生生物（種）の減少 11. 地球環境問題各論（Ⅲ）：開発途上国等の環境（公害）問題など 12. 地球環境の保全（Ⅰ）：環境と開発 13. 地球環境の保全（Ⅱ）：文化・経済・社会等との関係 14. まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある。

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料等の指定した箇所について事前に精読しておいてください。また、受講後は講義内容を整理し、まとめるようにしてください。
テキスト	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	講義内容によって、適時指示する。
評価方法	基本的には定期試験の結果（100%）による。

	自然・環境・人間１（科学史 a）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。 春学期は、古代から17世紀の科学革命を経て、「科学者（scientist）」という言葉が登場した19世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。	1. イントロダクション、科学とはなにか 2. タームペーパーの書き方について 3. 科学的な考え方の始まり（古代） 4. 地中海世界からアラビア世界へ 5. アラビア世界からヨーロッパ世界へ 6. 宇宙観の転換―天動説から地動説へ 7. 魔術と科学 8. 機械論的自然観の登場 9. ニュートンと科学革命 10. 科学アカデミーの誕生と展開 11. 科学史における女性 12. 産業革命と科学 13. フランス革命と科学 14. 「科学者（Scientist）」の誕生

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内に指示する
テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	授業で配布する資料に記載する
評価方法	タームペーパー（60%）、授業内に提示する課題（40%）

	自然・環境・人間１（科学史 b）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。 秋学期は、「科学者（scientist）」という言葉が登場した19世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得してく過程について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。	1. イントロダクション、“Scientist”とは誰か 2. タームペーパーの書き方について 3. 蒸気機関と熱力学の誕生 4. 科学の制度化と専門職業化 5. 科学の産業化 6. 公害の発生と科学 7. 進化論と社会 8. 帝国主義と科学 9. 研究所の誕生 10. 科学と国家 11. 現代科学の登場と自然観の転換 12. 科学と戦争 13. ビッグサイエンスの誕生 14. 環境科学の誕生と展開

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内に指示する
テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	授業で配布する資料に記載する
評価方法	タームペーパー（60%）、授業内に提示する課題（40%）

	自然・環境・人間１（数学 a）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。 なお、2016年度以前の数学Ⅱと同じ内容になります。制度上数学Ⅰの既修者は履修できませんが、聴講することは可能です。また、2016年度以前の数学Ⅱ履修者は履修することができません。	1. はじめに／場合の数と集合 2. 場合の数と集合／順列・組合せ 3. 順列・組合せ／標本空間と事象 4. 標本空間と事象／確率 5. 確率／余事象の確率、独立試行の確率 6. 余事象の確率、独立試行の確率／条件付確率と事象の独立 7. 条件付確率と事象の独立／確率変数と確率分布 8. 確率変数と確率分布／確率密度関数 9. 確率密度関数／確率変数の期待値 10. 確率変数の期待値／確率変数の分散 11. 確率変数の分散／二項分布 12. 二項分布／正規分布 13. 正規分布／まとめ 14. 問題演習

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認、復習しておいてください。
テキスト	授業最初にプリント配布
参考文献	石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）
評価方法	授業中の問題解答 10%、授業最後の課題 10%、学期最後の問題演習 80%により評価します。

	自然・環境・人間１（数学 b）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、自然や社会において存在するまとまった数値や符号の集合体の性質を解析する「統計学」の基本的な考え方を学び、大学での学習や社会に出てからの仕事で必要となる統計処理の初歩を身につけることを目的とします。 最初に、集合体の性質を決める情報がすべて得られる場合の「記述統計」、次に、情報がすべて得られない場合の「推測統計」を扱います。推測統計では確率の考え方が応用されますので、まず、そこで使われるいくつかの確率分布について解説し、その後、それらを基にした推定や検定といった解析手法を紹介し、同時に課題演習も行います。 計算はコンピュータで行いますが、統計処理された数値の意味を把握するため、統計解析ソフトは使いません。 なお、2016年度以前の数学Ⅱ既修者は制度上履修できませんが、聴講することは可能です。	1. はじめに／1変量データーデータの整理 2. 1変量データーデータの整理 3. 1変量データーデータの特徴 4. 2変量データ 5. 母集団と標本／確率分布－連続型確率分布 6. 確率分布－χ^2分布 7. 確率分布－t分布、F分布 8. 不偏推定量 9. 母平均の区間推定 10. 母分散の区間推定 11. 母平均の検定 12. 母平均の差の検定 13. 等分散性の検定 14. 問題演習

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題の解答をポータルサイトと「授業レポートシステム」で確認、復習しておいてください。
テキスト	石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）
参考文献	なし
評価方法	授業最後の課題 20%、学期最後の問題演習 80%により評価します。

	自然・環境・人間１（宇宙論 a）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超越しており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論a」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、近代的宇宙観の成立と現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。	1. はじめに／宇宙についての基礎知識 2. 近代科学以前の宇宙論 3. 天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生 4. ガリレイによる動力学の発見と相対性原理 5. ニュートン力学とニュートン的宇宙観 6. ニュートン的宇宙観の発展と電磁気学の成立 7. ニュートン的宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立 8. 同時概念・時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立 10. 等価原理と一般相対性理論の成立 11. アインシュタイン方程式と時空の歪み 12. 宇宙の時間的・空間的広がりと宇宙の一様性・等方性 13. 膨張宇宙論 14. ビッグバン宇宙論

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）
評価方法	毎回授業の最後に「授業レポート」として課題を出します。その課題の評価を点数化し集計したものを基に相対評価で成績を付けます。

	自然・環境・人間１（宇宙論 b）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超越しており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論b」では、現代宇宙論において近年得られた知見について解説します。 なお、春学期開講「宇宙論a」の内容についての知識があることを前提に講義を進めます。	1. はじめに／宇宙論が対象とする宇宙 2. 宇宙の階層構造 3. 物質の階層構造 4. 膨張宇宙の観測 5. 膨張宇宙の理論 6. ビッグバン理論と物質の形成 7. 宇宙の構造形成 8. 物質の究極像 9. 宇宙の進化 10. ビッグバン理論の問題点 11. インフレーション宇宙 12. 宇宙の特異点と量子宇宙論 13. 超ひも理論と膜宇宙 14. まとめ／宇宙論が対象とする宇宙

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）
評価方法	毎回授業の最後に「授業レポート」として課題を出します。その課題の評価を点数化し集計したものを基に相対評価で成績を付けます。

	自然・環境・人間１（天文学 a）	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、恒星や太陽、惑星の見かけの運動のような肉眼で観察できる現象から話を始め、ケプラーの法則、太陽系の様々な天体、太陽系・惑星の形成と話を進める。 身近な天文現象をとおして宇宙に興味を持ってもらうこと、広大な宇宙の中で太陽系とはどのような天体なのかを理解することが講義の目標である。	1. 講義内容の紹介、天文学の紹介 2. 宇宙観の変遷と現代の太陽系像 3. 天球と日周運動 4. 太陽の年周運動 5. 惑星の見かけの運動 6. 会合周期と惑星の公転周期 7. ケプラーの法則の概要とケプラーの第一法則 8. ケプラーの第２法則と第３法則 9. ニュートンの万有引力の法則 10. 太陽系の天体１　太陽 11. 太陽系の天体２　惑星とその衛星 12. 太陽系の天体３　小惑星と彗星、太陽系の外縁 13. 太陽系の形成 14. 太陽系外惑星について、まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。
テキスト	指定しない。資料を配布する。
参考文献	『新版地学教育講座 12『太陽系と惑星』』　小森長生著　東海大出版会
評価方法	試験 90%，授業への貢献 10%

	自然・環境・人間１（天文学 b）	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目標は、恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解することと、我々と恒星の関係を理解することである。 天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点のひとつは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。	1. 講義内容の紹介 2. 星の見かけの明るさ 3. 星までの距離 4. 星の光度と絶対等級 5. 星のスペクトルと表面温度 6. ヘルツシュプルンク・ラッセル図と色等級図 7. 星の半径と質量 8. 星のエネルギー源 9. 星の誕生 10. 主系列星の性質 11. 主系列星以後の変化 12. 惑星状星雲と白色矮星 13. 中性子星とブラックホール 14. 超新星の話、まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。
テキスト	指定しない。資料を配布する。
参考文献	『天文学入門 星とは何か』　中嶋浩一著　丸善
評価方法	試験 90%，授業への貢献 10%

	自然・環境・人間１（物理学Ⅰ）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも20世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。	1. はじめに／力と運動1－物体の運動 2. 力と運動1－物体の運動 3. 力と運動2－物体に働く力 4. 力と運動2－物体に働く力／力と運動3－運動の法則 5. 力と運動3－運動の法則 6. 力と運動4－万有引力 7. 熱1－温度と熱 8. 熱2－熱と分子運動 9. 波動1－媒質の振動と波 10. 波動2－音波と光波 11. 電磁気1－電気と磁気 12. 電磁気2－電流と磁場 13. 電磁気3－電磁誘導 14. 電磁気4－電磁波

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	毎回授業の最後に「授業レポート」として課題を出します。その課題の評価を点数化し集計したものを基に相対評価で成績を付けます。

	自然・環境・人間１（物理学Ⅱ）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、20世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。 なお、春学期開講「物理学Ⅰ」の授業で学習した知識があることを前提とします。	1. はじめに／時間と空間1－相対運動と電磁場 2. 時間と空間2－電磁気学と相対性原理 3. 時間と空間3－ローレンツ変換 4. 時間と空間4－4次元不変量 5. 時間と空間5－等価原理 6. 時間と空間6－時空の歪み 7. 時間と空間7－ブラックホール 8. 物質の究極像1－元素と原子 9. 物質の究極像2－原子の構造 10. 物質の究極像3－前期量子論 11. 物質の究極像4－量子力学 12. 物質の究極像5－観測の問題 13. 物質の究極像6－素粒子論 14. 物質の究極像7－統一理論

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	毎回授業の最後に「授業レポート」として課題を出します。その課題の評価を点数化し集計したものを基に相対評価で成績を付けます。

	自然・環境・人間１ （歴史における科学技術１：西洋近代科学技術の起源）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
～ルネサンスから啓蒙主義時代まで～ 　私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。 物の生産や消費はもちろん、 科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、 日常生活から将来の政策決定にいたるまで、 科学技術に関わる知識や判断力は私たちすべての市民に求められる。 そこで､｢科学技術とはなにか｣ ということについて、 歴史から学び、 考察する学問分野が科学史・技術史である。 　この授業では、 西洋のルネサンスから近代社会の形成と､その中で近代科学技術が生み出されてきた過程を概観し、それが人々の自然世界に対する近代的な認識と働きかけを形づくった道筋を考察する。 私たちはどのようにして近代的な自然の見方を獲得してきたのか。 その起源を考察することを通して現代科学に基づく私たちの世界観をあらためて振り返ってみよう。	1. イントロダクション　"科学革命"の時代 2. 旧世界と新世界（1）中世からの流れ　ルネサンス 3. 旧世界と新世界（2）印刷術　大航海 4. 繋がりあった世界（1）世界の連関・学問の連関 5. 繋がりあった世界（2）自然魔術 6. 天上世界（1）惑星の見かけの運動　地動説 7. 天上世界（2）宇宙の調和　望遠鏡　地球の運動 8. 月下世界（1）地球　地上の物体の運動　水と空気 9. 月下世界（2）錬金術　原子とメカニズム 10. 生き物の世界（1）医学　解剖 11. 生き物の世界（2）新しい医薬　動植物 12. 新しい科学と技術の体制（1）建築・鉱山冶金・時計 13. 新しい科学と技術の体制（2）科学術情報の流通システム 14. 啓蒙主義（Enlightenment）と科学・技術

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	あらかじめ各自教科書を読み、授業で指示された参考文献を読んでください。
テキスト	Lawrence M. Principe（著）菅谷暁、山田俊弘（訳）『科学革命』（サイエンス・パレット）、丸善出版、2014.8
参考文献	Lawrence M. Principe, *The Scientific Revolution: A Very Short Introduction* (Oxford University Press 2011)
評価方法	定期試験（60%）、中間小レポート（40%）

	自然・環境・人間１ （歴史における科学技術２：日本の近代化と科学技術）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
～西欧科学技術の導入から現代の諸問題まで～ 　私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は私たちすべての市民に求められる。そこで、科学技術のありようを歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 　西洋において近代科学が生み出されてきた時代、日本はいわゆる鎖国体制によって西洋近代科学技術から隔絶されてきたが、その間にも蘭学という形でそれを取り入れ、やがて明治維新以後、急速にそれを導入し、消化し、我がものとしてきた。このような歴史は日本の科学技術に特殊な性格を刻印し、さらに戦争の時代と戦後の高度成長を経て、現代に到る科学技術のありようを形成してきた。	1. 洋学の時代 (1) 日本の伝統技術と伝統的自然観 2. 〃 (2) 蘭学の興り 3. 〃 (3) 幕末の洋学 4. 明治維新から帝国大学まで (1) 殖産興業と科学技術政策 5. 〃 (2) 社会インフラの整備、帝国大学の設立 6. "自立"から敗戦まで (1) 理化学研究所の設立 7. 〃 (2) 大正～昭和初期の科学 8. 〃 (3) 戦争と科学技術 9. 戦後復興と高度成長 (1) 産業と科学の戦後復興 10. 〃 (2) 技術革新と高度成長 11. 現代科学技術の諸問題 (1) 公害・環境問題の歴史① 水俣病 12. 〃 (2) 公害・環境問題の歴史② 地球環境の認識 13. 〃 (3) 核エネルギー利用の歴史① 原爆の開発 14. 〃 (4) 核エネルギー利用の歴史② 原子力発電

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示する参考文献を利用して各自学習すること
テキスト	テキストなし。必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	古川安『科学の社会史』ちくま学芸文庫 2018／山本義隆『近代日本一五〇年』岩波新書 2018
評価方法	定期試験（60%）、中間小レポート（40%）

	自然・環境・人間１（科学技術基礎論Ｉ）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在の科学技術は、専門分化が極度に進行しているため、科学技術の専門家でさえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。だが、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働することの意義を理解することを目的とする。 春学期は主として生命に関する事例を取り上げて考察する。	1. イントロダクション、生命とは何か 2. タームペーパーの書き方について 3. いつから生命か 4. いつまで生命か 5. 遺伝とはなにか 6. 品種改良と遺伝子 7. ゲノム編集時代の到来 8. 優生学について 9. 感染と免疫 10. 生命と食品 11. 食のリスクと安全 12. 生命から見た環境 13. 環境問題とは何か―オゾンホール問題を例に 14. 科学技術と倫理

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内に指示する
テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	授業で配布する資料に記載する
評価方法	タームペーパー（60%）、授業内に提示する課題（40%）

	自然・環境・人間１（科学技術と社会 b）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
我々は科学技術に囲まれて生きている。科学技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする。他方、インターネットを利用したサイバーテロや、受精卵のゲノム編集のように、我々の安全を脅かしたり、生命観を揺るがしたりする問題も発生している。2011年3月11日の東日本大震災と、その後に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故は、我々が科学技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。 この講義では、科学技術と社会との関わりを示す代表的な事例とその意義を理解し、科学技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学技術を生かにはどうしたらよいのか考えることを目的とする。	1. イントロダクション、科学、技術、社会とは 2. タームペーパーの書き方について 3. 科学技術とイノベーション 4. 科学技術の発達は人々の仕事を奪うか 5. 公害と科学技術 6. 気候変動問題と科学技術 7. 気候変動問題の解決に向けて 8. 知的財産と科学技術 9. 製造物責任と科学技術 10. 研究不正を考える 11. 科学者の社会的責任 12. 巨大科学技術と社会 13. なぜ理系に進む女性は少ないのか 14. 専門家と市民との関係

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内に指示する
テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	授業で配布する資料に記載する
評価方法	タームペーパー（60%）、授業内に提示する課題（40%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	自然・環境・人間１（文化としての科学 b）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
科学はどのような文化なのだろうか。科学を生み出すのは人間である以上、科学は文化としての内実を備えているはずである。だが、ともすればわれわれは科学の成果ばかりに目を奪われて、科学が人間によって生み出されたものであり、それ自体が文化なのだということをなかなか実感できないのではなかろうか。 この講義では、映像資料など多様な資料を活用しながら、科学における基本的で重要ないくつかの概念（考え方）を取り上げるとともに、科学研究に関わる人々の人生や考え方を知ることによって、科学を文化として捉えることを目的とする。	1. イントロダクション、「自然の言語」としての数学 2. タームペーパーの書き方について 3. 古代世界と数学 4. 数学記号の形成―＋、―、×、÷はどこから来たか 5. ニュートンとライプニッツの数学論争（1）背景 6. ニュートンとライプニッツの数学論争（2）経過 7. ニュートンとライプニッツの数学論争（3）検証 8. 未解決問題への挑戦（1）ポアンカレ予想の誕生 9. 未解決問題への挑戦（2）研究者たちの苦闘 10. 未解決問題への挑戦（3）失踪した数学者 11. 近世日本の数学文化―和算について 12. 和算とその時代―芸事としての数学 13. 地図の作成と数学との関わり 14. 近世日本における地図の作成―伊能忠敬を中心に

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内に指示する
テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	授業で配布する資料に記載する
評価方法	タームペーパー（60%）、授業内に提示する課題（40%）

	ことばと思想２(LGBTと現代思想a)	担当者	清水　雄大

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この授業では、LGBTの基礎知識を学習すること、そしてLGBT運動と密接な関係を持つ現代思想についての基礎知識を理解することを目的とします。最終的には、LGBTに関する論文やエッセイを独力で理解できる能力を身につけることを目指しています。また、二回のレポート作成を通じて、長い文章を適切に要約する力を身につけてもらうことも目標としています。 【講義概要】 春学期では主に、L（レズビアン）、G（ゲイ）、B（バイセクシャル）、T（トランスジェンダー）の各々に関して、基礎的な知識を確認していきます。また授業では映像表現（とりわけ映画）を用いて、LGBTの問題を身近に感じてもらえるようにします。	1. イントロダクション：LGBTとは何か 2. ゲイの歴史(1)：「同性愛」概念の系譜 3. ゲイの歴史(2)：ゲイ解放運動と 4. レズビアンの歴史(1)：レズビアニズムの歴史 5. レズビアンの歴史(2)：フェミニズム運動との関係 6. バイセクシャルの歴史(1)：バイセクシャルの両義性 7. レポートのフィードバック(1) 8. バイセクシャルの歴史(2)：性分化疾患と異性愛規範 9. トランスジェンダーの歴史(1)：カテゴリーの分類 10.トランスジェンダーの歴史(2)：医療との関わり 11. LGBTと現代(1)：同性婚・同性パートナーシップ 12. LGBTと現代(2)：セクシャル・マイノリティの差別 13. これまでの講義のまとめ 14. レポートのフィードバック(2)

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で配布するレジュメを復習し、次の回までに要点や質問を整理してください。
テキスト	毎回レジュメを配布します。
参考文献	講義の中で紹介していきます。
評価方法	平常点（コメント・ペーパー、授業への積極的参加：40%）、レポート（60%）

	ことばと思想２(LGBTと現代思想b)	担当者	清水　雄大

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この授業では、LGBTの基礎知識を学習すること、そしてLGBT運動と密接な関係を持つ現代思想についての基礎知識を理解することを目的とします。最終的には、LGBTに関する論文やエッセイを独力で理解できる能力を身につけることを目指しています。また、二回のレポート作成を通じて、長い文章を適切に要約する力を身につけてもらうことも目標としています。 【講義概要】 秋学期ではLGBTと不可分な関係にある現代思想（主に精神分析とクィア理論）について理解を深めることを目標とします。春学期で確認したLGBTの内容を踏まえて、一見抽象的な思想がどのように現実の問題と格闘する中で立ち現れているのかを説明していきます。	1. イントロダクション 2. 精神分析(1)：フロイト以前の精神医学 3. 精神分析(2)：フロイトの精神分析 4. 精神分析(3)：エディプス・コンプレクスについて 5. 精神分析(4)：ジャック・ラカンによるフロイトの継承 6. 精神分析(5)：ラカンにおける女性性 7. レポートのフィードバック(1) 8. 精神分析の批判(1)：フェミニズムと家父長制の批判 9. 精神分析の批判(2)：エクリチュール・フェミニン 10. 精神分析の批判(3)：バトラー『ジェンダー・トラブル』 11. クィア理論(1)：クィア理論の登場 12. クィア理論(2)：クィア理論とLGBT運動 13. これまでの講義のまとめ 14. レポートのフィードバック(2)

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で配布するレジュメを復習し、次の回までに要点や質問を整理してください。
テキスト	毎回レジュメを配布します。
参考文献	講義の中で紹介していきます。
評価方法	平常点（コメント・ペーパー、授業への積極的参加：40%）、レポート（60%）

	ことばと思想２（論文を書く）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
本科目は、大学生活において、学習・調査・発表・レポート作成を行うのに必要な日本語の基礎的な能力の習得を目指す。社会貢献活動を話題として取り扱う。 ① 基本的な語彙力についての問題を解くことができる。 ② 簡単な論文を読んで、内容を要約し、自分の言葉で発表することができる。 ③ 論題に対する基本的な調査ができる。 ④ 調べた詳しい内容を、分かりやすいかたちで発表することができる。 ⑤ 論文の基本的な構成ができる。 ⑥ 論文の構成に従って、分かりやすい論文を書くことができる。	1. はじめに 2. 社会貢献活動の基本的概念を知る。 3. 発表①　社会貢献活動の内容についての発表 4. 論文を読む①　論文を読んで内容をまとめる 5. 論文を読む②　論文の内容を資料としてまとめる 6. 発表②　論文の内容の発表 7. 論点の整理 8. 三角ロジック 9. 資料の検索 10. 資料の作成①　発表③のための原稿作成 11. 資料の作成②　発表③のための資料作成 12. 発表③　全体のまとめの発表 13. 論文作成 14. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　リサーチ・発表の準備 事後学修　発表内容を基に論文の作成
テキスト	なし。プリントを配布。
参考文献	授業時に指示。
評価方法	① 発表、リサーチ、論文、最終レポートの内容　60% ② 授業への積極的参加：　40%

	ことばと思想２（口頭発表を行う）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
本科目では、日本語の基礎能力を、具体的な発表などを通して、さらに高いレベルで身につけることをねらいとする。アニメの聖地巡礼を話題として取り扱う。 ① 基本的な語彙力についての問題を解くことができる。 ② 簡単な論文を読んで、内容を要約し、自分の言葉で発表することができる。 ③ 論題に対する基本的な調査ができる。 ④ 調べた詳しい内容を、効果的な方法で発表することができる。 ⑤ 発表の基本的な構成ができる。 ⑥ 発表の基本的な理論を理解できる。	1. はじめに 2. 論文を読む　アニメの聖地巡礼とは何か 3. リサーチ・資料作成①　聖地巡礼の歴史（原稿作成） 4. リサーチ・資料作成②　聖地巡礼の歴史（資料作成） 5. 発表①　聖地巡礼の歴史 6. リサーチ・資料作成③　聖地巡礼の事例（原稿作成） 7. リサーチ・資料作成④　聖地巡礼の事例（資料作成） 8. 発表②　聖地巡礼の事例 9. プレゼンテーションの理論①（原稿作成・資料作成） 10. プレゼンテーションの理論②（話し方） 11. リサーチ・資料作成⑤　聖地巡礼の提案（原稿作成） 12. リサーチ・資料作成⑥　聖地巡礼の提案（資料作成） 13. 発表③　聖地巡礼の提案 14. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　リサーチ・発表の準備 事後学修　発表内容を基に論文の作成
テキスト	なし。プリントを配布。
参考文献	授業時に指示。
評価方法	① 発表、リサーチ、論文、最終レポートの内容　60% ② 授業への積極的参加：　40%

	ことばと思想２（書き言葉の問題）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
文章は読み手を意識して、初めて成立する。文章作法の基本から応用までが、手紙（メールも含む）作成に凝縮されているので、実際に作成しながら問題点及び留意事項を確認する。SNSの進歩はその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙をトレーニングする。また、心を打つ文章とはどのようなものかを意識的に考える。 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法	1. ガイダンス　コミュニケーションの本義 2. 文章によるコミュニケーション 3. ポジティブ言語とネガティブ言語 4. 手紙文の約束① 拝啓―時候の挨拶 5. 手紙文の約束② 本文―敬具―（追伸）まで 6. 時候の挨拶と季節感 1月～12月 7. 著名人の手紙鑑賞、解説① ポジティブ 8. 著名人の手紙鑑賞、解説② ネガティブ 9. 著名人の手紙鑑賞、解説③ 時候の挨拶 10. 手紙を題材にした小説の鑑賞重松清「卒業」 11. 手紙文添削指導① 誤字脱字，誤用 12. 手紙文添削指導② 内容 13. メール作成の出し方、メール作成の問題点メール文添削指導 14. まとめ（総集編）

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題出題→課題提出→添削指導→完成のサイクルをもって、事前事後学修をする
テキスト	その都度紹介する
参考文献	その都度紹介する
評価方法	課題及び添削指導 50%。定期レポート 50%。

	ことばと思想２（話し言葉の問題）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて、理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を理解する。 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える	1. ガイダンス 2. コミュニケーション能力について 3. 日本型コミュニケーションについて 4. 流行語の変遷（流行語大賞の分析） 5. 若者言葉の問題（世代語についての考察） 6. ポジティブ言語とネガティブ言語 7. 話材集めのテクニック① 興味関心を引く話材 8. 話材集めのテクニック② 気を付けたい話材 9. スピーチの実践（スピーチ原稿の添削開始） 10. 心を開かせる挨拶と立ち居振る舞い 11. 3分間スピーチの実践① メッセージ性　全員から講評 12. 3分間スピーチの実践② 声のトーン、声量　全員から講評 13. 3分間スピーチの実践③ 内容，印象　全員から講評 14. まとめ（総集編）

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	題を提示し、その都度添削指導を行うので、①課題を受ける→②課題を提出→③添削返却→④完成の流れを事前事後学修とする。
テキスト	その都度紹介する
参考文献	その都度紹介する
評価方法	添削指導歴 50%。単位レポート 50%。

	ことばと思想２（生活文化の発見）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
「生活文化」とは人々の日常の行いであり、何気ない日常生活も、先人たちによって築かれた、あるいは知恵の上に成り立っているだけではなく、何等かの意味を持っています。このような日常生活の様子を「生活文化」として捉え、具体的にみていきます。文化は時代の環境や価値観を背景にして成り立ちます。それゆえに環境や価値観が変化すれば、生活文化も変ります。文化は常に流動的です。 本講座では、日本の「生活文化」の地域的差異、それを成り立たせる要因を環境や歴史と絡めて捉え、また生活上欠かせない「社会組織」とその変化を価値観の変化を背景として捉えていきます。文化の流動性に留意しつつ授業を展開していきたいと思います。歴史上有名な人や身分の高い人の生活についての記録は多く残されていますが、本講座では庶民の生活について考えます。我々の祖先はどのような生活をし、我々はどこへ向かっているのでしょうか。	1. ガイダンス 2. 「生活文化」とは何か 3. 地域差の問題 4. 地域差の要因―気候的・地理的要因― 5. 地域差の要因―植生的・歴史的要因― 6. 生活様式を捉える―家の造りを中心に― 7. 生活様式を捉える―家族を中心に― 8. 生活様式を捉える―戦前までの社会組織― 9. 生活様式を捉える―戦後の社会組織― 10. 生活様式の変化―明治維新― 11. 生活様式の変化―地方改良運動・生活改善運動― 12. 生活様式の変化―戦後の生活改善運動― 13. 生活様式の変化―高度経済成長期― 14. 生活様式の変化―IT革命―

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト	プリントを配布します
参考文献	授業中に紹介
評価方法	試験 100%、授業参加度を加味する。

	ことばと思想２（生活文化の記述）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
日常生活を、わざわざ記録することは少ないです。現在はSNSでの投稿が当たり前のように行われていますが、「インスタ映え」との言葉が示すように、特別なことを記録しています。本講座では、「記述する」ことの意味を幕末・明治期の日記などから考えます。さらには、地方自治体による「記録」を目的として刊行された「民俗誌」、また映像記録から、これらはどのように「生活文化」を「記述」したのかを考えます。さらには「文化財指定」の問題にまで踏み込んでいきたいと考えております。「日記」「民俗誌」の記述を読み、いくつかの映像を見ますが、その度に皆さんに発言を求め、その発言を基にして授業を展開してゆきます。「伝承」を記録すること、それは「伝統とは何か」という問題にも行きつきます。「記述（記録）」の意味だけではなく、「伝承」「伝統」を考えることが本講座の大きな目的です。	1. ガイダンス 2. 生活文化を記述すること―日記を読む― 3. 日記をつけることの意味―第2回の議論からの省察― 4. 日記をつけることの意味―備忘録としての日記― 5. 備忘録としての記録 6. 記録のための記録―民俗誌― 7. 民俗誌に記録されたもの―目次から構成を考える― 8. 民俗誌の記述―民俗誌を読む― 9. 民俗誌の意義と問題点―第8回の議論からの省察― 10. NHK「ふるさとの伝承」における記録 11. 愛知万博出品「日本は森の国」における記録 12. 「日本風景遺産」における記録 13. 映像記録の意義と問題点―議論からの省察― 14. 文化財に指定して保存すること

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読してください。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	試験 70%、授業への参加度 30%。

	ことばと思想２ （日本語音声表現のトレーニング基礎篇）	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語と日本語音声表現の特質を知り、そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎を学ぶ。本講義では各人の個性に合ったコミュニケーション力が身につくよう、実践を重視した講義を行う。話し手・聴き手それぞれに個性があり価値観が異なる。「言葉」に対する解釈や認識も異なる。正しいと言われる言葉を使い、整然と話しても正しく伝わるとは限らないし　相手の心に響くとは限らない。聴き手の判断力・察する力も重要であり、話し手は、それらを考慮する必要もある。 この講義では「言葉の力」と「言葉の空しさ」を体験しながら、理論ではなく実践によって自ら、コミュニケーションの方法論を考える。毎時間「話す」「読む」「説明する」「察する」などの実践を行い、それが評価に繋がる。したがって出席することが最低条件となる。秋学期に履修した者も実践を踏む場として活用できる講義になる。	1. オリエンテーション「日本人と言葉」 2. 自然な発声・発音「発声・発音トレーニング」 3. 実践スピーチ「人前で話す基礎」 4. 実践スピーチ「自己紹介をする」 5. 伝わる文章と音声表現「言葉の選択・構文」 6. 実践・説明「具体的な説明」・・的確な言葉と表現 7. 実践スピーチ「課題に即した話を組み立てる」 8. 実践スピーチ「課題に即した内容を人前で話す」 9. 実践・説明「抽象的な表現」・・察しあうこと 10. 曖昧表現・方言と若者言葉 11. 実践スピーチ「自分の心情を聴き手に納得させる」 12. 実践スピーチ「思い出話をする」 13. 敬語の基本「敬語の五分類と用法」 14. 敬語の応用「内と外の関係」・・ミニテスト

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の音声練習を次回に点検するので復習が必要。実践スピーチでは指導に沿った事前準備を求める。
テキスト	文化庁・国立国語研究所・NHK 等が発表した資料　及び　拙著の抜粋をプリント配付
参考文献	文化庁『国語に関する世論調査』国立国語研究所『言葉に関する問答集』NHK 放送文化研究所『月報』
評価方法	授業参加度（毎回の音声トレーニング）45%　　実践スピーチ 35%　　ミニテスト 20%

	ことばと思想２ （日本語音声表現のトレーニング表現篇）	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語と日本語音声表現の特質を知り、そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎と応用を学ぶ。本講義では各人の個性に合ったコミュニケーション力が身につくよう、実践を重視した講義を行う。話し手・聴き手それぞれに個性があり、価値観が異なる。「言葉」に対する解釈や認識も異なる。正しいと言われる言葉を駆使し、整然と話しても、正しく伝わるとは限らないし、相手の心に響くとは限らない。聴き手の判断力・察する力も重要であり、話し手は、それらを考慮する必要もある。この講義では「言葉の力」と「言葉の空しさ」を体験しながら、理論ではなく実践によってコミュニケーションの方法論を自ら考える。春学期に履修した者は、更に実践を積む場となり、秋学期から履修する者も、基本から始めるので問題ない。基本的な言葉遣い・敬語・話し方について具体的に実例を挙げて説明するので、実社会ですぐに役立つ。	1. オリエンテーション「ことばと人間」 2. 自然な発声・発音「発声・発音トレーニング」 3. 実践スピーチ「人前で話す基礎」 4. 実践スピーチ「自己PRをする」 5. 読んで伝える「話し口調と読み口調」 6. 実践スピーチ「自分の経験談を分かりやすく話す」 7. 実践スピーチ「自分の趣味の世界に聴き手を誘う」 8. 簡潔に伝えるためのスピーチ文章の作り方 9. ことばゲーム「他人の感性を察する」 10. 実践スピーチ「理想の社会人について語る」 11. 実践スピーチ「コミュニケーション論を語る」 12. 敬語の基本「尊敬語・謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ」 13. 敬語の応用・ミニテスト（敬語の基本） 14. 社会人としての言葉遣い・ミニテスト（総合）

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の音声練習を次回に点検するので復習が必要。実践スピーチでは指導に沿った事前準備を求める。
テキスト	文化庁・国立国語研究所・NHK 等が発表した資料　及び　拙著の抜粋をプリント配付
参考文献	文化庁『国語に関する世論調査』国立国語研究所『言葉に関する問答集』NHK 放送文化研究所『月報』
評価方法	授業参加度（毎回の音声トレーニング）45%　　実践スピーチ 35%　　ミニテスト 20%

	ことばと思想２（英語通訳）（英語通訳の仕事）	担当者	矢田　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、通訳・翻訳とは如何なるものなのかを学びながら、言語や文化の相違を超えて私達の言語コミュニケーションは真に成立しうるのか、その対策を考えていきます。 授業では、英語圏の文学、映画、演劇、著名人自伝の既存翻訳版を使い、英語と日本語の間にある言語文化や考え方の違い踏まえながら、実際にどの様に翻訳されているのかを考察していきます。この授業は高い英語力を必要とします。英語が好きであることは最低条件であり、TOEICのスコアが550点以上であることが望まれます。	Week 1: イントロダクション「翻訳とは？」「翻訳理論のはじまり：等価理論」 Week 2: 翻訳理論２　「等価を考える１」 Week 3: 翻訳理論３　「等価を考える２」 Week 4: 翻訳理論４　「等価を考える３」実習 Pride and Prejudice」 Week 5: 実習「ハムレット」翻訳比較分析（1） Week 6: 実習「ハムレット」翻訳比較分析（2） Week 7: 実習「ヒラリー・クリントン自伝 Living History」（1） Week 8: 実習「ヒラリー・クリントン自伝 Living History」（2） Week 9: 実習「TIME」を訳す（1）時事問題に取り組む Week 10: 実習「TIME」を訳す（2）要約と翻訳の違い Week 11: 実習「TIME」を訳す（3）完全な訳はありえるか Week 12: 実習　「BBC」（1）時事問題と通訳 Week 13: 実習　「BBC」（2）前週の問題点と改善について Week 14: プレゼンテーション

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	教員から次週の授業のための準備をと指示がある場合は必ずしてくること。
テキスト	教員がプリントを配布
参考文献	「翻訳学入門（みすず書房）」、「翻訳の原理（大修館書店）」「高慢と偏見（ちくま文庫）」
評価方法	プレゼンテーション（50%）、授業参加度（50%）

	ことばと思想２（英語通訳）（英語通訳の仕事）	担当者	矢田　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	教員から次週の授業のための準備やリサーチをと指示がある場合は必ずしてくること。
テキスト	プリントを随時配布
参考文献	「翻訳学入門（みすず書房）」、「翻訳の原理（大修館書店）」
評価方法	プレゼンテーション提出（50%）、授業参加度（50%）

	ことばと思想２（プレゼンテーション実習）	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義では、与えられたテーマをパワーポイントにまとめて発表します。発表チームのメンバーは各3~4人です。発表時間やパワーポイントのシート枚数にも規定があります。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。プレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に伝える能力を磨きます。また他者と効果的なコミュニケーション能力獲得します。	1. イントロダクション 2. 大学で学ぶ目的1（受講ルールを理解しよう） 3. 大学で学ぶ目的2（自身の言葉で語ってみよう） 4. 大学で学ぶ目的3（時間内に終わらせよう） 5. 30日間チャレンジ 6. 「幸せ」の定義1（辞書の定義を比較しよう） 7. 「幸せ」の定義2（自身の言葉で語ってみよう） 8. 「幸せ」の定義3（時間内に終わらせよう） 9. 30日間チャレンジ結果発表会 10. 感性と理性1（辞書の定義を比較しよう） 11. 感性と理性2（自身の言葉で語ってみよう） 12. 感性と理性3（時間内に終わらせよう） 13. 夏休みチャレンジ 14. この講義で学んだこと

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義テーマについて考え、メモにして発表準備をしておいて下さい。 事後：自身の発表を振返り、改善点等を確認しておいて下さい。
テキスト	なし
参考文献	講義内で配布します。
評価方法	平常点（20%）、授業への参加度（20%）、最終レポート（60%）

	ことばと思想２（プレゼンテーション実習）	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義では、与えられたテーマをパワーポイントにまとめて発表します。発表チームのメンバーは各3~4人です。発表時間やパワーポイントのシート枚数にも規定があります。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。プレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に伝える能力を磨きます。また他者と効果的なコミュニケーション能力獲得します。	1. イントロダクション 2. 大学で学ぶ目的1（受講ルールを理解しよう） 3. 大学で学ぶ目的2（自身の言葉で語ってみよう） 4. 大学で学ぶ目的3（時間内に終わらせよう） 5. 30日間チャレンジ 6. 「幸せ」の定義1（辞書の定義を比較しよう） 7. 「幸せ」の定義2（自身の言葉で語ってみよう） 8. 「幸せ」の定義3（時間内に終わらせよう） 9. 30日間チャレンジ結果発表会 10. 感性と理性1（辞書の定義を比較しよう） 11. 感性と理性2（自身の言葉で語ってみよう） 12. 感性と理性3（時間内に終わらせよう） 13. 夏休みチャレンジ 14. この講義で学んだこと

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義テーマについて考え、メモにして発表準備をしておいて下さい。 事後：自身の発表を振返り、改善点等を確認しておいて下さい。
テキスト	なし
参考文献	講義内で配布します。
評価方法	平常点（20%）、授業への参加度（20%）、最終レポート（60%）

	ことばと思想２（碑文を読む）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 ○講義概要：現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 今年度は旧日光街道に焦点を当てて、フィールドワークを実施し、読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。	1. オリエンテーション・導入 2. 概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3. 道標・講中碑を読む 4. 墓碑銘・供養碑、記念碑を読む 5. 日本漢文体の読解、梵字の読解 6. フィールドワーク、千住宿 7. フィールドワーク、梅島 8. フィールドワーク、竹の塚 9. フィールドワーク、谷塚 10. フィールドワーク、草加 11. 学生諸君の報告と検討①道標 12. 学生諸君の報告と検討②講中碑 13. 学生諸君の報告と検討③墓碑・供養碑 14. 学生諸君の報告と検討④記念碑

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：身辺の石碑に注意を払っておくこと。 事後：調査報告書の内容の充実に努めること。
テキスト	特になし
参考文献	授業中に示す
評価方法	フィールドワーク参加 10%。各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、およびその内容 40%。授業中に検討した上で手直しの後、調査報告書 2 点の提出、その内容 50%。

	ことばと思想２（写本を読む）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
くずし字で読む「百人一首」 『小倉百人一首』は、もともと平安時代の歌人を中心に、奈良時代から鎌倉時代初期に至る歌人の秀歌を集めたもので、藤原定家の撰とされています。当初は二条家の和歌の秘伝として伝授されたりしていましたが、近世期に入って、北村季吟や契沖、賀茂真淵など、様々な人々が注釈書を記しました。 江戸時代中期ごろから、特に女子の古典入門書として取り上げられ、古典教材の他に、家庭遊戯の「かるた」として普及しました。本講座では、『百人一首一夕話』をもとに、日本文化の一端としての百人一首を、歌にまつわるエピソードとともにくずし字の習得も含めて学ぶことを目的とします。	1. ガイダンス―『百人一首』の成立― 2. 天智天皇①―私の袖は露に濡れたよ― 3. 天智天皇②―天智天皇のエピソード― 4. 持統天皇①―香久山に夏が来た― 5. 持統天皇②―持統天皇のエピソード― 6. 柿本人麿①―長き夜を独りで寝るか― 7. 柿本人麿②―柿本人麿のエピソード― 8. 山部赤人―富士の高嶺に雪が降っている― 9. 中納言家持―カササギの橋に霜が置くよ― 10. 安部仲麿―三笠の山に月が― 11. 喜撰法師―宇治山の庵に住む― 12. 小野小町①―花の色は移ろうもの― 13. 小野小町②―小野小町のエピソード― 14. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストのくずし字部分を事前に学習することを課題とします。
テキスト	『くずし字で読む「百人一首一夕話」』武蔵野書院，2018 年
参考文献	児玉幸多編『くずし字解読辞典』東京堂出版
評価方法	試験 60%、課題も含めた授業への参加度 40%。

	ことばと思想 2（ロマンス語研究入門 1）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（対象となる受講者） 仏語、西語、葡語、伊語（以下「主要ロマンス語」と呼びます）のいずれか一つ以上について一年以上学んだ方（以下既習の言語を「専攻ロマンス語」と呼びます）を対象とします。 （目的） 非専攻ロマンス語に関する幅広い知識、および専攻ロマンス語に関するより深い知識・理解の獲得とします。 （概要） 前期は主要ロマンス語文法を伝統的な文法項目毎に並行整理し、主要ロマンス語比較文法表(ノート)の作成を目指します。同時にテクストの読解練習および音読のための発音練習を積み重ねることで、テクスト分析のための基礎力を養成し、後期の授業に備えます。	1)　ガイダンス 2)　発音（仏、西） 3)　発音（葡、伊） 4)　助動詞 5)　冠詞、前置詞＋定冠詞縮約形 6)　所有形容詞、指示形容詞、人称代名詞 7)　不定詞形、分詞形、現在形 8)　過去形（半） 9)　過去形（単純） 10) 未来形、条件法形 11) 接続法（現在形） 12) 接続法（半過去形） 13) 受動形 14) 総復習

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクスト読解の予習復習、発表の準備、ノート作成
テキスト	教科書に相当する資料を配布します。
参考文献	ガイダンスの際に案内します。
評価方法	平常点（発表、ノート作成等）50%、課題提出 50%

	ことばと思想 2（ロマンス語研究入門 2）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（概要） コナン・ドイル『バスカヴィル家の犬』の主要ロマンス語版を並行して精読しながら、各テクストの対応部分を主に文法的な観点から比較検討し、観察結果、問題点を発表、レポートに仕上げます。	1)　ガイダンス 2)　能動分詞構文 3)　受動分詞構文 4)　前方照応 5)　後方照応 6)　構文解析（前置詞） 7)　構文解析（関係詞） 8)　構文解析（接続詞） 9)　構文解析（従属） 10) 構文解析（等位） 11) 構文解析（同格） 12) 構文解析（倒置） 13) 研究発表（統辞論関係） 14) 研究発表（意味論関係）

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テクスト読解の予習復習、発表の準備
テキスト	教科書に相当する資料を配布します。
参考文献	ガイダンスの際に案内します。
評価方法	平常点（発表）40%、課題提出 40%、レポート 20%

	ことばと思想２（日本文学作品研究 a）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
日本の芸能 奈良時代に渡来した伎楽、雅楽、散楽の内、「舞」や「滑稽な物真似」、「対話」といったいくつかの要素が特徴的に発展、形成されて中世の能や狂言となりました。 本講義では、古代の芸能としての伎楽、雅楽、散楽から猿楽を経て、能や狂言が分化していく我が国の芸能史を様々な文献からたどり、さらには、演じられる物語のベースになる文献を解読し、理解することを講義の目的とします。	1. ガイダンス―芸能とは― 2. 伎楽・雅楽・散楽―伝来と定着・伎楽― 3. 伎楽・雅楽・散楽―伝来と定着・雅楽と散楽― 4. 伎楽・雅楽・散楽―伎楽の芸態― 5. 伎楽・雅楽・散楽―雅楽の芸態― 6. 猿楽への分岐―藤原明衡『新猿楽記』の概説― 7. 猿楽への分岐―藤原明衡『新猿楽記』の講読― 8. 大和・近江四座の成立とその展開 9. 古典との融合―三輪― 10. 古典との融合―井筒― 11. 古典との融合―俊寛― 12. 民衆と芸能―歌舞伎の歴史― 13. 民衆と芸能―忠臣蔵― 14. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布プリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	試験 70%、課題も含めた授業への参加度 30%。

	ことばと思想２（日本文学作品研究 e）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
本居宣長の世界 本居宣長は伊勢・松阪に生まれた江戸時代の国学者です。国学者とは、日本の古典を研究対象とし、日本固有の「道」を明らかにしようとした人々を指しています。宣長の残した古事記の注釈書である『古事記伝』や源氏物語の注釈書である『紫文要領』などは現代でも重要視されている文献です。 本講義では、宣長の師である賀茂真淵のものをはじめ、本居宣長が残した随筆や注釈書から宣長の言葉に表されている「思想」をいくつかのキーワードとして取り上げ、研究者として、また、教育者として活躍した「宣長の思想」を理解し、「生きるとは」「学ぶとは」といったことを考えることを講義の目的とします。	1. ガイダンス―本居宣長とは― 2. 生きる力―『排蘆小船』をよむ・歌を詠もう－ 3. 生きる力―『排蘆小船』をよむ・「歌の徳」とは－ 4. 物学び―『玉勝間』をよむ・学問のはじまり― 5. 物学び―『玉勝間』をよむ・「古」を考えること― 6. 物学び―『玉勝間』をよむ・既成概念の打破― 7. 物学び―賀茂真淵『万葉考』をよむ・「古」の志向― 8. 物学び―賀茂真淵『万葉考』をよむ・和歌の意義― 9. 「心」と「詞」―『石上私淑言』概説― 10. 「心」と「詞」―『石上私淑言』もののあはれの論― 11. 「心」と「事」と「詞」―『うひ山ふみ』概説― 12. 「心」と「事」と「詞」―学問をはじめる人は― 13. 「心」と「事」と「詞」―書の読み方― 14. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布されるプリントに提示された課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	試験 70%、課題を含めた授業への参加度 30%。

	ことばと思想２（日本文学作品研究 c）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
富士山の伝承と文学 『万葉集』に「奇しくもいます神」と詠まれ、古来から霊山として讃えられてきた富士山は、一方で山容の美しさや雄大さが様々な文学作品に表現された山でもあります。 本講義では、「伝承」と「文学」の二つの視点から世界文化遺産にも登録された「富士山を解き明かすことを目的とします。「富士山」をキーワードに、通史としての日本文学史を学び、日本人の志向を文学作品から読み解くことをします。	1. ガイダンス―パワースポット「富士山」― 2. 富士に抱く思い―『万葉集』『古今和歌集』 3. 富士山の伝説―『富士山記』― 4. 富士山の伝説―『更級日記』他― 5. 富士山の伝説―『竹取物語』 6. 伝説のクライマー―『日本霊異記』― 7. 伝説のクライマー―『聖徳太子伝暦』― 8. 富士山の神―『人穴草子』― 9. 富士山の神―『富士山縁起』― 10. もう一つのかぐや姫伝説―『皇国地誌』― 11. 富士信仰の歴史と伝承―古代から中世― 12. 富士信仰の歴史と伝承―中世から近世― 13. 富士信仰の歴史と伝承―近世― 14. まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布プリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	試験 70%、課題も含めた授業への取り組み 30%。

	ことばと思想２（韓国の言語文化）	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、韓国の言語文化をより深く勉強していきます。 受講生は韓国語で書いてある資料の内容を理解し、翻訳とレジュメの提出と共に発表します。 毎回精読の上、翻訳したレジュメを必ずやって来てください。 授業スケジュールは学生の特性によって変更可能性があります。	1. イントロダクション；韓国の言語 2. イントロダクション；韓国の現代文化 3. 韓国人の衣・食・住 4. 韓国の文化遺産 5. 韓国人の宗教生活 6. 1～5のまとめと発表 7. 韓国の民主化 8. 韓国の教育熱 9. 変化している韓国の家族 10. 7～9のまとめと発表 11. 韓国映画の現在と未来 12. 韓国人の余暇文化 13. スポーツと応援文化 14. 11～13のまとめと発表

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。
テキスト	毎回適切な資料を配布します
参考文献	梁他『外国人のための韓国文化 30 講』、パックイジョン
評価方法	翻訳 30%、レジュメの提出および発表 40%、書評 30%

	ことばと思想２（古典ギリシア語Ⅰa）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞春・秋一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきます。 ＜講義概要＞授業は毎回各単元１～２つずつ学習するペースで進みますが、途中10分間ほどの中休みを入れて、古代や現代のギリシアの情勢等を映像を交えて紹介しながら、和やかな雰囲気で行いたいと考えています。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。また、この講座の学修後、Ⅱabにステップアップをして古典ギリシア語の理解を深めて、ギリシア古典を原文で読んで味わい深い教養に親しむことをお勧めします。	1. 字母・発音・音韻などの分類（自分の名前を書く） 2. 音節・アクセント・句読点（ギリシア語単語が読める） 3. 動詞の変化・直説法能動相現在（単文の理解が可能） 4. 名詞の第一変化（名詞の格変化の理解が可能） 5. 動詞の変化・直説法能動相未来（未来形の文章理解） 6. 動詞の変化・直説法能動相未完了過去（3時制の理解） 7. 名詞の第二変化 8. 形容詞の第一・第二変化 9. 前置詞（格支配をする前置詞の理解） 10. 動詞の変化・直説法能動相アオリスト（過去時制理解） 11. 動詞の変化・現在完了と過去完了（加音と畳音の理解） 12. 指示代名詞と強意代名詞（『新約聖書』が読める） 13. 直説法能動相本時称の人称語尾 14. 春学期まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を事前に予習をして、練習問題をやっておき、授業中にその正誤を確認し、授業後は単語帳や文法事項を整理しておいて、次回に提出して下さい。ノートはその場で確認し返却します。
テキスト	田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門　新装版』（岩波書店、2012 年）（2200 円＋消費税）
参考文献	なし。適宜、プリントを配布します。
評価方法	平常点 50%、授業への参加度 30%、小テスト 20%

	ことばと思想２（古典ギリシア語Ⅰb）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	1. ε ι μ ί（ある）動詞およびφ η μ ί（言う）動詞 2. 疑問代名詞と不定代名詞 3. 動詞の変化・直説法中動相の各時制 4. 人称代名詞とその代用表現 5. 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞 6. 第二アオリストの用法（動詞の不規則変化） 7. 動詞の変化・直説法受動相 8. 名詞の第三変化（名詞の不規則変化） 9. 能相欠如動詞と約音動詞 10. 形容詞の第三変化 11. 接続法能動相 12. 接続法中動相 13. 不定法 14. 秋学期のまとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	同上
テキスト	同上
参考文献	同上
評価方法	同上

	ことばと思想２（古典ギリシア語Ⅱa）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、1年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手に、ともかくも可能になることを主目的としています。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を一語一語また一文一文と、こまめに根気よく掘り下げていくことから始めたいと思います。その上で内容説明や解説を丁寧にゆっくり、かつ、じっくり取り組むよう心がけます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会と文化にも触れることにしたいと考えます。 授業では、毎回、楽しい読み物をごくやさしく、短い文章をもとに、ノートの作り方、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識、裏話やエピソード、関連する映像などを交えて解説していきます。受講者は初級文法を修了していることが望ましいけれど、必ずしも拘りません。	1. はじめに（辞書の引き方、ノートの作り方の指導） 2. 『イソップ物語』の教訓：鶏と泥棒 3. きつねとつる 4. かめとそのねぐら 5. おおかみの叫び 6. 猿のものまね上手 7. 猿といるか 8. 父親と息子 9. ライオンといるか 10. 最古のギリシア碑文を読む（「ネストルの杯」より） 11. ギリシア大理石碑文を読む（「民会決議碑文」より） 12. プラトンを読む（『ファイドン』より） 13. クセノポンを読む（『ソクラテス言行録』より） 14. 春学期まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習し、自分で理解できる所とそうでない所を確認しておき、授業後は正しい日本語の訳を付け、単語帳や文法事項を整理しておいて、次回の授業の際に提出して下さい。
テキスト	市販のテキストは使用せず、こちらで用意したプリント（テキスト、語彙集、文法一覧表付）を配布する。
参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	平常点 50%、授業への参加度 50%

	ことばと思想２（古典ギリシア語Ⅱb）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
同　上	1. 『人さまざま』（テオフラストスの鋭い人間観察の妙） 2. おべっか使い 3. 不平たらたらの人 4. 他人を信じられない人 5. 田舎もの 6. 噂好きの人 7. おせっかいな人 8. ヘロドトスを読む（『歴史』第1巻より） 9. トゥキュディデスを読む（『戦史』第4巻より） 10. パウサニアスを読む（『ギリシア案内記』第8巻より） 11. プラトンを読む（『饗宴』より） 12. プラトンを読む（『ソクラテスの弁明』より） 13. ルキアノスを読む（『神々との対話』より） 14. 秋学期まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	同　上
テキスト	同　上
参考文献	同　上
評価方法	同　上

	ことばと思想２（ラテン語Ｉa）	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語とは今から2,000年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行ないます。	1:第一課 文字と発音・音韻組織・音節 2:第一課 アクセント・母音の長音化と短音化 3:第一課 直説法現在能動相・接続詞の例 4:第二課 第一変化名詞・名詞の性と格・不規則動詞 5:第二課 第二変化名詞・erで終わる第二変化男性名詞 6:第三課 第一・第二変化形容詞・前置詞 7:第三課 人称代名詞・再帰代名詞 8:第四課 未完了過去・未来 9:第四課 第三変化名詞 10:第五課 完了・過去完了・未来完了 11:第五課 第三変化形容詞・場所の表現 12:第六課 指示代名詞・idemとipse 13:第六課 直説法受動相未完了系三時称・受動文 14:第七課 疑問代名詞と疑問形容詞・関係代名詞

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習復習をお勧めしておきます。
テキスト	中山恒夫『標準ラテン文法』（白水社）
参考文献	特になし。
評価方法	平常点 100％で評価します。平常点とは受講者が毎回発表する予習の成果です。

	ことばと思想２（ラテン語Ｉb）	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです。ただし、秋学期から受講するという場合は，春学期で学ぶ内容を終えている必要があります。	1:第八課 目的分詞・動詞の基本形・完了受動分詞 2:第八課 命令法能動相・命令法受動相 3:第九課 不規則動詞・形容詞の比較 4:第九課 副詞の比較・部分を表す述語的同格 5:第十課 形式受動相動詞・分詞 6:第十課 接合分詞・絶対的奪格 7:第十一課 不定法 8:第十一課 対格＋不定法 9:第十二課 代名詞型形容詞・不定代名詞・nemoとnihil 10:第十二課 二重否定・動名詞・動形容詞 11:第十三課 非人称動詞・属格の用法 12:第十三課 与格の用法 13:第十四課 対格の用法・奪格の用法 14:第十五課 接続法の活用と用法

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習復習をお勧めします。
テキスト	春学期と同じです。
参考文献	特になし。
評価方法	春学期と同じです。

	ことばと思想２（ラテン語Ⅱa）	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そのため続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。	1. カエサル『ガリア戦記』教材プリント配布、ガイダンス。 2. 第1巻第1章 3. 第3巻第1章 4. 第3巻第2章 5. 第3巻第3章 6. 第3巻第4章 7. 第3巻第5章 8. 第3巻第6章 9. 第3巻第7章 10. 第3巻第8章 11. 第3巻第9章 12. 第3巻第10章 13. 第3巻第11章 14. 第3巻第12章

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習は必須です。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	初級で使った教科書を参考書とします。また何語でもよいのでラテン語の辞書を用意してください。
評価方法	平常点 100％で評価します。平常点とは受講者が毎発表する予習の成果です。

	ことばと思想２（ラテン語Ⅱb）	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じですが、ラテン語の散文を読む春学期に対して、秋学期は韻文に挑戦してみようと思います。古代ローマの代表的な叙事詩であるウェルギリウスの『アエネイス』を読みます。	1. ウェルギリウス『アエネイス』教材プリント配布、ガイダンス。 2. 第1巻1行～20行 3. 第1巻21行～41行 4. 第1巻42行～63行 5. 第1巻64行～80行 6. 第12巻791行～807行 7. 第12巻808行～825行 8. 第12巻826行～840行 9. 第12巻841行～860行 10. 第12巻861行～878行 11. 第12巻879行～898行 12. 第12巻899行～918行 13. 第12巻919行～939行 14. 第12巻940行～952行

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習が必須です。
テキスト	ウェルギリウスの『アエネイス』を読みます。例によってプリントを配布します。
参考文献	春学期と同じです。
評価方法	春学期と同じです。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

18 年度以前	ことばと思想 2（心理検査法と自己理解）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して，心理学の基本的知見を習得してほしい。また，心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。 **※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。**	1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. Ｙ－Ｇ性格検査（理論的背景と検査の実施） 4. Ｙ－Ｇ性格検査（検査結果の分析・解釈） 5. ストレス・コーピング 6. 職業への興味 7. 知能検査 8. EQS 9. 性格５因子 10. TEG 11. グループ・ワークによる自己理解（非言語的理解） 12. グループ・ワークによる自己理解（言語的理解） 13. グループ・ワークによる自己理解（他者と自己） 14. テスト・バッテリーに基づく自己理解

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	各回で扱う心理検査について、その背景理論などを事前に学習する。事後にあっては、心理検査の結果を踏まえて授業で指示した課題をおこないレポートにより提出する。
テキスト	各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。
参考文献	各回で参考文献は異なるので、各回の授業にて紹介する
評価方法	実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらう（50%）。また、最終レポートを課す（50%）。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。

	ことばと思想２（日本語教育研究法）	担当者	瀬尾　悠希子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 日本語教育研究を行うために必要となる基礎的な知識と技術を身につけること。 【講義概要】 質問紙調査、インタビュー、観察を実際に体験しながら、それぞれの調査方法の基本的な特徴と方法、注意点を理解することを目指します。 ※授業内外での課題への取り組み、グループワークやディスカッションへの積極的参加が強く求められる点を理解したうえで履修してください。出席しているだけで単位は出ません。	1.　オリエンテーション、日本語教育研究とは 2.　質問紙調査（概要） 3.　質問紙調査（質問紙作成） 4.　質問紙調査（調査実施） 5.　インタビュー（概要） 6.　インタビュー（インタビューガイド作成） 7.　インタビュー（調査実施） 8.　観察（概要） 9.　観察（観察実施） 10.　観察（分析） 11.　ミニ・リサーチ（調査準備） 12.　ミニ・リサーチ（調査実施） 13.　ミニ・リサーチ（分析） 14.　発表、まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後とも、出された課題を行うこと。授業で学んだ調査法を用いた文献を読んでみること。
テキスト	授業中にプリントを配布する。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	通常課題 30%、ミニ・リサーチ成果物 50%、授業への積極的参加・貢献度 20%

	ことばと思想２（日本語の諸問題）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 日本語を対象に，生成文法分析を行う。授業の目的は，生成文法の考え方を理解するとともに，それによる言語分析について基本的な方法を獲得すること，および日本語の構造について一定の知見をえることである。 ［講義概要］ 授業前に教科書の相当箇所を読了し，教員から提示される問題への解答を準備してくることが求められる。 授業自体は，その問題への議論を中心に行われる。よってできるかぎり，ことばと思想1（日本語文法形態論）およびことばと思想1（日本語文法統語論）を既習しているか，それに相応する言語学の初歩を終了していることが望まれる。	1.　本語学概論 2.　日本語の基本構造 3.　文 4.　句構造 5.　語彙範疇と機能範疇 6.　自他の対応と非対格 7.　主語主題と移動 8.　VPからIPのまとめ 9.　機能範疇と補文構造 10.　VP補文と格交替 11.　動文と使役文 12.　複合述語と結果句 13.　結果構文の統語構造 14.　CPからVPシェルのまとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の毎回の指定箇所を読了するとともに，配布課題への解答を準備してくること。 毎回 3～4 時間の学習が必要となる。
テキスト	長谷川信子（1999）『生成日本語学入門』大修館書店
参考文献	S.ピンカー（1995）『言語を生み出す本能』NHK ブックス
評価方法	試験（60%）　授業活動への積極性（40%）

	ことばと思想２（日本語教育教材論）	担当者	倉田　芳弥

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この授業では、多様化する学習者のニーズに対応した教材の選定や作成ができるようになることを目的とします。 【講義概要】 授業では、教材分析及び教材作成について学び、また技能別に実際に教材を作成します。作成した教材は、実際に使用して意見交換を行います。 授業中、グループワークやペアワークが多いので、授業には積極的に参加してください。また、毎回課題を出します。課題に基づいて次の授業を行うので、指示された課題には必ず取り組むようにしてください。やむを得ず欠席する場合は必ず連絡をし、次回の課題を確認してください。	１．オリエンテーション・教材分析の概要 ２．初級教材の分析 ３．初級教材の発表・主教材と補助教材 ４．中上級教材の分析 ５．会話教材の分析、作成 ６．会話教材の発表 ７．聴解教材の分析 ８．聴解教材の作成、修正 ９．聴解教材の発表 １０．読解教材の分析 １１．読解教材の作成 １２．インターネットを活用した教材の分析 １３．最終課題作成 １４．最終課題発表

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業内容に関する事前・事後の課題があります。
テキスト	特に指定しない。プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、必要に応じて紹介する。
評価方法	課題 40%、期末レポート 30%、授業への参加度・貢献度 30%

	ことばと思想２（日本語教育のための社会言語学）	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 以下の３点を通して、日本語教師に必要な社会言語学の素養を身につけることを目的とします。 １．自身の言語運用を社会との関わりから振り返る。 ２．多文化社会のなかでの日本語とその運用を知る。 ３．多言語・多文化社会で求められる日本語・日本語教育を考える。 【講義概要】 この授業では、多言語・多文化社会との関係から「日本語」を再考します。多様な背景を持つ学生がともに考え、自らの、そしてお互いの言語運用について理解を深めることで、相互理解のための日本語・日本語教育とはどのようなものかを考えていきます。	1.　オリエンテーション 2.　言語のバリエーション 3.　言語運用のルール 4.　言語・非言語行動 5.　丁寧表現、敬語における普遍性と多様性 6.　言語運用に対する評価 7.　接触場面の日本語　－理論 8.　接触場面の日本語　－データ分析 9.　正しい日本語 10. 役割語 11. うれしい日本語・不快な日本語　－データ分析 12. うれしい日本語・不快な日本語　－発表 13. やさしい日本語　－背景と現状 14. やさしい日本語　－実践

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。
テキスト	教科書の指定は特になし。毎回プリントを配布。
参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	①課題の取り組み　３０％　②参加態度・貢献度　３０％　③期末レポート　４０％

	ことばと思想２（日本語教育専門講読）	担当者	谷内　美智子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 第二言語習得研究から得られた知見と自分自身の外国語学習経験を結びつけることを通して、効果的な日本語学習、日本語指導について考えることを目的とします。 【講義概要】 第二言語習得研究とは、母語以外の言語を学習するときのメカニズムを明らかにしようとする研究分野です。本講義では第二言語習得研究がどのように行われてきたか、第二言語習得研究から何が明らかになったか、第二言語習得研究がどのように日本語教育に貢献するかを学んでいきます。 なお、授業では課題提出やグループワーク等があります。積極的に参加し、指示された課題等には必ず取り組んでください。	1. 日本語教育における第二言語習得研究の位置づけ 2. 第二言語習得研究とは何か 3. 中間言語 4. 学習者の母語の影響 5. 習得順序 6. インプットとアウトプット 7. 言語習得と年齢の関係 8. 動機づけと第二言語習得 9. 言語習得に関係する認知能力 10. 言語習得と学習スタイル 11. 学習スタイルに合わせた指導、学習 12. 第二言語習得における文法学習 13. 第二言語習得における語彙学習 14. 第二言語習熟度の測定、評価

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された課題を行う。 事後学修：授業で学習した内容を整理し、指示された課題を行う。
テキスト	大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	期末レポート（40%）、課題の取り組み（30%）、授業への参加度（30%）

	ことばと思想２（年少者日本語教育）	担当者	宇津木　奈美子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、日本語を母語としない子どもを対象とした日本語教育に焦点をあて、子どもの現状とそこから浮かびあがる問題を考察していきます。 まず、子どもの言語能力を第 1 言語と第 2 言語の関係性から捉えていきます。その上で、学校現場や地域・家庭における日本語教育の取り組みや事例を検討し、そこから見えてくる課題を明らかにしていきます。 子どもが母国で培ってきた母語や母文化などの資源を生かしつつ、子どもの継続的な認知発達を支える学習支援のあり方について検討していきます。 授業はグループワークやペアワークが多いので、積極的な参加姿勢が求められます。	1.　講義の概要 2.　日本語を母語としない子どもの状況と問題点 3.　日本語を母語としない子どもに対する日本語指導 4.　日本語を母語としない子どもの言語能力 5.　第一言語と第二言語の関係 6.　日本語を母語としない子どもの書く力の獲得と発達 7.　学校における日本語指導 8.　言語と家庭・地域社会の関係 9.　日本語を母語としない子どもの成長を支える日本語教育 10. 日本語学習と教科学習 11. 母語保障 12. 子どもの母語を活用した教科学習 13. ボランティア学習支援 14. 講義のまとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で指示された参考文献を読んでおいて下さい。また、授業後は授業で得た知見を整理してください。
テキスト	適宜プリント配布
参考文献	中島和子（2016）『完全改訂版バイリンガル教育の方法』アルク
評価方法	期末レポート 70%、授業への参加度 30%

	ことばと思想２（日本語音声学）	担当者	磯村　一弘

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。 そのうえで、外国人学習者が日本語の音声を学ぶ際の問題点や、これを教えるための具体的な方法について考える。	1.（4/10）　オリエンテーション、言語音を作るしくみ 2.（4/17）　母音 3.（4/24）　子音(1):調音点と調音法、破裂音、鼻音 4.（5/8）　子音(2):ふるえ音、はじき音、摩擦音 5.（5/15）　子音(3):破擦音、接近音、側面音 6.（5/22）　日本語の母音と子音まとめ 7.（5/29）　母音の無声化 8.（6/5）　特殊音素(1):撥音 9.（6/12）　特殊音素(2):促音、長音 10.（6/19）　拍とリズム 11.（6/26）　アクセント(1):アクセントのしくみ 12.（7/3）　アクセント(2):品詞別のアクセント 13.（7/10）　イントネーション 14.（7/17）　最終試験、総復習

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書に目を通しておくこと
テキスト	『国際交流基金日本語教授法シリーズ２　音声を教える』ひつじ書房
参考文献	特になし
評価方法	「最終試験 100%」。単位が必要な者は、7/17 の試験を必ず受験すること。出席は取らない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	ことばと思想２（日本語教授法Ｉa）	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この授業では、外国語として日本語を教えるために必要な基礎的な知識と能力を身につけます。自分自身の日本語運用や外国語学習の経験を振り返りながら、何をどう教えるかについて、様々な角度から考えます。 【講義概要】 日本語教育能力検定試験の出題範囲を概観し、これまでに学んだ各論の知識を整理します。また、コミュニケーション能力を伸ばす言語教育とはどのようなものかを考え、実践のための基礎力を養います。授業は、講義とディスカッション、発表の形態で進めます。 【注意事項】 授業で指示された課題は必ず取り組んで来ること。	1.　オリエンテーション 2.　言語使用と社会 3.　言語習得 4.　異文化理解と心理 5.　外国語教授法 6.　音声学と音韻論 7.　学習者の発音 8.　日本語教育における音声指導 9.　日本語の文字・表記 10.　日本語の語彙、語彙形成、意味 11.　文字・語彙の指導 12.　文法　ー語、文 13.　文法・文型の指導 14.　コースデザインと評価

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。
テキスト	佐々木泰子編『ベーシック日本語教育』ひつじ書房
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	①課題の取り組み　３０％ ②期末試験　５０％ ③参加態度・貢献度　２０％

	ことばと思想２（日本語教授法Ｉb）	担当者	瀬尾　悠希子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 第二言語としての日本語を教えるために必要な、基礎的な知識と態度を身につけること。 【講義概要】 この授業では、コースデザインの基礎や文法の指導、聞く・読む・話す・書くの技能別の指導について理解を深め、具体的な教室活動を考えることができるようになることを目指します。さらに、文化を教えることや学習者の自律性を育てること、学習をどのように評価するかについても学びます。 ※グループワークを多用し、積極的な発言を強く求めます。また、出された課題に事前に取り組んだうえで授業に臨んでください。	1. オリエンテーション、ビリーフ 2. コースデザイン 3. 文法の指導（初級） 4. 文法の指導（中級） 5. 聞くための指導 6. 話すための指導 7. 読むための指導 8. 書くための指導 9. 活動案作成 10. 活動案発表 11. 文化を教える 12. 学習の評価 13. 学習者の自律性を育てる 14. 振りかえり、まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：次回までの課題に取り組み、わからない点を調べておく。 事後学修：授業で学んだことを整理し、自分の考えをまとめる。
テキスト	授業中にプリントを配布する
参考文献	坂本正・川崎直子・石澤徹『日本語教育への道しるべ　第３巻　ことばの教え方を知る』凡人社
評価方法	リフレクション 20%、通常課題・発表 30%、最終課題 50%

	ことばと思想２（日本語教授法Ⅱ）	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 外国語として日本語を教える具体的な方法を学びます。この授業は、日本語教育機関で実習を行うための準備教育で、演習中心で進めます。 【講義概要】 毎回、学生による模擬授業を行います。模擬授業担当者は期日までに教案を提出し、当日は自分の授業の様子をビデオに録画し、授業後半の振り返りに使用します。一方、教師役以外は全員学習者役となり、学習者の立場から、また、授業を俯瞰的、客観的にみる観察者として授業観察記録をつけます。 履修者の人数により、1回の模擬授業の人数を決定しますが、少なくとも一人2回は授業（教師役）を担当します。 学期末には、観察記録（他者からの評価）と振り返り（自己評価）をまとめ、自己分析レポートとして提出します。	1.　オリエンテーション，初級で教える項目の確認 2.　初級の授業の流れと教案の作成 3.　模擬授業① 4.　模擬授業② 5.　模擬授業③ 6.　模擬授業④ 7.　模擬授業⑤ 8.　模擬授業⑥ 9.　模擬授業⑦ 10.　中級以上の指導内容と授業の流れ 11.　模擬授業⑧ 12.　模擬授業⑨ 13.　模擬授業⑩ 14.　模擬授業⑪、まとめ

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	教案作成等の事前課題がある。事後としては模擬授業についての内省レポートを提出。
テキスト	模擬授業に使用するテキスト：『みんなの日本語初級Ⅰ,Ⅱ』、『げんきⅠ,Ⅱ』等の一般的な初級の教科書
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	①授業の準備　２０％　②模擬授業　３０％　③期末レポート（自己分析レポート）３０％ ④参加態度・貢献度　２０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	ことばと思想２（日本語教育実習）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本学における日本語教員養成プログラムは、4年次における教育実習を必須としている。実習の目的は、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることである。 【講義概要】 この授業は、大学での事前と事後の指導、および学外の日本語教育機関（日本語学校）における、少なくとも2週間（48時間相当）にわたる実習（実際の授業を担当する教壇実習を含む）によって構成される。 【注意事項】 この授業を履修するためには、教授法Ⅱを修了していることが条件となる。	各教育機関による。

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教育機関によって指示される。
テキスト	各教育機関によって指示される。
参考文献	各教育機関によって指示される。
評価方法	基本的には実習校からの評価に基づく。よって、欠勤、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。

	ことばと思想２（日本語教育実習）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本学における日本語教員養成プログラムは、4年次における教育実習を必須としている。実習の目的は、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることである。 【講義概要】 この授業は、大学での事前と事後の指導、および学外の日本語教育機関（日本語学校）における、少なくとも2週間（48時間相当）にわたる実習（実際の授業を担当する教壇実習を含む）によって構成される。 【注意事項】 この授業を履修するためには、教授法Ⅱを修了していることが条件となる。	各教育機関による。

到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教育機関によって指示される。
テキスト	各教育機関によって指示される。
参考文献	各教育機関によって指示される。
評価方法	基本的には実習校からの評価に基づく。よって、欠勤、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。

	歴史と文化２（フランス映画と「他者」）	担当者	森井　良

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、問題作と言われるフランス映画のいくつかを鑑賞しながら、そこに映し出された歴史・社会・人間の諸相に迫ってみたいと思います。副題として「他者」というキーワードを挙げてみました。それは時代やその時々の社会にとっての「他者」でもあるでしょうし、具体的にはフランスや日本という文化圏にとっての「他者」、もしかするとあなたにとっての「他者」かもしれません。そういった「異邦人」が各映画のなかでどのように描かれ、問題にされているかを検討することが本授業の裏テーマです。 授業の進め方とスケジュールを確認しますので、「オリエンテーション」の回は必ず出席してください。上映回にはPorta経由でレヴューを提出してもらいます（これをもってその回の出席に代える）。 ※「ヤバい」＝過激な表現に耐えられない人は受講を控えること。	１．オリエンテーション ２.『沈黙の女／ロウフィールド館の惨劇 』（監督：クロード・シャブロル） ３．レクチャー ４.『危険なプロット』（監督：フランソワ・オゾン） ５．レクチャー ６.『マックス・モナムール』（監督：大島渚） ７．レクチャー ８.『ヒロシマ・モナムール』（監督：アラン・レネ） ９．レクチャー １０.『ラルジャン』（監督：ロベール・ブレッソン） １１．レクチャー １２.『ピアニスト』（監督：ミヒャエル・ハネケ） １３．レクチャー １４．まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	とにかく普段から映画を見てください。その際、細部を気にして見ること。そして自分の頭で考えること。
テキスト	映像資料を使用します。プリントも適宜配布するつもりです。
参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	レポート 60%、出席・レヴューシート 40%

	歴史と文化２（フランス映画と「他者」）	担当者	森井　良

講義目的、講義概要	授業計画
フランス映画って「ヤバい」系！？――そうです、「ヤバい」んです。まじめに言い直せば、安易な共感を超えた「考えさせる」作品が多いということでしょう。 フランス映画の問題作を「他者」というテーマで見ていきます（概要と進め方は前期のシラバスを参照してください）。 ※「ヤバい」＝過激な表現に耐えられない人は受講を控えること。	１．オリエンテーション ２.『最強のふたり』（監督：エリック・トレダノ） ３．レクチャー ４.『憎しみ』（監督：マチュー・カソヴィッツ） ５．レクチャー ６.『たかが世界の終わり』（監督：グザヴィエ・ドラン） ７．レクチャー ８.『さよなら子供たち』（監督：ルイ・マル） ９．レクチャー １０.『中国女』（監督：ジャン＝リュック・ゴダール） １１．レクチャー １２.『グッバイ・ゴダール！』（監督：ミシェル・アザナヴィシウス） １３．レクチャー １４．まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	とにかく普段から映画を見てください。その際、細部を気にして見ること。そして自分の頭で考えること。
テキスト	映像資料を使用します。プリントも適宜配布するつもりです。
参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	レポート 60%、出席・レヴューシート 40%

	歴史と文化２（イタリアの音楽史）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。	1. ガイダンスと導入 2. 古代ギリシアの音楽と西洋音楽 3. グレゴリオ聖歌 4. グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展 5. 「イタリア音楽」の誕生 6. メディチ家の芸術後援活動 7. 宗教改革と音楽 8. バロック音楽の誕生 9. ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 10. ヴィヴァルディとヴェネツィア 11. パガニーニと超絶技巧 12. ヴェルディとイタリア国家統一運動 13. プッチーニと異国趣味 14. レスピーギと古楽復興運動

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内容をまとめたノートを各自工夫して作成すること。また、授業中に鑑賞した音楽作品は、本学図書館で、あるいはオンラインで鑑賞可能なものもあるので、それらも積極的に活用することが望ましい。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	学期中に複数回行う小テスト（持ち込み不可）（50%）と、授業中に随時指示する課題（50%）によって評価する。小テストの時期は授業中に指示する。

	歴史と文化２（イタリアの声楽曲）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの声楽曲の歴史をオペラに焦点を絞って概観する。	1. オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2. オペラ誕生の経緯 3. フィレンツェにおける初期の試み 4. バロック・オペラの台本 5. バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 6. オペラ・セリアとオペラ・ブッファ 7. バロック・オペラと劇場 8. ロッシーニの世界 9. ドニゼッティとロマン主義オペラの誕生 10. ヴェルディ 11. フランス・オペラとイタリア・オペラ 12. ヴェリズモ・オペラの誕生 13. プッチーニとヴェリズモ・オペラ 14. プッチーニと異国趣味

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内容をまとめたノートを各自工夫して作成すること。また、授業中に鑑賞した音楽作品は、本学図書館で、あるいはオンラインで鑑賞可能なものもあるので、それらも積極的に活用することが望ましい。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	学期中に複数回行う小テスト（持ち込み不可）（50%）と、授業中に随時指示する課題（50%）によって評価する。小テストの時期は授業中に指示する。

	歴史と文化２（詩と音楽 7）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ジョアキーノ・ロッシーニ（1792～1868）は19世紀にイタリアとフランスで活躍したオペラ作曲家である。本講義では彼のオペラの中でも一風変わった作品であり、また劇としても非常によく出来ている《泥棒かささぎ》（ミラノ、1817）を取り上げる。 この作品はフランス革命（1789）前後にフランスで好まれた、いわゆる「救出劇」をオペラ化したもので、その題材には当時の世相が色濃く反映されている。 授業では、まずロッシーニの《泥棒かささぎ》をじっくりと鑑賞する。また、同じくフランス革命から強い影響を受けているベートーヴェンの初期作品、特に第三交響曲とオペラ《フィデリオ》も鑑賞し、音楽史におけるフランス革命について考察する。 **なお、本講義は「詩と音楽7」であるので、授業開始までに「詩と音楽1」「詩と音楽2」「詩と音楽3」「詩と音楽4」「詩と音楽5」「詩と音楽6」の単位を取得した学生も履修できる。**	1. ガイダンスと導入 2. ロッシーニ《泥棒かささぎ》第1幕前半 3. ロッシーニ《泥棒かささぎ》第1幕前半の復習 4. ロッシーニ《泥棒かささぎ》第1幕後半 5. ロッシーニ《泥棒かささぎ》第1幕後半の復習 6. ロッシーニ《泥棒かささぎ》第2幕前半 7. ロッシーニ《泥棒かささぎ》第2幕後半 8. ロッシーニ《泥棒かささぎ》全体の復習 9. ベートーヴェン《フィデリオ》概説 10. ベートーヴェン《フィデリオ》第1幕 11. ベートーヴェン《フィデリオ》第2幕 12. ベートーヴェンの第三交響曲 13. フランス革命、ナポレオン戦争（1799～1815）、そして音楽 14. 総括

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で鑑賞する映像・録音ソフトには、本学図書館、あるいはオンラインで利用可能なものがあるので、それらも積極的に活用することが望ましい。
テキスト	プリントを配布する。授業には以前の回に配布したプリントも必ず持参すること。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	期末レポート（50 点満点）の他、授業中に随時指示する課題（各回 5 点満点）によって評価する。

	歴史と文化２（詩と音楽 4）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ジュゼッペ・ヴェルディ（1813～1901）は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する人物で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中から今日でも抜群の人気を誇る傑作オペラ《リゴレット》（1851）を採り上げる。 授業期間の前半では、《リゴレット》を注意深く鑑賞し、その内容を把握する。オペラ台本と、ヴィクトル・ユゴーによる原作戯曲『王様は放蕩三昧』（1832）との違いも確認する。 ちなみに、ユゴーは『王様は放蕩三昧』の初演の翌年に、対を成す戯曲『ルクレツィア・ボルジア』を発表した。この戯曲は、ヴェルディよりも年長のガエタノ・ドニゼッティ（1797～1858）が直ちにオペラ化しているので、授業期間の後半では、ドニゼッティの《ルクレツィア・ボルジア》も鑑賞しつつ、ヴェルディの《リゴレット》について理解を深めてゆく。 **なお、本講義は「詩と音楽4」であるので、授業開始までに「詩と音楽1」「詩と音楽2」「詩と音楽3」「詩と音楽5」「詩と音楽6」「詩と音楽7」の単位を取得した学生も履修できる。**	1. ガイダンスと導入 2. ヴェルディ《リゴレット》第 1 幕前半 3. 《リゴレット》第 1 幕前半と原作戯曲 4. 《リゴレット》第 1 幕後半 5. 《リゴレット》第 1 幕後半と原作戯曲 6. 《リゴレット》第 2 幕 7. 《リゴレット》第 2 幕と原作戯曲 8. 《リゴレット》第 3 幕と原作戯曲 9. 《ルクレツィア・ボルジア》序幕 10. 《ルクレツィア・ボルジア》第 1 幕 11. 《ルクレツィア・ボルジア》第 2 幕 12. 《ルクレツィア・ボルジア》と原作戯曲 13. オペラの原作作家としてのヴィクトル・ユゴー 14. ヴェルディとロマン主義オペラ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で鑑賞する映像・録音ソフトには、本学図書館、あるいはオンラインで利用可能なものがあるので、それらも積極的に活用することが望ましい。
テキスト	プリントを配布する。授業には以前の回に配布したプリントも必ず持参すること。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	学期中に課すレポート（50 点満点）の他、授業中に随時指示する課題（各回 5 点満点）によって評価する。レポートの提出時期については、授業中に指示する。

	歴史と文化２（楽典（音楽通論）―楽譜を読み・書くために）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
目的：音楽を鑑賞したり、音楽史を理解するときの一助にするため、楽譜を読んだり書いたりする基礎的な力を身につけること、またそれによって音に敏感な意識をもてるようにすることを目的とします。この目的に意欲的に取り組む学生の受講が望まれます。 概要：テキストに沿って音の書き方、音のつなげ方、楽譜の仕組みや約束事、音の関係性などを順番に学びます。実践が大切ですから聴いたり歌ったりもします。毎時間学んだことを実習して理解を確かなものにしていきます。この積み重ねが不可欠ですから欠席は極力避けてください。 　毎時間テキスト・五線譜ノート・赤黒鉛筆などを持参すること。 ＊春・秋学期は同一内容ですので、履修はどちらか1回のみです。	1.　ガイダンス、実践の試み 2.　音符1：音の長さの表わし方 3.　音符2：連符や拍子 4.　楽譜のしくみ1：五線・音部記号 5.　楽譜のしくみ2：音の高さ・変化記号 6.　楽譜上の記号 7.　音楽のしくみ1：音程 8.　音楽のしくみ2：派生音を含む音程 9.　音階1：長音階・短音階 10. 音階2：関係調 11. 和音1：三和音とその種類 12. 和音2：七の和音 13. 和音3：和音のつなぎ方 14. まとめと試験

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各時間のテキストの内容をしっかり読むこと。確実に実習に取り組むこと。
テキスト	教芸音楽研究グループ編『改訂　音楽通論』2009 教育芸術社（934 円＋税）。各自購入のこと。
参考文献	授業中に適宜紹介
評価方法	平常点 50%、試験 50%。受験資格・評価資格：2/3 以上の出席

	歴史と文化２（楽典（音楽通論）―楽譜を読み・書くために）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
目的：音楽を鑑賞したり、音楽史を理解するときの一助にするため、楽譜を読んだり書いたりする基礎的な力を身につけること、またそれによって音に敏感な意識をもてるようにすることを目的とします。この目的に意欲的に取り組む学生の受講が望まれます。 概要：テキストに沿って音の書き方、音のつなげ方、楽譜の仕組みや約束事、音の関係性などを順番に学びます。実践が大切ですから聴いたり歌ったりもします。毎時間学んだことを実習して理解を確かなものにしていきます。この積み重ねが不可欠ですから欠席は極力避けてください。 　毎時間テキスト・五線譜ノート・赤黒鉛筆などを持参すること。 ＊春・秋学期は同一内容ですので、履修はどちらか1回のみです。	1.　ガイダンス、実践の試み 2.　音符1：音の長さの表わし方 3.　音符2：連符や拍子 4.　楽譜のしくみ1：五線・音部記号 5.　楽譜のしくみ2：音の高さ・変化記号 6.　楽譜上の記号 7.　音楽のしくみ1：音程 8.　音楽のしくみ2：派生音を含む音程 9.　音階1：長音階・短音階 10. 音階2：関係調 11. 和音1：三和音とその種類 12. 和音2：七の和音 13. 和音3：和音のつなぎ方 14. まとめと試験

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各時間のテキストの内容をしっかり読むこと。確実に実習に取り組むこと。
テキスト	教芸音楽研究グループ編『改訂　音楽通論』2009 教育芸術社（934 円＋税）。各自購入のこと。
参考文献	授業中に適宜紹介
評価方法	平常点 50%、試験 50%。受験資格・評価資格：2/3 以上の出席

	歴史と文化２（日韓比較文化論 b）	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
１．講義目的 90年代の韓国における教育改革について、日本と比較しながら検討する。比較を通じてどちらが良いかといった問題ではなく、両国を比較することでミ見えてくる東アジアの教育におけるグローバリゼーションの現れ方について検討することが目的である。 2. 講義概要 1つのテーマを、2コマかけて検討する。おおよそひとコマ目では韓国の教育改革の1トピックについて概要を解説する。2コマ目では、比較対象として日本の制度および改革について説明したあと、両国の違い、なぜこのような差が立ち現れるのかについてグループディスカッション等を通じて検討する。	1.　講義に関するガイダンス 2.　韓国の受験と教育熱 3.　日本の受験と日韓の違い 4.　韓国の英才教育 5.　日本の英才教育と日韓の違い 6.　韓国の多文化教育 7.　日本の多文化教育と日韓の違い 8.　韓国の学校経営 9.　日本の学校経営と日韓の違い 10. 韓国のいじめ対策 11. 日本のいじめ対策 12. 韓国の児童養護 13. 日本の児童養護と日韓の違い 14. 両国における90年代の意味

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布した資料の読解、ディスカッションを踏まえたレスポンスカードの作成
テキスト	特に指定しない
参考文献	内容によって適宜紹介する
評価方法	グループディスカッションへの参加、発表（20%）、レスポンスカード（20%）、最終レポート（60%）

	歴史と文化２（日韓比較文化論 a）	担当者	青木　義幸

講義目的、講義概要	授業計画
多様なメディアを通じて韓国社会に関する情報に触れる機会が多くなっている。しかし、表層的な情報では「なぜ韓国の人々はこのように考えるのか？」という人々の考えの枠組みを内側から理解することは難しい。その一つの要因は、自分たちが無意識のうちに内面化しているものの見方を韓国に当てはめてしまうためである。本講義は、比較を通じて自分たちの常識を疑い、韓国に生きる人々の考えや行動を「文化」という側面から内在的に理解する方法の習得を目的とする。また最終的には各自で身近なテーマを決めて日韓文化比較の発表を行ってもらう。 注意：グループワーク形式を取るため、受講希望者は必ず１回目の授業から出席すること。	第1回：総合ガイダンス 第2回：どうして比較するのか？（比較の意義） 第3回：文化とは何か？（権力としての文化） 第4回：言語コミュニケーション文化 第5回：非言語コミュニケーション文化 第6回：調査方法ガイダンス（資料蒐集・仮説構築） 第7回：食文化（材料・料理） 第8回：食文化（食べ方） 第9回：軍隊文化（徴兵制） 第10回：軍隊文化（日常の中の軍隊文化） 第11回：政治文化（社会運動） 第12回：政治文化（政治参与） 第13回：学生最終プレゼン 第14回：まとめ及びフィードバック

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回配布する課題テキストを読了するとともに、講義中の質問及びアクションペーパー作成の準備してくること。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	呉智英『サルの正義』（双葉文庫、1996 年）
評価方法	授業に対する積極的参加度・毎回のリアクションペーパー（25%），プレゼンテーション（25%），期末レポート（50%）

	歴史と文化２（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	担当者	倉田　量介

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、スペインとその旧植民地ラテンアメリカ（中南米スペイン語圏など）のパフォーミングアーツ（音楽・ダンス・演劇）および映像・アニメほか視聴覚メディアを扱います。欧米や日本と比較することで、背景となる社会や時代の諸相を考察します。この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたため、まずは身体技法について触れます。クレオールという概念を筆頭に文化混淆がキーワードとなることから、個別の構成要素を探ります。グローバルなポピュラー音楽市場に影響を与えたキューバの事例を皮切りに、ジャマイカのレコード産業やサンバ・ボサノヴァで知られるブラジルに目を向け、ドキュメンタリーを参照しながら、クラブカルチャーの源流をたどります。他言語圏も概観しつつ、ローカルな民俗芸能が国民文化として戦略的に広報される経緯を追います。アートとは技巧を意味し、芸術はサブカルチャーから流行に至る場合が多い。多極化する映画界やガウディの商標化も取りあげます。ルーツとは何か。「表象」を柔軟に論じましょう。	1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域ほか中南米の混血主義とシンクレティズム 3. キューバにおけるスペイン系弦楽器とアフリカ系太鼓の遭遇 4. フォルクローレ（民俗）をめぐる身体技法とグローカル化 5. 国際的なマーケットでブランド化された建築家ガウディ 6. 映画の媒介: ICAIC からエリセやアルモドーバルまで 7. 主流と対象化: アイコン化される美の複製とポストモダン 8. 世界を席巻するポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化 9. マス対象の文化産業とサルサほか移民の市場細分化 10. 黒塗りとブラックアトランティック: ラップ・レゲトン.... 11. カット&ミックス: ジャマイカ発のスカ・レゲエ・ダブ.. 12. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリアや農民の祝宴 13. 日本の「大衆演劇」、創られた「ラテン歌謡」や J ポップ 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義が軸となるため、特に事前学修は必要ないが、関心を抱いたジャンルや実践者については、事後に自分で PV ほかのコンテンツを検索するなどして、最終レポートの下準備につなげること。
テキスト	テキストは指定せず、適宜プリント配布する。
参考文献	授業中に紹介するが、各論に関しては以下をあげる。石橋純編『中南米の音楽』（東京堂出版, 2010, 978-4490206678）
評価方法	平常授業の感想紙におけるコメント等の実績および聴講姿勢（35%）と期末レポート（65%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化 2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 1)	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
講義はすべて英語で行います。TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。 This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each topic will be introduced through imagery and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: • To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths • To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged • To learn and discuss the expression of these legends/tales /myths in the context of performance, ritual, and art • To learn and discuss how this selection of legends/tales/ myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people	1. Introduction 2. Tales of Possessed Women and Vengeful Female Ghosts 3. *Ikiryō* 生霊 and *Yūrei* 幽霊 4. Female Ghost Tales and Associated Beliefs 5. *Ubume* 産女 (Child-bearing ghosts) 6. *Chi-no-ike jigoku* 血の池地獄 (Blood Pool Hell) 7. *Yotsuya Kaidan* 四谷怪談 (The Yotsuya Ghost Story) 8. *Sarayashiki* 皿屋敷 (Dish Mansion) 9. Women Possessed: Legends from Noh 10. *Dōjōji* 道成寺 (Dōjōji Temple) 11. *Kanawa* 鉄輪 (The Iron Crown) 12. *Aoi-no-Ue* 葵上 (Lady Aoi) 13. Class Excursion 14. Review and Final Assessment

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (35%), and achievement on a final essay (45%).

	歴史と文化 2 (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 2)	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
講義はすべて英語で行います。TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。 This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each topic will be introduced through imagery and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: • To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths • To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged • To learn and discuss the expression of these legends/tales /myths in the context of performance, ritual, and art • To learn and discuss how this selection of legends/tales/ myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people	1. Introduction 2. Unit 1: Animal Tales, Symbolism and Superstitions: 3. Sea Bream, Tiger, Monkey, Fox, … 4. Ox, Rooster, Crane, Hawk, … 5. Review 6. Quiz 1 / Unit 2: Otsu-e Folk Painting: 7. *Oni no Nenbutsu* 鬼の念仏, *Fuji Musume* 藤娘, … 8. *Zatō* 座頭, *Gehō no Hashigozori* 外法梯子剃, … 9. Review, and distribution of assignment 10. *Yōkai* Illustrated: Key *Yōkai*-related Imagery: 11. *Hyakki yagyō emaki* 百鬼夜行絵巻 12. *Tsukumogami emaki* 付喪神絵巻 13. Class Excursion 14. Review and Final Assessment

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (35%), and achievement on a final essay (45%).

	歷史と文化２ （Overview of Japanese History and Culture, Part I）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
This class is an introductory course to Japanese history and culture, focusing on the years through to the Meiji Restoration of 1868: prehistoric and ancient Japan (to 538), classical Japan (538-1185), medieval Japan (1185-1600), Edo period (1660-1868). Students will be asked to read various scholarly and general writings, watch related documentaries, listen to lectures, and discuss them in class. The course will be conducted largely in English, so no advanced knowledge of Japanese is necessary. Assessment will be made according to the criteria below. There is the possibility of a field trip to Tokyo one weekend, either to a cultural venue (kabuki, bunraku or Noh), sports event (sumo or baseball), or festival.	1. Introduction 2. Prehistoric and ancient Japan 3. Prehistoric and ancient Japan 4. Classical Japan 5. Classical Japan 6. Classical Japan 7. Medieval Japan 8. Medieval Japan 9. Medieval Japan 10. Medieval Japan 11. Edo period 12. Edo period 13. Edo period 14. Final overview (Course schedule tentative, can change at any time)

到達目標	歷史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Books, readings to be announced in class.
参考文献	特になし
評価方法	Class Participation (1/3), Short Essays (1/3), Final Report (1/3) Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

	歷史と文化２ （Overview of Japanese History and Culture, PartⅡ）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
This class is an introductory course to Japanese history and culture, focusing on the years following the Meiji Restoration of 1868: Meiji period (1868-1912), Taisho period (1912-26), Showa period (1912-89), Heisei period (1989-present). Students will be asked to read various scholarly and general writings, watch related documentaries, listen to lectures, and discuss them in class. The course will be conducted largely in English, so no advanced knowledge of Japanese is necessary. Assessment will be made according to the criteria below. There is the possibility of a field trip to Tokyo one weekend, either to a cultural venue (kabuki, bunraku or Noh), sports event (sumo or baseball), or festival.	1. Introduction 2. Meiji period 3. Meiji period 4. Meiji period 5. Meiji period 6. Taisho period 7. Taisho period 8. Showa period 9. Showa period 10. Showa period 11. Showa period 12. Heisei period 13. Heisei period 14. Final overview (Course schedule tentative, can change at any time)

到達目標	歷史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト	Books, readings to be announced in class
参考文献	特になし
評価方法	Class Participation (1/3), Short Essays (1/3), Final Report (1/3) Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

	歴史と文化２（Japanese Popular Culture）	担当者	Ｊ．Ｄ．コーリス

講義目的、講義概要	授業計画
Monsters in Japanese Popular Culture: This course will examine the role of monsters in Japanese popular culture. From oral traditions and folklore to modern mass-market media, monsters are as much about how we define ourselves as they are about how we circumscribe and contain the other. They can take many forms: horrific or beautiful, tangible or immaterial, gentle or violent. They can represent our fantasies and desires as much as our fears and anxieties. In this course we will study a range of examples from anime and manga, movies and literature, even popular music and fashion. Students will analyze monsters in Japanese popular culture with a focus on the sociocultural and historic contexts that have given rise and popularity to specific forms and functions. Major assignments will include a short critical essay and a final presentation. 「講義はすべて英語で行います。TOEIC 700、TOEFL (IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。」	1. Greeting and Introduction: What are monsters? 2. Historic Precedents: Yōkai in folklore, Yōkai today 3. Post-war and the West 4. Themes of Transformation 5. Themes of Hybridity 6. Themes of Perversion 7. Student Reviews 8. Monsters of the Atomic Age 9. Global Kaiju 10. Monster Cute 11. Monsters of the Information Age 12. Cyborgs, Machines and the Post-human 13. Looking forward: Monsters of Tomorrow? 14. Final Presentations

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students prepare homework and assigned readings before class. Students research and prepare a final presentation throughout the semester.
テキスト	All materials will be provided in class.
参考文献	Provided in class.
評価方法	Classroom Participation 40%, Homework 20%, Critical Essay 20%, Final Presentation 20%

	歴史と文化２（日本文化研究 b）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
和本リテラシー―写本から版本へ― 我が国における文学研究は「訓む」「写す」「使う」「解く」のおよそ4つのキーワードによってその歴史を紡いできました。「和本リテラシー」とは、「和本」に特化した理解力を示しています。 本講義では、現存最古の歌集である『万葉集』をテーマに取り上げ、この作品を各時代の人々がどのように訓み、写し、使い、解いてきたかを文化史的に理解することを講義の目的とします。また、実際に和本に触れたり、これを作ってみたりもします。	1. ガイダンス―『万葉集』あれこれ― 2. 訓む―梨壺の五人の奮闘― 3. 訓む―道長も訓んだ『万葉集』― 4. 写す―『万葉集』の写本あれこれ― 5. 使う―藤原敦隆の試み― 6. 使う―歌聖の創始・「人麿影供」― 7. 使う―印刷の歴史 8. 解く―仙覚律師の奮闘― 9. 解く―北村季吟『万葉拾穂抄』― 10. 解く―契沖『万葉代匠記』― 11. 解く―賀茂真淵『万葉考』― 12. 解く―本居宣長『万葉集玉の小琴』 13. 和本を作る 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布プリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	城﨑陽子『万葉集を訓んだ人々―「万葉文化学」のこころみ―』2010 年、新典社
参考文献	参考文献は授業時間内に紹介します。
評価方法	試験 70%、課題も含めた授業への参加度 30%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化２（日本文化研究 d）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的：日本文化全般に潜む「境界領域」の問題を、様々な視点から考える。 ○講義概要：概説では、耳慣れない概念であろう「境界領域」の存在を明らかにしていく。 　第４回以降は「祭り」「物語」「歌謡」等の表現分野において「境界領域観」が、どのように発揮されているか、諸相を見ていく。そして、境界領域の認識が作り上げる世間（人間関係）観・世界観と周辺諸国の文化のそれとの違いを明確にしていく。 　文化とは目に見える物の世界だけではなく、目に見えない価値観・世界観・振る舞いまで含むのである。人と人との関わりの中で、どこにどのように目に見えない「境界線」を引いて、どのように物事を考えているのか、ということまでも明らかにしていく。	1.　オリエンテーション・導入 2.　概説①…境界領域とは何か？ 3.　概説②…国境・境界・境界領域 4.　祭りと境界領域①…八重山・竹富島のユーンカイ 5.　祭りと境界領域②…本土の様々な祭り 6.　祭りと境界領域③…境界領域の多重構造 7.「異界」「異人」と境界領域①…異人の出現する場所 8.「異界」「異人」と境界領域②…異人の出現する時空 9.　物語と境界領域…西欧の物語と日本の物語 10. 演劇と境界領域…西欧の芝居と日本の芝居 11. 歌謡と境界領域…西欧の歌謡と日本の歌謡 12. アニメーションと境界領域…西欧と日本の比較 13.「世界」「世間」の構造と境界領域…人間関係の比較 14. まとめ…世界観としての境界領域の構造

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	事前学修：参考文献の該当部分を読んでくること。 事後学修：身近に潜む「境界領域」を考えること。
テキスト	授業中に適宜示す
参考文献	授業中に適宜示す
評価方法	授業期間中数回課す予定の課題（50%）とレポートまたは試験の成果（50%）による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化２（日本文化研究 a）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的：民俗芸能・行事を通して、日本の民衆生活の基盤に潜む概念や価値観・世界観を認識し、理解する。 ○講義概要：日本の民俗芸能は世界にもまれに見る多様さと濃厚さで民衆生活と結びつき、いまだに多数残存している。いわゆる先進国としては唯一と言って良い。 　そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義する。 　具体的には「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料も用いて、概念や価値観・世界観の実際がどう機能しているかに留意する。	1.　オリエンテーション・導入 2.　日本文化と「見えないもの」、境界領域の存在 3.　神の来訪と芸能①…春日若宮の「おん祭」 4.　神の来訪と芸能②…八重山の祭と芸能 5.　異人の出現と芸能①…「異人」と日本全国の祭・芸能 6.　異人の出現と芸能②…異類の代表、獅子 7.　異人の出現と芸能③…岩手県の鹿踊 8.　稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 9.　稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り 10.　稲作の習俗と芸能③…能登の「アエノコト」 11.　年齢階梯と芸能①…年齢階梯制とは何か？ 12.　年齢階梯と芸能②…栃木県栗山町の若衆組 13.　年齢階梯と芸能③…福島県二本松市の成人儀礼 14.　まとめ…境界領域の時空

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：特に必要はない。授業の内容（特に映像）に集中すること。 事後学修：授業の内容に沿った課題の提出を求める。
テキスト	特になし
参考文献	授業中に適宜示す
評価方法	学期末に、記述式の試験を実施する。その成績 50%。課題の提出 50%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化２（韓国の宗教）	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くある。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっている。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とする。 講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する。なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。 なお不定期にレポートを課す場合がある。	第1回：ガイダンス 第2回：韓国宗教の構造 第3回：民間信仰 第4回：葬儀と墓地 第5回：仏教（1）仏教略史 第6回：仏教（2）韓国史の中での仏教 第7回：仏教（3）現代韓国の中の仏教 第8回：儒教（1）儒教略史 第9回：儒教（2）韓国史の中の儒教 第10回：儒教（3）現代韓国の中の儒教 第11回：キリスト教（1）キリスト教略史 第12回：キリスト教（2）韓国史の中でのキリスト教 第13回：キリスト教（3）現代韓国のキリスト教 第14回：現代韓国と宗教

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：プリントを読んでくること。 事後学修：小テストに備え、プリントを見直すこと。
テキスト	プリントを使用
参考文献	授業中に指示する
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。

	歴史と文化２（近代世界システム論）	担当者	野澤　丈二

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 イマニュエル・ウォーラーステインが提唱した「近代世界システム」論を足がかりとして、今日にいたる世界の一体化の歴史を、主に経済史的な観点から検討する。 【講義概要】 人、モノ、金の動きは国民国家の枠を越えてますます世界を巡っている。そして世界のほとんどの地域は、資本主義を原理とした経済で動いている。この授業では、現代のグローバルな世界経済システムについて、その歴史的な形成過程をさまざまな角度から検討する。そのうえで、現代の社会が直面する地球規模の課題（環境、格差、移民など）についても考えていく。	1.　講義の概要 2.　「近代世界システム」論とは？ 3.　なぜヨーロッパだったのか？ 4.　ポルトガルのアジア圏への進出 5.　スペインの興隆と衰退 6.　なぜ中国ではなかったのか？ 7.　最初のヘゲモニー国家、オランダ 8.　イギリスとフランスの抗争 9.　西ヨーロッパにおける日常生活の変化 10. 近代世界システムと奴隷制 11. 近代世界システムとアジア 12. 近代世界システムと日本 13. 「成長パラノイア」 14. まとめ ＊授業内容や順番は、一部変更になる可能性もあります。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	高校世界史 B の教科書のうち 16–19 世紀のヨーロッパに関する箇所を読んでおくことが望ましい。
テキスト	川北稔『世界システム論講義 ヨーロッパと近代世界』（筑摩書房 2016）
参考文献	イマニュエル・ウォーラーステイン『近代世界システム』１−３（名古屋大学出版会 2013）
評価方法	平常点（30%）と期末試験（70%）で総合的に評価する。

	歴史と文化２（食の歴史と文化）	担当者	野澤　丈二

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 食べることはあまりにも日常的な行為であるがゆえに、その重要性はしばしば見落とされがちです。この授業では、15世紀以降のヨーロッパ、とりわけフランスを中心として、食という切り口から歴史や文化について考えていきます。食は特定の時代や地域の社会を理解するための格好の方法であることを学びます。 【講義概要】 フランスのアナール学派が開拓した「食の歴史学」をひとつの手がかりとして、人文社会系のさまざまな分野（社会学、文化人類学、民俗学、経済学、地理学、言語学、哲学など）で領域横断的に広く扱われている食についても考えていきます。	1.　講義の概要 2.　歴史学における食 3.　中世ヨーロッパにおける食 4.　コロンブスの交換 5.　食のグローバル化 6.　他者の眼差し 7.　料理と国民の形成 8.　フランスとイギリスの比較 9.　レストランと美食の大衆化 10. 観光と食 11. 戦争と食 12. 料理とメディア 13. 食の無形文化遺産 14. まとめ ＊授業内容や順番は、一部変更になる可能性もあります。

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	高校世界史の教科書などに目を通し、大雑把な時代背景を踏まえておくことが望ましい。
テキスト	教科書は特に定めない。各回のテーマについての関連図書は、授業中に適宜紹介する。
参考文献	J-L.フランドラン、M.モンタナーリ編『食の歴史』（藤原書店、2006 年）全３巻
評価方法	平常点（40%）と期末レポート（60%）で総合的に評価する。

	歴史と文化２（ドイツ語圏の歴史・文化史散策 a）	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 右記の通り、ドイツ語圏の歴史に関する一般的な時代区分に沿って、18世紀末頃までの歴史や文化を概観することを目的とします。この授業が、ドイツ語圏の歴史・文化に対するみなさんのさらなる興味を喚起できれば幸いです。 講義概要： 若干の warming up の後、右記の通り3つの時代の歴史と文化について、それぞれ①講師による講義→②参加学生 による調査・研究（グループ単位で）→③発表（1 グルー プあたり 10 分程度）という形で、4 回の授業を 1 セットと して授業を進めて行きます。	1. オリエンテーション 授業の進め方について、グループ分けなど 2. warming up～中世の宮廷文化～ 3. 宗教改革の時代①講義 4. 同上②調査・研究 （方向確認） 5. 同上②調査・研究 （本調査） 6. 同上③発表 7. バロックの時代①講義 8. 同上②調査・研究 （方向確認） 9. 同上②調査・研究 （本調査） 10. 同上③発表 11. 啓蒙の時代①講義 12. 同上②調査・研究 （方向確認） 13. 同上②調査・研究 （本調査） 14. 同上③発表

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツの歴史を概観しておくといいでしょう。 阿部謹也『物語 ドイツの歴史 ―ドイツ的とはなにか―』中公新書
テキスト	必要に応じて、その都度指示します
参考文献	必要に応じて、その都度指示します
評価方法	普段の授業における調査・研究および発表に積極的に参加していたかどうかで 60 パーセント、学期末レポートで 40 パーセント

	歴史と文化２（ドイツ語圏の歴史・文化史散策 b）	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 右記の通り、ドイツ語圏の歴史に関する一般的な時代区分に沿って、18世紀以降20世紀前半までの歴史や文化を概観することを目的とします。この授業が、ドイツ語圏の歴史・文化に対するみなさんのさらなる興味を喚起できれば幸いです。 講義概要： 若干のwarming upの後、右記の通り3つの時代の歴史と文化について、それぞれ①講師による講義→②参加学生による調査・研究（グループ単位で）→③発表（1グループ あたり10分程度）という形で、4回の授業を1セットとして授業を進めて行きます。	1. オリエンテーション 授業の進め方について、グループ分けなど 2. warming up～ゲーテの時代～ 3. フランス革命の時代①講義 4. 同上②調査・研究 （方向確認） 5. 同上②調査・研究 （本調査） 6. 同上③発表 7. 世紀末の文化を中心に①講義 8. 同上②調査・研究 （方向確認） 9. 同上②調査・研究 （本調査） 10. 同上③発表 11. ナチズムの時代①講義 12. 同上②調査・研究 （方向確認） 13. 同上②調査・研究 （本調査） 14. 同上③発表

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツの歴史を概観しておくといいでしょう。 阿部謹也『物語 ドイツの歴史 ―ドイツ的とはなにか―』中公新書
テキスト	必要に応じて、その都度指示します
参考文献	必要に応じて、その都度指示します
評価方法	普段の授業における調査・研究および発表に積極的に参加していたかどうかで 60 パーセント、学期末レポートで 40 パーセント

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	歴史と文化２（人間の教養――社会の文化）	担当者	髙橋　輝曉

講義目的、講義概要	授業計画
「大学は学問を通じての人間形成の場である」この言葉を獨協大学は建学の理念として掲げている。それはこの大学の創設者天野貞祐の言葉にほかならない。ここにある「人間形成」とは、もともと20世紀初頭の大正時代に「教養」と和訳されたドイツ語 Bildung（ビルドゥング）のことだ。しかも、「教養」概念の源泉を西洋に求めると、古代ローマのラテン語 cultura animi（クルトゥーラ・アニミー）、すなわち「心の耕作」にさかのぼれるこの本来「耕作」を意味する cultura が近代の西洋語を通じて日本語に伝わり、「文化」と和訳された。そこで、「教養」と「文化」の概念の歴史を繙きつつ、その現代的な意味を考え、獨協大学の建学に理念を21世紀に活かす可能性を探ろう。そのために、(1) 指定のテキストの内容について、参加者が分担して報告、(2) それを基にみんなで討論のうえ、(3) 受講者全員に毎回の授業記録を書いて提出してもらう。	01. はじめに 02.「文化」と「学問」 03.「教養」と「人間形成」 04. フンボルト（1767–1835）の「教養」理念 05. キケロ（紀元前106–43）における「魂の耕作」 06. 近代ドイツの「文化」概念の変遷 07. 西田幾多郎（1870–1945）の「文化」概念 08. 天野貞祐の「人間形成」における「文化」と「教養」 19. 天野貞祐の「人間形成」における「中庸」と「徳育」 10. 天野貞祐の教養思想における「道理」と「人格」 11. 日本の大学の歴史における「人間形成としての教養」 12. 多文化共生の時代における「教養」と「文化」 13. 「人間一生の仕事」としての「教養」と「文化」 14. まとめ

到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	【事前学習】テクストの予定箇所を予め読んでおく。【事後学習】当該授業の内容を整理してノートに記録する。
テキスト	髙橋輝曉編著『人間形成としての教養』（春風社）2018（定価 ¥2000＋税）
参考文献	天野貞祐『道理の感覚』および『道理への意志』〔『天野貞祐全集』第１巻（栗田出版会）1971 所収〕
評価方法	授業での報告とそれに基づくレポート（40%）、討論での貢献度（20%）、授業記録（40%）の総合による平常点評価

	現代社会 2（現代西洋経済史入門）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、近代から現代までの時代を対象とし、欧米における産業革命以降の資本主義的経済体制の成立と展開を歴史的に辿りながら、現代のグローバル化時代の経済的事象を理解することを目的とします。 とりわけ、労働問題、都市問題、大衆消費といった資本主義の生成・展開過程に現れた社会経済の新たな状況について考えることで、現代的な経済問題への関心を深めていきましょう。	1. 封建制から資本主義への移行を考える 2. 産業革命（イギリス） 3. 産業革命（大陸ヨーロッパとアメリカ） 4. 労働問題と都市問題 5. 19世紀のグローバル化 6. 大衆消費社会の誕生 7. 帝国主義の時代 8. 第一次世界大戦 9. 両大戦間期の社会と経済（世界恐慌） 10. 両大戦間期の社会と経済（労働と余暇） 11. 戦時経済 12. 戦後復興と東西冷戦 13. 現代のグローバル化 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の該当部分などを事前に読んでおくこと。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	金井 編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会（2010 年）、馬場 編『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房（2012 年）
評価方法	テストと課題提出（70%）、授業への参加度（30%）

	現代社会 2（EU 経済論入門）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、EU経済に関する基礎的な知識を身につけることを目的とします。EU成立までのヨーロッパ統合の歩みを辿った上で、EUの制度や政策について確認し、ユーロ危機やイギリスの離脱問題など、現在のEUが抱える問題や課題について考えていきましょう。 経済統合の歴史的前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係、TPPの問題点などについて考えるためのヒントにもなるでしょう。	1. 経済統合とは？ 2. なぜヨーロッパ諸国は統合の道を選んだのか？ 3. 単一市場とは？ 4. 通貨統合の実現に向けて 5. マーストリヒト条約とユーロの誕生 6. EUの仕組みについて考える 7. EUの共通政策 8. ユーロ危機 9. EUの農業政策と環境政策 10. 加盟国とEU（ドイツ・フランス） 11. 加盟国とEU（その他加盟国） 12. イギリスとEUの関係はどうなるのか？ 13. 日本とEUの関係 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	EU に関する新聞記事などを事前に読んでおくこと。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	羽場久美子 編『EU（欧州連合）を知るための 63 章』明石書店（2013 年）
評価方法	テストと課題提出（70%）、授業への参加度（30%）

	現代社会２（新聞を読む１）	担当者	半田　滋

講義目的、講義概要	授業計画
新聞は「社会の公器」と呼ばれています。情報の発信源であり、知識の供給源でもあるからです。ネット社会とはいえ、ネットニュースの多くは新聞記事を情報源とてしており、新聞の重要性はいささかも揺らいではいません。確かな情報を入手し、知識や判断力を養うのは社会人として欠かせない日常の行動です。一緒に学んで行きましょう。 東京新聞記者として37年のキャリアを持つ現役ジャーナリストが新聞の読み方と記事の書き方を指導します。 授業は日々の新聞が教科書です。前の授業で示すキーワード（前年春学期は「自衛隊イラク日報問題」「加計学園問題」「日米首脳会談」「南北首脳会談」など）が新聞にどのように取り上げられているのか、その記事から何を考えたのか、毎回、5人程度に発表してもらいます。これを論評し、みなさんの意見も聞きます。	1.　ガイダンス／授業の進め方を説明 2.　新聞を読んでみよう①／「防衛計画の大綱」 3.　新聞を読んでみよう②／「ゴーン氏の裁判」 4.　新聞を読んでみよう③／「平成天皇の退位」 5.　新聞を読んでみよう④／「東京五輪の行方」 6.　新聞を読んでみよう⑤／「北方領土問題」 7.　新聞を読んでみよう⑥／「辺野古移設問題」 8.　新聞を読んでみよう⑦／「参院選挙の争点」 9.　新聞は真実を伝えているか①／「憲法改正問題」 10.　新聞は真実を伝えているか②／「新元号と平成」 11.　新聞は真実を伝えているか③／「刑事裁判と勾留」 12.　新聞記者の取材とは／記者、講師の講話と感想文作成 13.　記事を書いてみよう／模擬会見と記事作成 14.　まとめ／前回作成した記事の論評 （上記、ニュース項目はあくまで見込みあり、変更もある）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指名された方は次の授業までに新聞を読み込み指定したキーワードやテーマについてレポートにまとめ、発表してください。他の方には発表を聞いて、見解を述べてもらいます。全員が必ず発表します。
テキスト	新聞。朝日、毎日、読売、産経、東京の５紙から選び、最低１紙を講読する。電子新聞は不可
参考文献	とくにありません。
評価方法	レポートの発表４０％、授業への参加度６０％

	現代社会２（新聞を読む２）	担当者	半田　滋

講義目的、講義概要	授業計画
新聞はさまざまな情報を提供してくれます。「1 面トップ」という言葉があるように新聞にとっての「売り」はその日の第１面です。きょうの１面トップはなぜ、この記事なのでしょうか。あなたにとってこの記事は重要ですか。これらの点を掘り下げることにより、新聞の役割と必要な読み方がはっきり見えてきます。 東京新聞記者として 37 年のキャリアを持つ現役ジャーナリストが新聞の読み方と記事の書き方を指導します。 授業は日々の新聞が教科書です。前の授業で示すキーワード（前年秋学期は「沖縄県知事選挙」「築地市場の豊洲移転」「米国中間選挙」など）が次の授業までの新聞にどのように取り上げられているのか、その記事から何を考えたのか、毎回、5人程度に発表してもらいます。これを論評し、みなさんの意見も聞いていきます。	1.　ガイダンス／授業の進め方を説明 2.　第１面を読んでみよう①／「臨時国会の焦点」 3.　第１面を読んでみよう②／「消費税と財政」 4.　記事を読んでみよう①／「憲法改正の動き」 5.　記事を読んでみよう②／「米中の新冷戦とは」 6.　記事を読んでみよう③／「デフレと株価」 7.　記事を読んでみよう④／「続発する自然災害」 8.　記事を読んでみよう⑤／「７年目に入る安倍政権」 9.　社説を読んでみよう①／配布する社説の論考を発表 10.　社説を読んでみよう②／「朝毎東と読産の違い」 11.　社説を読んでみよう③／「憲法と新聞の現在」 12.　新聞記者の取材とは／記者、講師の講話と感想文作成 13.　記事を書いてみよう／模擬会見を受けて記事作成 14.　まとめ／前回作成した記事の論評、授業の総評 （上記、ニュース項目はあくまで見込みあり、変更もある）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指名された方は次の授業までに新聞を読み込み指定したキーワードやテーマについてレポートにまとめ、発表してください。他の方には発表を聞いて、見解を述べてもらいます。全員が必ず発表します。
テキスト	新聞。朝日、毎日、読売、産経、東京の５紙から選び、最低１紙を講読する。新聞の電子版は不可。
参考文献	とくにありません。
評価方法	レポートの発表 40%、授業への参加度 60%

	現代社会 2（経理入門 1）	担当者	原　郁代

講義目的、講義概要	授業計画
会計の知識は、営業など経理・財務以外の仕事をする者にとっても必要不可なスキルである。従って、会計を専門領域としない学生にもぜひ学修して欲しい。 一般的に簿記は難しいイメージがある。しかし、この授業では、簿記の基本からじっくり基本的なスキルが身に着けられることを目指して講義を進めていきたい。 春学期では、テキスト、レジュメ及びパワーポイントの資料を使って取引の仕訳から決算整理前残高試算表の作成までの流れをつかむことを目標とする。 授業では、テーマの説明をした後、練習問題を解いていく。簿記は積み重ねを必要とする教科である。授業の内容をしっかり復習し、分からないことがあったら、恥ずかしがらずに積極的に質問して欲しい。 この授業は、特別聴講生開設科目です。他大学の学生の参加も歓迎します。	1. ガイダンス・会計の基礎知識 2. 簿記の仕組み 3. 取引の仕訳 4. 仕訳と転記 5. 個別取引（現金取引） 6. 個別取引（預金取引） 7. 復習と小テスト 8. 個別取引（売上・仕入） 9. 個別取引（仕入諸掛・値引・返品の処理） 10. 個別取引（売上原価の算定） 11. 個別取引（売上債権・仕入債務） 12. 決算整理前残高試算表の作成 13. 総復習 14. 学習ポイントの確認及び試験

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前にテキスト及び講義資料を一読し、授業後に授業で扱った練習問題等の復習を行うこと。
テキスト	渡部裕垣・片山覚・北村敬子編著『検定　簿記講義　3 級』（中央経済社、2019 年）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	平常点（授業中に提出するコメントシートの提出状況）20 点、小テスト 30 点、期末試験 50 点により評価する。

	現代社会 2（経理入門 2）	担当者	原　郁代

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、春学期に学修した基礎知識を前提として講義を行う。春学期で学習した取引の仕訳から決算整理前残高試算表作成までの流れを復習した後、精算表作成までの流れを学習する。精算表の作成をすると日々の会計処理から財務諸表作成までの流れを理解することができる。 こうした基礎知識を基に実際の財務諸表を読み、企業情報を収集するための方法を学習する。獨協大学図書館の協力を得てeolというデータベースを利用した企業情報の収集・分析方法を修得するための実習を図書館のデータベースを使用しながら行う予定である。 秋学期の講義は、春学期の学習内容をベースに行うため、春学期からの受講が望ましい。質問は大歓迎です。みなさんの積極的な参加をお待ちしています。この授業は、特別聴講生開設科目です。他大学の学生の参加も歓迎します。	1. 簿記の仕組み・簿記一巡 2. 個別取引（春学期の復習） 3. 個別取引（その他の債権・債務） 4. 個別取引（有価証券） 5. 個別取引（固定資産） 6. 決算整理仕訳（減価償却・貸倒引当金）精算表の作成 7. 決算整理仕訳（費用及び収益の見越・繰延）精算表の作成 8. 財務諸表の読み方・有価証券報告書の見方 9. データベースを使用した実習 10. 貸借対照表・損益計算書の作成 11. 商品有高帳と在庫管理 12. 財務分析 13. 総復習 14. 学習ポイントの確認及び試験

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前にテキスト及び講義資料を一読し、授業後に授業で扱った練習問題等の復習を行うこと。
テキスト	渡部裕垣・片山覚・北村敬子編著『検定　簿記講義　3 級』（中央経済社、2019 年）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	平常点（コメントシートの提出状況）20 点、ミニレポート（データベースを使用した調査とまとめ）30 点、期末試験 50 点により評価する。

	現代社会 2（英文会計入門 1）	担当者	原　郁代

講義目的、講義概要	授業計画
会計の知識は、営業など経理・財務以外の仕事をする者にとっても必要不可なスキルである。従って、会計を専門領域としない学生にもぜひ学修して欲しい。 英文財務諸表作成の基礎である簿記の基本を英語で学んでいく。テキスト、レジュメ及びパワーポイントの資料で内容理解を図り、問題演習で知識の定着を図っていく。 春学期は、取引の仕訳から決算整理前残高試算表の作成までをじっくり学習する。 簿記は積み重ねを必要とする教科である。授業の内容をしっかり復習し、分からないことがあったら、恥ずかしがらずに積極的に質問して欲しい。 この授業は、特別聴講生開設科目です。他大学の学生及び高校生の履修も歓迎します。みなさんの積極的な参加をお待ちしています。	1. ガイダンス・会計の基礎知識 2. 複式簿記の仕組み 3. Transactions and Journalizing（取引と仕訳） 4. Accounts（勘定） 5. Purchase Transaction（仕入取引） 6. Sales Transaction（売上取引） 7. 第1講から第6講の復習及び小テスト 8. Other Transactions（その他の取引） 9. Journalizing and posting（仕訳と転記－商品売買） 10. Journalizing and posting（仕訳と転記－その他の取引） 11. Accounting Cycle（簿記一巡の手続） 12. Trial Balance（試算表） 13. 総復習 14. 学習ポイントの確認及び試験

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前にテキスト及び配布資料を一読し、授業後に授業中に取り上げた練習問題等の復習を行うこと。
テキスト	清村英之『英文会計が基礎からわかる本』（同文館出版，2015 年）
参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	平常点（授業中に提出するコメントシートの提出状況 20 点）、小テスト 30 点、期末試験 50 点により評価する。

	現代社会 2（英文会計入門 2）	担当者	原　郁代

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、春学期に学修した基礎知識を前提として講義を行う。春学期で学習した取引の仕訳から決算整理前残高試算表作成までの流れを復習した後、精算表作成までの流れを学習する。精算表を作成すると日々の会計処理から財務諸表作成までの流れを理解することができる。 こうした基礎知識を基に実際の財務諸表を読み、企業情報を収集するための方法を学習する。獨協大学図書館の協力を得てeolというデータベースを利用した企業情報の収集・分析方法を修得するための実習を図書館のデータベースを使用しながら行う予定である。 秋学期の講義は、春学期の学習内容をベースに行うため、春学期からの履修が望ましい。質問は大歓迎です。みなさんの積極的な参加をお待ちしています。この授業は、特別聴講生開設科目です。他大学の学生及び高校生の履修も歓迎します。	1. 春学期の復習 2. Accounting Cycle（簿記一巡の手続） 3. Adjusting Entries（決算整理仕訳－減価償却費） 4. Adjusting Entries（決算整理仕訳－その他） 5. Periodic Inventory System（棚卸計算法） 6. Perpetual Inventory System（継続記録法） 7. Worksheet（精算表－売上原価算定手続以外） 8. 財務諸表の読み方・有価証券報告書の見方 9. データベースを使用した実習 10. Worksheet（精算表） 11. Financial Statements（財務諸表）の作成 12. Financial Statement Analysis（財務諸表分析） 13. 総復習 14. 学習ポイントの確認及び試験

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前にテキスト及び配布資料を一読し、授業後に授業中に取り上げた練習問題等の復習を行うこと。
テキスト	清村英之『英文会計が基礎からわかる本』（同文館出版，2015 年）
参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	平常点（コメントシートの提出状況 20 点）、ミニレポート（データベースを使用した調査とまとめ）30 点、期末試験 50 点により評価する。

	現代社会 2（コンピュータ入門 a）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、コンピュータやネットワークに関連する基礎的な知識を学びます。そして、長いレポートの作成、データの集計および情報を相手に伝える際に必要となるソフトウェアであるワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの利用方法を、実習により身につけます。 授業計画の項目が扱われる順序や時間配分は、担当教員により異なることがあります。	1. コンピュータサイエンスの基礎 2. インターネットの利用と注意点 3. ワードプロセッサの機能 4. ワードプロセッサ：図、表の作成 5. ワードプロセッサ：スタイル設定、数式の入力 6. 表計算ソフトの機能 7. 表計算ソフト：計算式（相対参照、絶対参照） 8. 表計算ソフト：関数 9. 表計算ソフト：グラフ、データの並び替え、目的データの抽出 10. 表計算ソフト：集計 1（ピボットテーブル、小計） 11. 表計算ソフト：集計 2（ヒストグラム、データテーブル） 12. プレゼンテーションソフトの機能 13. プレゼンテーションソフト：図表の挿入、SmartArt の利用、グラフの作成 14. プレゼンテーションソフト：スライドのデザイン、アニメーション

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員の指示にしたがって事前、事後の学修をおこなってください。
テキスト	立田ルミ、今福啓、堀江郁美『実践に役立つ情報処理 2019 年度版』日経 BP 社
参考文献	担当教員が指定します。
評価方法	原則として担当教員が授業への貢献度（30%）と試験またはレポート（70%）を参考に、総合的に評価します。

	現代社会 2（コンピュータ入門 b）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
表計算ソフトを有効活用すると、キャッシュフロー計算や制約のある問題のような、実社会で必要となる計算の答えを容易に求めることが可能となります。 また自分で分析して求めた情報を発信するには、ネットワークを活用することが不可欠です。講義では、そのために必要となる Web ページの構成、HTML、CSS と、コンピュータ言語の基礎について学習します。 授業計画の項目を扱う順序、時間配分および使用するコンピュータ言語は、担当教員により異なることがあります。	1. 表計算ソフト応用：複利計算 2. 表計算ソフト応用：預金の積立 3. 表計算ソフト応用：ローン返済計画 4. 表計算ソフト応用：What-If分析による利子の計算 5. 表計算ソフト応用：ソルバーによるローン返済 6. 表計算ソフト応用：年金の積立 7. 表計算ソフト応用：効率的な作業配分：0-1整数計画問題 8. 表計算ソフト応用：資源の有効活用：線形計画問題 9. Web ページ作成：Web ページの構成 10. Web ページ作成：HTML と CSS 11. プログラミング言語：プログラミングの第一歩 12. プログラミング言語：命令の種類 13. プログラミング言語：関数 14. プログラミング言語：プログラム作成

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員の指示にしたがって事前、事後の学修をおこなってください。
テキスト	立田ルミ、今福啓、堀江郁美『実践に役立つ情報処理 2019 年度版』 日経 BP 社
参考文献	担当教員が指定します。
評価方法	原則として担当教員が授業への貢献度（30%）と試験またはレポート（70%）を参考に、総合的に評価します。

	現代社会 2（ホームページ作成）	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、ホームページを作成する上で必要な知識と技術の基礎を取得し、情報社会をより深く考察できることを目的としている。「ホームページを公開する前に準備すること」と「公開してから保守すること」等に関する知識を理解しながら、ホームページの表現方法（HTML）だけでなく、その背景で支えているインターネット技術の話題（サーバ、IP、ドメイン等）にも触れ、自ら情報収集して、（有償・無償も含め）サーバの選択やインターネット上の脅威を理解し、現代社会の諸問題などの議論に発展できる人材育成をめざしたい。この授業は、メモ帳のようなエディタを使って、HTMLファイルを作成するだけでなく、エクセル（表計算ソフト）と併用して作成することやタイピングを速くするための練習をして、頭だけでなく、技能も高めることが総合評価に含まれるので注意して欲しい。従って、毎日、学内で、もしくは、自宅でPCに触れる機会があることが履修に際して望ましい。意欲ある学生の受講を期待する。	1. ホームページの作成・運用・管理（環境理解） 2. ホームページの作成・運用・管理（入門編） 3. ホームページの作成・運用・管理（実践編） 4. ブログの開設と運用（公開・非公開の理解） 5. ホームページ公開と運用（アップロードの実践） 6. HTML の基本のまとめ 7. CSS の基本のまとめ 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. 私のホームページの公開（トップページ） 14. 私のホームページの公開（新規ページの追加）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	適宜、参考にする web サイトの紹介や自習用の電子テキストを配布します。適宜、熟読する web サイトを紹介します。
テキスト	適宜、熟読する web サイトを紹介します。
参考文献	適宜、熟読する web サイトを紹介します。
評価方法	レポート 20%、小テスト 20%、作品 30%、学期末テスト 30%による総合評価

	現代社会 2（ホームページ作成）	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、ホームページを作成する上で必要な知識と技術の基礎を取得し、情報社会をより深く考察できることを目的としている。「ホームページを公開する前に準備すること」と「公開してから保守すること」等に関する知識を理解しながら、ホームページの表現方法（HTML）だけでなく、その背景で支えているインターネット技術の話題（サーバ、IP、ドメイン等）にも触れ、自ら情報収集して、（有償・無償も含め）サーバの選択やインターネット上の脅威を理解し、現代社会の諸問題などの議論に発展できる人材育成をめざしたい。この授業は、メモ帳のようなエディタを使って、HTMLファイルを作成するだけでなく、エクセル（表計算ソフト）と併用して作成することやタイピングを速くするための練習をして、頭だけでなく、技能も高めることが総合評価に含まれるので注意して欲しい。従って、毎日、学内で、もしくは、自宅でPCに触れる機会があることが履修に際して望ましい。意欲ある学生の受講を期待する。	1. ホームページの作成・運用・管理（環境理解） 2. ホームページの作成・運用・管理（入門編） 3. ホームページの作成・運用・管理（実践編） 4. ブログの開設と運用（公開・非公開の理解） 5. ホームページ公開と運用（アップロードの実践） 6. HTML の基本のまとめ 7. CSS の基本のまとめ 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. 私のホームページの公開（トップページ） 14. 私のホームページの公開（新規ページの追加）

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	適宜、参考にする web サイトの紹介や自習用の電子テキストを配布します。適宜、熟読する web サイトを紹介します。
テキスト	適宜、熟読する web サイトを紹介します。
参考文献	適宜、熟読する web サイトを紹介します。
評価方法	レポート 20%、小テスト 20%、作品 30%、学期末テスト 30%による総合評価

	現代社会 2（ホームページ作成）	担当者	森島　直人

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、ホームページ及びその背景技術等に関する理解を通じて、情報技術を積極的に利活用する思考と技術を取得すること及び情報社会のリスクを理解することである。 講義では、インターネット技術の基本的な知識を習得し、特にブラウザからウェブサイトにアクセスした際にどのような処理が行われるかを理解する。また、インターネットで情報を発信するときに避けることのできない個人情報や著作権について、その概要を学ぶ。次に、それに関連して、サイバー攻撃等の事例を見つつ、情報化社会の危険性を理解する。さらに、ホームページのデザインの考え方、論理的構造を記述するHTML、デザインを記述するCSSについて学びつつ、実習として自らのホームページを作成するとともに、インターネットに公開する。	1. 導入 2. インターネット 3. セキュリティ、情報発信と個人情報、情報発信と著作権 4. ホームページの公開 5. HTMLの基礎 6. ホームページのデザインとHTMLの記述 7. 相対パスと絶対パス 8. 画像の取扱い、正しいHTMLを書く 9. CSSの基礎 10. プロパティと値、色の指定 11. 高度なセレクタ 12. CSSによるレイアウト 13. ホームページ作成演習 14. セキュリティの事例、学期末テスト

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修は不要。事後は、講義内容に基づく復習と実習を行い、次の講義までに確実に理解しておくことが必要である。
テキスト	補助資料を講義前に Porta 上で配布する。
参考文献	
評価方法	作品 45%、学期末テスト 55%による総合評価。なお、作品の完成度及び授業への積極的な参加により評価を加減することがある。

	現代社会 2（ホームページ作成）	担当者	森島　直人

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、ホームページ及びその背景技術等に関する理解を通じて、情報技術を積極的に利活用する思考と技術を取得すること及び情報社会のリスクを理解することである。 講義では、インターネット技術の基本的な知識を習得し、特にブラウザからウェブサイトにアクセスした際にどのような処理が行われるかを理解する。また、インターネットで情報を発信するときに避けることのできない個人情報や著作権について、その概要を学ぶ。次に、それに関連して、サイバー攻撃等の事例を見つつ、情報化社会の危険性を理解する。さらに、ホームページのデザインの考え方、論理的構造を記述するHTML、デザインを記述するCSSについて学びつつ、実習として自らのホームページを作成するとともに、インターネットに公開する。	1. 導入 2. インターネット 3. セキュリティ、情報発信と個人情報、情報発信と著作権 4. ホームページの公開 5. HTMLの基礎 6. ホームページのデザインとHTMLの記述 7. 相対パスと絶対パス 8. 画像の取扱い、正しいHTMLを書く 9. CSSの基礎 10. プロパティと値、色の指定 11. 高度なセレクタ 12. CSSによるレイアウト 13. ホームページ作成演習 14. セキュリティの事例、学期末テスト

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修は不要。事後は、講義内容に基づく復習と実習を行い、次の講義までに確実に理解しておくことが必要である。
テキスト	補助資料を講義前に Porta 上で配布する。
参考文献	
評価方法	作品 45%、学期末テスト 55%による総合評価。なお、作品の完成度及び授業への積極的な参加により評価を加減することがある。

	現代社会２（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	担当者	柿沼　義孝

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、日頃見聞きするドイツ語圏の事柄について、それぞれの参加者が関心を持つ領域を中心に、様々な文献資料、データに当たって、より深く、アクチュアルな姿を探ります。 これらを実践することを通じて、日本の状況をも比較対照するなど、複眼的なものの見方を身につけ、調査・分析・検証・発表する力を養うことを目的とします。 その際、グループ形式での調査、検討の共同作業、全体発表、ディスカッションを経て、その分野の総括・今後の展望をすることができることが重要です。 春学期は主として文化的テーマ（芸術・言語文化・日常・伝統・風習など）を中心に進めます。	1.　授業の概要の目的。グループ形成 2.　グループ内討論・ブレインストーミング・文献調査法 3.　各グループの発表の趣旨と目標を提示。質疑応答。 4.　グループ発表　1（日常生活）ディスカッション 5.　検証　「日常生活」（問題点の整理・提案・展望） 6.　グループ発表　2（言語文化）ディスカッション 7.　検証　「言語文化」（問題点の整理・提案・展望） 8.　グループ発表　3（芸術一般）ディスカッション 9.　検証　「芸術一般」（問題点の整理・提案・展望） 10.　グループ発表　4（伝統）ディスカッション 11.　検証　「伝統」（問題点の整理・提案・展望） 12.　グループ発表　5（風習）ディスカッション 13.　検証　「風習」（問題点の整理・提案・展望） 14.　総括・今後の展望

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表に向けてのグループ内での検討・準備を十分に行い、発表後にきちんとした検証をすること。
テキスト	特に指定しませんが、適宜指示します。
参考文献	授業内で指示します。
評価方法	平常授業における発表の充実度（60%）、ディスカッション等授業への参加度（20%）、中間レポート（20%）。

	現代社会２（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	担当者	柿沼　義孝

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、日頃見聞きするドイツ語圏の事柄について、それぞれの参加者が関心を持つ領域を中心に、様々な文献資料、データに当たって、より深く、アクチュアルな姿を探ります。 これらを実践することを通じて、日本の状況をも比較対照するなど、複眼的なものの見方を身につけ、調査・分析・検証・発表する力を養うことを目的とします。 その際、グループ形式での調査、検討の共同作業、全体発表、ディスカッションを経て、その分野の総括・今後の展望をすることができることが重要です。 秋学期は主として社会的なテーマ（政治・経済・歴史・環境・技術など）を中心に進めます。	1.　授業の概要の目的。グループ形成 2.　グループ内討論・ブレインストーミング・文献調査法 3.　各グループの発表の趣旨と目標を提示。質疑応答。 4.　グループ発表　1（政治・法制）ディスカッション 5.　検証「政治・法制」（問題点の整理・提案・展望） 6.　グループ発表　2（経済・労働）ディスカッション 7.　検証「経済・労働」（問題点の整理・提案・展望） 8.　グループ発表　3（歴史・社会）ディスカッション 9.　検証「歴史・社会」（問題点の整理・提案・展望） 10.　グループ発表　4（環境・技術）ディスカッション 11.　検証「環境・技術」（問題点の整理・提案・展望） 12.　グループ発表　5.（学校・教育）ディスカッション 13.　検証「学校・教育」（問題点の整理・提案・展望） 14.　総括・今後の展望

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表に向けてのグループ内での検討・準備を十分に行い、発表後にきちんとした検証をすること。
テキスト	特に指定しませんが、適宜指示します。
参考文献	授業内で指示します。
評価方法	平常授業における発表の充実度（60%）、ディスカッション等授業への参加度（20%）、中間レポート（20%）。

	現代社会 2（教育の現場：教師と語る a）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会に必ず参加して下さい（参加費は1500円程度）。研究会に終日参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3. 教室での講義は8 回程度とします。初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。メールアドレスは、　hkawamur@dokkyo.ac.jp　です。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を30 名とします。	1. 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2. 生活指導とは何か（生活指導の理論） 3. 生活指導理論の適用 4. 実践記録を読む（小学校低学年） 5. 同上（小学校中学年） 6. 同上（小学校高学年） 7. 同上（中学校） 8. 研究会参加のまとめ 研究会は、6月8日、9日（土・日）、またはその前後の土日、場所はさいたま市の予定です。

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	紹介された文献を読む。
テキスト	高橋陽一他編『新しい生活指導論と進路指導』（武蔵野美術大学出版局）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	最終レポート（100%）によります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。

	現代社会 2（教育の現場：教師と語る b）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会に必ず参加して下さい（参加費は9000円程度）。研究会に終日参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3. 教室での講義は8 回程度とします。初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。メールアドレスは、hkawamur@dokkyo.ac.jp です。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を30 名とします。	1. 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2. 実践記録を読む（小学校低学年） 3. 同上（小学校中学年） 4. 同上（小学校高学年） 5. 同上（中学校） 6. 同上（進路指導） 7. 同上（文化祭指導） 8. 研究会合宿参加のまとめ 研究会は、12月7日・8日（土・日）、またはその前後の土日、場所は埼玉県西部にある森林公園近くのホテルの予定です。

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	紹介された文献を読む。
テキスト	高橋陽一他編『新しい生活指導論と進路指導』（武蔵野美術大学出版局）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	最終レポート（100%）によります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。

（春）	現代社会２（インターンシップ）	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、春学期に開講する講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、自分自身を正確に理解し、進路を真剣に考え、適職を発見する機会を得ることを目的とします。あわせて、コミュニケーション能力や対人関係のスキル、職場でのマナー、時事に関する感性など、社会人に求められる資質も涵養します。 本講座のねらいは、断じて小手先の就活対策やノウハウを学ぶことではなく、履修者の皆さんが、狭義のキャリア（＝職業）をどのように獲得し、広義のキャリア（＝人生）をどのように設計していくかを、色々な角度から模索する場になることを目指します。 本講座の内容は、事前指導（春学期の授業）、夏休みに実施する1週間から2週間のインターンシップ実習、および実習後の報告書作成から構成されています。講義は出欠を記録します。 履修者の定員は50名です。（下欄に続く）	第１回 オリエンテーション：本講座の目的、授業内容、進め方などについて詳しく説明します。また、インターンシップと就職活動の関係、実習先の探し方、R-CAP などについて、キャリアセンターと教務課のスタッフから説明します。 第２回 働くということは何か（講義） 第３回 セカンドベストの選択と職業能力開発（講義） 第４回 コミュニケーションと面接の技術（講義） 第５回 外部講師による業界・業種・職種研究講座 第６回 インターンシップ経験者による体験談：インターンシップ経験者である先輩から体験談を紹介します 第７回 R-CAP の講評・分析：Web 上で受験した R-CAP の結果について講評と分析を行い、自分の適職や自分に向いた職場環境を確認します。（R-CAP の担当者から） 第８回 時事問題研究：時事問題に関する講義

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	（上欄からの続き）	担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
1. 1.R-CAP施費用（3,410 円）が必要です。履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第2 回目の授業に必ず持参して下さい。 2. インターンシップの実習先は、履修者自身が見つけることが原則です。実習先の開拓には単位認定に必要な覚書の締結について、自ら交渉してください。一部、キャリアセンターで選考する大学仲介もありますが、履修者を優先するものではありません。また、この科目履修者のみが参加可能な企業もあります。 3. インターシップ実習に参加しなかった場合、所定の研修プログラムを修了しなかった場合は、たとえ授業（事前指導）に出席したとしても単位は認定されません。 4. インターンシップを予約した場合は、企業との約束になりますので、よほどの理由がない限り解約はできません。 5. 実習の条件：マナー講座受講、保険加入、直前指導の出席、実習日誌+報告書の提出、のすべてが必要です。 6. 実習は1企業・団体で5日以上。親族経営の事業やアルバイト先は選択不可です。	第９回 時事問題研究：時事問題に関する講義と発表 第10回 グループディスカッションの練習①：グループディスカッションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図ります。 第11回 外部講師によるマナー講座：インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。 第12回 グループディスカッションの練習②：第10回の反省を踏まえ更なる向上を図ります。 第13回 プレゼンテーションの技術のブラッシュアップ 特定のテーマに関して、全員の前で発表してもらいます。 第14回 直前指導：インターンシップへの参加に先立ち、キャリアセンターと教務課のスタッフから、重要事項（インターンシップ保険、実習後の提出書類等）について説明していただきます。 ※授業内容と日程は都合により変更する場合があります。 10月3日（木）の昼休みにキャリアセンター主催の報告会をセミナールームで実施しますので、出席して下さい。進行は。森永が行います。

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の際に配布するプリントを精読して、主体的にインターンシップに取り組んでください。
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。
参考文献	必要に応じてプリントを配布します。
評価方法	実習日誌 40%、報告書 40%　授業での貢献 20%

	現代社会 2（韓国研究情報収集法）	担当者	田代　裕一朗

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国研究を行っていくうえでの情報収集法を理解し、それを実践することを目的とする演習形式の授業である。 まず研究課題設定の方法から、タイピング、各種情報収集法（図書、インターネット、現地調査）、プレゼンテーションの方法まで総合的に学ぶ。そのうえで講義を通して得た知識をもとに、履修者によるグループ研究発表（3〜4名、テーマ各自設定）を行う。 履修者には、グループ研究発表への積極的な取り組み、そして質疑応答への積極的な参加を期待する。 ※本講義は、韓国語能力を必要とする。 ※毎回の授業で発表準備の進捗状況や他グループの発表に対する感想を記したコメントペーパーの提出が必要となる。	1. ガイダンス、グループ分けと日程決定 2. 研究課題設定の方法 3. ハングルのタイピング 4. インターネットからの情報収集法 5. 図書資料からの情報収集法 6. 現地調査による情報収集法 7. プレゼンテーションの方法 ①（研究成果の整理） 8. プレゼンテーションの方法 ②（スライド作成方法） 9. グループ研究発表 ①　（グループA, B, C） 10. グループ研究発表 ②　（グループD, E, F） 11. グループ研究発表 ③　（グループG, H, I） 12. グループ研究発表 ④　（グループJ, K, L） 13. グループ研究発表 ⑤　（グループM, N, O） 14. まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	研究課題を設定し、発表するまでのプロセスを考える。さらにレポートを通して、自らの研究発表を振り返り、今後より良い研究発表を行うための改善点を見つけ出す。
テキスト	授業中に配布するプリント
参考文献	特になし
評価方法	コメントペーパー30%、発表 30%、レポート 30%、授業に対する積極的態度（質疑応答への参加）10%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	現代社会 2（韓国社会論 I）	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、韓国の教育問題について、その歴史的背景と現状を学び、教育問題に関する自分の見解を提示できるようになることである。受講生は、韓国社会に関する専門知識を得るとともに、それを社会学的に分析して考察する方法を修得する。授業は講義と発表で構成される。受講生は、予め決められたテーマの中から一つを選んで聞き取り調査を行い、調査結果をまとめて報告、ディスカッションを行う。前半の授業では、聞き取り調査の方法論、韓国の歴史と韓国の学校の歴史を概観し、韓国の教育問題を考えるために必要な基礎知識を得る。後半の授業では、韓国社会の教育問題を、校内暴力問題、学生人権問題、教育熱の三つのテーマに分けて講義と発表を行う。本講義では、受講生の調査とディスカッションを重視するので、受講生の積極的な参加が求められる。	1. 講義の概要 2. 社会について考えるための質的調査法：聞き取り調査 3. 韓国の歴史1：朝鮮時代末期から朝鮮戦争まで 4. 韓国の歴史2：朝鮮戦争から民主化まで 5. 韓国の学校の歴史1：宗教改革から第二次世界大戦まで 6. 韓国の学校の歴史2：解放から新自由主義時代まで 7. 韓国の校内暴力問題1：概説 8. 韓国の校内暴力問題2：調査報告とディスカッション 9. 韓国の学生人権問題1：概説 10. 韓国の学生人権問題2：調査報告とディスカッション 11. 韓国の教育熱1：概説 12. 韓国の教育熱2：調査報告とディスカッション 13. 韓国の代案教育：意義と現状 14. 学校の未来：MOOC時代の到来と展望

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：配布するプリントを精読してください。担当するテーマの調査と発表を準備してください。 事後：毎回出される課題を解いて復習してください。
テキスト	プリントで配布する。
参考文献	授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験 50%　発表 40%　授業での発言 10%

	現代社会 2（韓国社会論）	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、世界のコリアンをテーマに、韓国現代社会の伝統と変容を読み解いていく。特に韓国のなかの伝統文化が世界各国でどのように変容するのかに焦点をあてながら、韓国社会の特色を考えることが目的である。 そのため、世界で活躍するコリアンの生活や、彼ら同士の交流などに関する文献・資料を読みながら議論を行うことにする。 講義は各自の発表を中心に行う。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時補充プリントを配布するようにする。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. 世界のコリアン概説 2. 自己・他者理解としてのコリアン 3. コリアンの日本定住 4. 日本の中のコリアン 5. 近代日本とコリアン 6. 済州島文化と在日コリアン 7. 世界のなかのコリア語 8. 中国朝鮮族と国家 9. 北朝鮮と移住する人々 10. コリアンの食文化 11. コリアンと音楽 12. コリアンたちの出会い 13. コリアン・アメリカンのアイデンティティー 14. まとめ－現代韓国社会とコリアン文化

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修；毎回与えられたテーマについて自分なりに調べて考えてくること。 事後学修；プリント・学習内容を整理し、与えられた参考文献を精読する。
テキスト	テキスト：授業で配布するレジュメ。
参考文献	勉誠出版編集部編『アジア遊学 92　世界のコリアン』勉誠出版社, 2006 年
評価方法	授業に対する積極的参加度（20%），小レポート（30%），期末課題（50%）をもとに評価を行う。

	現代社会２(市民社会と法)	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが生きるこの社会は「市民社会」です。民法は、「市民社会の基本法である」と言われます。この授業では、そのことの意味を具体的な民事紛争事例の解決策を検討することを通じて学んでいきたいと思います。そのために、「民法の意義と機能」、「契約の自由とその限界」、「過失責任主義とその限界」の３つのテーマを取り上げ、各テーマに関する具体的な紛争事例の解決に向けて、受講者がグループで活動をしながら、必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。 その結果、受講者が、「『民法は市民社会の基本法である』ということの意味を、家族・友人など民法を学習したことのない人が理解できるように分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に(口頭５分、文書2000字程度）説明できる」ようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります)。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第１回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第１回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで、履修してください。	1.　オリエンテーション 2.　ＰＢＬガイダンスと練習 3.　ＩＲＡＣエクササイズ 4.　民法の意義と機能（１）：事例を検討して学習課題を抽出。 5.　民法の意義と機能（２）：学習事項を共有したうえで、事例を再度検討し、追加の学習課題を抽出。 6.　民法の意義と機能（３）：学習事項を共有したうえで、解決策を検討。教員による解説・解題。 7.　契約の自由とその限界（１）：第１事例（その１）に同じ。 8.　契約の自由とその限界（２）：第１事例（その２）に同じ。 9.　契約の自由とその限界（３）：第１事例（その３）に同じ。 10.　過失責任主義とその限界（１）：第１事例（その１）に同じ。 11.　過失責任主義とその限界（２）：第１事例（その２）に同じ。 12.　過失責任主義とその限界（３）：第１事例（その３）に同じ。 13.　口頭発表会 14.　最終レポートのピア評価、授業全体のまとめと振り返り ＊　各事例の内容は、事例を検討する際の手がかりとなるので、授業当日までのお楽しみとします。

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業３回に２回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表のうえ、レポートにまとめて提出します。
テキスト	学習に必要な文献や資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集します。
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します。
評価方法	①正当な事由のない欠席２回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席４回以内、③宿題提出率 70%以上、④口頭発表を行い、最終レポートを提出していること、⑤最終レポートのピア評価 70 点以上、⑥ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点 70 点以上、のすべて満たしていることを単位認定（C以上）の必要条件とします。その他、AA～C の基準を含む成績評価方法について詳細は第１回のオリエンテーションで説明します。

08 年度以降	現代社会２（自己表現の技法）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
大学では（ひいては社会人となれば)、客観的な事実や信頼できる情報に基づいて主張を展開するタイプの文章を作成することが要求されます。ところが、そのような論証型のレポートの作成方法や、口頭発表の方法について、キチンと学習する機会はこれまであまり多くなかったのではないでしょうか？　そこで、この授業では、論証型レポートの作成方法と（それを基にした）口頭発表の方法を仲間同士の協力的な活動（ピア活動）を通じて学んでいきたいと思います。その結果、①論証型レポートの作成と口頭発表を協力して１人でできるようになること、②「自ら問いを発し、自ら学び、議論を通じて理解を深めていくこと」ができるようになること、③互いに学びあう仲間と学びあう学習環境を作ることの３つの目標を受講者には獲得してほしいと思います。 授業の対象としては、レポート作成を初めて体験する大学1年生を念頭に置いていますが、「レポートの作成方法がいまいちよく分からなくて困っている」という２年生以上の人もご遠慮なく！なお、第１回目の授業では、授業の内容や運営方法、成績評価の方法などについてより詳しく説明しますので、受講希望者は、可能な限り出席してください。	1.　この授業で何を学ぶかを知る。 2.　レポートの形を知り、アイディアを練る。 3.　構想を練り、情報を調べる。 4.　テーマを絞り込み、目標を規定する。 5.　文章を組み立てる。 6.　組み立てを再検討する。 7.　パラグラフを書く。 8.　本文を書き込んでいく。 9.　引用しながら書く。 10.　文章・表現・形式を点検する。 11.　発表を準備する。 12.　口頭発表をする。 13.　学んだことを振り返る。 14.　最終レポートのピア評価、全体のまとめと振り返り

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内ではピア・レスポンスの活動が中心となりますので、事前には、授業での活動の前提となるような宿題・課題が、事後には、授業で学習したことを確認したり練習したりするための課題やレポート作成に向けての課題などがほぼ毎回課されます。
テキスト	大島弥生ほか『ピアで学ぶ大学生の日本語表現〔第２版〕』（ひつじ書房）＊ 提出用シートはテキスト付属のものに限る（コピー不可）ので必ず購入のこと
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します。
評価方法	①正当な事由のない欠席２回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席４回以内、③宿題提出率 70%以上、④口頭発表を行い、最終レポートを提出していること、⑤最終レポートのピア評価 70 点以上、⑥ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点 70 点以上、のすべて満たしていることを単位認定（C以上）の必要条件とします。その他、AA～C の基準を含む成績評価方法について詳細は、第１回のオリエンテーションで説明します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	現代社会２（家族と法・実践編）	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、世間で話題になっている家族と法にまつわる様々な件や全く話題になっていない件に関する事例を教材として取り上げ、その問題解決を演習形式で検討する。取扱うケースは比較的簡易なものです。 授業は演習形式で行うため、参加者は報告が必須です。 なお、本講は、春期「家族と法」の実践編であり、春期単位修得者の受講が望ましい。	第１回　開講にあたり 第２回　婚姻の諸問題 第３回　離婚の諸問題 第４回　面会交流の諸問題 第５回　ＤＶの諸問題 第６回　養子縁組の諸問題 第７回　監護の諸問題 第８回　未成年者の諸問題 第９回　後見制度の諸問題 第 10 回　相続割合の諸問題 第 11 回　相続財産の諸問題 第 12 回　特別受益の諸問題 第 13 回　遺言の諸問題 第 14 回　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	春期受講者を対象に演習形式で家族と法に関する事例を検討する。そのため担当者は事前の準備が必要になる。
テキスト	齋藤哲・家族と法（信山社）、六法全書
参考文献	適宜、資料を配布ないし紹介する。
評価方法	レポート及び報告 100%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	現代社会２（市民と刑事司法・応用）	担当者	徳永　光

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）　刑事手続における人権保障のレベルは、その国の人権意識を示すバロメーターとも言えます。その一方、刑事法は、日々の暮らしに縁遠いものとして敬遠され、実はよく知られていない分野でもあります。たとえ直接かかわることがなくても、自分たちの属する社会で何が起きているのか関心をもって欲しいところです。この講義では、刑事法分野の基本的なものの見方・考え方を確認しながら、最近の問題を取り上げ、どのように解決していくべきかを考えてもらいます。 （講義概要）　具体的な課題をいくつか取り上げ、参加者中心で（グループを作り）議論し、発表してもらいます。刑事法に関する予備知識は要りませんが、事前に示す課題について、各自検討した上で参加してください。また授業レポートを作成してもらいます（とりあえず提出されれば加点するというわけではなく、内容により評価します）。	1.　ガイダンス 2.　刑事法の存在理由 3.　犯罪とは何か 4.　刑法の機能 5.　捜査の基本原則 6.　新たな捜査手法 7.　刑事裁判の流れと基本原則 8.　冤罪と救済 9.　取調べと自白 10.　裁判員裁判の運用状況と課題 11.　刑事司法制度改革 12.　少年司法 13.　死刑制度 14.　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	毎回翌週のテーマに関する簡単な課題を示します。各自で検討した上で出席してください。
テキスト	指定はありません。
参考文献	適宜、資料を配付します。六法は不要です。
評価方法	授業レポート等（50%）と期末試験（50%）により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	現代社会２（社会生活と犯罪・実践編）	担当者	関根　徹

講義目的、講義概要	授業計画
法律は社会を規律するルールです。しかし、我々は特にそのルールを意識することなく、日常生活を送っています。我々が法律を意識するようになるのは、何らかのトラブルが発生した時です。そのトラブルの最たるものが犯罪です。本授業では、社会生活の中で生じている主な犯罪を題材にして、それがどのように解決されるのかということを見て、法律の運用の感覚をつかんでください。 授業は演習形式で行い、2回1セットで1つのテーマを検討することにします。2回のうち、1回目は担当教員が問題のとらえ方、問題に対する解決方法などを解説し、2回目の前半50分で皆さんに問題の解決方法について考えてレポートにまとめてもらい、後半の50分で議論するという方法で行います。レポートは提出してもらいます。 なお、毎年この授業は抽選になるため、履修する諸君は抽選に漏れた人もいることを自覚し、欠席しないようにしてください。	1.　講義の概要・刑法の基礎 2.　殺人と同意殺人　概説 3.　殺人と同意殺人　レポート作成と議論 4.　臓器移植　概説 5.　臓器移植　レポート作成と議論 6.　過失往来危険　概説 7.　過失往来危険　レポート作成と議論 8.　正当防衛・詐欺　概説 9.　正当防衛・詐欺　レポート作成と議論 10.　共同正犯・強盗　概説 11.　共同正犯・強盗　レポート作成と議論 12.　強盗罪　概説 13.　強盗罪　レポート作成と議論 14.　まとめ

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	１回目の解説を聞いて自分で問題について考えてみてください。
テキスト	テキストは特に指定しません。解説のプリントを配布します。
参考文献	参考文献については、必要に応じて紹介します。
評価方法	試験は行いません。出席状況、議論への参加状況及びレポートの提出状況により評価します。

	現代社会 2 (Future Skills Program)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
一般社団法人Future Skills Project研究会の指針に基づいたProject Based Learningの授業を行う。チームで課題を解決することによって，論理的思考力とコミュニケーション力を養成することが目的である。 具体的には，大学外の企業または団体から「上司」となるべき講師を迎え，企業（団体）活動としての現実の課題を提示してもらう。履修者は授業内でグループを作り，その課題に対する解決策や企画案を発表する。「上司」はそれを社会人視点で厳しく指導し，修正と再度の発表を求める。こうした活動が2セット繰り返される。 これによって履修者には，学生の思考や行動と社会人としての思考や行動との差を認識し，4年間の大学生活での学修についての目的意識や主体性，および今後の授業選択の意味付けが獲得できるようになるということが期待される。	1. マインドセット 2. 課題とは？ディスカッションとは？ 3. 1番目の企業／団体からの課題提示 4. グループ活動 5. 中間プレゼンテーション 6. グループ活動 7. 最終プレゼンテーション・評価 8. 振り返り・スキル学習の紹介・チーム再編 9. 2番目の企業／団体からの課題提示 10. グループ活動 11. 中間プレゼンテーション 12. グループ活動 13. 最終プレゼンテーション・評価 14. 振り返り・大学での学修の意味

到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後：要求される 2 つの課題に対する準備と反省，5 週間を目途とする課題ごとに約 20〜30 時間
テキスト	*Project Support Notebook*（¥1,736）学内ぶっくぎゃらりぃ DUO で販売 ※抽選結果を確認してから購入すること。
参考文献	『VIEWS21』2015 年版（https://berd.benesse.jp/magazine/dai/booklet/?id=4572）等，FSP 活動報告書
評価方法	プレゼンへの評価（50%），活動参加への積極性（20%），最終報告書（30%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	自然・環境・人間２（コンピュータと言語）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1.　講義の概要と目標、情報のデジタル化 2.　オペレーティングシステムとは 3.　データ構造入門 4.　アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5.　プログラミング言語入門 6.　コンピュータ・ハードウェア 7.　言葉と言語処理の仕組み 8.　言語処理ための構文解析と言語資源 9.　言葉の意味解析と知識表現 10.　情報検索における言語処理 11.　質問応答システムと対話システム 12.　機械翻訳の原理 13.　講義のまとめ（前半部分の復習） 14.　講義のまとめ（後半部分の復習と演習課題の提出）

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出します。
テキスト	使用しません。
参考文献	随時紹介します。
評価方法	定期試験の成績 60%、課題の完成度 30%、授業への参加度 10%を併せて評価します。

	自然・環境・人間２（コンピュータ構造論）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。本講義では、（１）情報処理に関する基本的な概念、（２）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（３）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。（４）コンピュータの最新技術を紹介します。本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術、IoT、人工知能などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。	1.　授業のガイダンスとコンピュータ技術の概要 2.　データベースとは 3.　SQL言語とデータベース演習 4.　コンピュータ・ネットワークとは 5.　インターネットの仕組み 6.　コンピュータ・セキュリテの原理 7.　情報システムの構成と開発 8.　暗号システムと電子認証の仕組み 9.　IoT（モノのインターネット）入門 10.　IoTの実社会応用 11.　人工知能とは 12.　人工知能の応用実態 13.　総合演習（総合課題の完成および提出） 14.　授業のまとめ（授業内容の復習）

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	共有フォルダに置いている教材を事前に予習し、毎回出される課題を指示期日に提出します。
テキスト	使用しません。
参考文献	随時紹介します。
評価方法	定期試験 60%、課題 30%、授業への参加度 10%で総合的に評価します。

	自然・環境・人間 2（統計と調査法）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的　基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける． 授業概要 ・1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 　私達は常にこのようなデータに囲まれており，それを巧みに利用しながら生活している．「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが，より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる．この授業では日常的なデータを素材として，その性質を記述し，現象の本質を推測できるように，科学的な分析方法を使うことを学ぶ．基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする．授業期間の後半は，自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し，前半で学んだ理論の応用を試みる．	1. アンケートの取りかた，クイズ問題作成説明，統計量の種類（量的変量・質的変量） 2. 度数分布，相対度数，度数分布表，グラフ表現，記述統計と推測統計 3. 代表値（平均値，中央値，最頻値），値の広がり，正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度，標準得点，偏差値 4. クイズ問題解答集計（単純統計，複数回答処理） 5. 対応がない場合のt検定，分散分析，仮説（帰無仮説，対立仮説） 6. 対応がある場合のt検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 7. 分割表分析 8. クイズ問題解答集計（分散分析の応用） 9. クイズ問題解答集計（分割表分析の応用） 10. 信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 11. クイズ問題解答集計（ロジスティック回帰分析の応用） 12. 相関散布図，相関係数，回帰直線，欠損値の推定，相関検定 13. 多変量解析（1）主成分分析・因子分析・クラスター分析 14. 多変量解析（2）要因計画法・重回帰分析・対応分析

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする．また，課題は必ず提出しなければならない．
テキスト	授業において資料を配付する
参考文献	内田治『数量化理論とテキストマイニング』（日科技連, 2010）ISBN 978-4-8171-9292-9
評価方法	定期試験（授業への積極的参加度により評価を加減する）．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	自然・環境・人間２（自然言語処理 b）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。 本講義では、自然言語処理aの知識を踏まえた上、自然言語処理基礎技術のである意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、機械翻訳システム、自然言語対話システム、質問応答システム、情報検索システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。なお、自然言語処理a未修の方にも十分に理解できるように工夫しています。	1.　講義の概要、自然言語処理aの内容のまとめ 2.　自然言語処理の基礎知識 3.　単語の意味特定 4.　意味解析：　意味解析の方法と実験 5.　文脈解析：　談話構造、照応問題の対処法 6.　知識の表現法 7.　機械翻訳（1）　機械翻訳の処理方式と原理 8.　機械翻訳（2）　機械翻訳システムによる実習 9.　質問応答システムの仕組み 10.　情報検索における言語処理技術 11.　対話システムの仕組み 12.　Webと自然言語処理 13.　総合演習（自然言語ツールの活用） 14.　授業のまとめ（全体の復習および課題の提出）

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出します。
テキスト	最初の授業に説明します。
参考文献	必要な資料を配布します。
評価方法	演習課題の完成度 40%と筆記試験 60%の結果を併せて評価します。

	自然・環境・人間２（情報検索と加工）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】情報化社会において、知的資源である情報を効果的に活用することは不可欠です。情報を有効的に探索・選択・抽出することという一連の仕組みについて理解を深めることを目指します。また、コンピュータを使った情報検索システムの知識を、説明および実習を通して体得します。 【概要】コンピュータに基づく情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と演習を織り交ぜて授業を進めます。	1.　授業ガイダンス：情報検索の基本と必要性 2.　情報検索の基礎技術 3.　データベースとシソーラス 4.　WEBサーチエンジン：ロボットとインデックス 5.　インターネット検索・サーチエンジンによる検索 6.　演習（断片情報による検索） 7.　図書検索の仕組み 8.　図書検索の演習 9.　雑誌の検索／演習 10.　新聞記事の検索／演習 11.　辞書・人物・企業・地図の検索／演習 12.　統計・法律・特許情報の検索 13.　質問応答システムの演習 14.　授業のまとめ（全体の復習と要点の整理）

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出します。
テキスト	最初の授業に指示します。
参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	授業の参加態度（20%）、課題の完成度（20%）及び期末試験（60%）で評価します。

	自然・環境・人間２（データ構造とアルゴリズム論）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】データ構造とアルゴリズムは難しそうなイメージであるが，実は日常の生活と仕事の中でよく利用する身近なものである．情報爆発といわれる現代社会において，いかにデータを構造化し，必要なアルゴリズムで素早く処理する能力は不可欠である．本講義は実習を通してデータ構造とアルゴリズムに対する理解を深めることを目的とする． 【概要】データ構造とアルゴリズムに関する基本的な理論と方法について，講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する．講義内容は，文系の学生でも理解できるように，ゲームを取り入れ、体験しながら学ぶ． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1.　講義の概要、基礎知識、目標 2.　リスト 3.　スタックとキュー 4.　再帰 5.　計算量解析 6.　解析木 7.　二分探索木 8.　代表ソート法1：選択ソート 9.　代表ソート法2：シェールソート 10.　二分探索 11.　平衡木 12.　グラフ 13.　動的計画法 14.　授業のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する． また、出される課題やレポートなどを完成して提出する．
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する．
参考文献	参考サイト：http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html
評価方法	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	自然・環境・人間２（人工知能入門 a）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義では，人間のように言語の理解や推論，問題解決などの知的行動を真似する人工的システムの基本概念と問題解決手法について検討する． 【概要】「人工知能」は，推論・判断などの知的な機能を人工的に実現するための研究，また，これらの機能を備えたコンピューターシステムと広辞苑で定義している．人工知能の目的は，人間の代わりに，機械が自律的に問題を発見し，解決することである．そのために，問題解決，推論，自然言語処理，機械学習など，様々な研究が行われている． 　本講義では，人工知能を理解するための必要最小限の知識を習得し，様々な具体例を通じて理解を深める． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1.　授業ガイダンスと講義概要の説明 2.　人工知能の概要 3.　人工知能の問題と関連研究 4.　ファジィ理論と例 5.　遺伝的アルゴリズムと例 6.　探索 7.　人工知能を体験するための環境と基本スキル 8.　Python入門 9.　人工知能とPython 10. 顔認識：体験 11. 自然言語処理（1）：関連語を探そう 12. 自然言語処理（2）：日本語処理 13. 総合演習 14. 授業のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する． また、出される課題やレポートなどをきちんと解答して提出する．
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する．
参考文献	授業中に随時指定する．
評価方法	授業の参加態度（40%），レポート（20%）及び演習（40%）により総合的に評価する．

	自然・環境・人間２（人工知能入門 b）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義では，人間のように言語の理解や推論，問題解決などの知的行動を真似する人工的システムの基本概念と問題解決手法について検討する． 【概要】「人工知能」は，推論・判断などの知的な機能を人工的に実現するための研究，また，これらの機能を備えたコンピューターシステムと広辞苑で定義している．人工知能の目的は，人間の代わりに，機械が自律的に問題を発見し，解決することである．そのために，問題解決，推論，自然言語処理，機械学習など，様々な研究が行われている． 　本講義では，人工知能を理解するための必要最小限の知識を習得し，様々な具体例を通じて理解を深める． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1.　講義概要 2.　人工知能前半まとめ 3.　機械学習の歴史 4.　ディープラーニング初め 5.　人工ニューロン 6.　ニューラルネットワーク 7.　文字認識 8.　絵を描こう 9.　中間演習 10. 畳み込みニューラルネットワーク 11. 画像分析体験 12. 音声分析体験 13. 総合演習 14. 授業のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する． また、出される課題やレポートなどをきちんと解答して提出する．
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する．
参考文献	授業中に随時指定する．
評価方法	授業の参加態度（40%），レポート（20%）及び演習（40%）により総合的に評価する．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	自然・環境・人間２（文化について調べて書く b）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
調査にもとづいて文化に関わるレポートや論文を書くことができる能力を身につけることを目標とする。 ここで言う調査とは、フィールド調査・文献調査を含む。 文化人類学や関連の学問（地域研究・社会学・民俗学など）の授業を履修したことがある者の参加を歓迎する。 本授業では履修生に授業への積極的な関与を求める。履修者には、文献発表や、調査報告などを求める。 毎年具体的なテーマを設定して研究・調査をしてもらう。本年は文化と「見ること」の関係について文献などで理解を深めるとともに、自分で調べてその結果をまとめる作業を行ってもらう。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1. ガイダンス 2. 文化の概念 3. 「見ること」について考える 4. 見る見られる関係 5. 視覚文化（映画） 6. 視覚文化（テレビ） 7. 視覚文化（写真） 8. 風景と景観 9. 調査準備 10. 調査実習 11. 学生による調査報告（グループ1の発表） 12. 学生による調査報告（グループ2の発表） 13. 学生による調査報告（グループ3の発表） 14. まとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を課題に反映させること。
テキスト	教材は教員が準備、配付する。
参考文献	授業中に適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、発表および小課題［70%］を評価対象とする。授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

	自然・環境・人間２（スポーツコーチ学 a）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、またスポーツ動作の解析やゲーム分析などのパフォーマンスチェックが欠かせない。そこで本講義ではスポーツに関わる身体の基本的な機能と測定・分析方法を学び、実際にスポーツパフォーマンスに関係する様々な測定を経験し、各自のスポーツへのかかわり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指す。 〔講義概要〕 実際のスポーツ中のパフォーマンスに関連するデータを測定し、試合や演技の映像を持ち寄って分析を行う。成果を学期末に発表する。 ☆35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用するので室内および屋外用スポーツシューズと運動に相応しい服装を用意すること	1.　ガイダンス 2.　運動強度測定（屋内スポーツ：グループワーク） 3.　運動強度測定（屋外スポーツ：グループワーク） 4.　フィジカルテストの基礎 5.　フィジカルテストの実践（グループワーク） 6.　フィジカルテストの分析（グループワーク） 7.　動作分析の基礎 8.　動作分析の実践－屋内（グループワーク） 9.　動作分析の実践－屋外（グループワーク） 10.　ゲーム分析の基礎 11.　ゲーム分析の実践（グループワーク） 12.　成果発表（グループ①、②） 13.　成果発表（グループ③、④） 14.　成果発表（グループ⑤、⑥）

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	各種スポーツに必要な身体能力、技術について調べ、講義内で得られたデータをもとに分析すること
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）
参考文献	『コーチング学への招待』『運動生理学の基礎と発展』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）で総合的に評価する。

	自然・環境・人間２（スポーツコーチ学 b）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［目的］ スポーツコーチ学のなかで特に普及の為のスポーツ指導について、実践・実習をすることを目的とする。 ［概要］ 第3週より第13週まで種目により担当者と受講者に分かれて、コーチングの実践・実習を行う。 注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。	1.　受講ガイダンス 2.　スポーツ指導の概念と受講カード作成 3.　ゴール型スポーツの研究 4.　フットサル 5.　バスケットボール 6.　ハンドボール 7.　ネット型スポーツの研究 8.　バドミントン 9.　バレーボール 10.　卓球 11.　タグラグビーの紹介 12.　アルティメットの紹介 13.　インラインホッケーの紹介 14.　スポーツ指導の評価

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

	自然・環境・人間２（リーダーシップ論）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目的とします。授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。いくつかのグループによって提案された企画は投票によって1位を決定し、1位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。グループでの話し合いと実践を中心にしたアクティブラーニングを行います。	1. オリエンテーション 2. 集団形成：アイスブレーキング 3. グループワークによる問題解決活動と発表 4. イニシアティブゲームによる問題解決活動（室内） 5. イニシアティブゲームによる問題解決活動（屋外） 6. グループ内での課題についての討論と発表 7. イベント企画作成の手順 8. イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 9. イベント企画案の作成開始、調査 10. イベント企画案決定とプレゼンテーション準備 11. イベント企画プレゼンテーション 12. イベントの実施 13. イベントの評価とまとめ 14. 授業のまとめ

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にリーダーシップ理論について学習し、授業で実践した方法を所属する集団で実施すること。
テキスト	必要に応じ資料を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（60%）、小レポート・期末レポート（30%）、企画コンテスト（10%）を評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	自然・環境・人間２（体育経営スポーツマネージメント）	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及過程を理解して“今何が求められているのか？”という問いの答えを模索する。そこで、体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における諸問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。具体的には、アメリカ４大プロスポーツの中でも最も成功していると言われているNFLを中心にプロスポーツのマネジメントを日本のプロスポーツと比較しながら理解する。また、NCAA やヨーロッパサッカーなどの巨大組織のみならず、アダプテッド・スポーツ、2020 年の東京オリンピックなども取り扱う。 さらには、マネジメントの観点から、自身の健康維持・増進、現代社会において問題視されているメンタル・マネジメントについても論を広げていく。以上のような内容を学びながら、PDCA・サイクルなどの問題解決法の習得を狙い、スポーツ関連のみならず、様々な状況に対して準備を怠らない考えを享受し、最適なライフ・マネジメントを構築できるようにする。	1. オリエンテーション 2. スポーツマネジメントの概要 3. 我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4. 体育とスポーツ教育学 5. 健康マネジメント 6. メディア＆コマーシャリズム 7. スポーツビジネスのマネジメント 8. オリンピックのマネジメント 9. スポーツ・マーケティング 10. 北米における学生スポーツの発展 11. プロスポーツとアマチュアスポーツ 12. 我が国における学生スポーツのマネジメント 13. アダプテッド・スポーツ 14. 高度競技スポーツにおけるマネジメント

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 また、関連するトピックスを調べ、授業内で発言できる準備をすること。
テキスト	適宜講義内で配布する。
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加度・貢献度 50%　レポート 30%　小テスト 10% 授業での発言 10%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	自然・環境・人間２（からだの仕組み）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 普段、何気なく生活している中では気づかないが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示している。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が溢れている。まずはもっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考える、工夫するきっかけを提供することが本講義の目的である。 【講義概要】 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に自分自身のからだを使ってその機能の一部を確かめる、つまり実験・測定を行う（グループワーク）。得られたデータを分析し、レポートにまとめることで理解を深める。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 加齢と身体能力 3. 棒反応時間測定 - 反応の速さに影響するのは？ - 4. 棒反応時間測定 - データのまとめ方（グループワーク） 5. 血圧調節の基礎 - 身近な健康のバロメータ - 6. 血圧調節実験 - 姿勢変化、運動 - 7. 血圧調節 - まとめ（グループでデータの解析） 8. 体温調節の基礎 - 冷え症・低体温、熱中症 - 9. 体温調節実験 - 寒冷血管拡張反応 - 10. 体温調節 - まとめ（グループでデータの解析） 11. 運動調節の基礎 - スムーズに動くには - 12. 運動調節実験 - プリズム順応 - 13. 運動調節 - まとめ（グループでデータの解析） 14. 成果発表

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後 学修の内容	各テーマの実験データに関連する論文を調査すること、また生理機能の理解を深めるため実験のレポートを都度作成し、提出すること。
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	『生理学実習 NAVI』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（40%）とレポート（60%）で総合的に評価する。

	自然・環境・人間２（生理学Ⅰ）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問である。私たちのからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指す。 〔講義概要〕 本講義では身体の仕組みや機能について概説する。毎回のテーマの中のキーワードについて受講生に割り振り、各自調べて発表する。また学期末に興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 生理学の基礎 - ホメオスタシスって - 3. 血液・体液 - 体の中に海？ - 4. 呼吸・循環 - 息して生きてる・高血圧低血圧 - 5. 消化・吸収 - 食べ物の行方 - 6. 代謝・体温 - からだを温めると健康によい？ - 7. 内分泌 - ホルモン、男らしさ女らしさ 8. 神経 - 「運動神経」がない人はいない！ - 9. 感覚 - 第６感？ - 10. 筋・骨 - からだの屋台骨 - 11. 免疫 - からだの防衛隊 - 12. 睡眠 - どうして眠るの？ - 13. 「からだ」の情報交換会（グループ発表①②③） 14. 「からだ」の情報交換会（グループ発表④⑤⑥）

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	『はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ２生理学』『イラストでまなぶ生理学』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内レポート（20%）、学期末レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に判断する。

	自然・環境・人間２（生理学Ⅱ）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義では、ヒトの身体制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指す。 〔講義概要〕 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎をもとに、秋学期の生理学Ⅱでは私たちの身体の中枢である脳とその機能に焦点をあてて講義する。毎回のテーマの中のキーワードについて受講生に割り振り、各自調べて発表する。また学期末に興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 神経科学の基礎 3. 中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄） 4. 末梢神経系 5. ニューロン・シナプス・神経伝達物質 6. 体性感覚・嗅覚 7. 味覚・視覚 8. 聴覚・平衡感覚 9. 脳と睡眠 - なぜ眠る？ - 10. 学習と記憶 11. 脳・脊髄による運動制御 12. 情動 - 好き嫌い - 13. 「脳機能」の情報交換会（グループ発表①②③） 14. 「脳機能」の情報交換会（グループ発表④⑤⑥）

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	『神経科学テキスト 脳と行動』『神経科学－脳の探求－』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内レポート（20%）、学期末レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に判断する。

	自然・環境・人間２（サイエンスライティングａ）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 春学期「サイエンスライティングａ」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の中のあるテーマについて文章にまとめる作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。	1.　はじめに／サイエンスライティングとは 2.　「地球外文明」に関する講義内容をまとめる 3.　まとめ文の添削・講評・修正 4.　「古代の物質観」に関する講義内容をまとめる 5.　まとめ文の添削・講評・修正 6.　「地球科学」に関するビデオの内容をまとめる 7.　まとめ文の添削・講評・修正 8.　「生命科学」に関するビデオの内容をまとめる 9.　まとめ文の添削・講評・修正 10.　「プリンキピア」に関する本の内容をまとめる 11.　まとめ文の添削・講評・修正 12.　「疑似科学」に関する本の内容をまとめる 13.　まとめ文の添削・講評・修正 14.　まとめ文全体の講評

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する

	自然・環境・人間２（サイエンスライティングｂ）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 秋学期「サイエンスライティングb」では、春学期「サイエンスライティングa」での実践を前提に、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物等の解説文を実際に書くという作業を通して、文章力をさらに高めていきます。	1.　はじめに／サイエンスライティングとは 2.　科学に関する講義を聴く 3.　科学に関する講義の解説文を書く 4.　添削と講評を基に書き直す 5.　科学に関する論文形式の文章を読む 6.　科学に関する論文形式の文章の解説文を書く 7.　添削と講評を基に書き直す 8.　科学に関するビデオを見て、その解説文を書く 9.　添削と講評を基に書き直す 10.　科学者へのインタビューをし、その記事を書く 11.　添削と講評を基に書き直す 12.　科学に関する本を読む 13.　科学に関する本の解説文を書く 14.　添削と講評を基に書き直す

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	各テーマにおける「解説文」の完成度を総合的に評価する

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

	自然・環境・人間２ （人間活動の自然環境への影響のデータからの理解）	担当者	中村　健治

講義目的、講義概要	授業計画
地球環境は人間活動により大きく変化していると同時に人間社会は自然環境に大きく影響を受けています。この自然環境について、日本を中心として講義をします。世界の環境問題の一つは水問題ですが、日本は水に恵まれていると言われています。この水についてその量や水質について講義します。また日本が雨の多いモンスーンアジアの中にあることを理解してもらいます。その後、日本各地の気候について述べます。また、量的な感覚を持ってもらうことも目的としています。このため、講義内容に関わる話題について概算の計算練習も入れます。	1.　講義概要 2.　日本の水問題 3.　川と環境 4.　水の管理 5.　水と防災 6.　水の浄化 7.　アジアモンスーンと日本 8.　コメ 9.　世界の気候 10.　世界の気候と社会 11.　日本の気候の特徴 12.　日本各地の気候 13.　漁業と海 14.　復習

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回講義テーマを示すのでそれについて考え、事後は講義資料をポータルに載せるので復習してください。
テキスト	特に無し。
参考文献	特に無し。
評価方法	毎回行う小論文（30%）と試験（70%）で評価します。

	自然・環境・人間２（社会のなかの化学物質 a）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの日常生活は化学物質に取り囲まれています。金属やプラスチックなどの材料、燃料、衣料や食品等々、工業的に生産されている化学物質だけでも十万種類。それどころか、私たちの身体を作っている物質そのものやそれらの働きも、化学の力で理解が進んでいます。 いわゆる「理系」「文系」の境もなく、私たちの身の回りの物質や社会におけるそれらの利用を理解することは、現代社会を生きる私たちに必須の教養です。この授業では、これらさまざまな化学物質がどんな特徴を持つモノたちであり、どのように生産流通され、どんなふうに働いているかを学びます。その理解を基礎として、現代の社会生活をみずからの判断力に基づいて自覚的に築く力を養ってもらいたいと考えます。 なお、受講に当たって、高校理科で化学を履修していなくても心配いりません。	1. 身の回りの物質　① 原資と原子核 2. 身の回りの物質　② 純物質・化合物・単体 3. 身の回りの物質　③ 分子と状態 4. いろいろな金属　① 金属の性質 5. いろいろな金属　② 金銀銅鉄亜鉛アルミニウム 6. いろいろな金属　③ レアメタル 7. 生活を支える気体 ① 水素と酸素 8. 生活を支える気体 ② 気体の諸性質 9. 水の科学　① 水の特異性・生活の中の水 10. 水の科学　② 溶液・コロイド溶液・酸性と塩基性 11. キッチンの化学 ① 食品の栄養・味と香り 12. キッチンの化学 ② 食塩・食品添加物 13. 微生物と物質 ① 微生物とその増殖 14. 微生物と物質 ② 汚水処理、抗菌、バイオ技術

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	学期末レポートのテーマに沿って各自調査・学習してください。
テキスト	鈴木孝弘（著）『新しい 物質の科学　改訂２版』オーム社、2014
参考文献	特になし。テーマに応じて適宜指示する。
評価方法	学期末レポート（60%）　授業の参加態度（提出物）（40%）

	自然・環境・人間２（社会のなかの化学物質 b）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの日常生活は化学物質に取り囲まれています。金属やプラスチックなどの材料、燃料、衣料や食品等々、工業的に生産されている化学物質だけでも十万種類。それどころか、私たちの身体を作っている物質そのものやそれらの働きも、化学の力で理解が進んでいます。 いわゆる「理系」「文系」の境もなく、私たちの身の回りの物質や社会におけるそれらの利用を理解することは、現代社会を生きる私たちに必須の教養です。この授業では、これらさまざまな化学物質がどんな特徴を持つモノたちであり、どのように生産流通され、どんなふうに働いているかを学びます。その理解を基礎として、現代の社会生活をみずからの判断力に基づいて自覚的に築く力を養ってもらいたいと考えます。 なお、受講に当たって、高校理科で化学を履修していなくても心配いりません。	1. 繊維素材と洗剤 ①天然繊維と皮革 2. 繊維素材と洗剤 ②合成繊維と合成樹脂 3. 繊維素材と洗剤 ③染料・洗剤 4. 化学物質と環境 ①環境中の化学物質の挙動・生物濃縮 5. 化学物質と環境 ②ダイオキシン・環境ホルモン 6. 化学物質と環境 ③光化学スモッグ・酸性雨・フロン 7. 身の回りの毒 ①毒物の作用 8. 身の回りの毒 ②薬害・アレルギー 9. 身の回りの毒 ③食品汚染 10. エネルギーと物質 ①化石燃料 11. エネルギーと物質 ②原子力発電 12. エネルギーと物質 ③再生可能エネルギー 13. 生命と物質 ①たんぱく質・酵素 14. 生命と物質 ②DNAと遺伝のメカニズム

到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	学期末レポートのテーマに沿って各自調査・学習してください。
テキスト	鈴木孝弘（著）『新しい 物質の科学　改訂２版』オーム社、2014
参考文献	特になし。テーマに応じて適宜指示する。
評価方法	学期末レポート（60%）　授業の参加態度（提出物）（40%）

（春）	スポーツ・レクリエーション（インラインホッケーa）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［目的］ 　インラインホッケーのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 ［概要］ 　色々なメンバーの組み合わせにより簡易ゲームを行う。 　男子20名、女子20名を定員とする 注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。	1.　受講ガイダンス 2.　受講カードの作成とスキルテスト 3.　個人スキル練習 4.　簡易ゲーム練習①ルール 5.　簡易ゲーム練習②戦術 6.　ペアスキル練習 7.　ゲーム（リーグ戦①）個人での攻防 8.　ゲーム（リーグ戦②）ペアでの攻防 9.　チームスキル練習 10.　２チームでゲーム練習①速攻主体 11.　２チームでゲーム練習②遅攻主体 12.　個人スキルテスト 13.　総合的なゲーム練習①個人戦術 14.　総合的なゲーム練習②チーム戦術

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

（春）	スポーツ･レクリエーション（インラインスケートa）－ 火1、土1、土2	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目的] 　インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全能力とモラルが大切になるでしょう。前後方滑走、カーブ、方向転換までの技術習得を目的にします。 [講義概要] 　実施場所は室内アリーナです。インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況によって、授業計画は変えていきます。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。足首上までのソックスを必ず着用すること。	第１回：オリエンテーションと用具あわせ（更衣不要ですがソックスを準備して下さい）立ち方・歩き方・とまり方 第２回：前進ひょうたん型 第３回：後進ひょうたん型 第４回：前進ツイスト 第５回：後進ツイスト 第６回：カーブと体のコントロール 第７回：片足で長く滑る 第８回：インラインホッケーの基本 第９回：インラインホッケーを楽しもう 第１０回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第１１回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第１２回：「後ろ向きになれよう」バックストロークのバリエーション 第１３回：「方向転換」カーブの練習 第１４回：「方向転換」スリーターン　まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト	必要に応じプリントを配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（秋）	スポーツ･レクリエーション（インラインスケートb）－ 火1、土1	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目的] 　春学期から継続して受講する学生のためのクラスです。インラインスケートの技術のバリエーションを習得することを目的とします。 　秋学期からの履修者は、春学期の基本動作および技術を学習します。 [講義概要] 　インラインスケートの技術の応用技術であるステップ、ストップ、ジャンプ等を取り入れて授業を進めます。また、インラインホッケーを積極的に行います。学生の技術達成度によって、個々の指導内容を変えていきます。	第１回：インラインホッケーの楽しみ方 第２回：パイロンテクニックその１　大きな動き 第３回：パイロンテクニックその２　小さな動き 第４回：ターン　スリーターン 第５回：ターン　モホークターン 第６回：基本的なストップ 第７回：ストップのバリエーション 第８回：ジャンプ 第９回：フォワードクロッシング　足運びの練習 第１０回：フォワードクロッシング 第１１回：バックワードクロッシングの初歩 第１２回：インラインホッケーリーグ戦 第１ 回導入 第１３回：インラインホッケーリーグ戦 第２ 回フォーメーション 第１４回：インラインホッケーリーグ戦 第３ 回攻撃 まとめ インラインホッケーは、毎回授業時間後半で行います。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト	必要に応じプリントを配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a）_火 1、火 2	担当者	重藤　誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【講義概要】 基本的な技術の練習を行い、全体のスキルアップを目指す。初心者から中上級者までレベルに差がある場合は、上級者が初心者をサポートする形をとる場合もある。 授業前半に基本的なスキルやルールを身につけ、後半はダブルスのゲームを中心とした授業展開をしていく。ただし、毎回の授業の最後にはゲーム形式のメニューを行う。 授業終盤には技術の習熟度を測る実技テストを行う。	1.ガイダンス、写真付受講票の作成とアイスブレーク 2.フォアハンドストロークの基本 3.フォアハンドストローク（ドライブ、スライス） 4.バックハンドストロークの基本 5.バックハンドストローク（ドライブ、スライス） 6.サービス＆レシーブ 7.ボレー＆スマッシュ 8.サーブ＆ボレー 9.ダブルスチャンピオンシップゲーム（2 ゲームローテ） 10.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 分ローテ） 11.ダブルスゲーム（3 ゲームマッチ） 12.ダブルスゲーム（5 ゲームマッチ） 13.実技テスト　ダブルスゲーム（7 ゲームマッチ） 14.実技テスト（予備日）ダブルスゲーム（1セットマッチ）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。
テキスト	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b）_火 1、火 2	担当者	重藤　誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【講義概要】 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になるため、秋学期からの履修者には原則として、全くの未経験者ではないことが条件となる。 試合を有利に進めるための戦術やスキルを学び、円滑に進めるためにルールやマナーを理解する。 授業終盤に技術の習熟度を測る実技テストとグループワークを行う。	1.ガイダンス及び写真付受講票の作成とアイスブレーク 2.回り込みフォアハンド 3.アングルショット 4.ポーチ、ローボレー 5.スピンサービス、フラットサービス 6.ダブルス雁行陣 7.ダブルス平行陣 8.ダブルスチャンピオンシップゲーム（3 ゲームマッチ） 9.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 ゲームマッチ） 10.実技テスト、グループワーク（リーダー指名） 11.実技テスト（予備日）、グループワーク（コート別） 12.グループワーク（2 コート合同） 13.グループワーク（グループ対抗戦） 14.総括

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。
テキスト	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a）_金 3、土 2	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 硬式テニスのスキルを理解し、獲得することを第 1 の目的とする。 次にダブルスのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図ることを第 2 の目的とする。 [概要] 基本的には、初心者から中級レベルが 4 面にわかれて練習を行う。 授業前半は基本スキル練習、後半はダブルスゲーム形式で応用スキルの練習を色々なグループにより行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。	1. 受講ガイダンス 2. 受講カードの作成とスキルテスト 3. フォアハンドストローク 4. バックハンドストローク 5. ボレー＆スマッシュ 6. サービス＆レシーブ 7. サービス＆レシーブ＆クロスラリー 8. ダブルスゲーム①試合の進め方 9. ダブルスゲーム②サービスゲームの進め方 10. ダブルスゲーム③レシーブゲームの進め方 11. ダブルスゲーム④男子ダブルス・女子ダブルス 12. ダブルスゲーム⑤混合ダブルス 13. ダブルスゲーム⑥技能レベル別ダブルス 14. 硬式テニスのスキルのまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	適宜配布する。
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b）_金 3、土 2	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 硬式テニスのシングルス・ダブルスゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 [概要] 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になる。 色々な組み合わせによりゲームを行う。	1. 実技と受講ガイダンス 2. 受講カード作成とスキルテスト 3. シングルスゲーム①男女別 4. シングルスゲーム②技能レベル別 5. ダブルスゲーム①男女別 6. ダブルスゲーム②技能別 7. ダブルスゲーム③攻撃的プレー主体 8. ダブルスゲーム④守備的プレー主体 9. ダブルスゲーム⑤サービスゲームの進め方 10. ダブルスゲーム⑥レシーブゲームの進め方 11. ダブルスゲーム⑦15 オールからのゲーム開始 12. ダブルスゲーム⑧0 - 30 からのゲーム開始 13. ダブルスゲーム⑨混合ダブルス 14. シングルスゲーム・ダブルスゲームの理解

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	適宜配布する。
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・スポーツマンシップの意識と発揮できるという体験を目的の１つとする（同じ環境を共有し、協力する人として、まずは、授業の最初と最後に全員で握手を行います）。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1　オリエンテーションと軽めのトレーニング 2　体慣らしのテニス 3　サービス、ストローク、ボレー等の練習 4　ルールの確認（シングルス） 5　ルールの確認（ダブルス） 6　シングルス、ダブルス（リーグ戦）技能テスト 7　シングルス、ダブルス（トーナメント）技能テスト 8　シングルス、ダブルス（タイブレーク）技能テスト 9　シングルス、ダブルス（チーム戦）技能テスト 10　技術練習（グランドストローク、フォア、バック） 11　技術練習（ストロークとボレー、フォア、バック） 12　技術練習（サービス、レシーブ、スマッシュ） 13　シングルス、ダブルスのゲーム 14　シングルス、ダブルスのゲーム、技能テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。　授業の終わりごとに自己評価を提出する。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組む姿勢５０％、レポートの内容２０％、技能の向上２０％、スポーツマンシップ（マナー・エチケット等）１０％で評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・スポーツマンシップの意識と発揮できるという体験を目的の１つとする（同じ環境を共有し、協力する人として、まずは、授業の最初と最後に全員で握手を行います）。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1　オリエンテーションと実技（体慣らし） 2　体慣らしのテニス（ショートテニス等） 3　サービス、ストローク、ボレー等の練習 4　ルールの確認（シングルス） 5　ルールの確認（ダブルス） 6　シングルス、ダブルス（リーグ戦）技能テスト 7　シングルス、ダブルス（トーナメント）技能テスト 8　シングルス、ダブルス（タイブレーク）技能テスト 9　シングルス、ダブルス（チーム戦）技能テスト 10　技術練習（グランドストローク、フォア、バック） 11　技術練習（ストロークとボレー、フォアバック） 12　技術練習（サービス、レシーブ、スマッシュ） 13　シングルス、ダブルスのゲーム 14　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。　授業の終わりごとに自己評価を提出する。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組む姿勢５０％、レポートの内容２０％、技能の向上２０％、スポーツマンシップ（マナー・エチケット等）１０％で評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（ゴルフ a）_金 1、金 2	担当者	小笠原　慶太

講義目的、講義概要	授業計画
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。 授業ではショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやまなーについても細かく説明し、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 1～5は学内、6～14は練習場で行います。 【受講者へ】 民間のゴルフ練習場を使用するため、登録時に10,000円（入場料、ボール代）を徴収します。また、危険防止の為、練習中のグローブの着用を義務付けます。	1　オリエンテーション 2　スウィング作り及び道具等の説明 3　スウィング作り（ボールを打ちながら） 4　ミニゲーム（ショートアイアンのみ使用） 5　ミニゲーム（ショート・ミドルアイアン使用） 6　アプローチの習得（30ヤード以内） 7　アプローチの習得（30～50ヤード） 8　ショートアイアンの習得（100ヤード以内） 9　ショートアイアンの習得（100～150ヤード） 10　ミドルアイアンの習得 11　ロングアイアンの習得 12　フェアウェイウッドの習得 13　ドライバーの習得 14　実技テスト

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ゴルフの動画を見るなど、イメージトレーニングをしてください。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	実技テスト 20%、技術の向上度 20%、授業態度及び貢献度 60%で評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（ゴルフ b）_金 1、金 2	担当者	小笠原　慶太

講義目的、講義概要	授業計画
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。 授業ではショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやまなーについても細かく説明し、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 1～4は学内、5～13は練習場、14は学内で行います。 【受講者へ】 民間のゴルフ練習場を使用するため、登録時に10,000円（入場料、ボール代）を徴収します。また、危険防止の為、練習中のグローブの着用を義務付けます。	1　スウィング作り及び道具等の説明 2　スウィング作り（ボールを打ちながら） 3　ミニゲーム（ショートアイアンのみ使用） 4　ミニゲーム（ショート・ミドルアイアン使用） 5　アプローチの習得（30ヤード以内） 6　アプローチの習得（30～50ヤード） 7　ショートアイアンの習得（100ヤード以内） 8　ショートアイアンの習得（100～150ヤード） 9　ミドルアイアンの習得 10　ロングアイアンの習得 11　フェアウェイウッドの習得 12　ドライバーの習得 13　実技テスト 14　ミニゲームをしながらルール学習

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ゴルフの動画を見るなど、イメージトレーニングをしてください。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	実技テスト 20%、技術の向上度 20%、授業態度及び貢献度 60%で評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（コンディショントレーニングa）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。 [概要] 良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。 学生センター2 階のトレーニングルームを使用して授業を行い、春学期の受講は男子学生のみとする。 毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。	1. 受講ガイダンス 2. トレーニングのルールと登録カードの作成 3. 現在のコンディションの確認 4. 二人組骨盤調整と姿勢①骨格 5. 二人組骨盤調整と姿勢②筋肉 6. 二人組骨盤調整と姿勢③関節 7. 二人組操体法①骨格 8. 二人組操体法②筋肉 9. 二人組操体法③関節 10. 身体の動きとコンディション①柔軟性 11. 身体の動きとコンディション②可動性 12. 身体の動きとコンディション③持久性 13. 生涯健康への注意点 14. 現在のコンディションの評価

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をして授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度 60%、課題 20%、参加後の変化 20%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（コンディショントレーニングb）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。 [概要] 良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。 学生センター2 階のトレーニングルームを使用して授業を行い、秋学期の受講は女子学生のみとする。 毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。	1. 受講ガイダンス 2. トレーニングのルールと登録カードの作成 3. 現在のコンディションの確認 4. 二人組骨盤調整と姿勢①骨格 5. 二人組骨盤調整と姿勢②筋肉 6. 二人組骨盤調整と姿勢③関節 7. 二人組操体法①骨格 8. 二人組操体法②筋肉 9. 二人組操体法③関節 10. 身体の動きとコンディション①柔軟性 11. 身体の動きとコンディション②可動性 12. 身体の動きとコンディション③持久性 13. 生涯健康への注意点 14. 現在のコンディションの評価

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をして授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度 60%、課題 20%、参加後の変化 20%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	原仲　碧

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 1．サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しくサッカーに関われるための知識や技能の習得。 2．サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 ［受講生への要望］ サッカーをより楽しみたいという学生の受講を願います。	1. ガイダンス（グルーピング） 2. 観る（何を）トレーニング 3. 観る（いつ）トレーニング 4. ボールを運ぶ技術（ボールフィーリング、ドリブル） 5. ボールを運ぶ技術（スクリーン、ターン） 6. ボールを蹴る技術（パス、シュート） 7. ボールを蹴る技術（ドリブル or パス or シュート） 8. ボールを受ける技術（コントロール） 9. ボールを受ける技術（どこで受けるか） 10. ボールを奪う技術（on the ball の守備） 11. ボールを奪う技術（off the ball の守備） 12. オーガナイズを考える（全員が楽しめるルール設定） 13. オーガナイズを考える（リーグ戦運営） 14. エキシビジョンマッチ ※天候、進捗状況等に応じて柔軟にすすめる

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。安全面への配慮から装飾品は厳禁。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	実践力（40%）、授業への取組む姿勢・態度（40%）、授業への貢献度（20%）を総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	原仲　碧

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 1．サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しくサッカーに関われるための知識や技能の習得。 2．サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 ［受講生への要望］ サッカーをより楽しみたいという学生の受講を願います。	1. ガイダンス（更衣後に集合、ゲーム） 2. 基本技術の復習（運ぶ、蹴る） 3. 基本技術の復習（受ける、奪う） 4. 攻撃のグループ戦術（カウンター） 5. 攻撃のグループ戦術（クロスからの攻撃） 6. 守備のグループ戦術（マンツーマン） 7. 守備のグループ戦術（ゾーン、マークの受け渡し） 8. リーグ戦（攻守の切り替え） 9. リーグ戦（セットプレー） 10. リーグ戦（ハイプレス） 11. リーグ戦（各チームのオリジナル戦術、戦略） 12. トーナメント戦（クオリティーの追求） 13. トーナメント戦（勝敗の追求） 14. エキシビジョンマッチ ※天候、進捗状況等に応じて柔軟にすすめる

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。安全面への配慮から装飾品は厳禁。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	実践力（40%）、授業への取組む姿勢・態度（40%）、授業への貢献度（20%）を総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 1．好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっかけにする。 2．サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。 天候等によりグランドが使用できないときには、体育館でミニサッカーや卓球などを行うか、教室にてサッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。	1. ガイダンス（実技の概要） 2. 楽しくプレーする：コミュニケーションをとる 3. 楽しくプレーする：ポゼッションを楽しむ 4. シンプルにプレーする：ツゥータッチプレー 5. シンプルにプレーする：ワンタッチプレー 6. 効果的なボールコントロール：ターン 7. 効果的なボールコントロール：逆を突く 8. 効果的なパス：縦パス 9. 効果的なパス：サイドチェンジ 10. 攻撃に人数をかける：パスコースを増やす 11. 攻撃に人数をかける：ボールを追い越す 12. プレーへの関わりを増やす：パス&ムーヴ 13. プレーへの関わりを増やす：ポジショニング 14. まとめ：自分のプレーを振り返る

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	サッカーのプレータイルや専門用語を事前に理解しておくことが望ましい。「ポゼッション」、「カウンター」「連動する」、「間で受ける」、「前から守備をする」などです。
テキスト	なし
参考文献	西部謙司・ 北健一郎「サッカー戦術が簡単に分かる本」（マイナビ文庫）
評価方法	授業でのトレーニングや試合に積極的に取り組む姿勢 70%、他者を思いやる姿勢・プレーなど 30%、遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 1．好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっかけにする。 2．サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。 天候等によりグランドが使用できないときには、体育館でミニサッカーや卓球などを行うか、教室にてサッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。	1. ガイダンス（実技の概要） 2. 楽しくプレーする：コミュニケーションをとる 3. 楽しくプレーする：ポゼッションを楽しむ 4. シンプルにプレーする：ツゥータッチプレー 5. シンプルにプレーする：ワンタッチプレー 6. 効果的なボールコントロール：ターン 7. 効果的なボールコントロール：逆を突く 8. 効果的なパス：縦パス 9. 効果的なパス：サイドチェンジ 10. 攻撃に人数をかける：パスコースを増やす 11. 攻撃に人数をかける：ボールを追い越す 12. プレーへの関わりを増やす：パス&ムーヴ 13. プレーへの関わりを増やす：ポジショニング 14. まとめ：自分のプレーを振り返る

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	サッカーのプレータイルや専門用語を事前に理解しておくことが望ましい。「ポゼッション」、「カウンター」「連動する」、「間で受ける」、「前から守備をする」などです。
テキスト	なし
参考文献	西部謙司・ 北健一郎「サッカー戦術が簡単に分かる本」（マイナビ文庫）
評価方法	授業でのトレーニングや試合に積極的に取り組む姿勢 70%、他者を思いやる姿勢・プレーなど 30%、遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（春）	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門 a）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことである。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的とする。 【講義概要】 いつでもどこでも気軽にからだを動かすことのできる方法を学び、実践する。運動の強度は軽～中程度とし、運動やスポーツが苦手でも十分取り組める内容で構成している。主にトレーニングルームで行う。 【受講生への要望】 各自、室内用のシューズを必ず用意し、運動にふさわしい服装で参加すること。水分補給をこまめに行うように。 ☆トレーニングルーム以外で実施する場合は事前に連絡する	1. ガイダンス 2. 自分の「からだ」をチェックしよう 3. 自分の『ウェルネス』について考えてみよう 4. からだをほぐしてリラックス（ストレッチポール） 5. ストレッチのススメ 6. バランスボールを使ったエクササイズ基礎 7. バランスボールを使ったエクササイズ応用 8. 自分の体重を使って筋力アップ 9. きれいな姿勢のためのエクササイズ 10. 有酸素運動を理解しよう 11. ヨガとは 12. ヨガの基本ポーズ－座位中心に－ 13. ヨガの基本ポーズ－立位中心に－ 14. 自分の現在の「からだ」をチェックしよう

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	日々の自身の体調をチェックし、授業内で学んだ健康管理の方法を実践するように努めること
テキスト	特になし（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、健康管理方法の理解度（20%）

（秋）	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門 b）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことである。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的とする。 【講義概要】 いつでもどこでも気軽にからだを動かすことのできる方法を学び、実践する。運動の強度は軽～中程度とし、運動やスポーツが苦手でも十分取り組める内容で構成している。主にトレーニングルームで行う。 【受講生への要望】 各自、室内用のシューズを必ず用意し、運動にふさわしい服装で参加すること。水分補給をこまめに行うように。 ☆トレーニングルーム以外で実施する場合は事前に連絡する	1. 夏休みの生活を振り返る 2. 自分の「からだ」をチェックしよう 3. ステップエクササイズ（基本編） 4. ステップエクササイズ（基本の復習と応用編） 5. ステップエクササイズ（応用編） 6. バランスボールを使ったエクササイズ基礎 7. バランスボールを使ったエクササイズ応用 8. ヨガの基本ポーズ－座位中心に－ 9. ヨガの基本ポーズ－立位中心に－ 10. ヨガでリラックス 11. ヨガで元気に 12. 正しいウォーキング 13. 草加松原を散策 14. 自分の「からだ」を知って健やかに過ごそう

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	日々の自身の体調をチェックし、授業内で学んだ健康管理の方法を実践するように努めること
テキスト	特になし（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、健康管理方法の理解度（20%）

（春）	スポーツ・レクリエーション（ソフトボール a）_木 1、木 2	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 ［講義概要］ 　初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。	1.　オリエンテーション 　登録の確認、授業内容、留意事項説明。個人資料の作成。 2.　特性、基本的ルール、投球の基本技術練習。 　ボールの握り方、投球方法。 3.　グローブの使い方、キャッチボールでの捕球、基本練習。 4.　捕球の基本練習。ゴロ、フライ。捕球してからの送球方法。 5.　バッティング練習（握り方、位置、スタンス、構え方、スイング） 6.　内野、外野ノックの技術練習。 7.　送球の種類。リレー送球。守備における送球。 8.　守備連携練習。併殺プレー練習。 9.　男女に分けての試合形式。 10.　初級者チーム、中級者チームに分けての試合形式。 11.　２ストライク、３ボールフォアボール形式の試合。 12.　１回、打者一巡交代制試合。 13.　試合、Ａチーム対Ｂチーム戦、Ｃチーム対Ｄチーム戦。 14.　試合、前回の勝ちチーム戦、負けチーム戦。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ルール、技術面など基本的部分の予習。予習したことが実践できたかの確認。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業態度 40%、取り組み 30%、技術の向上 30%などを総合して評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（ソフトボール b）_木 1、木 2	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 ［講義概要］ 　初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。	1.　オリエンテーション 　登録の確認、授業内容、留意事項説明。個人資料の作成。 2.　特性、基本的ルール、投球の基本技術練習。 　ボールの握り方、投球方法。 3.　グローブの使い方、キャッチボールでの捕球、基本練習。 4.　捕球の基本練習。ゴロ、フライ。捕球してからの送球方法。 5.　バッティング練習（握り方、位置、スタンス、構え方、スイング） 6.　内野、外野ノックの技術練習。 7.　送球の種類。リレー送球。守備における送球。 8.　守備連携練習。併殺プレー練習。 9.　男女に分けての試合形式。 10.　初級者チーム、中級者チームに分けての試合形式。 11.　２ストライク、３ボールフォアボール形式の試合。 12.　１回、打者一巡交代制試合。 13.　試合、Ａチーム対Ｂチーム戦、Ｃチーム対Ｄチーム戦。 14.　試合、前回の勝ちチーム戦、負けチーム戦。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ルール、技術面など基本的部分の予習。予習したことが実践できたかの確認。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業態度 40%、取り組み 30%、技術の向上 30%などを総合して評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 ここでは、卓球という種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。	1. ガイダンス 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. シングルスゲーム・ルールの理解 5. シングルスゲーム・基礎的技術の修得 6. シングルスゲーム・審判法の修得 7. シングルスゲーム・シングルの戦術 8. ダブルスゲーム・ルールの理解 9. ダブルスゲーム・ダブルスの基本的な動き 10. ダブルスゲーム・ダブルスの位置取り 11. ダブルスゲーム・ダブルスの戦術 12. チーム団体戦・オーダー表の作成 13. チーム団体戦・チームとしての戦術 14. チーム団体戦・試合の運営方法

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること 卓球に関する書籍を読むこと、凡そ 30 分
テキスト	必要に応じて紹介します
参考文献	必要に応じて紹介します
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%）協調性（20%）

（秋）	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 ここでは、卓球という種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。	1. ガイダンス 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. シングルスゲーム・ルールの理解 5. シングルスゲーム・基礎的技術の修得 6. シングルスゲーム・審判法の修得 7. シングルスゲーム・シングルの戦術 8. ダブルスゲーム・ルールの理解 9. ダブルスゲーム・ダブルスの基本的な動き 10. ダブルスゲーム・ダブルスの位置取り 11. ダブルスゲーム・ダブルスの戦術 12. チーム団体戦・オーダー表の作成 13. チーム団体戦・チームとしての戦術 14. チーム団体戦・試合の運営方法

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること 卓球に関する書籍を読むこと、凡そ 30 分
テキスト	必要に応じて紹介します
参考文献	必要に応じて紹介します
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%）協調性（20%）

（春）	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. 用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類、持ち方、基本姿勢） 3. ボールの打ち方、スイングの基本 4. フォアハンド、バックハンドの練習 5. サービス 6. レシーブ 7. カット 8. スマッシュ 9. 審判法とゲームの進め方 10. リーグ戦（シングルス） 11. ダブルスゲームの進め方 12. リーグ戦（ダブルス） 13. リーグ戦（ミックスダブルス） 14. まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：卓球に関するルールや映像を見て、学習しておくこと。 事後：生活の中で、今後も卓球に触れる機会を作る姿勢を持つこと。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	平常点 60%、技術習得への努力度 20%、協調性 20%にて評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1. 復習　　基本練習 2. フォアハンドによる打ち分け 3. バックハンドによる打ち分け 4. カットサービス 5. ３球目攻撃 6. トーナメント戦（シングルス） 7. トーナメント戦（ダブルス） 8. トーナメント戦（ミックスダブルス） 9. リーグ戦（シングルス） 10. リーグ戦（ダブルス） 11. リーグ戦（ミックスダブルス） 12. チーム対抗戦（男女別チーム） 13. チーム対抗戦（男女混合チーム） 14. まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：卓球に関するルールや映像を見て、学習しておくこと。 事後：生活の中で、今後も卓球に触れる機会を作る姿勢を持つこと。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	平常点 60%、技術習得への努力度 20%、協調性 20%にて評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンス a） _水 1、水 2	担当者	内堀　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 欧米では、身近にあるボールルームダンス（社交ダンス）。日本でも生涯スポーツとして、ジュニア世代から、高齢者まで幅広く踊られています。 目の前の相手とダンスを通じてのコミュニケーションの取り方、音楽にのせて体を動かすことの楽しさを学びながら、ステップを覚え、ボールルームダンスを誰とでも踊ることができるようにしていきます。 【講義概要】 ボールルームダンス通じて、正しい姿勢を学び、柔軟な体作りをします。特に体幹を意識してステップを踏むことにより、相手との距離感を掴んでいきます。 楽しく踊るための、ステップ・技術を学習します。	１．　オリエンテーション・ボールルームダンスとは ２．　ダンス基礎①（正しい姿勢とは） ３．　ダンス基礎②（ダンスの立ち方・歩き方） ４．　ダンス基礎③（ナチュラルターン・リバースターン） ５．　ジルバ①（ステップを学ぶ） ６．　ジルバ②（相手と組んで実践） ７．　ブルース①（ステップを学ぶ） ８．　ブルース②（相手と組んで実践） ９．　サンバ①（サンバ特有のリズムの取り方） １０．サンバ②（ステップを学ぶ・相手と組んで実践） １１．ヴェニーズワルツ①（ステップを学ぶ） １２．ヴェニーズワルツ②（相手と組んで実践） １３．回転動作の理論と実践 １４．各種目の総復習

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学習したステップの復習
テキスト	プリント配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	ダンス技術取得度 30%、授業への参加度 60%、授業での発言 10%

（秋）	スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンス b） _水 1、水 2	担当者	内堀　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 ボールルームダンスaの受講の続きとなります。 前学期よりスムーズに踊れることを目標とします。 基本姿勢・ダンスの動きの復習をし、さらに高度なステップを学びます。 相手とスムーズに踊るための方法をさらに学び、誰とでも楽しく踊ることができるようにしていきます。 【講義概要】 正しい姿勢、柔軟な体、体幹の意識、体のバランスの意識を深めていきます。 色々な種類のダンスを踊り見ることで、ボールルームダンスの理解を深めていきます。	１．　春期講義の振り返り・秋期講義のポイント ２．　ジルバ③・ブルース④（春期講義の復習） ３．　サンバ③・ヴェニーズワルツ③（春期講義の復習） ４．　パソドブレ①（歩き方・ステップ前半の学習） ５．　パソドブレ②（ステップ後半の学習） ６．　パソドブレ③（相手と組んで実践） ７．　クイックステップ①（ステップ前半の学習） ８．　クイックステップ②（ステップ後半の学習） ９．　クイックステップ③（相手と組んで実践） １０．体の動作と細かい動き、表現方法について １１．ボールルームダンス10種目の種目別理解 １２．競技の視点で世界のボールルームダンスを見る １３．立ち位置の確認、相手との踊る動作での気配り １４．総まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学習したステップの復習
テキスト	プリント配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	ダンス技術取得度 30%、授業への参加度 60%、授業での発言 10%

（春）	スポーツ・レクリエーション（トレーニング入門 a）_木 2、木 3	担当者	大串　哲朗

講義目的、講義概要	授業計画
[目的]トレーニングの理論と実践を通じて、学生生活の充実と、生涯にわたり身体活動をいかに生活化するかについてのプロモーション形成が、この授業の目的になる。 [概要]学内のトレーニング施設を利用して、トレーニングの科学的知識を背景に個人のレベルに合ったプログラムを作成し、毎時間受講生同士協力し合いながら実践する。（トレーニングは、健康の維持増進を目指したエアロビック能力の向上と体幹を中心とした筋力の向上がその内容となる。）	1. オリエンテーション、施設、機器・器具の説明 2. フィットネスチェック① 3. トレーニングの方法概説 4. 各自のトレーニングプランの作成と実践 5. 柔軟性トレーニング 6. 自重を利用した筋力トレーニング（上半身） 7. 自重を利用した筋力トレーニング（下半身） 8. 心拍数を意識したエアロビックトレーニング 9. フィットネスチェック②とプログラムの見直し 10. 器具を利用した筋力トレーニング（上半身） 11. 器具を利用した筋力トレーニング（下半身） 12. バイクを利用したエアロビックトレーニング 13. ランニングマシーン利用したトレーニング 14. フィットネスチェック③、まとめ/振り返り

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業外にも、トレーニングを最低週 1 回以上は自身の生活に取り組む。
テキスト	必要に応じて授業内で資料を配布する。
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加度・貢献度　60%、目的に対する理解度　40%

（秋）	スポーツ・レクリエーション（トレーニング入門 b）_木 2、木 3	担当者	大串　哲朗

講義目的、講義概要	授業計画
[目的]トレーニングの理論と実践を通じて、学生生活の充実と、生涯にわたり身体活動をいかに生活化するかについてのプロモーション形成が、この授業の目的になる。 [概要]学内のトレーニング施設を利用して、トレーニングの科学的知識を背景に個人のレベルに合ったプログラムを作成し、毎時間受講生同士協力し合いながら実践する。（トレーニングは、健康の維持増進を目指したエアロビック能力の向上と体幹を中心とした筋力の向上がその内容となる。）	1. オリエンテーション、施設、機器・器具の説明 2. フィットネスチェック① 3. トレーニングの方法概説 4. 各自のトレーニングプランの作成と実践 5. 柔軟性トレーニング 6. 自重を利用した筋力トレーニング（上半身） 7. 自重を利用した筋力トレーニング（下半身） 8. 心拍数を意識したエアロビックトレーニング 9. フィットネスチェック②とプログラムの見直し 10. 器具を利用した筋力トレーニング（上半身） 11. 器具を利用した筋力トレーニング（下半身） 12. バイクを利用したエアロビックトレーニング 13. ランニングマシーン利用したトレーニング 14. フィットネスチェック③、まとめ/振り返り

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業外にも、トレーニングを最低週 1 回以上は自身の生活に取り組む。
テキスト	必要に応じて授業内で資料を配布する。
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加度・貢献度　60%、目的に対する理解度　40%

（春）	スポーツ・レクリエーション（トレーニング入門 a）_ 火 1、火 2	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニング（ランニング・バイク）の代表的な種目を選び、毎週トレーニングを実践します。まず、第1週目の授業でトレーニング前の身体組成（体重・体脂肪率・BMI）を計測します。その後は毎週、トレーニングを継続し、第14週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。 　各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康つくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 【学生への要望】トレーニング室のシューズと運動に相応しいウエアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。	1. ガイダンス（実技の概要、体組成計測） 2. トレーニング①・ミニ講義①：肥満と疾病 3. トレーニング②：体幹トレーニングの説明 4. トレーニング③：体組成計測 5. トレーニング④：筋力トレーニングの説明 6. トレーニング⑤：有酸素トレーニングの説明 7. トレーニング⑥：体組成計測 8. トレーニング⑦・ミニ講義②：運動と健康 9. トレーニング⑧：tabataトレーニングの説明 10. トレーニング⑨：体組成計測 11. トレーニング⑩：バランスボールの説明 12. トレーニング⑪：ストレッチングの説明 13. トレーニング⑫：ストレッチポールの説明 14. トレーニング後計測とまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	「肥満と疾病」、「運動習慣と健康づくり」「運動と脳機能」などに関連する書籍を読んでおくと、トレーニングに対する意欲が高まります。
テキスト	なし
参考文献	石井直方「トレーニングをする前に読む本―最新スポーツ生理学と効率的カラダづくり」（講談社+α文庫）
評価方法	トレーニングへ取り組む姿勢 70%、講義後の小テスト 30%、総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（トレーニング入門 b）_ 火 1、火 2	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニング（ランニング・バイク）の代表的な種目を選び、毎週トレーニングを実践します。まず、第1週目の授業でトレーニング前の身体組成（体重・体脂肪率・BMI）を計測します。その後は毎週、トレーニングを継続し、第14週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。 　各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康つくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 【学生への要望】トレーニング室のシューズと運動に相応しいウエアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。	1. ガイダンス（実技の概要、体組成計測） 2. トレーニング①・ミニ講義①：肥満と疾病 3. トレーニング②：体幹トレーニングの説明 4. トレーニング③：体組成計測 5. トレーニング④：筋力トレーニングの説明 6. トレーニング⑤：有酸素トレーニングの説明 7. トレーニング⑥：体組成計測 8. トレーニング⑦・ミニ講義②：運動と健康 9. トレーニング⑧：tabataトレーニングの説明 10. トレーニング⑨：体組成計測 11. トレーニング⑩：バランスボールの説明 12. トレーニング⑪：ストレッチングの説明 13. トレーニング⑫：ストレッチポールの説明 14. トレーニング後計測とまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	「肥満と疾病」、「運動習慣と健康づくり」「運動と脳機能」などに関連する書籍を読んでおくと、トレーニングに対する意欲が高まります。
テキスト	なし
参考文献	石井直方「トレーニングをする前に読む本―最新スポーツ生理学と効率的カラダづくり」（講談社+α文庫）
評価方法	トレーニングへ取り組む姿勢 70%、講義後の小テスト 30%、総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（春）	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール a）－木 1、木 2	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 【講義概要】 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、受講生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。人数によっては男女混合となることがある。 【受講生への要望】 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、バスケットボールにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うように。	1. ガイダンス 2. ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 3. シュートの基礎 4. シュート・パスの基礎 5. シュート・パス・ドリブルの基礎 6. 様々なシュート 7. ストップ・ターンの使い方 8. パスのもらい方、動きの中でのシュート 9. ディフェンスの基本 10. 試合への応用 11. ゲームの進め方（審判・オフィシャル） 12. チーム戦術の基礎 13. チーム戦術の発展 14. リーグ戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ウォームアップの方法やトレーニングなどバスケットボールに必要な情報を調べ、理解を深めること
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール b）－木 1	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 【講義概要】 秋学期はゲーム中心に進める。チームの仲間とコミュニケーションをとり、教えあい、バスケットボールのゲームを楽しみつつ、改善点などを見つけてレベルアップしていこう。人数によっては男女混合となることがある。 【受講生への要望】 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、バスケットボールにふさわしいウェアで参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。	1. ファンダメンタルの確認（パス・ドリブル・シュート） 2. ファンダメンタルの確認（ディフェンス） 3. 1対1 4. パス＆ラン 5. 2対2 6. スクリーンを使ってみよう 7. 速攻の基本 8. リバウンドからの速攻 9. チームでオフェンス・ディフェンスを考える 10. ルールの確認・ゲーム 11. ゲームを楽しもう 12. チームの特徴を作る 13. チームの特徴を生かす 14. リーグ戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ウォームアップの方法やトレーニングなどバスケットボールに必要な情報を調べ、理解を深めること
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）

（春）	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール a）－月 1、月 2	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足により、さらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。	１．　オリエンテーション ２．　ゲームの特性・ルールの理解 ３．　オフェンス・ファンダメンタル（ボールハンドリング） ４．　オフェンス・ファンダメンタル（ショット） ５．　オフェンス・ファンダメンタル（ドリブル） ６．　オフェンス・ファンダメンタル（パス） ７．　チーム・オフェンス（パス及びドリブルからの展開） ８．　チーム・オフェンス （ハーフコート2on2/2on2ブレイクダウン） ９．　チーム・オフェンス（ファストブレイク） １０．ディフェンス・ファンダメンタル（オンボールディフェンス） １１．ディフェンス・ファンダメンタル（オフボールディフェンス） １２．チーム・ディフェンス １３．リーグ編成とイベントマネジメント １４．リーグ戦

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 試合貢献度を自己評価する。自己評価を基に次回目標を立てる。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加度・貢献度 60%、試合貢献度自己評価 20%、ルール・テスト 20%

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール b）－月 1、月 2、月 3	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足により、さらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。	１．　オリエンテーション ２．　オフェンス・ファンダメンタルの確認 ３．　ディフェンス・ファンダメンタルの確認 ４．　パッシング・ゲーム（フロアバランスの理解） ５．　パッシング・ゲーム（カット、スクリーンの応用） ６．　アーリー・オフェンス（ランニングレーンの理解） ７．　アーリー・オフェンス（オフェンスバリエーション） ８．　モーション・オフェンス（フロアバランスの理解） ９．　モーション・オフェンス（デザインプレイの実践） １０．チーム・ディフェンス（ディフェンスセオリー） １１．チーム・ディフェンス（シェルディフェンス） １２．リーグ編成とイベントマネジメント １３．リーグ戦（ゲームプランの立案） １４．リーグ戦（スカルセッション・総括）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 試合貢献度を自己評価する。自己評価を基に次回目標を立てる。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加度・貢献度 60%、試合貢献度自己評価 20%、ルール・テスト 20%

（春）	スポーツ・レクリエーション（バドミントン a）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・スポーツマンシップの意識と発揮できるという体験を目的の１つとする（同じ環境を共有し、協力する人として、まずは、授業の最初と最後に全員で握手を行います）。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1　オリエンテーションと軽めのトレーニング 2　体慣らしのバドミントン 3　グリップ、スイング等の練習 4　ルールの確認、ドライブ、ヘアピン等の練習 5　ハイクリヤー、ドロップ等の練習 6　サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習 7　技能テスト、ドライブ、ヘアピンの総合的な練習 8　技能テスト、ハイクリヤー、ドロップの総合的な練習 9　技能テスト、スマッシュ、レシーブの総合的な練習 10　技能テスト　サービス、レシーブの総合的な練習 11　シングルス・リーグ戦（ゲーム形式の練習） 12　シングルス・トーナメント（ゲーム形式の練習） 13　技能テスト、ダブルス（リーグ戦とトーナメント） 14　技能テスト、ダブルス（チーム戦）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。　授業の終わりごとに自己評価を提出する。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組む姿勢５０％、レポートの内容２０％、技能の向上２０％、スポーツマンシップ（マナー・エチケット等）１０％で評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バドミントン b）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・スポーツマンシップの意識と発揮できるという体験を目的の１つとする（同じ環境を共有し、協力する人として、まずは、授業の最初と最後に全員で握手を行います）。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1　オリエンテーションと実技（体慣らし） 2　体慣らしのバドミントン 3　グリップ、スイング等の練習 4　ルールの確認、ドライブ、ヘアピン等の練習 5　ハイクリヤー、ドロップ等の練習 6　サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習 7　技能テスト、ドライブ、ヘアピンの総合的な練習 8　技能テスト、ハイクリヤー、ドロップの総合的な練習 9　技能テスト、スマッシュ、レシーブの総合的な練習 10　技能テスト、サービス、レシーブの総合的な練習 11　シングルス・リーグ戦（ゲーム形式の練習） 12　シングルス・トーナメント（ゲーム形式の練習） 13　技能テスト、ダブルス（リーグ戦とトーナメント） 14　技能テスト、ダブルス（チーム戦）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。　授業の終わりごとに自己評価を提出する。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組む姿勢５０％、レポートの内容２０％、技能の向上２０％、スポーツマンシップ（マナー・エチケット等）１０％で評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（バドミントン a）_水 1、水 2	担当者	藤野　和樹

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 ［講義概要］ 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。	1. ガイダンス 2. バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム 3. バックハンドドライブの基本練習 4. バックハンドロブの基本練習 5. 各種フットワークの基本練習 6. フォアハンドドライブの基本練習 7. オーバーヘッドストロークの基本練習 8. 様々なサーブの基本練習 9. ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10. シングルスのゲーム(ルールの理解) 11. ダブルスの総合練習 12. シングルスの総合練習 13. 団体戦の実施 14. 授業全体のまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	a）身体・健康・保健について学習し、自己の体調管理に努めること b）ルールの理解を深めるために映像を視聴すること
テキスト	授業中に紹介
参考文献	授業中に紹介
評価方法	技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性（70%）を総合的に評価するが、授業への参加度（30%）も評価対象とする。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バドミントン b）_水 1、水 2	担当者	藤野　和樹

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 ［講義概要］ 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。	1. ガイダンス 2. バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム 3. バックハンドドライブの基本練習 4. バックハンドロブの基本練習 5. 各種フットワークの基本練習 6. フォアハンドドライブの基本練習 7. オーバーヘッドストロークの基本練習 8. 様々なサーブの基本練習 9. ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10. シングルスのゲーム(ルールの理解) 11. ダブルスの総合練習 12. シングルスの総合練習 13. 団体戦の実施 14. 授業全体のまとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	a）身体・健康・保健について学習し、自己の体調管理に努めること b）ルールの理解を深めるために映像を視聴すること
テキスト	授業中に紹介
参考文献	授業中に紹介
評価方法	技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性（70%）を総合的に評価するが、授業への参加度（30%）も評価対象とする。

（春）	スポーツ・レクリエーション（バレーボール a）	担当者	佐藤　典子

講義目的、講義概要	授業計画
バレーボールのルールを理解し、個人及び集団的技術を習得するとともに、それを基にした戦術を行いゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部.学年の学生と親睦を深め、チームプレイを通してコミュニケーション力を向上させるとともに、生涯にわたってバレーボールが楽しめるようにバレーボールの特性を理解する。	1. オリエンテーション 2. 基本技術（レシーブ.トス） 3. 基本技術（サーブ.ブロック） 4. 基本技術の確認 5. ミニゲームⅠ（攻撃重視） 6. ミニゲームⅡ（守備重視） 7. ミニゲームⅢ（コンビプレー） 8. 技術および戦術の習得・チーム編成 9. ゲームⅠ（男女別） 10. ゲームⅡ（男女混合） 11. ゲームⅢ（15点先取） 12. ゲームⅣ（20点先取） 13. ゲームⅤ（25点先取） 14. まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	バレーボールにおける技術に関するイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる。
テキスト	芳田清司著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院
参考文献	特になし。
評価方法	学習意欲を中心に評価（50%）、協調性（20%）、技能取得への努力度（20%）学習態度（10%）

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バレーボール b）	担当者	佐藤　典子

講義目的、講義概要	授業計画
バレーボールのルールを理解し、個人及び集団的技術を習得するとともに、それを基にした戦術を行いゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部.学年の学生と親睦を深め、チームプレイを通してコミュニケーション力を向上させるとともに、生涯にわたってバレーボールが楽しめるようにバレーボールの特性を理解する。	1. オリエンテーション 2. 基本技術（レシーブ.トス） 3. 基本技術（サーブ.ブロック） 4. 基本技術の確認 5. ミニゲームⅠ（攻撃重視） 6. ミニゲームⅡ（守備重視） 7. ミニゲームⅢ（コンビプレー） 8. 技術および戦術の習得・チーム編成 9. ゲームⅠ（男女別） 10. ゲームⅡ（男女混合） 11. ゲームⅢ（15点先取） 12. ゲームⅣ（20点先取） 13. ゲームⅤ（25点先取） 14. まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	バレーボールにおける技術に関するイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる。
テキスト	芳田清司著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院
参考文献	特になし。
評価方法	学習意欲を中心に評価（50%）、協調性（20%）、技能取得への努力度（20%）学習態度（10%）

（春）	スポーツ・レクリエーション（バレーボール a）	担当者	重藤　誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとしてバレーボールを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【講義概要】 基本的な技術の練習を行い、全体のスキルアップを目指す。初心者から中上級者までレベルに差がある場合は、上級者が初心者をサポートする形をとる場合もある。 授業前半に基本的なスキルやルールを身につけ、後半はゲームを中心とした授業展開をしていく。ただし、毎回の授業の最後にはゲーム形式のメニューを行う。 授業終盤には技術の習熟度を測る実技テストを行う。	1.ガイダンス、写真付受講票の作成とアイスブレーク 2.パスの基本（オーバー、アンダー） 3.サービス・レシーブ（アンダー、フローター） 4.スパイクの基本 5.オープン攻撃 6.ブロックの導入 7.守備のフォーメーション、ポジションと役割 8.攻撃のフォーメーション、ポジションと役割 9.守備から攻撃へ（サーブレシーブから） 10.守備から攻撃へ（スパイクレシーブ、ブロックフォローから） 11.ゲームの運営・リーグ戦 1 回戦、実技テスト 12.ゲームの運営・リーグ戦 2・3 回戦、実技テスト予備日 13.ゲームの運営・リーグ戦 4・5 回戦 14.まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。
テキスト	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バレーボール b）	担当者	重藤　誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとしてバレーボールを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【講義概要】 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になるため、秋学期からの履修者には原則として、全くの未経験者ではないことが条件となる。 試合を有利に進めるための戦術やスキルを学び、円滑に進めるためにルールやマナーを理解する。 授業終盤に技術の習熟度を測る実技テストとグループワークを行う。	1.ガイダンス及び写真付受講票の作成とアイスブレーク 2.ウォーミングアップルーティーンの習得 3.前後左右へのオーバーハンドパス 4.クイック攻撃 5.ジャンプサービスの導入 6.守備フォーメーション、ポジションと役割 7.攻撃フォーメーション、ポジションと役割 8.チーム決め、ポジションの固定 9.チームビルディング、フォーメーションの確認 10.実技テスト 11.実技テスト（予備日）、リーグ戦 1 回戦 12.リーグ戦 2・3 回戦、ゲーム運営 13.リーグ戦 4・5 回戦、審判法 14.総括

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。
テキスト	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（フットサル a）	担当者	原仲　碧

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 1. フットサルを楽しむために、フットサルの基本技術、ルール、審判法を学び、実践できるようになる。 2. フットサルというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ フットサルの基本技術（ドリブル、コントロール、パス、シュート）の習得は、受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、ルールや審判法も学習し、スポーツを支える側の実践力も身につける。 ［受講生への要望］ フットサルを楽しみたいという学生の受講を願います。	1. ガイダンス（グルーピング） 2. 観る（何を）トレーニング 3. 観る（いつ）トレーニング 4. ボールを運ぶ技術（ボールフィーリング、ドリブル） 5. ボールを運ぶ技術（スクリーン、ターン） 6. ボールを蹴る技術（パス、シュート） 7. ボールを蹴る技術（ドリブル or パス or シュート） 8. ボールを受ける技術（コントロール） 9. ボールを受ける技術（どこで受けるか） 10. ボールを奪う技術（on the ball の守備） 11. ボールを奪う技術（off the ball の守備） 12. オーガナイズを考える（全員が楽しめるルール設定） 13. オーガナイズを考える（リーグ戦運営） 14. エキシビジョンマッチ ※天候、進捗状況等に応じて柔軟にすすめる

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。安全面への配慮から装飾品は厳禁。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	実践力（40%）、授業への取組む姿勢・態度（40%）、授業への貢献度（20%）を総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（フットサル b）	担当者	原仲　碧

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 1. フットサルを楽しむために、フットサルの基本技術、ルール、審判法を学び、実践できるようになる。 2. フットサルというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ フットサルの基本技術（ドリブル、コントロール、パス、シュート）の習得は、受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、ルールや審判法も学習し、スポーツを支える側の実践力も身につける。 ［受講生への要望］ フットサルを楽しみたいという学生の受講を願います。	1. ガイダンス（更衣後に集合、ゲーム） 2. 基本技術の復習（運ぶ、蹴る） 3. 基本技術の復習（受ける、奪う） 4. 攻撃のグループ戦術（ピボ攻撃） 5. 攻撃のグループ戦術（コンビネーションプレー） 6. 守備のグループ戦術（マンツーマン） 7. 守備のグループ戦術（ゾーン、マークの受け渡し） 8. リーグ戦（攻守の切り替え） 9. リーグ戦（セットプレー） 10. リーグ戦（攻守におけるラインの設定） 11. リーグ戦（各チームのオリジナル戦術、戦略） 12. トーナメント戦（クオリティーの追求） 13. トーナメント戦（勝敗の追求） 14. エキシビジョンマッチ ※天候、進捗状況等に応じて柔軟にすすめる

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。安全面への配慮から装飾品は厳禁。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	実践力（40%）、授業への取組む姿勢・態度（40%）、授業への貢献度（20%）を総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

（秋）	スポーツ・レクリエーション（フットサル b）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［目的］ 　フットサルのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 ［概要］ 　色々なメンバーの組み合わせによりゲームを行う。 　男子20名、女子20名を定員とする。 　アリーナで授業を行う。 注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。	1.　受講ガイダンス 2.　受講カードの作成とスキルテスト 3.　個人スキル練習 4.　簡易ゲーム練習 5.　ゲーム（リーグ戦①）個人主体 6.　ゲーム（リーグ戦②）ペア主体 7.　ゲーム（リーグ戦③）チーム主体 8.　ゲーム（リーグ戦④）男女混合 9.　個人スキルアップ練習 10.　ゲーム（トーナメント①）準決勝 11.　ゲーム（トーナメント②）決勝・3 位決定戦 12.　ゲーム（リーグ戦①）得点数制限 13.　ゲーム（リーグ戦②）タッチ数制限 14.　フットサルの可能性

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（フットサル a）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・ フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・ 授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明 個人資料の作成 2. ボールに親しむ　　簡易ゲーム 3. ボールコントロール　　ボールタッチ 4. ドリブル 5. パス＆ストップ 6. ルールの理解とゲームの進め方 7. シュート 8. GKトレーニング 9. １－１の攻撃と守備 10. １－２の守備 11. ２－１の攻撃 12. ２－１の守備 13. GKからの攻撃 14. ゲーム

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：フットサルに関するルールや映像を見て学習しておくこと。 事後：生活の中で、今後もフットサルに触れる機会を作る姿勢を持つこと。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	平常点 60%、技術習得への努力度 20%、チームメイトとの協調性 20%にて評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（フットサル b）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・ フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・ 授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1. 復習　　基本技術の確認 2. 攻撃のグループ戦術 3. 守備のグループ戦術 4. ４－２のボール回し 5. ５－３のボール回し 6. 攻守の切りかえ 7. ２－２－２ 8. ４－４+１フリーマン 9. ラインゴールゲーム 10. ４ゴールゲーム 11. セットプレー 12. 審判法ならびにゲーム運営 13. リーグ戦（男女別） 14. リーグ戦（男女混合）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：フットサルに関するルールや映像を見て学習しておくこと。 事後：生活の中で、今後もフットサルに触れる機会を作る姿勢を持つこと。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	平常点 60%、技術習得への努力度 20%、チームメイトとの協調性 20%にて評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション（フリスビーa）	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で300mを越す飛距離と円盤特性による曲進性･滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解･吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望]「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1. イントロダクション　フライングディスクとは 2. 基礎投法　技術練習（バックハンド・スロー） 3. 基礎投法　技術練習（サイドアーム・スロー） 4. 遠投　アキュラシー　（的通し競技） 5. セルフコートフライト（滞空時間・距離計測） 6. ガッツ 7. 集団種目　アルティメット　導入（３人チーム） 8. アルティメット（5人チーム） 9. アルティメット　ストーリング（時間規制）付加 10. 個人種目　ディスクゴルフ　導入練習 11. ディスクゴルフ　個人戦・ラウンド 12. ディスクゴルフ　チーム戦・ラウンド 13. アルティメット　男女別ゲーム 14. 技能記録会　まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。
テキスト	必要に応じて印刷物を配布します。
参考文献	特になし。
評価方法	理解30%、技術30%、平常点40%で評価します。 理解はレポート提出、技術は技能記録と向上具合、取り組みの積極性を含みます。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（フリスビーb）	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で300mを越す飛距離と円盤特性による曲進性･滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解･吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望]「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1. イントロダクション　フライングディスクとは 2. 基礎投法　技術練習（バックハンド・スロー） 3. 基礎投法　技術練習（サイドアーム・スロー） 4. 遠投　アキュラシー　（的通し競技） 5. セルフコートフライト（滞空時間・距離計測） 6. ガッツ 7. 集団種目　アルティメット　導入（３人チーム） 8. アルティメット（5人チーム） 9. アルティメット　ストーリング（時間規制）付加 10. 個人種目　ディスクゴルフ　導入練習 11. ディスクゴルフ　個人戦・ラウンド 12. ディスクゴルフ　チーム戦・ラウンド 13. アルティメット　男女別ゲーム 14. 技能記録会　まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。
テキスト	必要に応じて印刷物を配布します。
参考文献	特になし。
評価方法	理解30%、技術30%、平常点40%で評価します。 理解はレポート提出、技術は技能記録と向上具合、取り組みの積極性を含みます。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

（秋）	スポーツ・レクリエーション（フリスビーb）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 　フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常生活で友人に教えたり、家族と楽しんだりするための実力をつけることを目的とします。 ［講義概要］ 　フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。 　学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。	1 オリエンテーション 2 フリスビーの基本的な技術 3 バックハンドスロウとキャッチのドリル練習 4 バックハンドスロウを正確に投げよう 5 バックハンドスロウを遠くへ投げよう 6 サイドアームスローの投げ方 7 サイドアームスローを正確に遠くへ投げよう 8 他の競技種目の紹介と体験（ガッツ） 9 他の競技種目の紹介と体験（ディスクゴルフ） 10 アルティメットの導入 11 アルティメットの試合（簡単なルールで楽しむ） 12 アルティメットの試合（より高度なルールで楽しむ） 13 アルティメットの試合（広いエリアでの楽しみかた） 14 アルティメットの試合　（チームでの楽しみ方）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト	必要に応じて印刷物を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス a） _金 1、金 2	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、運動により身体機能の調節を行い、代謝能力を高めるとともに老廃物を排泄しやすい身体づくり、つまりデトックスしやすい身体づくりを目指します。 この授業で行う運動は、いずれも自分自身の心身と向き合ったり、楽しんで行うことを目的としていますので、運動の経験が少ない人でも気軽に参加することが出来ます。 〇コアコンディショニング：ストレッチポールを用いて本来の正しい姿勢へと改善します。また、簡単な運動で体幹を鍛えます。 〇骨盤調整：骨盤を緩める→整える運動を行い、身体のゆがみを整えます。 〇ベーシックヨガ：呼吸とポーズを組み合わせることにより、心と体の調和をはかり、心身のリフレッシュを行います。	1. 授業の概要、履修上の諸注意 2. コアコンディショニング①（ストレッチポールを体験してみよう） 3. コアコンディショニング②（ストレッチポールに慣れよう） 4. コアコンディショニング③（ストレッチポールと運動を組み合わせてみよう） 5. 骨盤調整①（自分の骨盤の状態を知ろう） 6. 骨盤調整②（ロープを使って骨盤を緩めてみよう） 7. 骨盤調整③（簡単な運動で骨盤を整えよう） 8. 骨盤調整④（骨盤調整の運動に慣れよう） 9. 骨盤調整⑤（骨盤調整の運動を覚えよう） 10.ベーシックヨガ①（呼吸法を体験してみよう） 11.ベーシックヨガ②（ポーズに慣れよう） 12.ベーシックヨガ③（呼吸とポーズを組み合わせてみよう） 13.ベーシックヨガ④（様々なポーズに挑戦してみよう） 14.ベーシックヨガ⑤（まとめ）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で行った運動を、自宅でも実践してみてください。
テキスト	なし
参考文献	なし
評価方法	平常点（90%）、授業への参加態度（10%）により評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス b） _金 1、金 2	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、運動によって身体機能の調整や、代謝機能の向上を目指します。授業で行う運動は、春学期の内容をベースとしながら少しレベルアップして行きますが、秋学期から新たに履修しても十分ついて行ける内容となっています。 自分のペースで行うことが可能な運動ばかりですので、運動経験の少ない人、しばらく運動から遠ざかっている人にとっては運動を習慣化するきっかけとして、普段から積極的に運動を行っている人は心身のメンテナンスとして、この授業を活用してほしいと思います。	1. 授業の概要、履修上の諸注意、コアコンディショニング（自分の姿勢や骨盤の状態を知ろう） 2. コアコンディショニング・骨盤調整①（ストレッチポールを体験してみよう） 3. コアコンディショニング・骨盤調整②（ストレッチポールと運動を組み合わせてみよう） 4. コアコンディショニング・骨盤調整③（体幹を整える運動を体験してみよう） 5. コアコンディショニング・骨盤調整④（体幹を整える運動に慣れよう） 6. コアコンディショニング・骨盤調整⑤（体幹を整える運動を覚えよう） 7. コアコンディショニング・骨盤調整⑥（運動前後の体の変化を感じよう） 8. パワーヨガ①（呼吸法に慣れよう） 9. パワーヨガ②（太陽礼拝のポーズを体験してみよう） 10. パワーヨガ③（太陽礼拝のポーズに慣れよう） 11. パワーヨガ④（太陽礼拝のポーズを覚えよう） 12. パワーヨガ⑤（太陽礼拝のポーズと他のポーズを組み合わせよう） 13. パワーヨガ⑥（様々なポーズに挑戦してみよう） 14. パワーヨガ⑦（まとめ）

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で行った運動を、自宅でも実践してみてください。
テキスト	なし
参考文献	なし
評価方法	平常点（90%）、授業への参加態度（10%）により評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション（ニュースポーツ a）	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし･Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。	1. イントロダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2. Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3. 〃 個人種目　アキュラシー (的通し競技)ほか 4. 〃 集団ゲーム　アルティメット 5. 〃 ディスクゴルフ　ラウンド 6. ターゲットバードゴルフ　技術練習 7. 〃 個人戦・ラウンド 8. 〃 チーム戦・ラウンド 9. ペタンク 10. インディアカ 11. フリーテニス 12. ユニバーサルホッケー 13. ソフトバレーボール 14. キンボール

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目の特殊性・技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。
テキスト	必要に応じて印刷物を配布します。
参考文献	特になし。
評価方法	理解 30%、技術 30%、平常点 40%で評価します。理解はレポート提出、技術は技能記録と向上具合、取り組みの積極性を含みます。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（ニュースポーツ b）	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし･Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。	1. イントロダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2. Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3. 〃 個人種目　アキュラシー (的通し競技)ほか 4. 〃 集団ゲーム　アルティメット 5. 〃 ディスクゴルフ　ラウンド 6. ターゲットバードゴルフ　技術練習 7. 〃 個人戦・ラウンド 8. 〃 チーム戦・ラウンド 9. ペタンク 10. インディアカ 11. フリーテニス 12. ユニバーサルホッケー 13. ソフトバレーボール 14. キンボール

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	種目の特殊性・技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。
テキスト	必要に応じて印刷物を配布します。
参考文献	特になし。
評価方法	理解 30%、技術 30%、平常点 40%で評価します。理解はレポート提出、技術は技能記録と向上具合、取り組みの積極性を含みます。

（春）	スポーツ・レクリエーション（マットピラティス a）– 金 3、金 4	担当者	板垣　悦子

講義目的、講義概要	授業計画
呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。マットエクササイズの継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体つくり、さらには日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。	1　授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践及び自身の身体への気づき。 自己目標の設定。 2　呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入 3　ピラティス初級①呼吸法・お腹の使い方スクープ 4　ピラティス初級②スクープ・ショルダーブリッジ 5　ピラティス初級③シングルレッグサークル 6　ピラティス初級④ローリングライカボール 7　ピラティス中級①プッシュアップ・サイドキック 8　ピラティス中級②シングル・ダブルレッグ 9　ピラティス中級③ハンドレッド・スイミング 10　ピラティス中級④ジャックナイフ・シザース 11　ピラティス上級①ロールアップ・スパインツイスト 12　ピラティス上級②プランク・マーメイド 13　動きの総まとめ 14　まとめ及び自己評価・姿勢チェック

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ピラティスとはどのようなエクササイズかを予習してくること。
テキスト	特になし
参考文献	『ピラティス・マスタリー』Amanda Teresa（著）新関真人（訳）スキージャーナル株式会社
評価方法	参加態度、積極的な取り組み：30%。 授業内容の理解度：30%。テーマに対する自己チェック表の記載内容：40%。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（マットピラティス b）– 金 3、金 4	担当者	板垣　悦子

講義目的、講義概要	授業計画
呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。マットエクササイズの継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体つくり、さらには日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。	1　授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践及び自身の身体への気づき。 自己目標の設定。 2　呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入 3　ピラティス初級①呼吸法・お腹の使い方スクープ 4　ピラティス初級②スクープ・ショルダーブリッジ 5　ピラティス初級③シングルレッグサークル 6　ピラティス初級④ローリングライカボール 7　ピラティス中級①プッシュアップ・サイドキック 8　ピラティス中級②シングル・ダブルレッグ 9　ピラティス中級③ハンドレッド・スイミング 10　ピラティス中級④ジャックナイフ・シザース 11　ピラティス上級①ロールアップ・スパインツイスト 12　ピラティス上級②プランク・マーメイド 13　動きの総まとめ 14　まとめ及び自己評価・姿勢チェック

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ピラティスとはどのようなエクササイズかを予習してくること。
テキスト	特になし
参考文献	『ピラティス・マスタリー』Amanda Teresa（著）新関真人（訳）スキージャーナル株式会社
評価方法	参加態度、積極的な取り組み：30%。 授業内容の理解度：30%。テーマに対する自己チェック表の記載内容：40%。

（春）	スポーツ・レクリエーション（ハンドボール a）	担当者	佐藤　典子

講義目的、講義概要	授業計画
ハンドボールは『走る・跳ぶ・投げる』の三要素をバランスよく含み、スピード感あふれる攻防や華麗なシュートが魅力のスポーツである。 本授業では、ハンドボールのルールと個人的な技術・チーム戦術を学習し、ゴール型ボールゲームに必要な判断力と行動力を養う。また、様々な学部.学年の学生とチームプレイを通して親睦を深め、コミュニケーション力を向上させる機会としたい。	1. オリエンテーション 2. 競技特性（ルール）・ミニゲーム 3. 基本技術（パス.キャッチ.ドリブル.シュート） 4. 基本技術（フェイント） 5. 基本技術（ディフェンス） 6. グループ戦術Ⅰ（2対2） 7. グループ戦術Ⅱ（3対3） 8. グループ戦術Ⅲ（4対4） 9. グループ戦術Ⅳ（速攻） 10. チーム戦術・ゲームⅠ（オフェンス重視） 11. チーム戦術・ゲームⅡ（ディフェンス重視） 12. チーム戦術・ゲームⅢ（男女別） 13. チーム戦術・ゲームⅣ（男女混合） 14. まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ハンドボール技術におけるイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる。
テキスト	必要に応じて適宜配布
参考文献	特になし。
評価方法	学習意欲を中心に評価（50%）、協調性（20%）、技能取得への努力度（20%）学習態度（10%）

（秋）	スポーツ・レクリエーション（ハンドボール b）	担当者	佐藤　典子

講義目的、講義概要	授業計画
ハンドボールは『走る・跳ぶ・投げる』の三要素をバランスよく含み、スピード感あふれる攻防や華麗なシュートが魅力のスポーツである。 本授業では、ハンドボールのルールと個人的な技術・チーム戦術を学習し、ゴール型ボールゲームに必要な判断力と行動力を養う。また、様々な学部.学年の学生とチームプレイを通して親睦を深め、コミュニケーション力を向上させる機会としたい。	1. オリエンテーション 2. 競技特性（ルール）・ミニゲーム 3. 基本技術（パス.キャッチ.ドリブル.シュート） 4. 基本技術（フェイント） 5. 基本技術（ディフェンス） 6. グループ戦術Ⅰ（2対2） 7. グループ戦術Ⅱ（3対3） 8. グループ戦術Ⅲ（4対4） 9. グループ戦術Ⅳ（速攻） 10. チーム戦術・ゲームⅠ（オフェンス重視） 11. チーム戦術・ゲームⅡ（ディフェンス重視） 12. チーム戦術・ゲームⅢ（男女別） 13. チーム戦術・ゲームⅣ（男女混合） 14. まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	ハンドボール技術におけるイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる。
テキスト	必要に応じて適宜配布
参考文献	特になし。
評価方法	学習意欲を中心に評価（50%）、協調性（20%）、技能取得への努力度（20%）学習態度（10%）

（春）	スポーツ・レクリエーション（3 ボールスポーツ a）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 老若男女が一緒になって楽しめるようそれぞれのチームスポーツの特性を理解し、時にはルールを参加者に合わせて変更しながら受講生同士が協力して楽しめるよう工夫し、生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 【講義概要】 キンボール、タグラグビー、ユニホックの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。 【受講生への要望】 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、スポーツにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うように。 ＊種目の順番は変わることがある	1. ガイダンス・自己紹介 2. キンボールー基本技術、ルールの確認ー 3. キンボールールを工夫してみようー 4. キンボールーリーグ戦ー 5. バレーボールー基本技術、ルールの確認ー 6. バレーボールールを工夫してみようー 7. バレーボールーチーム戦術ー 8. バレーボールーリーグ戦ー 9. バレーボールー順位決定戦ー 10. ユニホックー基本技術、ルールの確認ー 11. ユニホックールールを工夫してみようー 12. ユニホックーチーム戦術ー 13. ユニホックーリーグ戦ー 14. ユニホックー順位決定戦ー

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にキンボール、バレーボール、ユニホックの発祥の背景やルールを調べ、必要な技術の習得方法を考え、参加者に応じてルールを変更する等工夫するため、各種目の特性を理解する
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）

（秋）	スポーツ・レクリエーション（3 ボールスポーツ b）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 老若男女が一緒になって楽しめるようそれぞれのチームスポーツの特性を理解し、時にはルールを参加者に合わせて変更しながら受講生同士が協力して楽しめるよう工夫し、生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 【講義概要】 バレーボール、ユニホック、バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。 【受講生への要望】 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、スポーツにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うように。 ＊種目の順番は変わることがある	1. タグラグビーー基本技術、ルールの確認ー 2. タグラグビーールールを工夫してみようー 3. タグラグビーーチーム戦術ー 4. タグラグビーーリーグ戦ー 5. タグラグビーー順位決定戦ー 6. ユニホックー基本技術、ルールの確認ー 7. ユニホックールールを工夫してみようー 8. ユニホックーチーム戦術ー 9. ユニホックーリーグ戦ー 10. バレーボールー基本技術、ルールの確認ー 11. バレーボールールを工夫してみようー 12. バレーボールーチーム戦術ー 13. バレーボールーリーグ戦ー 14. バレーボールー順位決定戦ー

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にタグラグビー、ユニホック、バレーボールの発祥の背景やルールを調べ、必要な技術の習得方法を考え、参加者に応じてルールを変更する等工夫するため、各種目の特性を理解する
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）

（春）	スポーツ・レクリエーション（アウトドアレクリエーション）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。	1.授業の内容と計画についての説明 2.アイスブレーキングゲーム 3.イニシアティブゲーム 4.イニシアティブゲーム（前回と異なる種目） 5.アウトドアクッキングの計画 6.アウトドアクッキングの実践 7.ペタンクの紹介と練習 8.ペタンクの試合 9.フリスビーの練習 10.アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11.地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12.ウォークラリーの実践 13.キャンプの計画 14.まとめ　キャンプについてのオリエンテーション

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各種目について事前にネット上のビデオを視聴すること、また実践の機会をつくること。
テキスト	必要に応じプリントを配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション（アウトドア山岳）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
滞在型のキャンプ活動を行います。 将来、家族で再び訪れることを前提にした内容で行いますので身体的にはそれほどハードではありません。(運動不足ではハードに感じます) 皆さんには、キャンプ場を中心とした山間地域に行くときの計画、持ち物、マナー、道具の使い方、自然の見方、楽しみ方を学んでいただきます。 毎日の食事はアウトドアで作りますが、それが当たり前でたいへんなことでないという感覚を身に付けてほしいと思います。道具と技術があれば、今までの苦労も楽しみとなります。山での過ごし方全体をそのように感じてもらえる活動になればよいと思います。 合宿は、同じ大学の仲間たちと共有の時間を過ごします。積極的に関わることによって、たくさんの友人を得られるでしょう。このこともこの授業の大切な目的としています。 履修人数によって、合宿の場所、内容を変更する場合があります。ハイキング用シューズ、ザック（30ℓ以上）、雨具（上下セパレート）を準備して下さい。	合宿について（予定） 場所：長野県のキャンプ場 期日：2019年8月5日（月）~8月9日（金）4泊5日 費用：15000円程度（宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 合宿計画は授業内で学生が計画します。 毎日のプログラムは学生が決定します。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	合宿地域の地理、歴史、自然、観光について学習しておくこと。
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション（アウトドアレクリエーション）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。教員志望の方はぜひ受講して下さい。クラス経営に役立ちます。	1.授業の内容と計画についての説明 2.アイスブレーキングゲーム 3.イニシアチブゲーム 4.イニシアチブゲーム（前回と異なる種目） 5.アウトドアクッキングの計画 6.アウトドアクッキングの実践 7.ペタンクの紹介と練習 8.ペタンクの試合 9.フリスビーの練習 10.アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11.地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12.ウォークラリーの実践 13.海浜活動の知識、技術と安全 14.合宿についてのオリエンテーション

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で取り扱っている種目に関する情報を動画サイトなどで学習し、事後にはその経験を生活の中で活かせるよう心掛けること。
テキスト	必要に応じ資料を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション（アウトドア海浜）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
海浜型アウトドアレクリエーションでは、新潟県佐渡島を舞台にスキンダイビング（ナイトダイビングも行います）、シーカヤック、星座観察、釣り、調理、地域研究等、良好な自然環境と地域の環境を活かすプログラムを4泊5日の合宿生活の中で体験してもらいます。この授業の特徴はそのプログラムと実施場所にあります。わざわざ新潟県佐渡市という離島で合宿を行う理由は、その美しい自然環境とその中に住む人々がつくる地域社会を知って欲しいからです。また、この授業では特徴的なプログラムとして状況適応能力や判断力を養うためのサバイバルプログラムを取り入れています。自然活動を体験し、活動を安全に楽しむことのできる知識技術を習得すること、及び合宿生活を送る上で必要な良好な人間関係を育成することがこの授業の目標となります。海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。	[集中授業]「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日（予定）：2019年8月16日（金）～20日（火）4 泊5 日 費用：20000円程度（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内1000円を大学自動発行機で払込、19000円を現地徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 （青春18切符が利用できるスケジュールにしてあります。） 合宿日程 合宿日程は学生が授業内で計画します。 すべて自炊を行います。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	健康状態の把握、維持増進を継続的に大学トレーニングルーム等を利用して行うこと。
テキスト	必要に応じ資料を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション（アウトドアレクリエーション）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。教員志望の方はぜひ受講して下さい。クラス経営に役立ちます。	1.授業の内容と計画についての説明 2.アイスブレーキングゲーム 3.イニシアティブゲームの導入 4.イニシアティブゲームの発展 5.アウトドアクッキングの計画 6.アウトドアクッキングの実践 7.ペタンクの紹介と練習 8.ペタンクの試合 9.フリスビーの練習 10.アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11.地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12.ウォークラリーの実践 13.ターゲットバードゴルフの練習 14.ターゲットバードゴルフコンペ　まとめ

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で取り扱っている種目に関する情報を動画サイトなどで学習し、事後にはその経験を生活の中で活かせるよう心掛けること。
テキスト	必要に応じ資料を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション（ウィンドサーフィン）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
ウィンドサーフィンとは、ボードの上に立ちボードにつながれた帆を操作し、風の力を進行方向への力に変えて進む滑走艇のことで、波を使うサーフィンやヨットとは違うものです。オリンピック種目にもなっているスポーツです。 千葉県館山市の獨協学園海の家において、ウィンドサーフィン技術の習得を通して海浜環境で安全に楽しく過ごすための知識技術を習得することを目標とします。また、炊事や清掃など共同生活を通じての人間関係の育成も目標としています。 初心者から受講できます。 [受講者への要望] 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。	場所：千葉県館山市（現地集合現地解散） 期日（予定）：2019年9月16日（月）~20日（金） 4 泊5 日 費用（予定）：16000 円（宿泊費、傷害保険料、食費、プログラム費） （内11000円を大学自動発行機で振込、5000円を現地で徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 1日目　現地集合・開講式・組み立て・セイルトリム 2日目　セイルアップからセイリングポジション 3日目　方向転換 4日目　いろいろな方向へのセイリング 5日目　レース・午後3時解散

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト	必要に応じ資料を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（アイススポーツトレーニング）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的と概要］ アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。見るだけではなく体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 アイススケート、カーリング初心者の方から受講できます。	1　オリエンテーション（更衣不要） 2　用具あわせ、基本動作 3　基本動作 4　フォアストロークとバリエーション練習 5　フォアストロークとバリエーション練習（前回と異なる種目） 6　パイロンを利用した練習 7　バックストロークとバリエーション練習 8　バックストロークとバリエーション練習（前回と異なる種目） 9　ホッケーにチャレンジ　その１　安全のための導入 10 フォアクロッシング　導入 11 フォアクロッシング　発展 12 バッククロッシング　導入 13 バッククロッシング　発展 14 ホッケーにチャレンジ　その２　楽しみと発展　まとめ ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト	必要に応じ資料を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（冬季集中）	スポーツ・レクリエーション（アイススポーツ）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3 泊 4 日で合宿を行います。 アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進歩度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。 秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講すると合宿での効率的な技術向上ができます。	合宿について（予定） 時期：　2019 年 12 月 26 日（木）～29 日（日）　　3 泊 4 日 場所：　長野県軽井沢町 現地集合解散 宿泊：　リゾートイングリーン軽井沢 費用：　約 28000 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代他） 1日目　午後：アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜：講義「アイススケートの楽しみ方」 2日目　午前：アイススケート 基本技術と応用 午後：アイススケート 夜：講義「カーリングの楽しみ方」 3日目　午前：カーリング基本練習 午後：カーリング実践練習 夜：ミーティング 4日目　午前：カーリング大会 午後：昼食後解散 施設の予約状況により予定は変更します。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。
テキスト	必要に応じ資料を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション （コーディネーショントレーニング b）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［目的］ 　複数の動きを接続してまとめる感覚をトレーニングすることによって、運動能力と、スポーツを楽しむ能力とを向上させることを目的とする。 ［概要］ 　授業はグラウンドとアリーナで行う。トランポリン、インラインスケート、ノルディックウォーキング、アルティメット、バレーボール、卓球を行う予定である。 注意：スキー＆スノーボード合宿とのセット履修となる。受講生の人数、運動経験により授業内容が変更になる。	1.　受講ガイダンス 2.　受講カード作成・インラインスケート 3.　インラインスケート①基本技術 4.　インラインスケート②応用滑走 5.　インラインホッケー①基本技術 6.　インラインホッケー②ゲーム 7.　ノルディックウォーキング 8.　トランポリン 9.　アルティメット①基本技術 10.　アルティメット②ゲーム 11.　バレーボール 12.　卓球①シングルス 13.　卓球②ダブルス 14.　スキー・スノーボード合宿のガイダンス

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

（冬季集中）	スポーツ・レクリエーション（スキー＆スノーボード）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 　スキーとスノーボードの基本から応用までを合宿を通じて指導し、ひとりひとりの能力の向上を図る。 　また、合宿を通じてコミュニケーション能力を高める。 [概要] 　アルペンスキーとスノーボードの班を編成し、各班に指導教員がつき実習を行う。宿泊費予約分として18000円を履修登録と同時に大学に納める。宿泊費以外の必要経費は現地で徴収し精算する。学内のコーディネーショントレーニング授業とのセット履修が原則となっている。 （注意）この授業のみを履修したい場合には、Ｅ棟１階のスポーツ・レクリエーション教員準備室にて担当者の許可を得てから履修登録と宿泊費予約分18000円を大学に納入すること。月１回の予定で行われる合宿ガイダンスに出席すること。	合宿期間：2020年2月上旬を予定している。 合宿場所：秋田県たざわ湖スキー場 宿泊場所：秋田県立田沢湖スポーツセンター 合宿費用：宿泊費18000円（3泊9食予定） 　　（大学に履修登録決定次第納入すること） 保険500円は現地精算 （注意）リフト代（4日間約6000円）・往復交通費・用具のレンタル代（4日間フルセット約16000円）等は別途負担となる。詳細は、秋学期履修登録時に掲示する。 （注意）現地集合・現地解散となる。

到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。
事前・事後学修の内容	期間と費用について理解しておくこと。体調管理をしてベストコンディションで合宿授業に臨むこと。
テキスト	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	合宿授業への参加度 60%、参加中の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

08 年度以降	English (リーディング Ia) / (Academic Reading Strategies Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目。通年履修。 ○様々なリストラテジーを訓練し、専攻分野や社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 1. 担当者が指示した教科書で積極的に学習。 2. 統一語彙教材 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* 学習（大学HPのMyDOCから各自ダウンロード）。毎回の授業で語彙テストを実施する。 3. 教室外で、コンピューターによるALC英語学習。 ○配布資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにする。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加しよう。 ○授業計画の詳細は各担当教員から配布される個別シラバスを参照。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　Unit 1-1 Unusual Ideas to Make a Buzz 第 3 回　Unit 1-2 How Do You Decide? 第 4 回　Unit 1 Wrap-up & Writing 第 5 回　Unit 2-1 How Colors Make Us Think and Feel 第 6 回　Unit 2-2 The Importance of Color in Business 第 7 回　Unit 2-3 Wrap-up 第 8 回　Review 1 第 9 回　Unit 3-1 Being Polite from Culture to Culture 第 10 回 Unit 3-2 Answers to All Your Travel Questions 第 11 回 Unit 3-3 Wrap-up 第 12 回 Unit 4-1 Money and Sports 第 13 回 Unit 4-2 The Technology Advantage 第 14 回 春学期のまとめ

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員のシラバスを見て予習。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。授業の後は、教員の指示に従い、課題に取り組む。
テキスト	1. 各担当教員指定教科書 2. *“Dokkyo 1964”* 獨協大学全カリ英語語彙リスト-オンライン教材
参考文献	各担当教員から指示
評価方法	期末テスト 40%（教科書 25%+ALC15%）　課題 25%　共通語彙テスト 15%　積極的な授業参加 20%　（評価方法は担当教員によって異なる。この評価方法は一例である。）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English (リーディング Ib) / (Academic Reading Strategies Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目。通年履修。 ○春学期に引き続き、様々なリストラテジーを訓練し、専攻分野や社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつける。 1. 担当者が指示した教科書で積極的に学習。 2. 統一語彙教材 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* 学習。毎回の授業で語彙テストを実施する。 3. 教室外で、コンピューターによるALC英語学習。 ○配布資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにする。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加しよう。 ○年度末（2020年1月）に全員がTOEICを受験するので、計画的に学習すること。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　Unit 5-1 Family Unity Builds Success 第 3 回　Unit 5-2 The Challenge of Running a Family Business 第 4 回　Unit 5 Wrap-up 第 5 回　Unit 6-1 Memo to Restaurant Servers 第 6 回　Unit 6-2 I Hate Machines! 第 7 回　Unit 6 Wrap-up & Writing 第 8 回　Unit 7-1 Think Before You Toss 第 9 回　Unit 7-2 In Praise of the Throwaway Society 第 10 回 Unit 3-2 Answers to All Your Travel Questions 第 11 回 Unit 7 Wrap-up & Writing 第 12 回 Unit 4-1 Money and Sports 第 13 回 Unit 4-2 The Technology Advantage 第 14 回 春学期のまとめ

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員のシラバスを見て予習。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。授業の後は、教員の指示に従い、課題に取り組む。
テキスト	1. 各担当教員指定教科書 2. *“Dokkyo 1964”* 獨協大学全カリ英語語彙リスト-オンライン教材
参考文献	各担当教員から指示
評価方法	期末テスト 40%（教科書 25%+ALC15%）　課題 25%　共通語彙テスト 15%　積極的な授業参加 20%　（評価方法は担当教員によって異なる。この評価方法は一例である。）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English (リーディング Ia) / (Academic Reading Strategies Ia)	担当者	中村　麗奈

講義目的、講義概要	授業計画
• Academic Listening Strategies Iとともに、1年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 • ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科1年生のうち、入学時にTOEICで高得点だった学生が受講する科目である。使用言語は英語。様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 1. 担当者が指示したリーディング教科書。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学HPのMyDOCから各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】大学生らしい英語の読み方を学び、グループワークやディスカッションを織り交ぜた活動を、英語で行います。	1. Orientation 2. Unit 1: We All Need a Role Model 3. Unit 1: Search for 100 Real-Life Heroes 4. Unit 1: Vocabulary Skill & Writing 5. Unit 2: So Much Dead Space 6. Unit 2: Now on Stage: Your Home! 7. Unit 2: Vocabulary Skill & Writing 8. Mid-term Exam, Unit 3: Introduction, The Good Teen 9. Unit 3: Bird by Bird 10. Unit 3: Vocabulary Skill & Writing 11. Unit 4: Introduction, Two Styles of Writing 12. Unit 4: Haji Noor Deen – A Chinese Muslim Calligrapher 13. Unit 4: Vocabulary Skill & Writing 14. Wrap-up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員の指示に従い、次回の授業までの課題・授業準備に取り組む。 語彙テストについては、MyDOCから語彙リストを自らダウンロードし、これを用いて準備する。
テキスト	Q: Skills for Success Book 4 Second Edition (Oxford University Press) 英々辞書を用意すること。電子辞書可。
参考文献	授業時に紹介・配布
評価方法	積極的な授業参加 20%, 語彙小テスト 15%, 課題 10%, 中間テスト 20%, 期末テスト（ALC 課題を含む）35%, 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English (リーディング Ib) / (Academic Reading Strategies Ib)	担当者	中村　麗奈

講義目的、講義概要	授業計画
• Academic Listening Strategies Iとともに、1年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 • ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科1年生のうち、入学時にTOEICで高得点だった学生が受講する科目である。使用言語は英語。様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 1. 担当者が指示したリーディング教科書。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学HPのMyDOCから各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】大学生らしい英語の読み方を学び、グループワークやディスカッションを織り交ぜた活動を、英語で行います。	1. Unit 5: Introduction, Eating Well 2. Unit 5: Anatomy of a Nutrition Trend 3. Unit 5: Vocabulary Skill & Writing 4. Unit 6: Introduction, From a Student to Employee 5. Unit 6: Making My First Post-College Career Decision 6. Unit 6: Vocabulary Skill & Writing 7. Mid-term Exam, Unit 7: Introduction 8. Mid-term Review, Unit 7: A Tribe Is Discovered 9. Unit 7: Alaska's Pebble Mine: Minerals vs. Nature 10. Unit 7: Vocabulary Skill & Writing 11. Unit 8: The Promise of Play 12. Unit 8: Child's Play: It's Not Just for Fun 13. Unit 8: Vocabulary Skill & Writing 14. Wrap-up

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員の指示に従い、次回の授業までの課題・授業準備に取り組む。 語彙テストについては、MyDOCから語彙リストを自らダウンロードし、これを用いて準備する。
テキスト	Q: Skills for Success Book 4 Second Edition (Oxford University Press) 英々辞書を用意すること。電子辞書可。
参考文献	授業時に紹介・配布
評価方法	積極的な授業参加 20%, 語彙小テスト 15%, 課題 10%, 中間テスト 20%, 期末テスト（ALC 課題を含む）35%, 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基 礎であるパラグラフ・ライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、効果的な主題文(topic sentence)と支持文(supporting sentences)、結論文(concluding sentence）の書き方、効果的な接続語の使い方、情報や出来事、自分の考えを分かりやすく説明する文章の書き方を練習します。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけます。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う場合もあります。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第1回 ガイダンス・タイピング練習 第2回 英文メールの書き方：基本ルール 第3回 英文メールの書き方：メール作成と返信 第4回 Punctuation and Capitalization 第5回 Paragraph Organization 第6回 Unity and Coherence 第7回 Brainstorming & Outlining 第8回 Descriptive Paragraphs: First draft 第9回 Descriptive Paragraphs: Final draft 第10回 Process Paragraphs: Outline-First draft 第11回 Process Paragraphs: Final draft 第12回 Summary Writing: Introduction 第13回 Summary Writing: Passage 1 第14回 Summary Writing: Passage 2

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。
テキスト	担当教員の指示に従うこと。
参考文献	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。
評価方法	積極的な授業活動への参加 20%、ライティング課題 50%、期末テスト 30%（授業参加 20%以外は担当教員によって異なります。この評価方法は一例です）。

08 年度以降	English(ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ My DOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う場合もあります。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第1回 ガイダンス 第2回 Review of Paragraph Organization 第3回 Classification Paragraphs: Model analysis 第4回 Classification Paragraphs: Planning & First draft 第5回 Classification Paragraphs: Revising & Final draft 第6回 Cause and Effect Paragraphs: Model analysis 第7回 Cause and Effect Paragraphs: Planning & First draft 第8回 Cause and Effect Paragraphs: Revising & Final draft 第9回 Comparison and Contrast Paragraphs: Model analysis 第10回 Comparison and Contrast Paragraphs: Planning & First draft 第11回 Comparison and Contrast Paragraphs: Revising & Final draft 第12回 Opinion Paragraphs: Model analysis 第13回 Opinion Paragraphs: Planning & First draft 第14回 Opinion Paragraphs: Revising & Final draft

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。
テキスト	担当教員の指示に従うこと。
参考文献	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。
評価方法	積極的な授業活動への参加 20%、ライティング課題 50%、期末テスト 30%（授業参加 20%以外は担当教員によって異なります。この評価方法は一例です）。

08 年度以降	English(スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to use English in academic settings. Class time will be spent on speaking activities to help you build confidence as a speaker of English. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。 評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	1. Course introduction, etc. 2. Introducing yourself 3. Meeting your classmates 4. Talking to your teachers 5. Politeness 6. Personality 7. Knowing yourself 8. Talking about school 9. Talking about classes 10. Study strategies 11. Learning goals 12. Club activities 13. The busiest person 14. In-class speaking evaluation 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for activities, evaluations and exams outside of class time and to speak actively in each class.
テキスト	Please check the bookstore for details.
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.
評価方法	Classroom participation/homework 30%; Mid-term exam 20%; In-class speaking evaluation 20%; Final exam 30%

08 年度以降	English(スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to use English in academic settings. Class time will be spent on speaking activities to help you build confidence as a speaker of English. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。 評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	1. Fall orientation, Travel 2. Your favorite trip 3. Music 4. Movies 5. Part-time jobs 6. Your ideal job 7. Mid-term speaking evaluation 8. Your future 9. Choosing your career 10. Job interviews 11. Your resume 12. Fieldwork 13. Studying abroad 14. Final in-class speaking evaluation 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for activities, evaluations and exams outside of class time and to speak actively in each class.
テキスト	Please check the bookstore for details.
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.
評価方法	Classroom participation/homework 30%; In-class speaking evaluations 30% (2 x 15%); Final exam 40%

08 年度以降	English(リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。	1. Course Introduction 2. Unit 1 Lesson A: Listening to an Interview 3. Unit 1 Lesson B: Listening to an Informal Conversation 4. Unit 1 Video: Butler School / Unit Test 1 5. Unit 2 Lesson A: Listening to a Lecture 6. Unit 2 Lesson B: Listening to a Talk with Questions and Answers 7. Unit 2 Video: Nubian Wedding / Unit Test 2 8. Unit 3 Lesson A: Listening to a Talk about an Ancient City 9. Unit 3 Lesson B: Listening to a Conversation 10. Unit 3 Video: Treasures in Old San Juan / Unit Test 3 11. Unit 4 Lesson A: Listening to a Radio Show 12. Unit 4 Lesson B: Listening to a Conversation among Friends 13. Unit 4 Video: Tornado Chase / Unit Test 4 14. Review: Units 1-4 / TOEIC exercises Part 2 Sets 1-12

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト	Pathways 1: *Listening, Speaking and Critical Thinking*. Cengage Learning.
参考文献	※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。
評価方法	授業参加および課題 20%、ユニットテスト 40%（10%×4 回）、統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。	1. Unit 5 Lesson A: Listening to a Talk by an Anthropology Professor 2. Unit 5 Lesson B: Listening to a Conversation among Friends 3. Unit 5 Video: Forbidden Fruit / Unit Test 5 4. Unit 7 Lesson A: Listening to a Presentation by a Medical Doctor 5. Unit 7 Lesson B: Listening to a Talk by a Tour Guide 6. Unit 7 Video: Exploration of the Solar System / Unit Test 7 7. Unit 8 Lesson A: Listening to a PowerPoint Presentation 8. Unit 8 Lesson B: Listening to a Radio Program 9. Unit 8 Video: Urban Art / Unit Test 8 10. Unit 9 Lesson A: Listening to a Lecture 11. Unit 9 Lesson B: Listening to a Conversation 12. Unit 9 Video: Horses / Unit Test 9 13. Review: Units 5&7 / TOEIC exercises Part 3 Sets 1-6 14. Review: Units 8&9 / TOEIC exercises Part 3 Sets 7-12

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト	Pathways 1: *Listening, Speaking and Critical Thinking*. Cengage Learning.
参考文献	※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。
評価方法	授業参加および課題 20%、ユニットテスト 40%（10%×4 回）、統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。	1. Course Introduction 2. Unit 1 Lesson A: Listening to a Talk about Preventing Heart Disease 3. Unit 1 Lesson B: Listening to an Informal Conversation 4. Unit 1 Video: Bee Therapy / Unit Test 1 5. Unit 2 Lesson A: Listening to a PowerPoint Lecture 6. Unit 2 Lesson B: Listening to an Informal Conversation 7. Unit 2 Video: Alternative Energy / Unit Test 2 8. Unit 3 Lesson A: Listening to a Lecture 9. Unit 3 Lesson B: Listening to an Assignment and a Student Presentation 10. Unit 3 Video: The Gauchos of Argentina / Unit Test 3 11. Unit 4 Lesson A: Listening to a Guest Speaker 12. Unit 4 Lesson B: Listening to a Group Discussion 13. Unit 4 Video: More Water for India / Unit Test 4 14. Review Units 1-4 / TOEIC exercises Sets 1-12

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト	Pathways 2: *Listening, Speaking and Critical Thinking*. Cengage Learning.
参考文献	※教科書購入時は、間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。
評価方法	授業参加および課題 20%、ユニットテスト 40%（10%×4 回）、統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングIとともに通年で履修すること。	1. Unit 5 Lesson A: Listening to a Documentary 2. Unit 5 Lesson B: Listening to a Conversation 3. Unit 5 Video: Memory Man / Unit Test 5 4. Unit 6 Lesson A: Listening to a Seminar 5. Unit 6 Lesson B: Listening to a Group Discussion 6. Unit 6 Video: The Food and Culture of Oaxaca / Unit Test 6 7. Unit 7 Lesson A: Listening to an Earth Science 8. Unit 7 Lesson B: Listening to a Group Discussion 9. Unit 7 Video: Volcano Trek / Unit Test 7 10. Unit 10 Lesson A: Listening to a PowerPoint Lecture 11. Unit 10 Lesson B: Listening to a Case Study and a Conversation 12. Unit 10 Video: Making a Deal in Fes / Unit Test 10 13. Review Units 5&6 / TOEIC exercises Part 3 Sets 1-6 14. Review Units 7&10 / TOEIC exercises Part 3 Sets 7-12

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト	Pathways 2: *Listening, Speaking and Critical Thinking*. Cengage Learning.
参考文献	※教科書購入時は、間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。
評価方法	授業参加および課題 20%、ユニットテスト 40%（10%×4 回）、統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	J. ブローガン

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively.	1. Introduction to the course 2. The Science of Shopping - Lesson A 3. The Science of Shopping - Lesson B 4. Mother Nature - Lesson A 5. Mother Nature - Lesson B 6. On the Move - Lesson A 7. On the Move - Lesson B 8. Mid-term exam and review 9. Our Changing Planet - Lesson A 10. Our Changing Planet - Lesson B 11. Making a Living, Making a Difference - Lesson A 12. Making a Living, Making a Difference - Lesson B 13. Preparation for Presentations 14. Short Group Presentations

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Outside of class, students will be expected to prepare for discussions and write summaries of lectures.
テキスト	Pathways 3 Second Edition
参考文献	To be announced in class
評価方法	Class participation (20%), homework assignments (20%), midterm exam (30%), final exam (30%). 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	J. ブローガン

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively.	1. Design With Purpose - Lesson A 2. Design With Purpose - Lesson B 3. Inspired to Protect - Lesson A 4. Inspired to Protect - Lesson B 5. Traditional and Modern Medicine - Lesson A 6. Traditional and Modern Medicine - Lesson B 7. Mid-term exam and review 8. Uncovering the Past - Lesson A 9. Uncovering the Past - Lesson B 10. Emotions and personality - Lesson A 11. Emotions and personality - Lesson B 12. Practicing Presentations with a Partner 13. Individual Presentations to the Class 14. Individual Presentations to the Class

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Outside of class, students will be expected to prepare for discussions and write summaries of lectures.
テキスト	Pathways 3 Second Edition
参考文献	To be announced in class
評価方法	Class participation (20%), homework assignments (20%), midterm exam (30%), final exam (30%). 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(リーディング IIa) / (Academic Reading Strategies IIa)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
◆この科目は、1年生で履修したAcademic Reading Strategies I （リーディングI）の上位科目です。原則として通年で履修してください。リーディングIで学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 ◆1. 担当者が指示した教科書で積極的に学習。 2. 1年次に引き続いて、各自が、MyDOCからダウンロードしたDokkyo 1964 Academic Vocabulary List を教室外で学習し、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施。 ◆授業計画は各担当者から個別のシラバス参照。 ◆年度末（2020年1月）に全員TOEIC®を受験するので、計画的に学習すること。 ◆大学2年生は、英語運用能力を伸ばすのに最もふさわしくまた重要な1年間です。積極的な姿勢を持って取り組みましょう。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　Unit 1 Introduction 第 3 回　Unit 1-1 Rise of the megacities 第 4 回　Unit 1-2 Homestay holidays 第 5 回　Unit 2 Introduction 第 6 回　Unit 2-1 Celebrate! 第 7 回　Unit 2-2 Muscat Festival 第 8 回　Unit 2-3 Writing 第 9 回　Unit 3 Introduction 第 10 回 Unit 3-1 La Masia 第 11 回 Unit 3-2 My Princeford experience 第 12 回 Unit 4 Introduction 第 13 回 Unit 4-1 Someone’s always watching you online 第 14 回 春学期のまとめ

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して予習。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト	1. 各担当教員指定教科書 2. *“Dokkyo 1964”* 獨協大学全カリ英語語彙リスト-オンライン教材
参考文献	各担当教員から指示
評価方法	期末テスト 40% 課題 20% 共通語彙テスト 15% 積極的な授業参加 25% （評価方法は担当教員によって異なる。この評価方法は一例である。）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(リーディング IIb) / (Academic Reading Strategies IIb)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
◆この科目は、1年生で履修したAcademic Reading Strategies I （リーディングI）の上位科目です。原則として通年で履修してください。リーディングIで学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 ◆1. 担当者が指示した教科書で積極的に学習。 2. 1年次に引き続いて、各自が、MyDOCからダウンロードしたDokkyo 1964 Academic Vocabulary List を教室外で学習し、毎週語彙小テストを実施します。 3. TOEIC対策の副教材（5-minute quizzes for the TOEIC Test Reading 1）を用いて、授業内に短時間のTOEIC対策を行う。（秋学期のみ実施） ◆授業計画は各担当者から個別のシラバス参照。 ◆年度末（2020年1月）に全員TOEIC®を受験するので、計画的に学習すること。	第 1 回　オリエンテーション、Unit 6 introduction 第 2 回　Unit 6-1 Extreme Weather 第 3 回　Unit 6-2 Surviving the Sea of Sand 第 4 回　Unit 7 Introduction 第 5 回　Unit 7-1 Five Strange Sports 第 6 回　Unit 7-2 Tough Man: A Race to the Limit 第 7 回　Unit 8 Introduction 第 8 回　Unit 8-1 Are You Ready for the World of Work? 第 9 回　Unit 8-2 You Can Choose Your Grandma! 第 10 回 Unit 8 Writing 第 11 回 Unit 9 Introduction 第 12 回 Unit 9-1 Respect! 第 13 回 Unit 9-2 People I Admire 第 14 回 秋学期のまとめ

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して予習。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト	1. 各担当教員指定教科書 2. *“Dokkyo 1964”* 獨協大学全カリ英語語彙リスト-オンライン教材
参考文献	各担当教員から指示
評価方法	期末テスト 40% 課題 20% 共通語彙テスト 15% ジャーナル 10% 積極的な授業参加 15% （評価方法は担当教員によって異なる。この評価方法は一例である。）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English (リーディング IIa) / (Academic Reading Strategies IIa)	担当者	高橋　良子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の2年次学生対象のクラス指定科目です。1年修了時のTOEICスコアが高かった学生が学部学科を超えて共に学びます。リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用能力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも活かせる学術的テーマや社会問題を扱ったテキストを用い、多読や精読を通してIdentifying Main Ideasなどのリーディングストラテジーを習得します。さらに、テキストの内容を批判的に理解し、それに対する自分の考えを口頭および文章で表現する練習を行います。授業は英語で行います。 ・毎週授業の初めにVocabulary Testを行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。	1. Course Introduction; Unit 1 Preview 2. Unit 1 (1) The State of the World's Health 3. Unit 1 (2) Changing Attitudes Toward CVD 4. Unit 1 (3) Medicine and Genetic Research 5. Unit 1 (4) Malaria 6. Unit 1 (5) The Health Care Divide 7. Unit 1 Test; Unit 2 Preview 8. Unit 2 (1) The Age of Immigration 9. Unit 2 (2) Who Are Today's Immigrants? 10. Unit 2 (3) The Meeting of Cultures 11. Unit 2 (4) One World: One Culture? 12. Unit 2 (5) The Challenge of Diversity 13. Unit 2 Test; Presentation Preparation 14. Presentations

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習；Vocabulary Test の準備；毎週の課題
テキスト	Pakenham, K. J., McEntire, J. & Williams, J. (2013) *Making Connections, Level 3.* Cambridge University Press.
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業参加 10% 課題 10% Vocabulary Test 15% 章末テスト 20% Presentation 15% 期末試験 30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とはならない。

08 年度以降	English (リーディング IIb) / (Academic Reading Strategies IIb)	担当者	高橋　良子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の2年次学生対象のクラス指定科目です。1年修了時のTOEICスコアが高かった学生が学部学科を超えて共に学びます。リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用能力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも活かせる学術的テーマや社会問題を扱ったテキストを用い、多読や精読を通してIdentifying the Thesisなどのリーディングストラテジーを習得します。さらに、テキストの内容を批判的に理解し、それに対する自分の考えを口頭および文章で表現する練習を行います。授業は英語で行います。 ・毎週授業の初めにVocabulary Testを行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。	1. Course Introduction; Unit 3 Preview 2. Unit 3 (1) When Does Language Learning Begin? 3. Unit 3 (2) Learning a Language as an Adult 4. Unit 3 (3) Rules of Speaking 5. Unit 3 (4) Languages in Contact 6. Unit 3 (5) The Advantages of Multilingualism 7. Unit 3 Test; Unit 4 Preview 8. Unit 4 (1) Ecology, Overpopulation, and… 9. Unit 4 (2) The Aral Sea 10. Unit 4 (3) Biodiversity and Tropical Rainforests 11. Unit 4 (4) The Water Crisis 12. Unit 4 (5) Managing Earth's Greenhouse 13. Unit 4 Test; Presentation Preparation 14. Presentations

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習；Vocabulary Test の準備；毎週の課題
テキスト	Pakenham, K. J., McEntire, J. & Williams, J. (2013) *Making Connections, Level 3.* Cambridge University Press.
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業参加 10% 課題 10% Vocabulary Test 15% 章末テスト 20% Presentation 15% 期末試験 30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とはならない。

08 年度以降	English(ライティング IIa) / (Academic Writing IIa: Essay)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 本科目の目的は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミック・エッセイ（論文）を書けるようになることです。「和文英訳」ではありません。英語論文の典型的な構成と論展開、書き始める前の計画やアウトライン作成法、効果的なthesis statementと各段落のtopic sentenceなどの書き方、説得力のある論の組み立て方、効果的な接続表現や例の使い方、引用する情報の要約と言い換え、適切な引用方法などを練習します。計画から複数回の修正、最終構成までの「プロセス」を経て論文を完成させます。他の英語科目で学んだ語彙や表現もライティングで実際に使ってみる努力をしてください。 授業では、個人ライティングだけでなく、クラスメートと原稿を読み合ってピアフィードバックを交換したり、グループライティングしたり、学生同士が互いに学ぶ学習活動も行います。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第 1 回 ガイダンス Review of Paragraph Organization 第 2 回 Essay Organization 第 3 回 Listing-Order Essays: Model analysis 第 4 回 Listing-Order Essays: Brainstorming and outlining 第 5 回 Listing-Order Essays: First draft 第 6 回 Listing-Order Essays: Revising and editing 第 7 回 Comparison and Contrast Essays: Model analysis 第 8 回 Comparison and Contrast Essays: Planning 第 9 回 Comparison and Contrast Essays: First draft 第 10 回 Comparison and Contrast Essays: Final draft 第 11 回 Summarizing and Paraphrasing: Model analysis 第 12 回 Summarizing and Paraphrasing: Passage 1 第 13 回 Summarizing and Paraphrasing: Passage 2 第 14 回 Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。
テキスト	担当教員の指示に従うこと。
参考文献	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。
評価方法	積極的な授業活動への参加 20%、ライティング課題 50%、期末テスト 30%（授業参加 20%以外は担当教員によって異なります。この評価方法は一例です）。

08 年度以降	English(ライティング IIb) / (Academic Writing IIb: Essay)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 本科目の目的は、春学期に学んだアカデミック・エッセイライティングの基礎をさらに発展させ、様々な文章構成法と引用文献を使って、説得力のある英語論文を書けるようになることである。英語論文の典型的な構成と論展開、書き始める前の計画やアウトライン作成法、効果的なthesis statementと各段落のtopic sentenceなどの書き方、一貫性のある論の組み立て方、効果的な接続表現や例の使い方、信頼できる引用文献の探し方、引用する情報の要約と言い換え、適切な引用方法などを練習する。計画から複数回の修正、最終構成までの「プロセス」を経て論文を完成させる。他の英語科目で学んだ語彙や表現もライティングで実際に使ってみる努力をしてほしい。 授業では、個人ライティングだけでなく、クラスメートと原稿を読み合ってピアフィードバックを交換したり、グループライティングしたり、学生同士が互いに学ぶ学習活動も行う。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第 1 回 ガイダンス・Review of Essay Organization 第 2 回 Review of Summarizing and Paraphrasing 第 3 回 Citing Sources: In-text citations and References(APA) 第 4 回 Citing Sources: Statistics 第 5 回 Definition Paragraphs 第 6 回 Cause and Effect Essays: Model analysis 第 7 回 Cause and Effect Essays: Outline & First draft 第 8 回 Cause and Effect Essays: Second draft 第 9 回 Cause and Effect Essays: Final draft 第 10 回 Argumentative Essays: Model analysis 第 11 回 Argumentative Essays: Outline & First draft 第 12 回 Argumentative Essays: Second draft 第 13 回 Argumentative Essays: Final draft 第 14 回 Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。
テキスト	担当教員の指示に従うこと。
参考文献	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。
評価方法	積極的な授業活動への参加 20%、ライティング課題 50%、期末テスト 30%（授業参加 20%以外は担当教員によって異なります。この評価方法は一例です）。

08 年度以降	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: • understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures • understand how supporting ideas are related to main ideas • take effective notes as they listen	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第一回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 1. Introduction to the course 2. Psychology: Introduction 3. Psychology: Lecture and comprehension activities 4. Linguistics: Introduction 5. Linguistics: Lecture and comprehension activities 6. Public Health: Introduction 7. Public Health: Lecture and comprehension activities 8. Business: Introduction 9. Business: Lecture and comprehension activities 10. Art History: Introduction 11. Art History: Lecture and comprehension activities 12. Engineering: Introduction 13. Engineering: Lecture and comprehension activities 14. Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview and/or review the course content (approximately 1 hour per week).
テキスト	教科書は教員によって異なります。DUO（丸善書店）の掲示板を確認すること。
参考文献	授業中に紹介。
評価方法	授業参加 25%、課題 25%、定期試験 50%（担当教員によって異なります。この評価方法は一例です。） ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない

08 年度以降	English (リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: • understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures • understand how supporting ideas are related to main ideas • take notes effectively as they listen	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第一回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 1. Review of spring semester 2. Media Studies: Introduction 3. Media Studies: Lecture and comprehension activities 4. Biology: Introduction 5. Biology: Lecture and comprehension activities 6. Management: Introduction 7. Management: Lecture and comprehension activities 8. History: Introduction 9. History: Lecture and comprehension activities 10. Philosophy: Introduction 11. Philosophy: Lecture and comprehension activities 12. Information Technology: Introduction 13. Information Technology: Lecture and comprehension activities 14. Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview and/or review the course content (approximately 1 hour per week).
テキスト	教科書は教員によって異なります。DUO（丸善書店）の掲示板を確認すること。
参考文献	授業中に紹介。
評価方法	授業参加 25%、課題 25%、定期試験 50%、（担当教員によって異なります。この評価方法は一例です。） ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない

08 年度以降	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner. These skills will be useful, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as gender, diet, and the environment), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.	1. Course outline, etc. 2. Marketing 3. Gender 4. Spending habits 5. Marketing: Advertisements 6. Ads in everyday life 7. Marketing video 8. Marketing: Evaluation 9. Science 10. Diet 11. Diet video 12. The effects of air pollution 13. The effects of air pollution on children 14. Presentations (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare a presentation outside of class time, to study vocabulary in preparation for in-class quizzes, and to review class materials for the examinations.
テキスト	*Lecture Ready 2*（著者 P. Sarosy & K. Sherak; 出版社 Oxford University Press）
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.
評価方法	Participation 10%; Presentation 25%; Vocabulary quizzes 20%; Mid-term exam 20%; Final exam 25%

08 年度以降	English (リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner. These skills will be useful, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as news, television, and the internationalization of English), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.	1. Course outline, etc. 2. Media Studies 3. News 4. Modern technology 5. Television 6. Themes on television 7. Television vs. reality 8. Linguistics 9. Slang 10. The origins of slang 11. International English 12. English as a lingua franca 13. Review 14. Presentations (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare a presentation outside of class time, to study vocabulary in preparation for in-class quizzes, and to review class materials for the final examination.
テキスト	*Lecture Ready 2*（著者 P. Sarosy & K. Sherak; 出版社 Oxford University Press）
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.
評価方法	Participation 10%; Presentation 30%; Vocabulary quizzes 30%; Final exam 30%

08 年度以降	English(リーディング IIIa) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目ですので、原則として通年履修してください。 ▼対象：経済学部経済学科および経営学科 ▼様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。 ▼良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1，2年次とは一味違う授業内容となります。 ▼授業計画は各担当者の個別シラバスを参照すること。	第1回　オリエンテーション 第2回　Unit 1-1. Prepare your ideas, 1-2. Expand your knowledge 第3回　Unit 1-3. Study academic Writing 第4回　Unit 1-4. Sharpen your skills, 1-5. Write your paragraph 第5回　Self &Peer Feedback on Writing Task #1 Unit 2 Preview 第6回　Unit 2-1. Prepare your ideas, 2-2. Expand your knowledge 第7回　Unit 2-3. Study academic Writing 第8回　Unit 2-4. Sharpen your skills, 2-5. Write your paragraph 第9回　Review Units 1-2, Midterm Exam 第10回 Unit 5-1. Prepare your ideas, 5-2. Expand your knowledge 第11回 Unit 5-3. Study academic Writing 第12回 Unit 5-4. Sharpen your skills 第13回 Unit 5-5. Write your paragraph 第14回 春学期のまとめ

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト	教科書は指導教官の指示に従い、大学 HP や 大学書店の掲示で確認して購入する。
参考文献	授業内で指示
評価方法	期末試験 30% 中間テスト 20% 課題 30% 積極的な授業参加 20%。（評価方法は担当教員により異なる。この評価方法は一例である。）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(リーディング IIIb) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIb)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目ですので、原則として春学期に引き続き通年履修してください。 ▼対象：経済学部経済学科および経営学科 ▼様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。 ▼大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。 ▼授業計画は各担当者の個別シラバスを参照すること。	第1回　オリエンテーション 第2回　Unit 6-1. Prepare your ideas, 6-2. Expand your knowledge 第3回　Unit 6-3. Study academic Writing 第4回　Unit 6-4. Sharpen your skills, 6-5. Write your paragraph 第5回　Self &Peer Feedback on Writing Task #1, Unit 7 Preview 第6回　Unit 7-1. Prepare your ideas, 7-2. Expand your knowledge 第7回　Unit 7-3. Study academic Writing 第8回　Unit 7-4. Sharpen your skills, 7-5. Write your paragraph 第9回　Review Units 6-7. Midterm Exam 第10回 Unit 8-1. Prepare your ideas, 8-2. Expand your knowledge 第11回 Unit 8-3. Study academic Writing 第12回 Unit 8-4. Sharpen your skills 第13回 Unit 8-5. Write your paragraph 第14回 秋学期のまとめ

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。
テキスト	教科書は指導教官の指示に従い、大学 HP や大学書店の掲示で確認して購入する。
参考文献	授業内で指示
評価方法	期末試験 30% 中間テスト 20% 課題 30% 積極的な授業参加 20%。（評価方法は担当教員により異なる。この評価方法は一例である。）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(テーマ研究 a) / (Selected Topics in Social Sciences a)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼国際環境経済学科3年生のクラス指定科目です。 ▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、 基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。1～2年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを習得することができます。 ▼春学期は、主に英語での図表の説明のしかたと表現の基礎を学び、グループごとにテーマを決めてアンケートを使ったミニリサーチを行います。データの分析を行い、適切な図表を使って調査結果を発表します。 ▼原則として授業活動は英語で行います。 ▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。	1. Course introduction; What is Social Science? 2. Describing graphs and tables: pie charts, bar graphs 3. Describing graphs and tables: line graphs 4. Preparation for a group presentation: project topics 5. Preparation for a group presentation: making PPT slides 6. Group presentations and discussions: Group 1-4 7. Group presentations and discussions: Group 5-8 8. Designing and conducting a group research: topic, research question 9. Designing and conducting a group research: data collection, data analysis 10. Designing a graph/table 11. Preparation for a group presentation 12. Group presentations: Group 1-4 13. Group presentations: Group 5-8 14. Review of group presentations

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教科書・補助教材の指定箇所の学習と、グループプロジェクトの調査・発表準備などの課題を行う。前回授業で課された宿題・課題の完了を前提に次回授業が進められる。
テキスト	Rogers, L. & Willoughby, D. (2013) *Numbers: Data and statistics for the non-specialist*. Collins.
参考文献	My DOC に参考文献情報、補助教材が提示される。
評価方法	授業参加度 20%; 小テストと期末試験 30%; グループプロジェクト課題（調査と発表 x2）50%

08 年度以降	English(テーマ研究 b) / (Selected Topics in Social Sciences b)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼国際環境経済学科3年生のクラス指定科目です。 ▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、 基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。1～2年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを習得することができます。 ▼秋学期は、春学期に習得した英語での図表の説明のしかたをさらに発展させます。また、グループごとに国際的な社会問題に関するテーマを選び、文献研究をもとに問題点を整理し、その問題点についてアンケートによる意識調査を行います。研究計画のポスター発表をし、調査報告論文を作成します。 ▼原則として授業活動は英語で行います。 ▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。	1. Course introduction 2. Introduction to group research project on controversial social issues 3. Literature search 4. Developing a research question, 5. Preparing for a poster presentation: Slide 1-4 6. Preparing for a poster presentation: Slide 5-7 7. Poster presentations 8. Designing a survey study and collecting data 9. Analyzing a research paper and writing: intro 10. Analyzing a research paper and writing: method 11. Analyzing a research paper and writing: results 12. Analyzing a research paper and writing: discussion and conclusion 13. Analyzing a research paper and writing: abstract and references 14. Revising and editing a research paper

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教科書・補助教材の指定箇所の学習と、グループプロジェクトの調査・発表準備などの課題を行う。前回授業で課された宿題・課題の完了を前提に次回授業が進められる。
テキスト	Rogers, L. & Willoughby, D. (2013) *Numbers: Data and statistics for the non-specialist*. Collins.
参考文献	My DOC に参考文献情報、補助教材が提示される。
評価方法	授業参加度 20%; 小テスト 20%; グループプロジェクト課題（研究計画ポスター発表と研究報告論文）60%

08 年度以降	English(ライティング Ia)_選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
▼ ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 ▼ 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基 礎であるパラグラフ・ライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ (段落)の基本構造を学び、効果的な主題文(topic sentence)と支持文（supporting sentences)、結論文(concluding sentence)の書き方、効果的な接続語の使い方、情報や出来事、自分の考えを分かりやすく説明する 文章の書き方を練習します。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけます。 ▼ 課題にはスケジュール通りに取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行います。	以下は授業計画の一例です。 第 1 回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。 第1回 ガイダンス・タイピング練習 第2回 英文メールの書き方：基本ルール 第3回 英文メールの書き方：メール作成と返信 第4回 Punctuation and Capitalization 第5回 Paragraph Organization 第6回 Unity and Coherence 第7回 Brainstorming & Outlining 第8回 Descriptive Paragraphs: First draft 第9回 Descriptive Paragraphs: Final draft 第10回 Process Paragraphs: Outline-First draft 第11回 Process Paragraphs: Final draft 第12回 Summary Writing: Introduction 第13回 Summary Writing: Passage 1 第14回 Summary Writing: Passage 2

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。
テキスト	第 1 回目の授業で発表する。My DOC に補助教材が提示される。
参考文献	英文メールの書き方の教材は、各自 My DOC [Academic Writing I Student Community]よりダウンロードすること
評価方法	積極的な授業活動への参加と宿題（MyDOC への投稿含む）30%、小テスト 10%、ライティング課題 60%

08 年度以降	English(ライティング Ib)_選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
▼ ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 ▼ 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目(リーディング、リスニングなど)で学ぶ語彙や表現も意識的に 使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ My DOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う。	第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第1回 ガイダンス 第2回 Review of Paragraph Organization 第3回 Classification Paragraphs: Model analysis 第4回 Classification Paragraphs: Planning & First draft 第5回 Classification Paragraphs: Revising & Final draft 第6回 Cause and Effect Paragraphs: Model analysis 第7回 Cause and Effect Paragraphs: Planning & First draft 第8回 Cause and Effect Paragraphs: Revising & Final draft 第9回 Comparison and Contrast Paragraphs: Model analysis 第10回 Comparison and Contrast Paragraphs: Planning & First draft 第11回 Comparison and Contrast Paragraphs: Revising & Final draft 第12回 Opinion Paragraphs: Model analysis 第13回 Opinion Paragraphs: Planning & First draft 第14回 Opinion Paragraphs: Revising & Final draft

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題などを行って、次の授業に参加すること。
テキスト	第 1 回目の授業で発表する。My DOC に補助教材が提示される。
参考文献	My DOC に提示される。
評価方法	積極的な授業活動への参加と宿題（MyDOC への投稿含む）30%、小テスト 10%、ライティング課題 60%

08 年度以降	English(ライティング Ia)_選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、英語の文章を通して、アカデミズムにおいて必要とされる文章の書き方を学ぶ授業である（とはいえ、この書き方は、アカデミズムのみにおいて有効であるだけではない。会社においてのプレゼンテーションにも有効である）。“Topic Sentence,” “Supporting Sentences,” “Concluding Sentence” という、段落における三つの要素を、実際の英文を通して知る、そしてそれを自分で書いてみる、それがこの授業の目的である。英語の聴解力も養うことも目的とする。読まれる英語を聞いて、英語／日本語の問に答える、あるいは、それを英語／日本語でまとめる、といった activity を行う。また、学期中に4，5通の、英文での短いレポートを課す。	1) introduction 2) “Right Brain, Left Brain” 3) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 4) “Let’s Face It” 5) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 6) “Live a Little: Eat Potatoes!” 7) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 8) “Bugs, Rats, an Other Tasty Dishes” 9) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 10) “Tihar: Festival of Lights” 11) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 12) “Celebrating a Fifteenth Birthday” 13) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 14) “Barrington Irving’s Dream to Fly”

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	予習、復習。これ以外に語学上達の道はない。
テキスト	*Weaving It Together 2*
参考文献	特になし
評価方法	学期末テスト（75%ほど）、英作文（25%ほど）普段の授業への participation（＋α）。

08 年度以降	English(ライティング Ib)_選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、同じテキストを読み進める。読み進め方も、春学期と同じである。英文の短いレポートに関しても同様である。	1) introduction 2) “The Fearless Fiennes” 3) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 4) “Lightning” 5) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 6) “Chasing Storms” 7) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 8) “The GoPro Camera” 9) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 10) “Changing Living Things?” 11) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 12) “What’s in a Name?” 13) 同 Unit を参考にした英作文作成・指導 14) まとめ

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同様。
テキスト	春学期と同じものを、引き続き読み進める。
参考文献	とくになし
評価方法	学期末テスト（75%ほど）、英作文（25%ほど）普段の授業への participation（＋α）。

08 年度以降	English(ライティング Ia)_選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	T. マティカイネン

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop your writing skills at the sentence and paragraph levels. You will learn how to communicate your ideas in an organized and logical manner, which is necessary in any academic and professional activities. The course focuses on the process of writing to produce a quality paragraph: generate and develop ideas, create a paragraph outline, write and revise multiple drafts, and edit a final draft. While the main focus of the course is on writing, all four language skills are integrated in class activities to develop your overall academic English skills. Class activities include individual and group writing, group discussion, and peer feedback. You are expected to exchange constructive feedback on each other's work.	Week 1: Course Introduction Week 2: Formal e-mail writing: Learning the basics Week 3: Formal e-mail writing: Writing our draft Week 4: Describing People: Preparing to write Week 5: Describing People: Writing our draft Week 6: Describing People: Reviewing and revising Week 7: Listing-Order Paragraphs: Preparing to write Week 8: Listing-Order Paragraphs: Writing our draft Week 9: Listing-Order Paragraphs: Reviewing and revising Week 10: Review Week 11: Giving Instructions: Preparing to write Week 12: Giving Instructions: Writing our draft Week 13: Giving Instructions: Reviewing and revising Week 14: Final Writing Assignment

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to do writing activities at home each week (90 minutes).
テキスト	*Longman Academic Writing Series 2: Paragraph* by Ann Hogue (Pearson)
参考文献	N/A
評価方法	Active participation 20%, Homework 20%, Graded Writing Assignments 60%

08 年度以降	English(ライティング Ib)_選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	T. マティカイネン

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop your writing skills at the sentence and paragraph levels. You will learn how to communicate your ideas in an organized and logical manner, which is necessary in any academic and professional activities. The course focuses on the process of writing to produce a quality paragraph: generate and develop ideas, create a paragraph outline, write and revise multiple drafts, and edit a final draft. While the main focus of the course is on writing, all four language skills are integrated in class activities to develop your overall academic English skills. Class activities include individual and group writing, group discussion, and peer feedback. You are expected to exchange constructive feedback on each other's work.	Week 1: Course Introduction Week 2: Describing with Space Order: Pre-writing Week 3: Describing with Space Order: Writing Week 4: Describing with Space Order: Post-writing Week 5: Stating Reasons and Using Examples Week 6: Stating Reasons and Using Examples: Writing Week 7: Stating Reasons and Using Examples: Post-writing Week 8: Stating Reasons and Using Examples: Review Week 9: Review Week 10: Expressing Your Opinion: Preparing to write Week 11: Expressing Your Opinion: Writing Week 12: Expressing Your Opinion: Post-writing Week 13: Expressing Your Opinion: Review Week 14: Final Writing Assignment

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to do writing activities at home each week (90 minutes).
テキスト	*Longman Academic Writing Series 2: Paragraph* by Ann Hogue (Pearson)
参考文献	N/A
評価方法	Active participation 20%, Homework 20%, Graded Writing Assignments 60%

08 年度以降	English(ライティング Ia)_選択 / (Academic Writing Ia: Paragraph)	担当者	髙畑　哲男

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、教科書、その他の実例をできる限りたくさん使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフライティングのスキルアップを図る。まずは、パラグラフの構造を学び、さらにさまざまな角度からパラグラフの中身を具体的に学びながら、積極的に書くことで「効果的な」英文を書く練習をする。「畳の上の水練」という言葉があるように、ライティングもその方法を理解するだけでなく、実際に書くことではじめて技量が向上する。授業では教科書中のエクササイズを毎回の課題として提出を求めるほかに、プリントも積極的に活用して短文和訳、文章要約、記事の見出し付けもおこなう。頻繁に課題提出と指名解答を求めるので、意欲のある定期的出席可能な受講者のみを期待します。初回授業で詳細を説明するので、希望者は必ず出席してください。	1.ガイダンス（授業内容と進行計画、その他） 2. The Topic Sentence of the Paragraph (基本) 3. The Topic Sentence of the Paragraph (発展) 4. The Topic Sentence of the Paragraph (応用) 5. The Specific Details of the Paragraph (基本) 6. The Specific Details of the Paragraph (発展) 7. The Specific Details of the Paragraph (応用) 8. Time Order (基本) 9. Time Order (発展) 10. Time Order (応用) 11. Space Order (基本) 12. Space Order (発展) 13. Space Order (応用) 14. Process and Direction (基本) & (発展・応用)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の当該箇所、プリントを熟読して設問に解答後、英文を作成する。また、加筆修正を加える
テキスト	***Paragraphs That Communicate　2nd edition***　(Macmillan Language House)
参考文献	授業時に紹介する
評価方法	期末試験またはレポート（70%）、提出物（15%）、（板書）発表を含む授業参加、貢献（15%）によって評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象にならない。

08 年度以降	English(ライティング Ib)_選択 / (Academic Writing Ib: Paragraph)	担当者	髙畑　哲男

講義目的、講義概要	授業計画
ライティングＩaに続いて、教科書とその他の実例をできる限りたくさん使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフライティングのスキルアップを図る。 さまざまな角度からパラグラフを具体的に知り、自ら積極的に書くことではじめて「効果的な」英文を書く力はつく。 「畳の上の水練」という言葉があるように、パラグラフもその中身を理解するだけでは不十分で、自ら書くことで次第に技量が向上する。 授業では教科書中のエクササイズの解答提出、プリントによる文章要約、記事の見出し付けも交えながらのライティングをおこなう。なお、学期中は頻繁に課題提出と指名発表を求めるので、熱意のある受講者のみを期待します。詳細は初回授業で説明するので、希望者は必ず出席してください。	1. ガイダンス（授業内容と進行計画、その他） 2. Cause and Effect (基本) 3. Cause and Effect (発展) 4. Cause and Effect (応用) 5. Examples (基本) 6. Examples (発展) 7. Examples (応用) 8. Definition (基本) 9. Definition (発展) 10. Definition (応用) 11. Classification (基本) 12. Classification (発展) 13. Classification (応用) 14. Comparison and Contrast (基本) & (発展・応用)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の当該箇所、プリントを熟読して設問に解答後、英文を作成する。また、加筆修正を加える
テキスト	***Paragraphs That Communicate　2nd edition***　(Macmillan Language House)
参考文献	授業時に紹介する
評価方法	期末試験またはレポート（70%）、提出物（15%）、板書発表を含む授業参加、貢献（15%）によって評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象にならない。

08 年度以降	English(スピーキング Ia)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	W. ヘイ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to build confidence in your speaking ability and oral communication across a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to: 1. Discuss and lead discussions on a variety of social issues. 2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts. 3. Feel confident giving short presentations to small groups and larger audiences.	1. Course Orientation 2. Unit 1: Street Food around the World 3. Unit 1: Slow Food Restaurants 4. Unit 1: Short Presentation 5. Unit 2: Messy International Festivals 6. Unit 2: Create an Original Festival 7. Unit 2: Midterm Presentations 8. Unit 3: Olympic City Selection 9. Unit 3: Your City: The Good, Bad and Ugly 10. Unit 3: Short Presentation 11. Unit 4: Unusual Jobs 12. Unit 4: Work in the Future 13. Final Presentation – Group A 14. Final Presentation – Group B

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preview the textbook before each class: 30 – 60 minutes. Every 2 weeks students will be required to prepare for a short talk or presentation. Preparation time will range from 4 to 6 hours.
テキスト	Hartman, P., Douglas, N., & Boon, A. (2014). Inspire 2. National Geographic Learning. Cengage.
参考文献	In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.
評価方法	Short Presentations: 20%, Midterm Presentation: 20%, Final Presentation: 30%, Participation: 30%

08 年度以降	English(スピーキング Ib)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	W. ヘイ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to continue to build confidence in your speaking ability and oral communication across a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to: 1. Discuss and lead discussions on a variety of social issues. 2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts. 3. Feel confident giving short presentations to small groups and larger audiences.	1 Course orientation for new students 2. Unit 5: World Music 3. Unit 5: Musicians with a Message 4. Unit 5: Short Presentation 5. Unit 6: The Great Japan Journey 6. Unit 6: Student Expeditions 7. Unit 6: Short Presentation 8 .Unit 7: Families Past and Present 9. Unit 7: Famous Families 10. Midterm Presentations 11. Unit 9: Personal Happiness 12. Unit 9: Happy Countries 13. Final Presentation – Group A 14. Final Presentation – Group B

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preview the textbook before each class: 30 – 60 minutes. Every 2 weeks students will be required to prepare for a short talk or presentation. Preparation time will range from 4 to 6 hours.
テキスト	Hartman, P., Douglas, N., & Boon, A. (2014). Inspire 2. National Geographic Learning. Cengage
参考文献	In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.
評価方法	Short Presentations: 20%, Midterm Presentation: 20%, Final Presentation: 30%, Participation: 30%

08 年度以降	English(スピーキング Ia)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	エイティム　ソイハン

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to improve your oral communication skills through various group discussion, pair work and individual presentation activities. All activities will be closely linked to your textbook contents to help you gain insights into various global issues around the world. For this purpose, you'll be given numerous opportunities to express yourself, present your ideas, tell stories and ask and answer questions during this course. Our goal is to make every class as interactive and lively as possible. By the end of this course,　students will be able to: • Give opinions about passages orally or in writing • Present their ideas effectively • Ask and answer questions in complete sentences • Tell stories and share their own experiences	Week 1: Introduction & Syllabus discussion. (Handout will be provided) Week 2: Unit1 Adventure activities (Vocabulary+Listening) Week 3: Unit1 Adventure activities (Speaking-focused) Week 4: Unit 2 Fun festivals (Vocabulary+Listening) Week 5: Unit 2 Fun Festivals (Speaking-focused) Week 6: Unit 3 Sounds good (Music) Week 7: Mid-term speech Week 8: Unit 4 The big screen (Movies) Week 9: Unit 5 Now and then (Vocabulary-Listening) Week 10: Unit 5 Now and then (Speaking-focused) Week 11: Unit 6 Out of the city (Nature) Week 12: Unit 7 Traveling around (Travel) Week 13: Final Paper assessment Week 14: Final Presentation

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do pre- and/or post-class assignments or preparation (approx. 1 hour per week)
テキスト	Global Connections
参考文献	特になし
評価方法	Participation 10% + Assignments 30% + Mid-term Presentation 20%, +Final Quiz 20% + Final Presentation　20%

08 年度以降	English(スピーキング Ib)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	エイティム　ソイハン

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to improve your oral communication skills through various group discussion, pair work and individual presentation activities. All activities will be closely linked to your textbook contents to help you gain insights into various global issues around the world. For this purpose, you'll be given numerous opportunities to express yourself, present your ideas, tell stories and ask and answer questions during this course. Our goal is to make every class as interactive and lively as possible. By the end of this course,　students will be able to: • Make arguments and support their opinions both orally or in writing • Give more detailed answers to questions • Provide greater detail when telling stories	Week 1: Introduction & Syllabus discussion. (Handout will be provided) Week 2: Unit 8 Ecotourism (Vocabulary+Listening) Week 3: Unit 8 Ecotourism (Speaking-focused) Week 4: Unit 9 Markets (Vocabulary+Listening) Week 5: Unit 10 Trash (Recycling) Week 6: Speech practice & Vocabulary Review Week 7: Mid-term speech Week 8: Unit11 Disappearing species (Speaking-focused) Week 9: Unit11Disappearingspecies(Vocabulary+Listening Week 10: Unit 12 Green living (Environment and business Week 11: Unit 13 Living abroad (Immigration) Week 12: Unit 14 Older and Older (Health) Week 13: Final Paper assessment Week 14: Final Presentation

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do pre- and/or post-class assignments or preparation (approx. 1 hour per week)
テキスト	Global Connections
参考文献	特になし
評価方法	Participation 10% + Assignments 30% + Mid-term Presentation 20%, +Final Quiz 20% + Final Presentation　20%

08 年度以降	English(スピーキング Ia)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	A．キャルコート

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to develop students' ability to speak English in academic contexts. Students will have opportunities to speak about themselves, but will be expected to go beyond that and also discuss academically-oriented topics. Class activities will include pair work and group work, and may also include presentations and/or debates. Active participation by students will be expected.	1. Introduction to the course 2. Friends 3. Free Time 4. The Past 5. The Family 6. Work 7. Mid-term speaking evaluations 8. City Life 9. Beliefs 10. The Future 11. Transportation 12. Vices 13. Final speaking evaluations 14. Presentations

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to spend approximately one hour per week previewing or reviewing course content.
テキスト	*Communication Strategies 1*, David Paul (Cengage Learning 2016)
参考文献	
評価方法	Class performance (40%), in-class speaking evaluations (30% X 2 = 60%). Attendance is required. Four absences will automatically result in a grade of a F or X.

08 年度以降	English(スピーキング Ib)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	A．キャルコート

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to develop students' ability to speak English in academic contexts. Students will have opportunities to speak about themselves, but will be expected to go beyond that and also discuss academically-oriented topics. Class activities will include pair work and group work, and may also include presentations and/or debates. Active participation by students will be expected.	1. Introduction to the course 2. Attitudes 3. Money 4. Health 5. Education 6. Crime 7. Mid-term speaking evaluations 8. The Environment 9. History 10. Women in Society 11. Violence 12. Happiness 13. Final speaking evaluations 14. Presentations

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to spend approximately one hour per week previewing or reviewing course content.
テキスト	*Communication Strategies 2*, David Paul (Cengage Learning 2016)
参考文献	
評価方法	Class performance (40%), in-class speaking evaluations (30% X 2 = 60%). Attendance is required. Four absences will automatically result in a grade of a F or X.

08 年度以降	English(スピーキング Ia)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	S．フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to improve oral fluency through Pair and Group Activities on a number of carefully chosen topics that are naturally interesting to young people like you. Emphasis will be placed on using vocabulary, fun language activities and expressions to help you develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope you will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences. In fact, that your conversations will be more attention grabbing.	Week 1. Welcome/Introduction Week 2. Internet: Expressing worries Week 3. Internet: Dealing with worries Week 4. Art: Talking about what we can Week 5. Art: Talking about what we can't imagine Week 6. Movies: Talking about what people are saying Week 7. Movies: Talking about what people don't say Week 8. Mid-term speaking test/vocabulary quiz Week 9. Education: Talking about what's possible Week 10. Education: Talking about what's impossible Week 11. Travelling: Returning a favor Week 12. Traveling: Saving money Week 13. Review/ preparing skits Week 14. Final speaking test/vocabulary quiz

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students in groups are expected to spend at least an hour a week to write, rehearse and present a skit after every four lessons, through which they show and understanding of the vocabulary, language and key expressions learned.
テキスト	English Listening and Speaking Patterns 3 by Andrew E. Bennett
参考文献	none
評価方法	Grading criteria: Vocabulary quizzes: 20 percent. Mid-term Speaking evaluations: 30 percent. Final Speaking Evaluation: 30 percent. Attendance and Class participation: 20 percent. *NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'*

08 年度以降	English(スピーキング Ib)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	S．フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to improve oral fluency through Pair and Group Activities on a number of carefully chosen topics that are naturally interesting to young people like you. Emphasis will be placed on using vocabulary, fun language activities and expressions to help you develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope you will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences. In fact, that your conversations will be more attention grabbing.	Week 1. Welcome back/catching up Week 2. Work: Positive emphasis Week 3. Work and unfortunate events Week 4. Music: Making direct requests Week 5. Music: Making indirect requests Week 6. Studying English: Giving mixed answers Week 7. Studying English: Giving strong statements Week 8. Mid-term Speaking test/Vocabulary quizzes Week 9. Health: Thanking someone Week 10. Responding to thanks Week 11. Future: Talking about similar experiences Week 12. Future: Talking about unfamiliar events Week 13. Review/preparing skits/ Week 14. Final speaking tests/vocabulary quiz

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students in groups are expected to spend at least an hour a week to write, rehearse and present a skit after every four lessons, through which they show and understanding of the vocabulary, language and key expressions learned.
テキスト	English Listening and Speaking Patterns 3 by Andrew E. Bennett
参考文献	none
評価方法	Grading criteria: Vocabulary quizzes: 20 percent. Mid-term Speaking evaluations: 30 percent. Final Speaking Evaluation: 30 percent. Attendance and Class participation: 20 percent. *NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'*

08 年度以降	English(スピーキング Ia)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	A. ピアソン

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to use English in academic settings exploring a range of interesting and provocative topics. Class time will be spent on speaking activities to help you build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. As well as engaging in skits, debates and group presentations, each student will write and deliver a solo presentation.	Class 1 – Course introduction, orientation Class 2 – First Impressions Class 3 – Traffic Jam Class 4 – Who Needs the Local Language? Class 5 – Getting Ahead: Private Education Class 6 – Forever Single Class 7 – Prepare for Speaking Test Class 8 – Review, confirmation of understanding, quizzes Class 9 – What Are Friends For? Class 10 – What's for Dinner? Class 11 – Cyber Bullying Class 12 – Taking Care of Father Class 13 – Why Go to School? Class 14 – Review, confirmation of understanding, quizzes

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for activities, presentations and tests outside of class time and to participate proactively in each class.
テキスト	*Impact Issues 2*. 2nd edition. Richard Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka (Pearson Longman 2011)
参考文献	
評価方法	Participation 30%; Presentations 20%; Midterm Tests 20%; Final Tests 30%. 原則として4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(スピーキング Ib)_選択 / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	A. ピアソン

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to use English in academic settings exploring a range of interesting and provocative topics. Class time will be spent on speaking activities to help you build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. As well as engaging in skits, debates and group presentations, each student will write and deliver a solo presentation.	Class 1 – Fall course introduction Class 2 – International Relationships Class 3 – Too Little, Too Late: Environment Class 4 – Ben and Mike: Rumors Class 5 – Government Control Class 6 – Living Together Class 7 – Prepare for Speaking Test Class 8 – Review, confirmation of understanding, quizzes Class 9 – Size Discrimination Class 10 – Who Will Help Them?: Refugees Class 11 – Finding the Right One: Relationships Class 12 – Dress for Success Class 13 – A Mother's Story: The Death Penalty Class 14 – Review, confirmation of understanding, quizzes

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for activities, presentations and tests outside of class time and to participate proactively in each class.
テキスト	*Impact Issues 2*. 2nd edition. Richard Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka (Pearson Longman 2011)
参考文献	
評価方法	Participation 30%; Presentations 20%; Midterm Tests 20%; Final Tests 30%. 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(スピーキング IIa)_選択 / (Speaking in Academic Contexts IIa: Presentation)	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル人材のスキル： 英語プレゼンテーション グローバルな企業や組織で働くのに、今や英語でのプレゼンテーション力は必須である。多国籍メンバーがいる部署内での打合せ、上層部への提案、海外とのTV会議、海外でのプロモーションや展示会など、国内外さまざまな場面でプレゼンテーションが求められている。 本コースでは PowerPoint Presentation を中心に、「英語プレゼンテーションの基礎知識」から始め、準備の要領や発表の方法を学ぶ。その後、4つのプロジェクト（個人2つ、グループ2つ）に取り組み、それぞれについてプレゼンテーションを行う。最初は1分間程度（グループは5分程度）の短いものから始める。初めから完成されたものを目指さず、数をこなしながら徐々に技術を磨いていく方式で授業を進める。 英語プレゼンと聞くとハードルが高く感じるかもしれないが、ポイントはいかに「やさしい英語」を使ってノンネイティブの人たちにも理解してもらえるようなトークができるかである。Join us and have fun!	W1：Orientation; Basics of an English Presentation W2：Mission 1: "INTRODUCE YOURSELF"（Step 1: Write a Speech） W3：Mission 1: (Step 2: Make PowerPoint Slides) W4：Mission 1: Give a Presentation (Video-record) W5：Mission 2: "GIVE YOUR IDEAS"（Step 1: Write a Speech） W6：Mission 2: (Step 2: Make PowerPoint Slides) W7：Mission 2: Give a Presentation (Video-record) W8：Review W9：Mission 3: "NICE PLACES IN JAPAN" (Step 1: Write a Speech) W10：Mission 3: (Step 2: Make PowerPoint Slides) W11：Mission 3: Give a Presentation (Video-record) W12：Mission 4: " SUMMER PLANS" (Step 1: Write a Speech) W13：Mission 4: (Step 2: Make PowerPoint Slides) W14：Mission 4: Give a Presentation (Video-record)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1）事前：教科書のサンプルを読む、WORDS & PHRASES と EXPRESSIONS に目を通す、自分のトピックを決める 2）事後：ビデオで自分のパフォーマンスを見る、 自己評価をし、改善点を見つける
テキスト	*One-minute Presentation in English*（Noboru Matsuoka & Kazuo Sobajima, Shohakusha
参考文献	TED オフィシャルサイト https://www.ted.com/#/
評価方法	80% from presentation performances; 20% from papers. S:100-90%, A:89-80%, B:79-70%, C:69-60%, Failure：59% or below. In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F.

08 年度以降	English(スピーキング IIb)_選択 / (Speaking in Academic Contexts IIb: Presentation)	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
A Skill for Global Human Resources: English Presentation The purpose of this course is to provide students with a skill of giving a presentation in English, which is urgently sought after in many international businesses today. Presentation is a way of giving information to a group of people, usually in a formal way. Therefore, there are some certain techniques to be employed. To learn to make it more effective, persuasive and impressive, another four projects will be assigned in the fall semester. Two of them will be done by individuals and the other two by groups. Through these projects with a variety of topics, strategies will be learned for improving fluency, accuracy and effectiveness in speaking and giving a presentation. 後期からの履修も可。	W1：Orientation; Basics of an English Presentation (Review) W2：Mission 5: "CLASSMATES" (Step 1: Write a Speech) W3：Mission 5: (Step 2: Make PowerPoint Slides) W4：Mission 5: Give a Presentation (Video-record) W5：Mission 6: "JAPANESE CULTURE" (Step 1: Write a Speech) W6：Mission 6: (Step 2: Make PowerPoint Slides) W7：Mission 6: Give a Presentation (Video-record) W8：Review W9：Mission 7: "SOLVE PROBLEMS" (Step 1: Write a Speech) W10：Mission 7: (Step 2: Make PowerPoint Slides) W11：Mission 7: Give a Presentation (Video-record) W12：Mission 8: "FUTURE PLANS" (Step 1: Write a Speech) W13：Mission 8: (Step 2: Make PowerPoint Slides) W14：Mission 8: Give a Presentation (Video-record)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1）Preparation：Read sample presentations, learn vocabulary and expressions, and prepare your own topic to talk about. 2）Review：Look at your own performance on a recorded video. Self-evaluate and see where/why you went wrong.
テキスト	*One-minute Presentation in English*（Noboru Matsuoka & Kazuo Sobajima, Shohakusha
参考文献	TED - Ideas Worth Spreading https://www.ted.com/#/
評価方法	80% from presentation performances; 20% from papers. S:100-90%, A:89-80%, B:79-70%, C:69-60%, Failure：59% or below. In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F.

08 年度以降	English(スピーキング IIa)_選択 / (Speaking in Academic Contexts IIa)	担当者	J．ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
We will learn how to make presentations more exciting, more interesting. We will begin with a textbook, then go from there. We will do and watch presentations.　We will use YouTube, TED talks, etc. Students will do major presentations each semester. We will analyze presentations each semester.　There will be new vocabulary introduced and quizzed. Leaning takes practice. To learn, you must come to class. In principle 4 or more absences will result in an F or X Questions or problems, send me an e-mail: sumiink@hotmail.com	1. Introduction 2. Chapter 1, A Motto for life 3. Exploring introductions 4. Chapter 2, Young people today 5. Signaling 6. Chapter 3 Dream vacation 7. Important points 8. Midterm presentation 9. Chapter 4, How the world works 10. Summing up 11. Chapter 5, In my opinion 12. Concluding conclusions 13. Chapter 6, In the News 14. Final presentation

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	You will compose presentations, and view professional presentations outside of class. A good presentation requires practice.
テキスト	Present Yourself 2, Viewpoints, Gershon, Cambridge
参考文献	none
評価方法	Class work (Formal Presentations): 60% , Homework 15%, Quizzes and examinations 25%

08 年度以降	English(スピーキング IIb)_選択 / (Speaking in Academic Contexts IIb)	担当者	J．ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
We will learn how to make presentations more exciting, more interesting. We will begin with a textbook, then go from there. We will do and watch presentations.　We will use YouTube, TED talks, etc. Students will do 3 major presentations.　We will analyze 3 professional presentations.　There will be new vocabulary introduced and quizzed. Leaning takes practice. To learn, you must come to class. In principle 4 or more absences will result in an F or X Questions or problems, send me an e-mail: sumiink@hotmail.com	1. Introduction 2. Create first presentation 3. Practice in groups 4. Present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups, begin debate skills 8. Present to the class 9. Analyze and review 10. Begin midterm presentation 11. Practice debating 12. Formal debate 13. Present to full class 14. Presentations review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	You will compose presentations, and view professional presentations outside of class. A good presentation requires practice.
テキスト	No Text, please save the hand outs
参考文献	none
評価方法	Class work (Formal Presentations): 60% , Homework 15%, Quizzes and examinations 25%

08 年度以降	English(リーディング IIIa)_選択 / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa)	担当者	中西　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目（選択）です。 ▽ 対象：外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）で、TOEICスコアがおおむね500点以上の学生を対象とします。 ▽ 選択科目です。春学期のみ、または通年での履修となります。 ▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は英語。 ▽ 指定図書は “Final Draft 2” です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。	1. Writing in English 2. Chapter 1 Paragraphs 3. Chapter 1 Exercise for the brain 4. Chapter 1 Memory techniques 5. Chapter 2 Essential features of effective writing 6. Chapter 2 Body language in transition 7. Chapter 2 The behavior of sports fans 8. Chapter 3 Descriptive paragraphs 9. Chapter 3 Melting pot or salad bowl 10. Chapter 3 The importance of El Grito de delores 11. Chapter 4 Definition paragraphs 12. Chapter 4 Workplace tips for the 21st century 13. Chapter 4 Definition of a team player 14. Review and Final assignment submission

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。
テキスト	指定教科書　Final Draft 2. (Cambridge)
参考文献	授業中に紹介
評価方法	Active Participation　20 %（原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象とならない） Assignments (extensive reading & writing assignments) 50%　Final Exam　30%

08 年度以降	English(リーディング IIIb)_選択 / (Academic Reading and Writing Strategies IIIb)	担当者	中西　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目（選択）です。 ▽ 対象：外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）で、TOEICスコアがおおむね500点以上の学生を対象とします。 ▽ 選択科目です。春学期のみ、または通年での履修となります。 ▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は英語。 ▽ 指定図書は “Final Draft 2” です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります	1. Chapter 5 Opinion Essay 2. Chapter 5 The math teacher wants more arts classes 3. Chapter 5 High school students do not need the Arts 4. Chapter 6 Classification Essay 5. Chapter 6 Eat healthy the Chinese way 6. Chapter 6 Three places to find healthy food 7. Chapter 7 Process Essay 8. Chapter 7 Doctors without borders 9. Chapter 7 Paper bead jewelry 10. Chapter 8 Comparison and Contrast Essay 11. Chapter 8 Marketing to different generations 12. Chapter 8 Paying for college 13. Review Chapters 5-8, Revising and editing 14. Review and Final assignment submission

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。
テキスト	指定教科書　Final Draft 2. (Cambridge)
参考文献	授業中に紹介
評価方法	Active Participation　20 %（原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象とならない） Assignments (extensive reading & writing assignments) 50%　Final Exam　30%

08 年度以降	English(コンテント ii)_選択 / (English Explorations)	担当者	J．ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class is an examination of English words from the perspective of applied linguistics. Through lectures, research, and in-class activities, we will attempt to answer a number of questions about English words including: What is a word? How many English words are there? What does it mean to know a word? How many English words do you know right now? How many English words does a Japanese student need to know? How is vocabulary organized in the mind? Students should have achieved a TOEIC score of around 450 or more before enrolling in this class. Evaluation will be based on a research project, vocabulary quizzes, and a final exam.	Tentative Course Contents 1. Course introduction 2. What is applied linguistics? 3. What is a word? 4. Types of words: content and function words 5. Word families and lemmas 6. Vocabulary testing (This is not a test.) 7. Passive vs. receptive knowledge 8. Types of word knowledge 9. Semantic relations between words 10. Collocations 11. Corpus linguistics 12. Word association 13. Research projects 14. Presentations * Note: This course is only one-semester in length.

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students must conduct a research project outside of class time, prepare a presentation of their findings, and to study vocabulary independently as preparation for in-class quizzes.
テキスト	*Vocabulary for Languages and Linguistics* (著者 J. Racine, T. Nakanishi; 出版社 南雲堂)
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.
評価方法	Participation 15%; Research project and presentation 20%; Vocabulary quizzes 40%, Final exam 25% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

08 年度以降	English(コンテント iii)_選択 / (English Explorations)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
▼ ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部1~4年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。授業活動はすべて英語です。 ▼ English Explorationsという科目では、言語や社会に関するひとつのテーマについて1学期間「英語で」学ぶことにより、テーマに関する理解を深め、英語力と思考力を伸ばします。 ▼ コンテントiiiのテーマは「Critical Thinking」です。Critical thinkingは毎日の生活でも重要なスキルですが、特に大学での学びと研究、さらに職業生活では不可欠な思考法です。授業では英語でCritical thinking に関する基本用語と概念を理解し、よくメディアに取り上げられる調査結果など身近な題材を使って、議論や主張とその論拠を批判的に分析する練習をします。次のアカデミック英語スキルを伸ばします。(1) academic vocabulary, (2) analytical reading and writing (3) listening, (4) discussion, and (5) group presentation. ▼ MyDOCを使って学習活動、資料配布、課題提出をします。 ▼ TOEIC400点以上を受講生の英語力の目安としますが、積極的に英語を使い授業に参加する努力ができる学生であればその限りではありません。	1. Course introduction 2. What is critical thinking? 3. What is critical thinking?: Facts and opinions 4. What is critical thinking?: Putting evaluation into practice 5. Assessing arguments: Recognising strong or sound arguments 6. Assessing arguments: Strong or sound arguments 7. Assessing arguments: Poor argumentation strategies 8. Persuasion through language or pressure 9. Detecting bias: interviews, researchers, sources of funding 10. Detecting bias in research on a controversial issue 11. Individual/Group research: Reading and analysing arguments 12. Individual/Group research, academic presentation 13. Individual/Group research, effective slides and presentation 14. Individual/Group presentation & feedback

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	毎回の授業後、次の授業までに教科書・補助教材の指定箇所の学習と課題提出を行う。
テキスト	Nukui,C. (2015). *Critical Thinking: Student's Book*. Garnet. Reading: UK
参考文献	参考文献情報とその他教材は MyDOC で配布。
評価方法	Participation and homework (blogs & discussions on MyDOC) 30%; Research project and presentation 40%; Final exam 30%

08 年度以降	English(資格 I)_選択 / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原　伸一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として語彙を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。	1 リスニング写真描写 2 リスニング応答 3 リスニング会話 4 リスニング説明文 5 文法短文穴埋め 6 語彙短文穴埋め 7 文法長文穴埋め 8 語彙長文穴埋め 9 読解 10 リスニング写真描写・短文穴埋め 11 リスニング応答・短文穴埋め 12 リスニング会話・長文穴埋め 13 リスニング説明文・読解 14 総括

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業において使用したプリントについて、誤った部分を中心に復習する。また、次回の授業の理解を深めるため、単語リストの予習を行う。
テキスト	授業において、指示します。
参考文献	授業において、指示します。
評価方法	原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。

08 年度以降	English(資格 I)_選択 / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原　伸一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として語彙を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。	1 リスニング写真描写 2 リスニング応答 3 リスニング会話 4 リスニング説明文 5 文法短文穴埋め 6 語彙短文穴埋め 7 文法長文穴埋め 8 語彙長文穴埋め 9 読解 10 リスニング写真描写・短文穴埋め 11 リスニング応答・短文穴埋め 12 リスニング会話・長文穴埋め 13 リスニング説明文・読解 14 総括

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業において使用したプリントについて、誤った部分を中心に復習する。また、次回の授業の理解を深めるため、単語リストの予習を行う。
テキスト	授業において、指示します。
参考文献	授業において、指示します。
評価方法	原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。

08 年度以降	English(資格 II)_選択 / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
In rapidly globalizing society, English competence is no longer just a nice skill to have – it is a necessary skill for success in various fields. The purpose of this course is to provide students with good communication skills in English and, as a consequence, help them get a high score on the TOEIC L&R Test. For this purpose, a TOEIC Listening/Reading workbook will be used as a main textbook, focusing on both listening and reading exercises. The course activities also include intensive and extensive vocabulary-building exercises and quick reviews on grammar they learned in high school to totally strengthen their command of English. Students are expected to work hard both in class and at home so that all of them can score more than 730 points on the TOEIC L&R when they finish the course.　N.B.: This class is basically for students with a TOEIC score of 400 and above.	Week 1：Orientation; About International Communication and TOEIC Week 2：Chapters 1, 2: Shopping; At a Restaurant Week 3：Chapters 3, 4: Transportation; Entertainment Week 4：Chapters 5, 6 : Accommodation; Employment Week 5：How to break through the "Wall of Speed" Week 6：Chapters 7, 8: Communication; Negotiating Week 7：Chapters 9, 10: Giving a Presentation; Appointments Week 8：How to break through the "Wall of Pronunciation" Week 9：Chapters 11, 12: Public Facilities; On the Street Week 10：Chapters 13, 14: Vacation; Environment Week 11：Chapters 15, 16: Housing; Meetings Week 12：Chapters 17, 18: Business Performance; Handling Complaints Week 13: Chapters 19, 20: Advertising; At a Factory Week 14：Review; TOEIC L&R Mock Test (100 Qs/60 min)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1）Preparation：Work out your answers to all the questions in designated Chapters. Also, be prepared for a "snowballing" vocabulary quiz.　2）Review: Read transcriptions of listening audio to check where you made mistakes.
テキスト	*Beat Your Best Score on the TOEIC L&R Test* Noboru Matsuoka, et al. Shohakusha
参考文献	TOEIC 公式ウェブサイト https://www.iibc-global.org/toeic.html
評価方法	50% from Vocabulary Quizzes, 50% from TOEIC Mock Tests; AA:100-90、A:89-80、B:79-70、C:69-60、Failure：59 or below. In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F.

08 年度以降	English(資格 II)_選択 / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
In rapidly globalizing society, English competence is no longer just a nice skill to have – it is a necessary skill for success in various fields. The purpose of this course is to provide students with good communication skills in English and, as a consequence, help them get a high score on the TOEIC L&R Test. For this purpose, a TOEIC Listening/Reading workbook will be used as a main textbook, focusing on both listening and reading exercises. The course activities also include intensive and extensive vocabulary-building exercises and quick reviews on grammar they learned in high school to totally strengthen their command of English. Students are expected to work hard both in class and at home so that all of them can score more than 730 points on the TOEIC L&R when they finish the course.　N.B.: This class is basically for students with a TOEIC score of 400 and above.	Week 1：Orientation; About International Communication and TOEIC Week 2：Chapters 1, 2: Shopping; At a Restaurant Week 3：Chapters 3, 4: Transportation; Entertainment Week 4：Chapters 5, 6 : Accommodation; Employment Week 5：How to break through the "Wall of Speed" Week 6：Chapters 7, 8: Communication; Negotiating Week 7：Chapters 9, 10: Giving a Presentation; Appointments Week 8：How to break through the "Wall of Pronunciation" Week 9：Chapters 11, 12: Public Facilities; On the Street Week 10：Chapters 13, 14: Vacation; Environment Week 11：Chapters 15, 16: Housing; Meetings Week 12：Chapters 17, 18: Business Performance; Handling Complaints Week 13: Chapters 19, 20: Advertising; At a Factory Week 14：Review; TOEIC L&R Mock Test (100 Qs/60 min)

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	1）Preparation：Work out your answers to all the questions in designated Chapters. Also, be prepared for a "snowballing" vocabulary quiz.　2）Review: Read transcriptions of listening audio to check where you made mistakes.
テキスト	*Beat Your Best Score on the TOEIC L&R Test* Noboru Matsuoka, et al. Shohakusha
参考文献	TOEIC 公式ウェブサイト https://www.iibc-global.org/toeic.html
評価方法	50% from Vocabulary Quizzes, 50% from TOEIC L&R Mock Tests; AA:100-90、A:89-80、B:79-70、C:69-60、Failure：59 or below. In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F.

08 年度以降	English(資格 III)_選択 / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
▼ ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部1～4年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。目安としてTOEIC450点以上の学生が対象です。将来、英語圏大学への留学を考えている学生、TOEIC以外の国際的な英語検定試験に関心がある学生、より高度なアカデミック英語を学びたい学生に適した科目です。 ▼ TOEFL iBTは、英語圏の大学レベルの英語を理解する能力と、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングスキルを統合して、アカデミックな課題を遂行する能力を評価する試験です。授業では、TOEFL iBT テストの各パートで求められる英語力と基本のtest-taking strategiesを理解し、テスト問題の実践練習を繰返して行います。さらに、テスト問題練習に加え、様々な学習活動を通してアカデミックな英語コミュニケーションの実践力を伸ばす練習も行います。 ▼ MyDOCを使って連絡、教材・資料配布、学習活動、課題提出などをしますので、毎週定期的に確認できるように設定してください。	1. Course introduction 2. Overview of the TOEFL iBT 3. Listening section 4. Writing: Independent (Q2) 5. Writing Integrated (Q1) 6. Reading section 7. Speaking: independent 8. Speaking: integrated (Q3&5) 9. Speaking: integrated (Q4) 10. Summarizing practice : reading and writing 11. Summarizing practice: listening and writing 12. Practice test: integrated Qs 13. Practice test: independent Qs 14. Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、次の授業までに教科書・補助教材の指定箇所の学習と課題提出を行う。
テキスト	ETS (2018). The Official Guide to the TOEFL Test with DVD-ROM. 5th edition. McGrawHill.
参考文献	参考文献情報とその他補助教材は MyDOC で配布
評価方法	Participation (Discussion Forum & Blogs on MyDOC) 20%; Assignments (e.g., Listening/Reading Summary Reports, Criterion Writing) 40 %; Final exam 40%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

08 年度以降	English(資格 IV)_選択 / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	J．ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
Students will be introduced to the format of the IELTS exam at the beginning of the course. Throughout the semester, topic-based units will be explored while focusing on the four skills. A variety of short assignments will also be introduced to help prepare students for sitting the exam. This course is designed to prepare students who plan to write the IELTS exam, but it is also suitable for students who wish to continue studying English and to improve their English skills. Students should have achieved a TOEIC score of around 450 or more before enrolling in this class.	Tentative schedule: 1. Course introduction 2. What is IELTS? 3. On course 4. Campus 5. City university 6. Campus university 7. Knowledge economy 8. Living space 9. Types of houses 10. Film society 11. Television 12. Hydroelectric energy 13. Biomass energy 14. Speaking assignment (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.) * Note: This course is only one-semester in length.

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to complete short reading, writing, and listening assignments outside of class.
テキスト	Achieve IELTS 1 (著者 L. Harrison, C. Cushen; 出版社 National Geographic / Cengage)
参考文献	Students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.
評価方法	Class participation 15%; Homework assignments 50%; Final exam 35%

08 年度以降	English(発音)_選択 / (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期１回のみです。 大学や仕事での様々な場面、特に公の場（プレゼンテーション、ディスカッションなど）で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニカティブな授業活動と、シャドーイングや図書館発話ブースの発音矯正ソフトを用いた練習などの自律的学習を通して身につけます。 ・母音・子音の発音 ・強勢、イントネーション、リズム ・音の短縮・脱落・同化・結合 ・発音記号と辞書の使い方 ・日本語と英語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	1. Course introduction: Ch.2 Overview 2. Ch.3 Voiceless and voiced sounds 3. Ch.1 Your pronunciation profile (Recording) 4. Ch.4 Grammatical endings 5. Ch.5 Word stress in nouns, verbs, & numbers 6. Ch.6 Stress in words with suffixes 7. Ch.7 Rhythm in phrases and sentences 8. Midterm speech presentations 9. Ch.8 Thought groups 10. Ch.9 Focus words 11. Ch.10 Final intonation 12. Ch.11 Linking and sound change 13. Ch.12 Consonant clusters 14. Final speech presentations; Ch. 1 (Recording) ※上記の予定は担当教員により多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照のこと。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習およびスピーチの練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト	Grant, L. (2017). *Well Said*, Fourth Edition. Cengage.
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業参加 30%、課題 10%、中間発表 10%、期末発表 20%、期末試験 30%

08 年度以降	English(発音)_選択 / (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期１回のみです。 大学や仕事での様々な場面、特に公の場（プレゼンテーション、ディスカッションなど）で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニカティブな授業活動と、シャドーイングや図書館発話ブースの発音矯正ソフトを用いた練習などの自律的学習を通して身につけます。 ・母音・子音の発音 ・強勢、イントネーション、リズム ・音の短縮・脱落・同化・結合 ・発音記号と辞書の使い方 ・日本語と英語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	1. Course introduction: Ch.2 Overview 2. Ch.3 Voiceless and voiced sounds 3. Ch.1 Your pronunciation profile (Recording) 4. Ch.4 Grammatical endings 5. Ch.5 Word stress in nouns, verbs, & numbers 6. Ch.6 Stress in words with suffixes 7. Ch.7 Rhythm in phrases and sentences 8. Midterm speech presentations 9. Ch.8 Thought groups 10. Ch.9 Focus words 11. Ch.10 Final intonation 12. Ch.11 Linking and sound change 13. Ch.12 Consonant clusters 14. Final speech presentations; Ch. 1 (Recording) ※上記の予定は担当教員により多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照のこと。

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習およびスピーチの練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。
テキスト	Grant, L. (2017). *Well Said*, Fourth Edition. Cengage
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業参加 30%、課題 10%、中間発表 10%、期末発表 20%、期末試験 30%

08 年度以降	English(基礎文法 a)_選択 / (Special Topics: Grammar Refresher a)	担当者	垣下　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とします。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてます。単なるドリル形式の演習ではなく、会話形式を取り入れながら、実際に活用して、更にはTOEIC問題にもつなげながら、総合的な英語力の向上を図ります。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアーワークで実際に使用する活動を行います。更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図ります。 TOEICの得点が、300点台後半から400点台半ば程度の学生が受講することが望まれます。	1. オリエンテーション、現在形 2. 現在形・現在進行形 3. 現在進行形 4. 過去形、過去進行形 5. 現在完了形 6. 現在完了形・過去完了形 7. 受動態 8. 受動態(様々な受動態の表現) 9. 未来形 10. 助動詞(can, could, be able to) 11. 助動詞（推量） 12. 助動詞（依頼、許可） 13. 総合演習 14. 総復習

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各単元ごとに行われる小テストには、よく復習をして臨んでください。
テキスト	田口悦男, Kirsten Snipp 著　『自然に身につく英文法』　(朝日出版社)
参考文献	
評価方法	積極的な授業参加（20%）課題（10%）小テスト（30%）期末試験（40%）とする。 原則として、4 回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(基礎文法 b)_選択 / (Special Topics: Grammar Refresher b)	担当者	垣下　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とします。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてます。単なるドリル形式の演習ではなく、会話形式を取り入れながら、実際に活用して、更にはTOEIC問題にもつなげながら、総合的な英語力の向上を図ります。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアーワークで実際に使用する活動を行います。更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図ります。 TOEICの得点が、300点台後半から400点台半ば程度の学生が受講することが望まれます。	1. オリエンテーション、時制 2. 仮定法（仮定法過去・仮定法過去完了） 3. 仮定法（仮定法現在） 4. 形容詞 5. 比較 6. 比較（最上級） 7. 動名詞 8. 動名詞（動名詞を用いた表現） 9. 不定詞 10. 不定詞（動名詞との比較） 11. 関係詞節（関係代名詞） 12. 関係詞節（関係副詞） 13. 関係詞節（非制限用法） 14. 総復習

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各単元ごとに行われる小テストには、よく復習をして臨んでください。
テキスト	田口悦男, Kirsten Snipp 著　『自然に身につく英文法』　(朝日出版社)
参考文献	
評価方法	積極的な授業参加（20%）課題（10%）小テスト（30%）期末試験（40%）とする。 原則として、4 回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(基礎文法 a)_選択 / (Special Topics: Grammar Refresher a)	担当者	豊田　宣是

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英文法のおさらいをします。文法は、文章を正しく理解し、自分の考えを正確に、わかりやすく伝えるために不可欠なものです。 授業は発表形式で行い、各章の担当者が文法事項と練習問題の解説をします。教員は主にその補助を行います。練習問題の分量が多いので、全てを取り扱うことはできません。 大学の授業は学生が作るものです。学生は自主的に学習し、わからないことがあれば、授業内で積極的に質問し、解決できるように心がけて下さい。	1. Orientation + Module 1: Nouns and articles 2. Module 1: Nouns and articles 3. Module 2: Possessives, pronouns and quantifiers 4. Module 3: Prepositions 5. Module 4: Adjectives and adverbs 6. Module 5: Present tenses 7. Module 6: Past tenses 8. Review 9. Midterm Exam + Review 10. Module 7: Present perfect 11. Module 8: Future forms 12. Module 9: Modal verbs 13. Module 10: Conditionals 14. Final Exam + Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に練習問題を一通り解いて、わからないところを見つけ、授業後に必ず復習してください。
テキスト	Mark Foley, Diane Hall, *MyGrammarLab Intermediate B1/B2,* Pearson.
参考文献	
評価方法	中間試験（35%）＋ 期末試験（35%）＋ 発表（30%）

08 年度以降	English(基礎文法 b)_選択 / (Special Topics: Grammar Refresher b)	担当者	豊田　宣是

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英文法のおさらいをします。文法は、文章を正しく理解し、自分の考えを正確に、わかりやすく伝えるために不可欠なものです。 授業は発表形式で行い、各章の担当者が文法事項と練習問題の解説をします。教員は主にその補助を行います。練習問題の分量が多いので、全てを取り扱うことはできません。 大学の授業は学生が作るものです。学生は自主的に学習し、わからないことがあれば、授業内で積極的に質問し、解決できるように心がけて下さい。	1. Orientation 2. Module 11: Word order 3. Module 11: Sentence Patterns 4. Module 12: Verbs with -ing forms and infinitives 5. Module 13: Reported speech 6. Module 14: Relatives, particles and other clauses 7. Module 15: Linking words 8. Midterm Exam + Review 9. Module 16:　Passive forms 10. Module 17: Word combinations 11. Module 18: Word formation 12. Module 19: Formal and written English 13. Module 20: Spoken English 14. Final Exam + Review

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に練習問題を一通り解いて、わからないところを見つけ、授業後に必ず復習してください。
テキスト	Mark Foley, Diane Hall, *MyGrammarLab Intermediate B1/B2,* Pearson.
参考文献	
評価方法	中間試験（35%）＋ 期末試験（35%）＋ 発表（30%）

08 年度以降	English(基礎文法 a)_選択 / (Special Topics: Grammar Refresher a)	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標とする。また、補助教材等を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。TOEICの得点が400点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 現在形・現在進行形 3. 過去形・過去進行形 4. 動名詞、so, neither の用法 5. 現在完了形と現在完了進行形 6. 現在完了形と過去形 7. 6回目の授業までのまとめ 8. 疑問文 9. 過去完了・過去完了進行形 10. 目的語を2つ取る動詞、時を表す節 11. 間接話法（1） 12. 助動詞の用法 13. 推量の表現 14. both, neither; all, none の用法

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で行う予定の解説を読み、問題を解いておくこと。授業内容を振り返り、教室外での学習に反映すること。
テキスト	*Grammar three Third Edition* (Oxford University Press)
参考文献	授業において指示する。
評価方法	授業への参加の姿勢（30%）、課題等の提出（30%）、期末テスト（40%）。原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならない。

08 年度以降	English(基礎文法 b)_選択 / (Special Topics: Grammar Refresher b)	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標とする。また、補助教材等を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。TOEICの得点が400点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、仮定法過去・不可算名詞 2. 不定詞、使役動詞 3. need + ing; have/got something done の用法 4. 関係詞 5. 間接疑問文 6. 必要・義務の表現、動詞句 7. 付加疑問・願望の表現（1）、可算名詞 8. 義務の表現 9. 不定詞（2）、動名詞（2） 10. 副詞・願望の表現（2） 11. 受動態（時制との関連） 12. 受動態（byの使用について、助動詞との併用） 13. 仮定法過去完了 14. 時制のまとめ

到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で行う予定の解説を読み、問題を解いておくこと。授業内容を振り返り、教室外での学習に反映すること。
テキスト	*Grammar three Third Edition* (Oxford University Press)
参考文献	授業において指示する。
評価方法	授業への参加の姿勢（30%）、課題等の提出（30%）、期末テスト（40%）。原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならない。

	基礎コース　ドイツ語（Ｉａ 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです映像と音声はすべて Web の専用ページで PC でもスマホでも視聴できるようになっています。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1.　ドイツ語学習への導入 2.　Lektion 1 Ankunft in Berlin 3.　Lektion 1 同：まとめ 4.　Lektion 2 Beim Bäcker 5.　Lektion 2 同：まとめ 6.　Lektion 3 Sprachkurs 7.　Lektion 3 同：まとめ 8.　Lektion 4 In der Mensa 9.　Lektion 4 同：まとめ 10.　Lektion 5 Beim Arzt 11.　Lektion 5 同：まとめ 12.　Lektion 6 Beim Studentenwohnheim 13.　Lektion 6 同：まとめ 14.　ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	イツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht’s nach Berlin! und danach』（朝日出版社）2017 年
参考文献	適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	基礎コース　ドイツ語（Ｉｂ 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。映像と音声はすべて Web の専用ページで PC でもスマホでも視聴できるようになっています。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1.　既習事項の復習と新学期への導入 2.　Lektion 7 Zum Wannsee 3.　Lektion 7 同：まとめ 4.　Lektion 8 Beim Friseur 5.　Lektion 8 同：まとめ 6.　Lektion 9 In einem Biergarten 7.　Lektion 9 同：まとめ 8.　Lektion 10 In einer Boutique 9.　Lektion 10 同：まとめ 10.　Lektion 11 Philipps Geburtstag 11.　Lektion 11 同：まとめ 12.　Lektion 12 Vor der Abreise 13.　Lektion 12 同：まとめ 14.　ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht’s nach Berlin! und danach』（朝日出版社）2017 年
参考文献	適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	総合コース　ドイツ語（Ｉa 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4級に合格できるレベル達成を目指します。　言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。映像と音声はすべてWebの専用ページでPCでもスマホでも視聴できます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1.　ドイツ語学習への導入 2.　Lektion 1 Ankunft in Berlin 3.　Lektion 1 同：まとめ 4.　Lektion 2 Beim Bäcker 5.　Lektion 2 同：まとめ 6.　Lektion 3 Sprachkurs 7.　Lektion 3 同：まとめ 8.　Lektion 4 In der Mensa 9.　Lektion 4 同：まとめ 10.　Lektion 5 Beim Arzt 11.　Lektion 5 同：まとめ 12.　Lektion 6 Beim Studentenwohnheim 13.　Lektion 6 同：まとめ 14.　ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht's nach Berlin! und danach』（朝日出版社）2017 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	総合コース　ドイツ語（Ｉb 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4級に合格できるレベル達成を目指します。　言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。映像と音声はすべてWebの専用ページでPCでもスマホでも視聴できます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1.　既習事項の復習と新学期への導入 2.　Lektion 7 Zum Wannsee 3.　Lektion 7 同：まとめ 4.　Lektion 8 Beim Friseur 5.　Lektion 8 同：まとめ 6.　Lektion 9 In einem Biergarten 7.　Lektion 9 同：まとめ 8.　Lektion 10 In einer Boutique 9.　Lektion 10 同：まとめ 10.　Lektion 11 Philipps Geburtstag 11.　Lektion 11 同：まとめ 12.　Lektion 12 Vor der Abreise 13.　Lektion 12 同：まとめ 14.　ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト	清野智昭：『Meine Deutschstunde. Auf geht's nach Berlin! und danach』（朝日出版社）2017 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	総合コース　ドイツ語（Ｉａ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 Guten Tag, wie gehts? 3. Lektion 1 Begrüßung und Verabschiedung 4. Lektion 1 Herkunft, Wohnort 5. Lektion 2 Familie! Familie? 6. Lektion 2 Familie und Partnerschaft 7. Lektion 2 Beruf und Ausbildung 8. Lektion 2 Familienstand 9. Lektion 3 In meiner Freizeit 10. Lektion 3 Freizeitaktivitäten 11. Lektion 3 Veranstaltungen 12. Lektion 3 Wochenende und Tageszeiten 13. Lektion 3 Unterrichtssprache 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト	Akamatsu, Enrico / Meyer, Andreas 2016: プラン D Plan D　Deutsch für Anfänger Kursbuch und Arbeitsbuch　CD[MP3 付き, 三修社
参考文献	適宜指示します。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	総合コース　ドイツ語（Ｉｂ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 4 So wohne ich 3. Lektion 4 Wohnung: Größe, Stockwerke 4. Lektion 4 Möbel und Elektrogeräte 5. Lektion 4 Farben 6. Lektion 5 Mein Tag 7. Lektion 5 Alltagsaktivitäten und Tagesablauf 8. Lektion 5 Uhrzeit 9. Lektion 5 Verabredung 10. Lektion 6 Studieren und Lernen 11. Lektion 6 Universität und Campus 12. Lektion 6 Große Zahlen 13. Lektion 6 Präsentation 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト	Akamatsu, Enrico / Meyer, Andreas 2016: プラン D Plan D　Deutsch für Anfänger Kursbuch und Arbeitsbuch　CD[MP3 付き, 三修社
参考文献	適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	基礎コース　ドイツ語（Ⅱa 基礎）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2)1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 Wo warst du in den Ferien? 3. Lektion 1 同：まとめ 4. Lektion 2 Wohin stele ich den Computer? 5. Lektion 2 同：まとめ 6. Lektion 3 Hast du Lust mitzukommen? 7. Lektion 3 同：まとめ 8. Lektion 4 Wie gefällt dir das rote Kleid? 9. Lektion 4 同：まとめ 10. Lektion 5 Warum studierst du Wirtschaft? 11. Lektion 5 同：まとめ 12. Lektion 6 Hast du dich erkältet? 13. Lektion 6 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017 年
参考文献	適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	基礎コース　ドイツ語（Ⅱb 基礎）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2)1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 Ist der Skytree höher als der Turm? 3. Lektion 7 同：まとめ 4. Lektion 8 Wann wurde die Berliner Mauer gebaut? 5. Lektion 8 同：まとめ 6. Lektion 9 Wie heißt der Musiker? 7. Lektion 9 同：まとめ 8. Lektion 10 Hätten Sie vielleicht Zeit für mich? 9. Lektion 10 同：まとめ 10. Lektion 11 Wie feiert man Weihnachten? 11. Lektion 11 同：まとめ 12. Lektion 12 Wie wäre es, wenn wir uns in Europa treffen? 13. Lektion 12 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017 年
参考文献	適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	総合コース　ドイツ語（Ⅱa 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2)1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 Wo warst du in den Ferien? 3. Lektion 1 同：まとめ 4. Lektion 2 Wohin stele ich den Computer? 5. Lektion 2 同：まとめ 6. Lektion 3 Hast du Lust mitzukommen? 7. Lektion 3 同：まとめ 8. Lektion 4 Wie gefällt dir das rote Kleid? 9. Lektion 4 同：まとめ 10. Lektion 5 Warum studierst du Wirtschaft? 11. Lektion 5 同：まとめ 12. Lektion 6 Hast du dich erkältet? 13. Lektion 6 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

	総合コース　ドイツ語（Ⅱb 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2)1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 Ist der Skytree höher als der Turm? 3. Lektion 7 同：まとめ 4. Lektion 8 Wann wurde die Berliner Mauer gebaut? 5. Lektion 8 同：まとめ 6. Lektion 9 Wie heißt der Musiker? 7. Lektion 9 同：まとめ 8. Lektion 10 Hätten Sie vielleicht Zeit für mich? 9. Lektion 10 同：まとめ 10. Lektion 11 Wie feiert man Weihnachten? 11. Lektion 11 同：まとめ 12. Lektion 12 Wie wäre es, wenn wir uns in Europa treffen? 13. Lektion 12 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト	生駒美喜ほか：『ドイツ語ベータ』（朝日出版社）2017 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

	総合コース　ドイツ語（Ⅱa 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	1.　既習事項の復習と新学期への導入 2.　Lektion 1 Im Restaurant 3.　Lektion 1 同：まとめ 4.　Lektion 2 Im Hotel 5.　Lektion 2 同：まとめ 6.　Lektion 3 In der Stadt 7.　Lektion 3 同：まとめ 8.　Lektion 4 Reise und Verkehr 9.　Lektion 4 同：まとめ 10.　Lektion 5 Wetter 11.　Lektion 5 同：まとめ 12.　Lektion 6 Gesundheit und Körperpflege 13.　Lektion 6 同：まとめ 14.　ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト	佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver：『CD 付き　スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語（Szenen 2 integriert）』（三修社）2007 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	総合コース　ドイツ語（Ⅱb 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	1.　既習事項の復習と新学期への導入 2.　Lektion 7 Geschenke und Einladungen 3.　Lektion 7 同：まとめ 4.　Lektion 8 Lebenslauf und Schulsystem 5.　Lektion 8 同：まとめ 6.　Lektion 9 Müll und Umwelt 7.　Lektion 9 同：まとめ 8.　Lektion 10 Feste und Feiertage 9.　Lektion 10 同：まとめ 10.　文法のまとめ 11.　名詞と代名詞 12.　疑問詞 13.　前置詞 14.　総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る
テキスト	佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver：『CD 付き　スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語（Szenen 2 integriert）』（三修社）2007 年
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行う。

	ドイツ語（Ⅲa 会話）	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語Ⅲ」を終えた時点でGoethe-InstitutのZD (Zertifikat Deutsch)および独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにしたDVD教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 Hallo Julia! 3. Abschnitt 1 同：まとめ 4. Abschnitt 2 Zu Hause 5. Abschnitt 2 同：まとめ 6. Abschnitt 3 Was machst du? 7. Abschnitt 3 同：まとめ 8. Abschnitt 4 Probleme 9. Abschnitt 4 同：まとめ 10. Abschnitt 5 Die Boutique 11. Abschnitt 5 同：まとめ 12. Abschnitt 6 Wie schmeckt's? 13. Abschnitt 6 同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト	Treffpunkt Berlin 1　プリントを配布します。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

	ドイツ語（Ⅲb 会話）	担当者	D．オルランド

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語Ⅲ」を終えた時点でGoethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 7 Wie gefällt dir das? 3. Abschnitt 7 同：まとめ 4. Abschnitt 8 Geburtstag 5. Abschnitt 8同：まとめ 6. Abschnitt 9 Arbeit 7. Abschnitt 9同：まとめ 8. Abschnitt 10 Besuch 9. Abschnitt 10 同：まとめ 10. Abschnitt 11 Berlin 11. Abschnitt 11 同：まとめ 12. Abschnitt 12 Sport 13. Abschnitt 12同：まとめ 14. ポイントの総復習

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト	Treffpunkt Berlin 1　プリントを配布します。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	学期末テスト 80%、平常点 20%、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

	基礎コース　フランス語（Ｉａ 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週1回の授業で2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、*Tome 1* の第5課まで進む予定。	1.　ガイダンス 2.　発音と綴り字の読み方 3.　第 1 課前半 4.　第 1 課後半 5.　第 2 課前半 6.　第 2 課後半 7.　第 3 課前半 8.　第 3 課後半 9.　第 3 課までのまとめ 10.　第 4 課前半 11.　第 4 課後半 12.　第 5 課前半 13.　第 5 課後半 14.　まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Tome 1*（第三書房）
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	基礎コース　フランス語（Ｉｂ 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週1回の授業で2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、*Tome 1* の第6課から第10課まで進む予定。	1.　ガイダンス、春学期の復習 2.　第 6 課前半 3.　第 6 課後半 4.　第 7 課前半 5.　第 7 課後半 6.　第 8 課前半 7.　第 8 課後半 8.　第 8 課までのまとめ 9.　第 9 課前半 10.　第 9 課後半 11.　第 10 課前半 12.　第 10 課後半 13.　annexe など 14.　まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Tome 1*（第三書房）
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	総合コース　フランス語（Ｉａ 総合 J）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で（Ｉａ 総合J）は日本人講師、（Ｉａ 総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ｉａ 総合F）とのペアでしか受講できない。 この（Ｉａ 総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、 文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1b 3. 2a 4. 2b 5. 3a 6. 3b 7. 4a 8. 4b 9. 5a 10. 5b 11. 6a 12. 6b 13. 7a 14. 7a までの révision, bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて担当教員より指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	総合コース　フランス語（Ｉｂ 総合 J）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で（Ｉｂ 総合J）は日本人講師、（Ｉｂ 総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ｉｂ 総合F）とのペアでしか受講できない。 この（Ｉｂ 総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a 4. 8b 5. 9a 6. 9b 7. 10a 8. 10b 9. 10b までの révision bilan 10. 11a 11. 11b 12. 12a 13. 12b 14. 12b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて担当教員より指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	総合コース　フランス語（Ｉａ 総合 F）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ｉａ 総合J：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ｉａ 総合J）とのペアでしか受講できない。 この（Ｉａ 総合F）では特に会話表現の習得が中心になる。 実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1b 3. 2a 4. 2b 5. 3a 6. 3b 7. 4a 8. 4b 9. 5a 10. 5b 11. 6a 12. 6b 13. 7a 14. 7a までの révision, bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	総合コース　フランス語（Ｉｂ 総合 F）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ｉｂ 総合J：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ｉｂ 総合J）とのペアでしか受講できない。 この（Ｉｂ 総合F）では特に会話表現の習得が中心になる。 実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すか、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a 4. 8b 5. 9a 6. 9b 7. 10a 8. 10b 9. 10b までの révision bilan 10. 11a 11. 11b 12. 12a 13. 12b 14. 12b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	フランス語（Ⅰa 表現）	担当者	M．デルヴロワ

講義目的、講義概要	授業計画
学年を問わず受講できるフランス語会話・表現の入門授業です。動画や音楽（シャンソン）を多用しながらフランス語会話の基本表現を覚え、少しずつ表現できる内容を増やしていきます。 春学期は挨拶や自己紹介といったごく簡単な対話から出発し、誰かを招待する、お祝いをする、予約をするといった場面へと進んでいきます。日常生活の様々な場面を題材として、聞き取りと発音、表現の練習をします。 基本例文を繰り返し声に出す練習、例文の一部を別の単語に代えて言い直してみる練習をすることで、基本的なフランス語会話・表現ができるようになることを目指します。	1. 授業内容の説明 2. 発音とつづり＆数字 3. 挨拶と自己紹介 4. 基本的な動詞とその活用 5. 天気と年月日の表現 6. フランス語の童謡 7. 誰かを招待する 8. 招待を受ける、拒否する 9. お祝いをする 10. 予約をする 11. ヴァカンスに出掛ける 12. 過去の出来事の表現 13. 週末の話をする 14. まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	繰り返しの筆記と発声によって、授業中に登場した単語の発音・綴り・意味を覚えること。 毎回の平常点によって評価するため、教員の指示する予習・復習に忘れずに取り組むこと。
テキスト	指定しない。印刷物を配布する。
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点 100%。授業への参加度と課題（授業中の口頭発表の準備）によって評価。

	フランス語（Ⅰb 表現）	担当者	M．デルヴロワ

講義目的、講義概要	授業計画
学年を問わず受講できるフランス語会話・表現の入門授業です。動画や音楽（シャンソン）を多用しながらフランス語会話の基本表現を覚え、少しずつ表現できる内容を増やしていきます。 秋学期は家族のことや大学について、子ども時代のことなどを話す練習をすることでフランス語会話・表現の幅を広げていきます。 基本例文を繰り返し声に出す練習、例文の一部を別の単語に代えて言い直してみる練習をすることで、基本的なフランス語会話・表現ができるようになることを目指します。	1. 授業内容の説明 2. 誰かのことを話題にする 3. 家族の話をする 4. シャンソンで学ぶフランス語 5. 身の回りの問題について話す 6. 大学の話をする 7. 映画で学ぶフランス語 8. 物語を語る 9. 子ども時代の話をする 10. 賛成・反対を表明する 11. 理由を説明する 12. プレゼンテーションの準備 13. プレゼンテーションとディスカッション 14. まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	繰り返しの筆記と発声によって、授業中に登場した単語の発音・綴り・意味を覚えること。 毎回の平常点によって評価するため、教員の指示する予習・復習に忘れずに取り組むこと。
テキスト	指定しない。印刷物を配布する。
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点 100%。授業への参加度と課題（授業中の口頭発表の準備）によって評価。

	基礎コース　フランス語（Ⅱa 基礎）	担当者	Ｌ．フォンテーヌ

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させていく講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1.　Unité 1 前半 2.　Unité 1 後半 3.　Unité 1 まとめ 4.　Unité 2 前半 5.　Unité 2 後半 6.　Unité 2 まとめ 7.　Unité 3 前半 8.　Unité 3 後半 9.　Unité 3 まとめ 10.　Unité 4 前半 11.　Unité 4 後半 12.　Unité 4 まとめ 13.　Unité 5 前半 14.　Unité 5 後半 まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書： *Bis, amicalement*（駿河台出版社）
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	基礎コース　フランス語（Ⅱb 基礎）	担当者	Ｌ．フォンテーヌ

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させていく講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1.　Unité 6 前半 2.　Unité 6 後半 3.　Unité 6 まとめ 4.　Unité 7 前半 5.　Unité 7 後半 6.　Unité 7 まとめ 7.　Unité 8 前半 8.　Unité 8 後半 9.　Unité 8 まとめ 10.　Unité 9 前半 11.　Unité 9 後半 12.　Unité 9 まとめ 13.　Unité 10 前半 14.　Unité 10 後半 まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書： *Bis, amicalement*（駿河台出版社）
参考文献	必要に応じて担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	総合コース　フランス語（Ⅱa 総合 J）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ⅰa/b 総合J）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で、（Ⅱa 総合J）は日本人講師、（Ⅱa 総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ⅱa 総合F）とのペアでしか受講できない。 この（Ⅱa 総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a 3. 13b 4. 14a 5. 14b 6. 15a 7. 15b 8. 15b までの révision bilan 9. 16a 10. 16b 11. 16b までの révision bilan 12. 17a 13. 17b 14. 17b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	総合コース　フランス語（Ⅱb 総合 J）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ⅰa/b 総合J）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で、（Ⅱb 総合J）は日本人講師、（Ⅱb 総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ⅱb 総合F）とのペアでしか受講できない。 この（Ⅱb 総合J）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a 3. 18b 4. 18b までの révision bilan 5. 19a 6. 19b 7. 20a 8. 20b 9. 20b までの révision bilan 10. 21a 11. 21b 12. 22a 13. 22b 14. 22b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	総合コース　フランス語（Ⅱa 総合 F）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ⅰa/b 総合F）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で、（Ⅱa 総合J）は日本人講師、（Ⅱa 総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ⅱa 総合J）とのペアでしか受講できない。 この（Ⅱa 総合F）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a 3. 13b 4. 14a 5. 14b 6. 15a 7. 15b 8. 15b までの révision bilan 9. 16a 10. 16b 11. 16b までの révision bilan 12. 17a 13. 17b 14. 17b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	総合コース　フランス語（Ⅱb 総合 F）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ⅰa/b 総合F）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は*Conversation et Grammaire*で、（Ⅱb 総合J）は日本人講師、（Ⅱb 総合F）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ⅱb 総合J）とのペアでしか受講できない。 この（Ⅱb 総合F）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a 3. 18b 4. 18b までの révision bilan 5. 19a 6. 19b 7. 20a 8. 20b 9. 20b までの révision bilan 10. 21a 11. 21b 12. 22a 13. 22b 14. 22b までの révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。
評価方法	課題等の平常点および試験等：１００％

	基礎コース　スペイン語（Ｉａ 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。 スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	① 発音 ② アクセント ③ 名詞の性・数 ④ 冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞の練習 ⑦ ser, estar動詞の用法 ⑧ ser, estar動詞の用法 ⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用の用法 ⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用の練習 ⑫ 代名詞の用法 ⑬ gustar型動詞の用法 ⑭ gustar型動詞の練習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	基礎コース　スペイン語（Ｉｂ 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。 スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	① 春学期の復習 ② 代名詞の用法（復習） ③ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④ 動詞の活用---直説法現在不規則活用の用法 ⑤ 動詞の活用---直説法現在不規則活用の練習 ⑥ 動詞の活用---再帰動詞 ⑦ 動詞の活用---再帰動詞の練習 ⑧ 再帰動詞の諸用法 ⑨ 動詞の現在形のまとめ ⑩ 動詞の活用---現在完了 ⑪ 動詞の活用---現在進行形 ⑫ 現在分詞と過去分詞の用法 ⑬ 受け身表現 ⑭ 今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	総合コース　スペイン語（Ｉａ 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。 スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 原則としてスペイン語（Ｉa会話）とペアで履修することとなる。	① 発音 ② アクセント ③ 名詞の性・数 ④ 冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞の練習 ⑦ ser, estar動詞の用法 ⑧ ser, estar動詞の用法 ⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用の用法 ⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用の練習 ⑫ 代名詞の用法 ⑬ gustar型動詞の用法 ⑭ gustar型動詞の練習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	総合コース　スペイン語（Ｉｂ 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 原則としてスペイン語（Ｉｂ 会話）とペアで履修することとなる。	① 春学期の復習 ② 代名詞の用法（復習） ③ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④ 動詞の活用---直説法現在不規則活用の用法 ⑤ 動詞の活用---直説法現在不規則活用の練習 ⑥ 動詞の活用---再帰動詞 ⑦ 動詞の活用---再帰動詞の練習 ⑧ 再帰動詞の諸用法 ⑨ 動詞の現在形のまとめ ⑩ 動詞の活用---現在完了 ⑪ 動詞の活用---現在進行形 ⑫ 現在分詞と過去分詞の用法 ⑬ 受け身表現 ⑭ 今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	総合コース　スペイン語（Ｉａ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ｉa文法）とペアで履修することとなる。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉa文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ｉa会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 ① 発音 ② アクセント ③ 名詞の性・数 ④ 冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞の練習 ⑦ ser, estar動詞の用法 ⑧ ser, estar動詞の用法 ⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用の用法 ⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用の練習 ⑫ 代名詞の用法 ⑬ gustar型動詞の用法 ⑭ gustar型動詞の練習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	総合コース　スペイン語（Ｉｂ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ｉb文法）とペアで履修することとなる。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉb文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ｉb会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 ① 春学期の復習 ② 代名詞の用法（復習） ③ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④ 動詞の活用---直説法現在不規則活用の用法 ⑤ 動詞の活用---直説法現在不規則活用の練習 ⑥ 動詞の活用---再帰動詞 ⑦ 動詞の活用---再帰動詞の練習 ⑧ 再帰動詞の諸用法 ⑨ 動詞の現在形のまとめ ⑩ 動詞の活用---現在完了 ⑪ 動詞の活用---現在進行形 ⑫ 現在分詞と過去分詞の用法 ⑬ 受け身表現 ⑭ 今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	基礎コース　スペイン語（Ⅱa 文法）	担当者	水口　良樹

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅰb 文法）の継続の授業である。 現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形（復習） ③ 動詞の活用 --- 再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用の練習 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用の練習 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用の応用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去の練習 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の使い分けの練習 ⑬ 比較表現 --- 比較級 ⑭ 比較表現 --- 最上級

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	基礎コース　スペイン語（Ⅱb 文法）	担当者	水口　良樹

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 文法）の継続の授業である。 **基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象**としている。 接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。初級スペイン語文法の学習を終える。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形の練習 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形の練習 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用の練習 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用の練習 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現の練習 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現の練習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	総合コース　スペイン語（Ⅱa 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅰb 文法）の継続の授業である。 現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 原則としてスペイン語（Ⅱa会話）とペアで履修することを要望する。	① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形（復習） ③ 動詞の活用 --- 再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用の練習 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用の練習 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用の応用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去の練習 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の使い分けの練習 ⑬ 比較表現 --- 比較級 ⑭ 比較表現 --- 最上級

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	総合コース　スペイン語（Ⅱb 文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 文法）の継続の授業である。 基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。初級スペイン語文法の学習を終える。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 原則としてスペイン語（Ⅱｂ会話）とペアで履修することを要望する。	① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形の練習 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形の練習 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用の練習 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用の練習 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現の練習 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現の練習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	総合コース　スペイン語（Ⅱa 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ⅱa文法）とペアで履修することを要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱa文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱa会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 ① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形（復習） ③ 動詞の活用 --- 再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用の練習 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用の練習 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用の応用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去の練習 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の使い分けの練習 ⑬ 比較表現 --- 比較級 ⑭ 比較表現 --- 最上級

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	総合コース　スペイン語（Ⅱb 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 会話）の継続の授業である。 基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ⅱa文法）とペアで履修することを要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱb文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱb会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 ① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形の練習 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形の練習 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用の練習 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用の練習 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現の練習 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現の練習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語（Ⅲa 講読）	担当者	金澤　直也

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語I, IIを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 なお、スペイン語Ⅱまでに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	主に以下の項目について、会話・講読の授業を行う。 1.　概要 2.　文化（言語：スペイン） 3.　文化（言語：ラテンアメリカ） 4.　文化（芸能） 5.　時事（経済） 6.　時事（政治） 7.　時事（国際関係） 8.　随想（スペインの作家） 9.　随想（ラテンアメリカの作家：北部） 10.　随想（ラテンアメリカの作家：南部） 11.　小説・物語（短編） 12.　小説・物語（長編の一部） 13.　詩（スペイン） 14.　詩（ラテンアメリカ）

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語（Ⅲb 講読）	担当者	金澤　直也

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 講読）スペイン語Ⅲa（講読）の継続の授業である。 スペイン語I, IIを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	主に以下の項目について、会話・講読の授業を行う。 1.　概要 2.　文化（言語：スペイン） 3.　文化（言語：ラテンアメリカ） 4.　文化（芸能） 5.　時事（経済） 6.　時事（政治） 7.　時事（国際関係） 8.　随想（スペインの作家） 9.　随想（ラテンアメリカの作家：北部） 10.　随想（ラテンアメリカの作家：南部） 11.　小説・物語（短編） 12.　小説・物語（長編の一部） 13.　詩（スペイン） 14.　詩（ラテンアメリカ）

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語（Ⅲa 会話）	担当者	C．ガリード

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語I, IIを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。	主に以下の項目について、会話・講読の授業を行う。 1. 概要 2. 文化（言語：スペイン） 3. 文化（言語：ラテンアメリカ） 4. 文化（芸能） 5. 時事（経済） 6. 時事（政治） 7. 時事（国際関係） 8. 随想（スペインの作家） 9. 随想（ラテンアメリカの作家：北部） 10. 随想（ラテンアメリカの作家：南部） 11. 小説・物語（短編） 12. 小説・物語（長編の一部） 13. 詩（スペイン） 14. 詩（ラテンアメリカ）

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語（Ⅲb 会話）	担当者	C．ガリード

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 会話）の継続の授業である。 スペイン語I, IIを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。	主に以下の項目について、会話・講読の授業を行う。 1. 概要 2. 文化（言語：スペイン） 3. 文化（言語：ラテンアメリカ） 4. 文化（芸能） 5. 時事（経済） 6. 時事（政治） 7. 時事（国際関係） 8. 随想（スペインの作家） 9. 随想（ラテンアメリカの作家：北部） 10. 随想（ラテンアメリカの作家：南部） 11. 小説・物語（短編） 12. 小説・物語（長編の一部） 13. 詩（スペイン） 14. 詩（ラテンアメリカ）

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する（100%）。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	基礎コース　中国語（Ⅰa 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法（ピンイン）、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。	1. 授業について・中国語とは [発音入門]声調、単母音等 2. 子音一覧、有気音と無気音、巻舌音　等 3. 複母音、鼻母音、ピンインの読み方の注意点 4. 声調変化、ｒ化、　軽声の高さ　等 5. 第1課　人称代名詞、“是”述語文、“吗”疑問文　等 6. 第2課　姓名、疑問詞“什么”、形容詞述語文　等 7. 第3課　動詞述語文、“有”述語文、指示代名詞　等 8. 第4課　存在の“有”、疑問詞“几”、量詞　等 9. 前半のまとめ、練習　等 10. 第5課　年月日・曜日、語気助詞“了”・“吧”　等 11. 第6課　時刻と時間量、連動文、完了の“了”　等 12. 第7課　場所を表す代名詞、動詞“在”、介詞　等 13. 第8課　動詞“喜欢”、経験の“过”、離合詞、V重畳 等 14. 後半のまとめ、練習　等

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『**老师好！** - 王先生との出会いー』守屋宏則、陳浩、梁月軍　著　郁文堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

	基礎コース　中国語（Ⅰb 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての〝話せる・聴ける〟中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・既習の文法事項を用いて、日常生活に関することを表現する。そのために必要な教科書以外の語彙を補充する。	1. 春学期の復習、発音練習　等 2. 第９課　比較の表現、程度補語、選択疑問文　等 3. 第10課　数量補語、動詞“打算”、助動詞“想”　等 4. 第11課　方向補語、“请”の兼語文、持続の“着”　等 5. 第12課　動作の進行、結果補語、V＋“给”　等 6. 第13課　助動詞“能”“会”“可以”、方位詞、“一下”等 7. 前半のまとめ、練習　等 8. 第14課　“把”文型、方向補語の（基本義と）派生義 9. 第14課　助動詞“要”、副詞の“不用”、可能補語 10. 第15課　条件・仮定を表す“了”、副詞“可能” 11. 第15課　“是…的”文型、疑問詞“怎么” 12. 第16課　近接未来の表現、様態補語、助動詞“应该” 13. 第16課　“让”“叫”“使”の 兼語文、連用修飾の“地” 14. 後半のまとめ、練習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『**老师好！** - 王先生との出会いー』守屋宏則、陳浩、梁月軍　著　郁文堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

	総合コース　中国語（Ⅰa 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法（ピンイン）、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。	1. 授業について・中国語とは[発音入門]声調、単母音等 2. 子音一覧、有気音と無気音、巻舌音　等 3. 複母音、鼻母音、ピンインの読み方の注意点 4. 声調変化、ｒ化、　軽声の高さ　等 5. 第1課　人称代名詞、“是”述語文、“吗”疑問文　等 6. 第2課　姓名、疑問詞“什么”、形容詞述語文　等 7. 第3課　動詞述語文、“有”述語文、指示代名詞　等 8. 第4課　存在の“有”、疑問詞“几”、量詞　等 9. 前半のまとめ、練習　等 10. 第5課　年月日・曜日、語気助詞“了”・“吧”　等 11. 第6課　時刻と時間量、連動文、完了の“了”　等 12. 第7課　場所を表す代名詞、動詞“在”、介詞　等 13. 第8課　動詞“喜欢”、経験の“过”、離合詞、V重畳 等 14. 後半のまとめ、練習　等

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『老师好！ - 王先生との出会いー』守屋宏則、陳浩、梁月軍　著　郁文堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

	総合コース　中国語（Ⅰb 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての〝話せる・聴ける〟中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・既習の文法事項を用いて、日常生活に関することを表現する。そのために必要な教科書以外の語彙を補充する。	1. 春学期の復習、発音練習　等 2. 第９課　比較の表現、程度補語、選択疑問文　等 3. 第10課　数量補語、動詞“打算”、助動詞“想”　等 4. 第11課　方向補語、“请”の兼語文、持続の“着”　等 5. 第12課　動作の進行、結果補語、V＋“给”　等 6. 第13課　助動詞“能”“会”“可以”、方位詞、“一下”等 7. 前半のまとめ、練習　等 8. 第14課　“把”文型、方向補語の（基本義と）派生義 9. 第14課　助動詞“要”、副詞の“不用”、可能補語 10. 第15課　条件・仮定を表す“了”、副詞“可能” 11. 第15課　“是…的”文型、疑問詞“怎么” 12. 第16課　近接未来の表現、様態補語、助動詞“应该” 13. 第16課　“让”“叫”“使”の 兼語文、連用修飾の“地” 14. 後半のまとめ、練習　等

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『老师好！ - 王先生との出会いー』守屋宏則、陳浩、梁月軍　著　郁文堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

	総合コース　中国語（Ⅰa 講読・文法 ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及びその表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方、文法の基礎を学習し、平易な文章の読解ができることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・中国語の発音表記法であるローマ字を用いた“ピンイン”による表記法と発音のルールを知り、単語、フレーズ、文を音読できるようにする。 ・基本的な文型を学習し、作文練習などのドリルで知識を定着化し、さらに既習文型を用いた文章の読解をする。 ・1年間で初級レベルの語彙および基本的文法事項を学び、2年次でさらに発展した学習ができる基礎を作る。	1.　中国語とは？　授業の進め方など 2.　第1課　韻母1、韻母2、声母1、軽声 3.　第2課　声母2、鼻母音、声調変化① 4.　第3課　軽声2、変調②③、ｒ化、声調の組合せ　等 5.　第4課　“是”の文、〝吗〟疑問文、副詞“也”“都” 6.　第5課　〝Ｓ＋Ｖ＋Ｏ〟構造、姓名の言い方 7.　第5課　疑問詞疑問文、選択疑問文 8.　前半のまとめ、練習　など 9.　第6課　名詞述語文、省略疑問文、省略可能な“的” 10.　第6課・第7課　形容詞述語文 11.　第7課　比較文、反復疑問文、指示代名詞のまとめ 12.　第8課　所在の“在”、存在・所有の“有” 13.　第8課　時点と時量、量詞 14.　後半のまとめ、練習　など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　金星堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

	総合コース　中国語（Ⅰb 講読・文法 ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、語彙を増やし、基礎的文法事項を学び「使える単語」「使える言い回し」を増やす。 【講義概要】 ・発音に留意し、「聞いて分かる単語」、「相手に通じる単語」＝「使える単語」にする。 ・基本文型を用いた作文練習などのドリルを通じて知識を定着させ、中国語の初級レベルの文法ルールを知る。 ・それによって平易な文章の読解力をつけ、併せて「文を書く」「話す」などの発信できる力をつけられるように練習する。	1.　春学期の復習、口慣らし 2.　第 9課　前置詞、経験の“过”、数量補語、方位詞 3.　第10課　主述述語文、２つの“了” 4.　第10課　〝有点儿〟と〝一点儿〟、願望・意思の助動詞 5.　第11課　進行の“在”、持続の“着”、連動文 6.　第11課　結果補語、{V／Adj.} を含む連体修飾節 7.　第12課　可能、必然・当然の助動詞、“是～的”構文など 8.　前半のまとめ、練習など 9.　第13課　様態補語、二重目的語をとる動詞 10.　第13課　受身文、動詞の重ね型 11.　第14課　存現文、方向補語 12.　第14課　可能補語、“把”構文 13.　第15課　使役文、副詞“又”と“再”、“不是～吗” 14.　後半のまとめ、練習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　金星堂
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

	基礎コース　中国語（Ⅱa 会話）	担当者	張　継英

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文の内容を理解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1. 授業概要　第1課　**相识**　会話、文法、課文 2. 第1課　ポイント、課后练习 3. 第2課　**樱花季**　会話、文法、課文 4. 第2課　ポイント、課后练习 5. 第3課　**浅草一日游**会話、文法、課文 6. 第3課　ポイント、課后练习 7. 前半の復習など 8. 第4課　**在雨中**　会話、文法、課文 9. 第4課　ポイント、課后练习 10. 第5課　**七夕的心愿**　会話、文法、課文 11. 第5課　ポイント、課后练习 12. 第6課　**焰火的浪漫**　会話、文法、課文 13. 第6課　ポイント、課后练习 14. 後半の復習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『日中ふれあい〝漢語〟教室』李貞愛著　朝日出版社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

	基礎コース　中国語（Ⅱb 会話）	担当者	張　継英

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を読解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1. 春学期の復習、第7課　**教师节**　会話、文法、課文 2. 第7課　ポイント、課后练习 3. 第8課　**学园祭**会話、文法、課文 4. 第8課　ポイント、課后练习 5. 第9課　**双11**　会話、文法、課文 6. 第9課　ポイント、課后练习 7. 前半の復習など 8. 第10課　**秋游**　会話、文法、課文 9. 第10課　ポイント、課后练习 10. 第11課　过年　会話、文法、課文 11. 第11課　ポイント、課后练习 12. 第12課　**成人节**　会話、文法、課文 13. 第12課　ポイント、課后练习 14. 後半の復習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『日中ふれあい〝漢語〟教室』李貞愛著　朝日出版社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

	総合コース　中国語（Ⅱa 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文の内容を理解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1. 復習課　1年次の復習、 2. 第1課　「打电话」　課文、ポイント 3. 第1課　ドリル　・第2課　「接风」　課文 4. 第2課　ポイント・ドリル 5. 第3課　「介绍」　課文、ポイント 6. 第3課　ドリル　・第4課「交通工具1」　課文 7. 第4課　ポイント、ドリル 8. 前半の復習など 9. 第5課　「换钱」　課文、ポイント 10. 第5課　ドリル・第6課　「吃饭」　課文 11. 第6課　ポイント、ドリル 12. 第7課　「生病」　課文、ポイント 13. 第7課　ドリル 14. 後半の復習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　楊凱栄・張麗群著　白帝社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　授業への参加度など 30%

	総合コース　中国語（Ⅱb 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を読解し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1. 春学期の復習、口慣らし 2. 第8課　「交通工具2」　課文、ポイント 3. 第8課　ドリル・第9課「网上聊天儿1」　課文 4. 第9課　ポイント、ドリル 5. 第10課　「网上聊天儿2 」　課文、ポイント 6. 第10課　ドリル・第11課　「买东西」　課文 7. 第11課　ポイント、ドリル 8. 第12課　「爱好」　課文、ポイント、ドリル 9. 前半の復習など 10. 第13課　「坐火车」　課文、ポイント 11. 第13課　ドリル　・第14課「观光(游外滩)」課文 12. 第14課　ポイント、ドリル 13. 第15課　「送行」　課文、ポイント、ドリル 14. 後半の復習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　楊凱栄・張麗群著　白帝社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ⅱa 講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に中国語Ⅰを履修した学生を対象とし、学んだ文法の基礎を確認しつつ更に進んだレベルの文法項目を学習し、150字～350字程度の文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・1年次より量的に多い文章に対し、語の意味を適切に把握し、学んだ文法事項を生かして文の意味を正確に読み取る練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文など練習問題を行い定着した知識とする。 ・1年次に引き続き発音練習を行い、一文ではなく文章を読む練習をする。 ・各課の内容に即して初歩的な中国事情を知る。	1.　1年次の復習、ガイダンス 2.　第1課　「大学生の週末」ポイント、本文 3.　第1課　練習問題 4.　第2課　「食習慣」ポイント、本文 5.　第2課　練習問題 6.　第3課　「北京の交通」ポイント、本文 7.　第3課　練習問題 8.　第4課　「数字の好み」ポイント、本文 9.　第4課　練習問題 10.　第5課　「大学生のアルバイト事情」ポイント、本文 11.　第5課　練習問題 12.　第6課　「集団生活の利点」ポイント、本文 13.　第6課　練習問題 14.　まとめ、練習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

08 年度以降	総合コース　中国語（Ⅱb 講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、中国語Ⅰで学んだ文法の基礎を確認しつつ、更に進んだレベルの文法項目を学習し、やや長い文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「読む」「書く」ことに重点を置く。 ・量的に多い文章に対し、学んだ文法事項を生かして単語・文の意味を正確に読み取り、文章の趣旨を的確に把握する練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう、文章理解をもとに、内容についての中国語の質問に答えるなど、発信できる力を身につける練習をする。 ・春学期に引き続き発音練習を行う。 ・日本文化に大きな影響を与えてきた中国について知る。	1.　春学期の復習、ガイダンス 2.　第7課　「値切る」ポイント、本文 3.　第7課　練習問題 4.　第8課　「贈り物」ポイント、本文 5.　第8課　練習問題 6.　第9課　「中国式の結婚」ポイント、本文 7.　第9課　練習問題 8.　第10課　「共働き世帯」ポイント、本文 9.　第10課　練習問題 10.　第11課　「中国人の人への呼称」ポイント、本文 11.　第11課　練習問題 12.　第12課　「理想の職業」ポイント、本文 13.　第12課　練習問題 14.　まとめ、練習など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

	中国語（Ⅲa 会話）	担当者	馮　曰珍

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中級レベルの語学力を持つ中国語学習者を対象に、より実践的な会話能力を養うことを目指します。 教材は中国語地理、歴史、言語、教育などの内容の会話と短文で構成されている。これらのトピックについて日本との違いなど中国語で会話できるように練習する。 ※初回から教科書を使用するため、初回までに準備しておいてください。	1.　中国菜　程度補語 2.　日本料理について 3.　中国的饮料　把構文 4.　日本茶を紹介する 5.　中国的糕点　“思う”の表現 6.　和菓子について 7.　中国的体育　受け身文 8.　日本の伝統スポーツについて 9.　中国的自然地理　比較文 10.　日本の地形の特徴について 11.　中国的行政区划　可能補語 12.　期末発表の準備 13.　期末発表 14.　まとめ

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストは必ずスムーズに読めるように繰り返し音読をしてくること。
テキスト	『やさしく楽しい中級中国語』　白帝社
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	テスト 50%、予習 25%、発表 25%。

	中国語（Ⅲb 会話）	担当者	馮　曰珍

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中級レベルの語学力を持つ中国語学習者を対象に、より実践的な会話能力を養うことを目指します。 教材は中国語地理、歴史、言語、教育などの内容の会話と短文で構成されている。これらのトピックについて日本との違いなど中国語で会話できるように練習する。	1.　中国的人口与民族　語気助詞 2.　日本の人口について 3.　中国的语言　様態補語　使役文 4.　方言について 5.　中国的历史　物事の順序だてていう 6.　日本の歴史について 7.　中国的教育　関連詞 8.　日本の教育制度について 9.　中国的宗教　複文 10.　日本の神社仏閣について 11.　中国的经济 12.　期末発表の準備 13.　期末発表 14.　まとめ

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストは必ずスムーズに読めるように繰り返し音読をしてくること。
テキスト	『やさしく楽しい中級中国語』　白帝社
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	テスト 50%、予習 25%、発表 25%。

	中国語（Ⅲa 講読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法の定着・発展を図り、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な読解力の養成を目指します。 読解では、急速に発展をしている中国社会の様々な側面、色々な文化現象を体感できる文章を対象に、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。 各課のタイトルからも分かるように楽しめる内容で、中国の様々な社会事情・生活習慣について学べるテキストです。読解力を養いつつ最新の中国文化と社会事情をより深く理解してもらいたいと思います。	１．　第１課「若者よ、図書館へ、博物館へ」読解 ２．　第１課　解読の手がかり（需要～才…） ３．　第２課「癒しのゲーム「旅かえる」」読解 ４．　第２課　解読の手がかり（只要～就…） ５．　第３課「頭の痛い「３時半問題」」読解 ６．　第３課　解読の手がかり（比…晩一点） ７．　第４課「川口市芝園団地一日中の住民、調和への取り組み」読解 ８．　第４課　解読の手がかり（又～又…） ９．　第５課「僕を見て一盲目の音楽家の物語」読解 １０．第５課　解読の手がかり（来自～） １１．第６課「百年前の土地が今日の宝物に」読解 １２．第６課　解読の手がかり（把～） １３．第７課「都市こぼれ話」解読 １４．第７課　解読の手がかり（越来越～）

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に各課の放題鏡（エッセイ）を読んで内容を理解し、本文を予習しておくこと。 また、各課ごとの課題文を訳し、次回に提出すること。
テキスト	『2019 年度版　時事中国語の教科書』朝日出版社
参考文献	授業内で指示します。
評価方法	期末試験 60%・平常点（発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

	中国語（Ⅲb 講読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法の定着・発展を図り、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な読解力の養成を目指します。 読解では、急速に発展をしている中国社会の様々な側面、色々な文化現象を体感できる文章を対象に、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。 各課のタイトルからも分かるように楽しめる内容で、中国の様々な社会事情・生活習慣について学べるテキストです。読解力を養いつつ最新の中国文化と社会事情をより深く理解してもらいたいと思います。	１．　第８課「中国のハリウッド、「横店」」読解 ２．　第８課　解読の手がかり（地地道道） ３．　第９課「AIが治安に大活躍」読解 ４．　第９課　解読の手がかり（～地＋動詞） ５．　第10課「中国卓球界の強さに陰り？」読解 ６．　第10課　解読の手がかり（正在～） ７．　第11課「2000年代生まれ」、「大学入試をどう見る？」読解 ８．　第11課　解読の手がかり（不～，而…） ９．　第12課「命の薬秘話、「私は救世主ではない」」読解 １０．第12課　解読の手がかり（除了…） １１．第13課「今どきの名前に四苦八苦」読解 １２．第13課　解読の手がかり（有＋目的語＋動詞句） １３．第14課「北京、800年の採炭の歴史に幕」解読 １４．第14課　解読の手がかり（形容詞＋得）

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に各課の放題鏡（エッセイ）を読んで内容を理解し、本文を予習しておくこと。 また、各課ごとの課題文を訳し、次回に提出すること。
テキスト	『2019 年度版　時事中国語の教科書』朝日出版社
参考文献	授業内で指示します。
評価方法	期末試験 60%・平常点（発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

	基礎コース　韓国語（Ⅰa 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1.　字母編1課　基本母音 2.　字母編2課　基本子音 3.　字母編3課　合成母音 4.　字母編4課　パッチム 5.　1課　SET1　自己紹介/습니다体 6.　1課　SET2　疑問文 7.　1課　SET3　이/가 아닙니다 8.　2課　SET1　注文 9.　2課　SET2　位置関連 10.　2課　SET3　漢数字 11.　3課　SET1　場所/ 해요体 12.　3課　SET2　好き嫌い/固有数字 13.　3課　SET3　否定形 14.　まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%、小テスト 20%、期末テスト 40%

	基礎コース　韓国語（Ⅰb 基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。	1.　基本事項の確認 2.　4課 SET1　過去形・否定形 3.　4課 SET2　曜日 4.　4課 SET3　時間表現 5.　5課 SET1　敬語表現 6.　5課 SET2　様々な表現 7.　5課 SET3　比較表現 8.　6課 SET1　天気予報 9.　6課 SET2　ㅂ変則・丁寧な命令形 10.　6課 SET3　季節の食べ物 11.　7課 SET1　電話表現・不可能の呉 12.　7課 SET2　理由説明の表現 13.　7課 SET3　誕生日と食べ物・誘いの表現 14.　まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%、小テスト 20%、期末テスト 40%

	総合コース　韓国語（Ⅰa 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1.　字母編1課　基本母音・2課　基本子音 2.　字母編3課　合成母音・4課　パッチム 3.　1課　SET1　自己紹介 4.　1課　SET2　疑問文 5.　1課　SET3　이/가 아닙니다 6.　2課　SET1　注文 7.　2課　SET2　位置関連 8.　2課　SET3　漢数字 9.　復習 10.　3課　SET1　場所 11.　3課　SET2　固有数字 12.　3課　SET3　해요体 13.　3課　SET3　否定形 14.　まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 30%、期末テスト 40%、小テスト 30%

	総合コース　韓国語（Ⅰb 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。	1.　基本事項の確認 2.　4課 SET1　過去形・否定形 3.　4課 SET2　曜日 4.　4課 SET3　時間表現 5.　5課 SET1 過去形 6.　5課 SET2　敬語表現/ 고 싶다 7.　5課 SET3　比較表現 8.　復習 9.　6課 SET1　天気予報 10.　6課 SET2　ㅂ変則 11.　6課 SET2　丁寧な命令形 12.　6課 SET3　季節の食べ物 13.　課外授業（ことわざ・慣用句） 14.　まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 30%、期末テスト 40%、小テスト 30%

	総合コース　韓国語（Ⅰa 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1.　オリエンテーション 2.　1課　文字と発音－短母音・初声 3.　1課　文字と発音－半母音・終声 4.　2課　文字と発音－初声・有声音化 5.　2課　文字と発音－半母音・二重母音・連音化 6.　3課　文字と発音－初声・濃音化 7.　復習 8.　4課　한국사람입니다/ 鼻音化・あいさつことば 9.　4課　입니다/ 이라고 합니다 10.　5課　한국어는 전공이 아니에요/激音化・漢字音 11.　5課　예요 / 가 아니에요 12.　6課　강의실은 계단 옆에 있어요 漢数字 13.　6課　있다/없다 位置表現 14.　まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	李潤玉他『韓国語の世界へ入門編』朝日出版社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 30%、期末テスト 40%、小テスト 30%。

	総合コース　韓国語（Ⅰb 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1.　基本事項の確認 2.　7課　오후에 시간 괜찮아요? 을/를 도 3.　7課　해요体 4.　8課　초등학생에게 태권도를 가르쳐요 에서/에게 5.　8課　指示詞 6.　9課　보통 여섯 시에 일어나요 으로/ 까지/ 에서 7.　9課　固有数字 時を表すことば 8.　10課　야구를 아주 좋아해요　으러/ 부터・까지 9.　10課　해요体と합니다体について 10.　11課　점심 안 먹었어요? 안 用言　으語幹の活用 11.　11課　過去形 12.　12課　봄 방학 때 뭐 할 거예요? 을 거예요/ 고 싶다 13.　12課　命令形 14.　まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	李潤玉他『韓国語の世界へ入門編』朝日出版社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 30%、期末テスト 40%、小テスト 30%。

	基礎コース　韓国語（Ⅱa 講読・会話）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. オリエンテーション 2. 8課 SET1　国の名前・理由の으니까 3. 8課 SET2　ㄷ変則・으変則 4. 8課 SET2　意図の으려고　条件の으면　目的の으러 5. 9課 SET1　時間の順次 아서 6. 9課 SET1　連体形（現在） 7. 9課 SET2　許可の아도 되다　禁止の 으면 안 되다 8. 10課 SET1　連体形の未来・フォーマルな表現 9. 10課 SET2　変則・意志の을 거예요 10. 10課 SET2　可能・不可能の을 수 있다/없다 11. 11課 SET1　進行の고 있다　推測の나 보다 12. 11課 SET2　ㄹ変則/ 病状のオノマトペ・病状の表現 13. 11課 SET2　状態の変化 아지다 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%　期末テスト 40%　小テスト 20%

	基礎コース　韓国語（Ⅱb 講読・会話）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。	1. オリエンテーション 2. 基本事項の確認 3. 12課 SET1　道案内 4. 12課 SET2　連体形（過去）은 후에 5. 12課 SET2　同時の으면서/ 자마자 6. 12課 プレゼンテーション課題発表 7. 13課 SET1　色のことば、ㅎ脱落 8. 13課 SET2　直接引用文 9. 13課 SET2　命令の否定形・推量表現 10. 13課 プレゼンテーション課題発表 11. 14課 SET1　伝聞/ 기の慣用句 12. 14課 SET2　推量の을 것 같다 13. 14課 SET2　予想外の는 줄 알다 14. 14課 プレゼンテーション課題発表

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%　期末テスト 40%　小テスト 20%

	総合コース　韓国語（Ⅱa 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. オリエンテーション 2. 8課 SET1　国の名前・理由の으니까 3. 8課 SET2　ㄷ変則・으変則 4. 8課 SET2　意図の으려고　条件の으면　目的の으러 5. 9課 SET1　時間の順次 아서 6. 9課 SET1　連体形（現在） 7. 9課 SET2　許可の아도 되다　禁止の 으면 안 되다 8. 10課 SET1　連体形の未来・フォーマルな表現 9. 10課 SET2　ㅅ変則・意志の을 거예요 10. 10課 SET2　可能・不可能の을 수 있다/없다 11. 11課 SET1　進行の고 있다　推測の나 보다 12. 11課 SET2　ㄹ変則/ 病状のオノマトペ・病状の表現 13. 11課 SET2　状態の変化 아지다 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%　期末テスト 40%　小テスト 20%

	総合コース　韓国語（Ⅱb 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。	1. オリエンテーション 2. 基本事項の確認 3. 12課 SET1　道案内 4. 12課 SET2　連体形（過去）은 후에 5. 12課 SET2　同時の으면서/ 자마자 6. 12課 プレゼンテーション課題発表 7. 13課 SET1　色のことば、ㅎ脱落 8. 13課 SET2　直接引用文 9. 13課 SET2　命令の否定形・推量表現 10. 13課 プレゼンテーション課題発表 11. 14課 SET1　伝聞/ 기の慣用句 12. 14課 SET2　推量の을 것 같다 13. 14課 SET2　予想外の는 줄 알다 14. 14課 プレゼンテーション課題発表

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%　期末テスト 40%　小テスト 20%

	総合コース　韓国語（Ⅱa 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. オリエンテーション 2. 1課 何年度入学ですか 3. 1課 해요体の作り方 4. 2課 韓国語を一生懸命勉強するつもりです 5. 2課 -을 거예요/ -고/ -지요? 6. 3課 あの靴、ちょっと見せてください 7. 3課 -지만/ 은(形容詞の現在連体形) / -아 주다 8. 4課 よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください 9. 4課 으면/ 는/ 지 않다 10. 5課 一緒に撮った写真を添付しました 11. 5課 은(動詞の過去連体形)/ -네요/ ㄷ変則 12. 6課 発表の時間に遅れてすみません 13. 6課 -시-/ 아서/을/지 못하다 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	李潤玉他 『韓国語の世界へ初中級編』朝日出版社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%　期末テスト 40%　小テスト 20%

	総合コース　韓国語（Ⅱb 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。	1. 基本事項の確認 2. 7課 暑い夏にサムゲタンを食べます 3. 7課 은 적이 있다/없다 / -고 있다 / ㅂ変則 4. 8課 重くないので一人でしますよ 5. 8課 아 있다/ 으니까/ 을게요 6. 9課 パソコンちょっと借りてもいいですか 7. 9課 는데/ 아도 되다/ 르変則 8. 10課 リムジンバスの方がいいでしょうね 9. 10課 겠/ 거든요/ 아야 되다 10. 11課 陶磁器も作ってみましたか 11. 11課 을까요 / 아 보다/ 을 수 있다/없다 12. 12課 韓国の会社に就職しようと思っています 13. 12課 것 같다/ 으려고 하다/ 지 말다 14. まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	李潤玉他 『韓国語の世界へ初中級編』朝日出版社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%　期末テスト 40%　小テスト 20%

	韓国語（Ⅲa 総合 3）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1～2年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1.　1課 復習 2.　2課 復習 3.　3課 会話・読解；図書館で 4.　3課 推量表現 5.　4課 会話・読解；引っ越し祝い 6.　4課 未来連体形 7.　4課 さまざまな表現 8.　5課 会話・読解；手紙 9.　5課 引用形 10.　5課 引用形のさまざまな表現 11.　6課 会話・読解；映画 12.　6課 さまざまな表現 13.　6課名詞化語尾 14.　まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%、期末テスト 40%、小テスト 20%

	韓国語（Ⅲb 総合 3）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を中心に韓国語の円滑なコミュニケーションを取れることを目的とする。	1.　基本事項の確認 2.　7課 会話・読解；東大門市場で 3.　7課 受身形 4.　7課 さまざまな表現 5.　8課 会話・読解；民俗村 6.　8課 さまざまな表現 7.　8課 慣用句 8.　復習 9.　9課 会話・読解；チュソク 10.　9課 使役形 11.　9課 名詞に続く慣用句 12.　10課 会話・読解；日本国会演説 13.　10課 書きことばで使われる表現 14.　まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	特になし。
評価方法	中間テスト 40%、期末テスト 40%、小テスト 20%

	外国語（イタリア語Ⅰa 基礎）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1. ガイダンスと導入（イタリア語のアルファベット） 2. イタリア語の発音について 3. 名詞と定冠詞 4. 名詞と不定冠詞 5. 挨拶の表現、形容詞 6. イタリア語のbe動詞：essere 7. 数字と時刻の表現 8. イタリア語のhave動詞：avere 9. 規則動詞の現在形：-are型と-ere型 10. 規則動詞の現在形：-ire型 11. 前置詞 12. 前置詞と定冠詞の結合形 13. 不規則で重要な動詞（fare, dare, andareなど） 14. 不規則で重要な動詞（bere, sapere, dire, venireなど）

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、教科書に目を通しておくこと。教科書の内容に準拠した練習問題をプリントとして配布するので、知らない単語を辞書で確認し、授業後には練習問題の復習を怠らないこと。
テキスト	教科書：ナンニーニ、藤谷『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』（三修社）／推薦する辞書：授業時に紹介する。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	平素の学習態度（20%）と、授業内に随時行う小テストの成績（80%）による。 あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

	外国語（イタリア語Ⅰb 基礎）	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1. 前期に学習した内容の復習 2. 様態動詞（～できる、～しなくてはならない、～したい） 3. 所有形容詞の活用 4. 所有形容詞と親族名詞 5. 代名動詞の活用 6. 代名動詞の用法 7. 優等比較と劣等比較、同等比較 8. 最上級 9. 近過去と過去分詞 10. 近過去における助動詞の使い分け 11. 半過去の活用 12. 半過去の用法 13. 近過去と半過去の違い 14. 直接・間接目的語代名詞

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、教科書に目を通しておくこと。教科書の内容に準拠した練習問題をプリントとして配布するので、知らない単語を辞書で確認し、授業後には練習問題の復習を怠らないこと。
テキスト	教科書：ナンニーニ、藤谷『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』（三修社）／推薦する辞書：授業時に紹介する。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	平素の学習態度（20%）と、授業内に随時行う小テストの成績（80%）による。 あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

	外国語（イタリア語Ｉa 基礎）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります。 （受講上の注意点） 教科書、辞書は必ず購入して下さい。推奨辞書はガイダンスの際に案内します。	1)　ガイダンス 2)　発音 3)　冠詞 4)　形容詞 5)　所有形容詞 6)　be 動詞現在形 7)　規則動詞現在形 8)　頻出不規則動詞現在形 9)　人称代名詞対格形 10）人称代名詞与格形 11）冠詞･形容詞・所有形容詞のまとめ 12）動詞現在形のまとめ 13）人称代名詞のまとめ 14）総復習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ディアロゴの予習復習、新出文法項目を扱う練習問題（宿題）の履行
テキスト	一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012 年
参考文献	ガイダンスの際に案内します。
評価方法	平常点（授業参加、宿題履行等）40%、期末試験 60%

	外国語（イタリア語Ｉb 基礎）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります。	1)　ガイダンス 2)　人称代名詞の復習 3)　過去分詞 4)　近過去形 avere 型 5)　近過去形 essere 型 6)　半過去形 7)　近過去形＆半過去形 8)　再帰動詞 9)　代名動詞 10）受動形 11）si 12）過去形のまとめ 13）再帰動詞のまとめ 14）総復習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ディアロゴの予習復習、新出文法項目を扱う練習問題（宿題）の履行
テキスト	一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012 年
参考文献	ガイダンスの際に案内します。
評価方法	平常点（授業参加、宿題履行等）100%

	外国語（イタリア語Ⅱa 基礎）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） イタリア文化のいくつかのトピックに関する説明テクストの読解を軸に伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習を並行して行います。また60年代のカンツォーネを鑑賞し、その歌詞を解釈する作業もとりいれます。	1)　ガイダンス 2)　近過去形の復習 3)　半過去形の復習 4)　再帰動詞の復習 5)　人称代名詞の復習 6)　大過去形 7)　近過去形、半過去形＆大過去形 8)　未来形 9)　未来完了形 10) 遠過去形（規則変化） 11) 遠過去形（不規則変化） 12) 条件法現在形 13) 条件法過去形 14) 総復習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テクスト読解の予習復習、新出文法項目を扱う練習問題（宿題）の履行
テキスト	一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012 年
参考文献	ガイダンスの際に案内します。
評価方法	平常点（授業参加、宿題履行等）100%

	外国語（イタリア語Ⅱb 基礎）	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） 前半はイタリア文化のいくつかのトピックに関する説明テクストの読解を軸に伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習を並行して進めます。後半では受講者のレヴェルに応じて、ストーリー性を備えた長めの会話テクスト、映画のシナリオ、時事文、小説を中心とした文学作品等の高度なテクストを講読し、読解力養成を図ります。最終授業ではしめくくりとしてイタリア映画の鑑賞を行います。	1)　ガイダンス 2)　過去形の復習 3)　未来形の復習 4)　条件法形の復習 5)　接続法現在形 6)　接続法現在形（不規則変化） 7)　接続法現在完了形 8)　接続法半過去形 9)　接続法大過去形 10) ジェルンディオ 11) 現在分詞 12) 分詞構文のまとめ 13) 総復習 14) 映画鑑賞

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テクスト読解の予習復習、新出文法項目を扱う練習問題（宿題）の履行
テキスト	一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012 年
参考文献	ガイダンスの際に案内します。
評価方法	平常点（授業参加、宿題履行等）100%

	外国語（ポルトガル語Ｉa 総合）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語Ｉb に続く形でポルトガル語の初級文法を中心に学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書は 5 月の連休明けまでに準備してください（4 月はこちらで単語リストを用意します）。詳しくは、参考書を含めて授業中に紹介します。 質問等は授業後に受け付けます。	1. ガイダンス、教科書用プリント配布、文字と発音 2. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser、否定文、疑問文 3. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞、形容詞の性数変化 4. 規則動詞の直説法現在形、基本前置詞 de, em, com 5. 不規則動詞 estar、所有詞、基数詞 6. 規則動詞の直説法現在形、疑問詞、指示詞、曜日 7. 不規則動詞の直説法現在形、前置詞 a, para, por 8. 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形 9. 不規則動詞の直説法現在形と直説法過去形 10. 対格・与格人称代名詞、序数詞 11. 再帰人称代名詞、再帰動詞、基数詞、序数詞 12. 感嘆文、強調構文、時間表現 13. 直説法半過去形、月日、名詞・形容詞の特殊な複数形 14. 春学期のまとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 授業後は既習の単語・文法事項を確認し、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。
テキスト	講師がプリント形式で用意します。
参考文献	辞書を含め、授業中に紹介します。
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

	外国語（ポルトガル語Ｉb 総合）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期のポルトガル語Ｉa に引き続いてポルトガル語の初級文法を中心に学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書は各自で準備してください。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。詳しくは、参考書を含めて授業中に紹介します。 質問等は授業後に受け付けます。	1. 過去分詞、直説法大過去形、絶対最上級 2. 優等比較級、劣等比較級、同等比較級、相対最上級 3. 法動詞 poder と dever、完了不定詞、人称不定詞 4. 受動文、結果構文、接尾辞-mente 5. 斜格人称代名詞、不規則動詞の直説法現在形 6. 直説法複合過去形、二重過去分詞 7. 直説法未来形、直説法前未来形、気象表現 8. 直説法過去未来形、直説法過去前未来形、時間表現 9. 現在分詞句、補文標識 se 10. 過去分詞句、関係代名詞 o que と quem、指示詞 o 11. 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo 12. 接続法現在形、強調構文、接続法半過去形 13. 時間表現、接続法過去形、接続法大過去形 14. 総まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 授業後は既習の単語・文法事項を確認し、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。
テキスト	講師がプリント形式で用意します。
参考文献	辞書を含め、授業中に紹介します。
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

	外国語（ポルトガル語Ｉa 会話）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本授業はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、基礎的な文法事項の学習後、日常的な会話の練習を行います。 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 辞書は 5 月の連休明けまでに準備してください（4 月はこちらで単語リストを用意します）。詳しくは、参考書を含めて授業中に紹介します。 質問等は授業後に受け付けます。	1.　イントロダクション「挨拶する」「出身地を尋ねる」 2.　「物の名を尋ねる」「持ち主を尋ねる」 3.　「曜日を尋ねる」「日付を尋ねる」 4.　「健康状態を尋ねる」「場所を尋ねる」 5.　「時間を尋ねる」「約束・待ち合わせをする」 6.　「人を待つ」「物の貸し借りをする」 7.　「聞き返す」「好き嫌いを述べる」 8.　「食事をする」「買い物をする」 9.　「感想を述べる」「希望を述べる」「天候を尋ねる」 10.　「義務を課す」「許可を与える」「同意する」 11.　「身体の状態を述べる」「経験を述べる」 12.　「頻度を尋ねる「選択を述べる」「勧誘する」 13.　「道順を尋ねる」「伝聞を述べる」「誇張して述べる」 14.　春学期のまとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 授業後は既習の単語・文法事項を確認し、学んだ会話表現を自己練習してください。
テキスト	講師がプリント形式で用意します。
参考文献	辞書を含め、授業中に紹介します。
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

	外国語（ポルトガル語Ｉb 会話）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本授業はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、基礎的な文法事項の学習後、日常的な会話の練習を行います。 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 辞書は各自で準備してください。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。詳しくは、参考書を含めて授業中に紹介します。 質問等は授業後に受け付けます。	1.　イントロダクション・既習事項の復習 2.　「相互動作を表現する」「過去の事柄を表現する」 3.　「感謝する」「話題に取り上げる」「乗り物の表現」 4.　「休暇について尋ねる」「未遂の事柄を述べる」 5.　「過去の習慣を述べる」「過去の状態を述べる」 6.　「願望を婉曲的に述べる」「喜びを表現する」 7.　「人を褒める」「羨望を述べる」 8.　「驚き・残念・嘆き・後悔を表現する」 9.　「忠告する」「推測する」「断定する」 10.　「丁寧に頼む」「丁寧に断る」 11.　「可能性のある『もし…なら』」 12.　「可能性のない『もし…なら』」 13.　「謙遜して述べる」 14.　総まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 授業後は既習の単語・文法事項を確認し、学んだ会話表現を自己練習してください。
テキスト	講師がプリント形式で用意します。
参考文献	辞書を含め、授業中に紹介します。
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

	外国語（ロシア語Ｉａ 総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
ロシア語の文法を一から学ぶ授業です。キリル文字の読み書きから始め、秋学期を含めた１年間でロシア語の初歩をマスターすることを目指します。 ユーラシアに位置するロシアは独特の文化を持ち、また日本の隣国でもありますが、ロシア語はその重要さにもかかわらず、大学以外ではなかなか学ぶ場がありません。この機会にぜひロシア語の世界への扉を開いてみてください。 会話を中心とした「ロシア語I 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 授業ではロシアの地理・歴史・文化についても話してゆくつもりです。	1. キリル文字（1）:硬母音字、子音／平叙文 2. キリル文字（2）:軟母音字、子音／疑問文 3. キリル文字（3）:子音、母音の弱化／否定文 4. キリル文字（4）:子音、無声化／疑問詞 5. キリル文字（5）:子音、無声化／接続詞 6. 発音のまとめ 7. 名詞の性 8. 形容詞類の導入、所有代名詞 9. 所有代名詞、指示代名詞 10. 動詞の現在形・第１ 11. 動詞による文 12. 前置詞と格変化の導入 13. その他の場所の表現 14. まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストの準備、および宿題。
テキスト	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）
参考文献	辞書については授業時に説明するので、それを聞いたうえで購入してください。
評価方法	①期末試験（場合によっては中間試験も）（80%）、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安）

	外国語（ロシア語Ｉｂ 総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ia総合」の続きの授業です。「Ia」と同じ教科書をもちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。 また、教科書と並行して簡単なテキストの読解練習も行ないます。	1. 動詞の現在形・第１特殊 2. 動詞の現在形・第２ 3. 動詞の現在形・第２特殊 4. 動詞の現在形・不規則 5. 形容詞 6. 形容詞をもちいた文 7. 名詞の複数形 8. 形容詞類の複数形 9. 名詞類の格変化・対格 10. 対格の用法 11. 移動の動詞（定・不定動詞） 12. 移動の動詞による表現 13. 方向、交通手段の表現 14. まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストの準備、および宿題。
テキスト	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）
参考文献	辞書については授業時に説明するので、それを聞いたうえで購入してください。
評価方法	①期末試験（場合によっては中間試験も）（80%）、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安）

	外国語（ロシア語Ｉa 会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスははじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。 キリル文字といわれるロシア語アルファベットの文字と発音に慣れるところから始めて、会話を中心にしながらロシア語の基礎を学習していきます。自己紹介や挨拶、買い物、道の訊ね方等、日常に必要な表現を習得します。 またロシア語学習に奥行きをもたせるためにも、授業のなかでおもに映像によりながらロシアの現在や文化の一端を紹介していきたいと思います。	1. ガイダンス 2. 文字と発音（1）硬母音、唇や舌を使う子音等 3. 文字と発音（2）軟母音、硬子音と軟子音等 4. 文字と発音（3）アクセント、無声子音と有声子音等 5. いろいろなあいさつ 6. 名詞の性、人を表す代名詞 7. 形容詞（-кий タイプ）の変化 8. 「AはBである」 9. 名詞の複数形 10. 所有代名詞 11. 形容詞（-ый タイプと -ий タイプ）の変化 12. 人称代名詞の主格 13. 動詞の現在形 14. 動詞と目的語の関係

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。
テキスト	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社
参考文献	教場で指示します。
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%

	外国語（ロシア語Ｉb 会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
ロシア語Ia の続きの授業になります。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で、ロシア語の基礎学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 名詞の対格（直接目的語の表し方） 3. 不規則変化の動詞 4. 願望の表現 5. 命令形の表現 6. 人称代名詞の与格 7. 方向と場所の表現 8. 数詞 9. 時間の表現 10. 年齢の表現 11. 運動の動詞 12. 前置詞を使った方向の表現 13. 名詞の生格 14. 所有の表現

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。
テキスト	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社
参考文献	教場で指示します。
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%

	外国語（ロシア語Ⅱa 総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度の「ロシア語Ⅰ　総合」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書、およびプリント教材を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。最終的に秋学期の終わりにはロシア語の基本文法（検定試験３級程度）をすべてマスターすることができます。教科書と並行して簡単なテキスト読解の練習も行ないます。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ　会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 昨年度以前に「ロシア語Ⅰ　総合」を履修した人も履修できます。また「ロシア語Ⅰ　総合」を履修したことがなくても、ロシア語の初歩を勉強したことがある人ならば受講可能ですので、最初の授業時に相談してください。	1.　格変化・前置格 2.　СЯ 動詞 3.　数詞 4.　格変化・与格 5.　動詞の命令形 6.　形容詞と副詞 7.　状態の表現 8.　未来の表現 9.　数と名詞 10.　複数形の格変化の導入 11.　格変化・造格 12.　造格の用法 13.　前置詞と格 14.　まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストの準備、および宿題。
テキスト	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）
参考文献	特になし。
評価方法	①期末試験（80％）、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点（20％）（％はおおよその目安）

	外国語（ロシア語Ⅱb 総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱa 総合」の続きの授業ですので、詳しくはそちらをご覧ください。	1.　動詞の体（不完了体と完了体）・過去 2.　動詞の体・未来 3.　格変化の総まとめ: 硬・軟変化 4.　格変化の総まとめ: 複数 5.　形容詞短語尾 6.　比較級・最上級 7.　関係代名詞 8.　不定人称文 9.　仮定法 10.　形動詞、副動詞 11.　講読（テキスト 1） 12.　講読（テキスト 1／2） 13.　講読（テキスト 2） 14.　まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストの準備、および宿題。
テキスト	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）
参考文献	特になし。
評価方法	①期末試験（80％）、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点（20％）（％はおおよその目安）

	外国語（ロシア語Ⅱa 会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅰ 会話」の続きの授業です。「ロシア語Ⅰ」の既習者、およびロシア語の初歩を学んだことのある人を対象とします。 この授業では学んだことを生かして自分なりに文章を作り上げられるようになることを目標にします。 教科書は「ロシア語Ⅰ 会話」で前年度に使用したものを引き続き使っていきます。	1. ガイダンス 2. 曜日の表現 3. быть の未来形と合成未来 4. 形容詞の変化 5. 名詞の前置格と場所の表現 6. 不規則変化の動詞 7. 再帰動詞 8. 「〜の中に」と「〜の上に」 9. 動詞の過去（1）быть の過去形 10. 動詞の過去（2）一般的な動詞の過去形 11. 活動名詞の対格 12. 人称代名詞の対格 13. まとめ（1）春学期授業内容の再確認 14. まとめ（2）春学期授業内容の練習・応用

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。
テキスト	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社
参考文献	教場で指示します。
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%

	外国語（ロシア語Ⅱb 会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語 IIa 会話」の続きの授業です。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 名詞の与格 3. 名詞の造格 4. 不完了体動詞と完了体動詞のペア 5. 不完了体動詞と完了体動詞の用法の違い 6. 未来の表現のまとめ 7. 形容詞の格変化 8. 無人称文 9. 運動の動詞のまとめ 10. 前置詞のまとめ 11. 仮定の表現 12. 関係代名詞 13. まとめ（1）秋学期授業内容の再確認 14. まとめ（2）秋学期授業内容の練習・応用

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	とくに課すものはありませんが、各自で復習は欠かさないでください。
テキスト	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社
参考文献	教場で指示します。
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%

	外国語（タイ語Ｉａ 会話）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
入門レベルの標準タイ語会話を翻字（ローマ字と発音記号）で学ぶ。声調、子音や母音の発音、翻字のルールなどの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 なお、文字の読み書きはタイ語Ⅱａ で学ぶ。Ⅱａ の方が難易度が高いので、Ia を先に履修することが望ましい。復習時間に余裕のある人は、両方同時に履修してもよい。また、昨年度も同様の科目を履修した人がもう一度この科目を申請する場合、昨年度とは異なる教科書を用いる場合もあるのでぜひとも講師に相談されたい。	1. 導入：タイ社会の現状、タイ語を学ぶ意義について 発音練習（声調・数字・子音・母音、翻字のルール） 2. 会話１（挨拶、所在に関する表現） 3. 会話２（ものの性質などに関して） 4. 会話３（家族）、タイ語を聞いて書く 5. 会話４（所有、存在）、タイ語を聞いて書く 6. 会話５（職業、国名）タイ語を聞いて書く 7. 会話６（可能、不可能）、タイ語を聞いて書く 8. 会話７（名前、所在、手段などに関する表現） 9. 会話８（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く 10. 会話９（レストランで）、タイ語を聞いて書く 11. 会話 10（お金の計算）タイ語を聞いて書く 12. 会話 11（形容詞の使い方）タイ語を聞いて書く 13. タイ事情（映像作品を鑑賞する） 14. タイ事情（鑑賞した映像作品の社会的背景や文化的な意味合いについて解説する）

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習に力をいれること。テキストを何度も声に出して読んでみる。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	『実用タイ語会話』佐藤正文著（泰日経済技術振興協会編）
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。

	外国語（タイ語Ｉｂ 会話）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ｉａ に引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。特に類別詞の使い方について重点的に理解し、比較表現などに応用できるようにする。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 インターネット動画や映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。	1. 会話１（類別詞の用法１）、タイ語を聞いて書く 2. 会話２（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く 3. 会話３（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く 4. 会話４（年月などの表し方）、タイ語を聞いて書く 5. 会話５（類別詞の用法２）、タイ語を聞いて書く 6. 会話６（類別詞の用法３）、タイ語を聞いて書く 7. 会話７（類別詞の用法４）、タイ語を聞いて書く 8. 会話８（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く 9. 会話９（電話をかける）、タイ語を聞いて書く 10. 会話 10（受身の表現）、タイ語を聞いて書く 11. 会話 11（依頼の表現）、タイ語を聞いて書く 12. 会話 12（病気のとき）、タイ語を聞いて書く 13. タイ事情（映像作品を鑑賞する） 14. タイ事情（鑑賞した映像作品の社会的背景や文化的な意味合いについて解説する）

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習に力をいれること。テキストを何度も声に出して読んでみる。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	『実用タイ語会話』佐藤正文著（泰日経済技術振興協会編）
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。

	外国語（タイ語Ⅱa タイ文字の読み書き）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
文字の表記と発音を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。文字が判読でき、正しく発音できること,タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢を身につけることが目標である。本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。 具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。随時、インターネット動画、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。 初めてタイ語を学ぶ人は、タイ語会話Ⅰaを先に履修する方が望ましいが、復習時間に余裕があれば同時に履修してもかまわない。Ⅱaのみを履修したい人は前もって講師に相談されたい。	1. 導入：今タイ語を学ぶ意義は？社会のタイ語需要 2. タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音 3. 文字の読み書き１（中子音・高子音） 4. 文字の読み書き２（低子音と長母音） 5. 文字の読み書き３（真正二重子音・平音節・促音節） 6. 文字の読み書き４（声調符号、短母音） 7. 文字の読み書き５（高子音化、擬似二重子音） 8. 文字の読み書き６（一字再読字） 9. 文字の読み書き７（タイ数字など） 10. 文字の読み書き８（特殊な表記） 11. タイ事情（映像作品を鑑賞する） 12. タイ事情（鑑賞した映像作品の社会的背景や文化的意味合いについて解説する） 13. 講読１（読み方、文章の切れ目、つながり方などを理解する） 14. 講読２（読み方、タイ語らしい言い回しを理解する）

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習は難しいので、復習をしっかりと行って知識の定着をはかる。
テキスト	「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント
参考文献	『実用タイ語会話』佐藤正文著（泰日経済技術振興協会編）
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。

	外国語（タイ語Ⅱb タイ文字の読み書き）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ⅱa で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、小学校の国語の教科書など、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。	1. 講読１　（読み方、文章のつながり方など） 2. 講読２　（平易な物語など） 3. 文法１　（指示詞の用法） 4. 文法２　（一般動詞の用法） 5. 文法３　（形容詞の用法） 6. 講読３　（平易な物語など） 7. 文法４　（類別詞の用法・比較） 8. 講読４　（タイの文化・祭り） 9. 講読５　（首都バンコクについて） 10. 文法５　（否定の表現） 11. 講読６　（子どもの夢） 12. 講読７　（書店） 13. タイ事情（現代映画の鑑賞） 14. タイ事情（鑑賞した現代映画の社会的背景や文化的意味合いについて解説する）

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの購読を行うので、自分でできるところまで進めておく。暗唱をしてみよう。
テキスト	「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント
参考文献	『実用タイ語会話』佐藤正文著（泰日経済技術振興協会編）
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。

	外国語（アラビア語Ⅰa　会話と文化）	担当者	W．イブラヒム

講義目的、講義概要	授業計画
国連の公用語の一つであるアラビア語は、アラブ諸国（22カ国）を中心に、世界の27カ国の国で公用語とされており、使用されている国の数で言えば、英語、フランス語に次ぐ第３位になっています。 本講義では、会話と文化に焦点を絞り、アラビア語を勉強しながらアラブ文化への理解を深めて、基礎的な会話力を身につけていきます。 この講義は、「アラビア語Ⅱa 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. イントロダクション：アラビア語概要と講義の目的 2. 「挨拶の表現」とその文化的背景 3. 「感謝の表現」とその文化的背景 4. 「日常会話の表現」とその文化的背景 5. 「家族・親戚関係の名詞」 6. 自己紹介しよう 7. 人称代名詞を使って会話しよう 8. アラブ世界地図をアラビア語で：国名と名所を読もう 9. これまで学んだことの整理と応用 10. 日常会話：指示代名詞と疑問視を使おう 11. 日常会話：人と知り合う 12. 日常会話：慣用表現 13. 日常会話：形容詞を使おう 14. 復習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学んだ表現を使って何を言いたいか、何を伝えられるか、毎回考えて次の授業で発表・質問・確認してください。
テキスト	『ニューエクスプレス・アラビア語』（竹田敏之、白水社）
参考文献	『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）
評価方法	積極的な授業参加に重点を置きます（70%）。また、常時会話の小テストを行います（30%）

	外国語（アラビア語Ⅰb　会話と文化）	担当者	W．イブラヒム

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き。会話と文化に焦点を絞って、アラビア語を使ったコミュニケーション・スキルと異文化理解を深めていきます。 この講義は、「アラビア語Ⅱb 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 名詞の性と数 3. 形容詞の性と数 4. 名詞文：家に招待されたとき 5. 名詞文：道を尋ねるとき 6. 動詞文：観光地へ行こう 7. 動詞文：アラブ料理を食べよう 8. これまで学んだことの整理と応用 9. 買い物をするとき 10. アラブの国へ留学する 11. 交通機関で移動する 12. 道を尋ねる 13. 好きな色は何ですか。 14. 復習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学んだ表現を使って何を言いたいか、何を伝えられるか、毎回考えて次の授業で発表・質問・確認してください。
テキスト	『ニューエクスプレス・アラビア語』（竹田敏之、白水社）
参考文献	『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）
評価方法	積極的な授業参加に重点を置きます（70%）。また、常時会話の小テストを行います（30%）

	外国語（アラビア語Ⅱa　読み書きと文法の基礎）	担当者	W．イブラヒム

講義目的、講義概要	授業計画
国連の公用語の一つであるアラビア語は、世界の27カ国の国で公用語とされており、使用されている国の数で言えば、英語、フランス語に次ぐ第３位になっています。 また近年は、世界的金融危機を背景に「イスラーム金融」が注目され、ドバイをはじめとして湾岸地域が世界有数のビジネスの中心地として世界の関心を集めています。こうした世界の動向から見ても、アラビア語やアラブ文化の知識は、将来において大いに有益であると言えます。 本講義では、アラビア文字、アラビア語の読み書きの基礎と基礎的な文法を学習しますが、文法の規則を知るだけでなく、すぐに使える文章を通して、楽しみながらアラビア語の論理を吸収してもらうことを目的としています。 この講義は、「アラビア語Ⅰa 会話と文化」と同時に履修することができます。	1. イントロダクション：アラビア語概要と講義の目的 2. アラビア文字を覚える①（挨拶の言葉） 3. アラビア文字を覚える②（感謝の言葉） 4. アラビア文字を覚える③（自己紹介） 5. アラビア文字を覚える④（私は日本人です） 6. アラビア文字を覚える⑤（アラブの国名） 7. 自分の名前を書く！ 8. 自己紹介の文章を書く！ 9. これまで学んだことの整理と応用 10. 男性形と女性形「私は学生です」 11. 疑問視の使い方「それは何ですか」 12. 定冠詞の使い方「駅はどこですか」 13. アラビア語を読む・復習 14. テスト・アラビア語によるビデオ鑑賞

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストを行うので、学んだテクストは必ず書けるようになるまで毎回練習してください。
テキスト	プリントを配ります。
参考文献	『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）
評価方法	授業の中で常時小テストを行う（50%）ほか、期末に筆記試験を行います（50%）

	外国語（アラビア語Ⅱb　読み書きと文法の基礎）	担当者	W．イブラヒム

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深めてもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、アラビア語の読み書きと文法の基礎を学習します。歌謡曲やビデオなどを通じて事前にアラビア語を吸収してほしいと考えています。 この講義は、「アラビア語Ⅰb 会話と文化」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 前置詞を使う「私はいつも〇〇にいます」 3. 所有の表現「あなたは車を持っていますか」 4. 形容詞の使い方「それはいい考えだ！」 5. 形容詞の比較級・最上級（～より良い／最も良い） 6. イダーファ構文「これはナイルの水ですか」 7. 動詞完了形のパターン 8. 動詞完了形の活用 9. 動詞未完了形のパターン 10. 動詞未完了形の活用 11. 動詞文を使って小作文を書く 12. 複数と双数 13. 辞書の引き方・アラビア語で歌う 14. テスト・アニメ鑑賞

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	小テストを行うので、学んだテクストは必ず書けるようになるまで毎回練習してください。
テキスト	プリントを配ります。
参考文献	『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）
評価方法	授業の中で常時小テストを行う（50%）ほか、期末に筆記試験を行います（50%）

	外国語（現代ヘブライ語Ｉａ 基礎）	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
ヘブライ語はイスラエル国の公式言語であり、ユダヤ世界の基礎言語です。世界三大宗教の基盤となる旧約聖書はこの原語で書かれました。ユダヤ文化を理解するために欠かすことのできない言語、それがヘブライ語です。 最近ではIT、サイバーセキュリティー、医療機器、医薬品など多くの分野でイスラエル発の技術が世界をリードしています。日本企業の多くが競ってイスラエル発の最新技術を取り入れ、現地法人や拠点を設立し、技術開発や研究に巨額を投資しています。このコースではヘブライ語の学習を通してアルファベットの歴史を学び、ヘブライ語起源の人名や地名を理解し、クラシック音楽から絵画にいたるまで霊感を提供し続けているヘブライ語の魅力を学びます。 授業は随時配布されるプリントにそって進められます。	1.　ヘブライ語とは、講義の概要 2.　ヘブライ語のアルファベット・活字文字 3.　ヘブライ語のアルファベット・筆記体 4.　発音練習と文字の書き方 5.　自分の名前をヘブライ文字で書いてみよう 6.　自己紹介をヘブライ語でしよう 7.　安息日（シャバット）とは何か 8.　ヘブライ語起源の人名、ヘブライソング 9.　名詞と形容詞の性と数 10.　動詞の現在形入門 11.　動詞の現在形練習 12.　ヘブライ語の神名について 13.　数字としてのヘブライ文字と神秘思想 14.　総復習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定部分を精読。返却されたプリントの確認と復習。
テキスト	テキストは教室にてプリントを配布。
参考文献	授業中に紹介。
評価方法	定期試験６０％、授業毎のプリント提出４０％。

	外国語（現代ヘブライ語Ｉｂ 基礎）	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、ヘブライ語の基礎学習と会話練習をします。言語学習と同時に以下のテーマについても学習します。セム語に属するヘブライ語の正しい位置を把握、ヘブライ語の歴史、ヘブライ語とアラビア語の違い、イエス・キリスト時代（紀元一世紀）の言語、中世のヘブライ語はどのように生き続けたのか、ヘブライ語は「死語」になったのか、ヘブライ語の復活とは何か、ユダヤ人に特徴的なファミリーネーム（ヨーロッパ編、アラブ世界編）、ユダヤ教社会の祭と文化、ユダヤ人とお付き合いする時の注意点とエチケット、日猶同祖論の真偽、カバラー占いに利用されるヘブライ文字、日本とイスラエルの経済交流など。	1.　春学期の復習 2.　動詞の現在形復習 3.　ユダヤ人の祭・ユダヤ新年 4.　ユダヤ人の祭・スコット祭 5.　不定詞の使い方入門 6.　不定詞の使い方練習 7.　ユダヤ人のファミリーネーム・イーディ語由来 8.　ユダヤ人のファミリーネーム・アラビア語由来 9.　ヘブライ語の歴史・古代と中世 10.　ヘブライ語の歴史・近代 11.　動詞の過去形入門 12.　動詞の過去形練習 13.　動詞の未来形 14.　まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定部分を精読。返却されたプリントの確認と復習。
テキスト	テキストは教室にてプリントを配布。
参考文献	授業中に紹介。
評価方法	定期試験６０％、授業毎のプリント提出４０％。

	外国語（トルコ語Ⅰa 総合）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象に、トルコ語の文法や読み書きを中心に学習を進めていきます。また、トルコの文化や歴史などについて知る時間も設け、トルコについて総合的に学ぶとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 アルタイ語族に属するトルコ語は、日本語とも同語族とされ、基本的な文法構造が似ています。また、文字は英語のアルファベットに近く、発音も規則的なことから、日本人にとっては比較的習得しやすい言語の一つと考えられています。 トルコだけでなく、バルカン諸国や東欧、中央アジア、西アジアにもまたがるトルコ語話者は、同系言語を含めると2億2千万人がいるとされ、汎用性の高い言語です。 単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語Ⅰa 会話」とあわせて受講することを勧めます。	1) アルファベット 2) 数字 3) 挨拶の言葉 4) 挨拶の練習 5) 人称代名詞／トルコ料理の紹介 6) 人称・指示代名詞で文「これはAです」、質問「これは何ですか」を作る 7) 国と言語の名前／トルコの観光 8) 肯定文の作り方 9) 疑問文の作り方 10) 否定文の作り方／トルコの歴史 11) 形容詞の使い方 12) 自己紹介をする 13) 単語の複数形 14) まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ﾕﾇｽ・ｴﾑﾚ ｲﾝｽﾃｨﾄｭｰﾄ編）、ほか補助教材を使用。
参考文献	特になし。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

	外国語（トルコ語Ⅰb 総合）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語Ⅰa 総合」の続きになります。 授業では、文法や読み書きを中心にトルコ語の基礎を学んでいきますが、あわせてトルコの建築、芸術、食文化などさまざまな側面についても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関である「ﾕﾇｽ・ｴﾑﾚ ｲﾝｽﾃｨﾄｭｰﾄ」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。 なお、単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語Ⅰb 会話」とあわせて受講することを勧めます。	1) 前期の復習 2) 家族について紹介する（両親、兄弟等） 3) 命令形の作り方／トルコの芸術（マーブリング） 4) 生活環境についての単語（1） 5) 生活環境についての会話（2） 6) 場所を聞く（博物館、観光地） 7) 場所を聞く（バス、タクシー、メトロ） 8) 色の名前／トルコのコーヒーと紅茶 9) 現在進行形（肯定文） 10) 現在進行形（疑問文） 11) 現在進行形（否定文） 12) 現在進行形の総合練習 13) スケジュールを説明する 14) まとめ、総合練習

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ﾕﾇｽ・ｴﾑﾚ ｲﾝｽﾃｨﾄｭｰﾄ編）、ほか補助教材を使用。
参考文献	特になし。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

	外国語（トルコ語Ｉａ 会話）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
トルコはアジアとヨーロッパの接点として、古くからさまざまな文明が交錯しました。そのため、世界有数の観光地として、日本人を含め多くの観光客が集まります。一方で、近年は経済的な発展もとげ、ヨーロッパだけでなく、中近東、アフリカ、中央アジア諸国へのゲートウェイとして、さまざまな企業の進出が続いており、トルコ語の注目度も増してきています。 このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象とし、授業では日常生活やトルコへの旅行などで使えるフレーズを中心に、会話の練習を行いながらコミュニケーション能力を身につけていきます。また、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを中心に学ぶ「トルコ語Ｉａ 総合」とあわせて受講することを勧めます。	1) アルファベットと数字 2) 初めての挨拶 3) 自己紹介／肯定文 4) タクシーに乗る／疑問形 5) レストランで／所有形 6) ホテルでの会話／人称代名詞 7) 買い物をする①「～をください」 8) 家族を紹介する／複数語尾 9) 依頼する 10) 予約をする 11) 両替をする／未来形 12) 乗り物に乗る「～へ行きます」 13) 買い物をする②／未来形 14) まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習として授業で学習した会話を音読するとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ﾕﾇｽ・ｴﾑﾚ ｲﾝｽﾃｨﾄｭｰﾄ編）ほか補助教材を使用。
参考文献	特になし。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

	外国語（トルコ語Ｉｂ 会話）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語Ｉａ会話」の続きになります。 授業では会話の学習を中心に進め、トルコを訪れた際、必要な日常会話ができるようになることを目指します。 後期では、定型表現だけでなく、簡単な文章を使いながら、自分の状況や考えを相手に伝える練習も行います。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。 なお、単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを中心に学ぶ「トルコ語Ｉｂ総合」とあわせて受講することを勧めます。	1) 前期の復習 2) 自分の体験を語る／過去形 3) 「週末何をしましたか？」／過去形 4) 「～だそうです」／伝聞完了形 5) インフォメーションでの会話 6) 電話で話す／未来形と中立形 7) バスターミナルで／中立形の否定形 8) 買い物の会話「～できますか？」 9) 様々な疑問詞・許可／「～してもいいですか？」 10) 趣味について話す「～が好きですか？」 11) レストランでの会話「～しよう」 12) 別れの場面／「～でいてください」 13) 復習 14) まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	復習として授業で学習した会話を音読するとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ﾕﾇｽ・ｴﾑﾚ ｲﾝｽﾃｨﾄｭｰﾄ編）ほか補助教材を使用。
参考文献	特になし。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

	外国語（トルコ語Ⅱa 応用）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、トルコ語の基礎的な学習を行った学生を対象としています。 トルコ語の文法と会話を中心に総合的に練習を重ね、トルコ語のレベルアップを目指します。特に、トルコ語において重要な動詞の活用については、現在進行形、未来形、過去形、超越形の構造を身につけ、会話の中でも使えるように取り組みます。 あわせて、トルコの文化や歴史などについて知る時間を設けるとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。	1) 挨拶、人称 2) 自己紹介の復習 3) 現在進行形（肯定文）（疑問文） 4) 現在進行形（否定文）／トルコ料理の紹介 5) 「を」格 6) 「へ」格／トルコ映画 7) 「から」の表現方法格 8) 家族について話す 9) 過去形（肯定文）／トルコの歴史 10) 過去形（否定文、疑問文） 11) 時間を表す表現 12) 時間を表す表現／トルコの芸術（マーブリング） 13) 時間表現を使って話す 14) まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。
参考文献	特になし。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

	外国語（トルコ語Ⅱb 応用）	担当者	M. チャクル

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語 II a 応用」の続きのクラスです。 中級レベルのトルコ語会話を中心に学び、旅行や日常生活など様々な場面で使えるフレーズを身に付けます。今までに学習した文章を使いながら、会話だけでなく、自分の考えや状況を相手に伝える練習も行い、トルコ語でのコミュニケーション力の向上を図ります。 授業は会話の練習を中心に進んでいきますが、トルコの習慣や、観光、芸術、食文化などについても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。あわせて、ネイティブスピーカーとの交流会など、トルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。	1) 前期の復習 2) ile と ve の使い方 3) -lı, -li の使い方 4) 日常生活の会話 5) 週末の予定について話す 6) 家族について話す 7) 交通機関 8) 買い物の会話 9) 計量単位 10) 食事の会話 11) 道を尋ねる 12) 時間を尋ねる 13) スーパーでの会話、トルコのお金 14) まとめ

到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。
テキスト	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。
参考文献	特になし。
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。

シラバス 全学共通授業科目

2019年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1661

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	